

第八類 官制 第一章 内閣所管

第六款 印刷局 第七款 文官試驗委員 第八款 法典調查會

附則 及臨時書記ヲ控ク

第九條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

第六款 印刷局

●印刷局官制 (明治三十一年十月)

印刷局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 印刷局ハ内閣總理大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 官報、法令全書及職員録ノ編輯並發賣ニ關スル事項

二 官報其ノ他ノ印刷ニ關スル事項 (三十二年勅令第五十八號ヲ以テ本號改正)

三 印紙、郵便切手並諸證券類ノ製造ニ關スル事項 (同上)

四 抄紙ニ關スル事項

局長 一人 勅任

事務官 專任一人 奏任

技師 專任六人 (三十三年勅令第五十八號ヲ以テ改正)

技手 三十四人 列任 (三十五年勅令第五十八號ヲ以テ改正)

第三條 局長ハ内閣總理大臣又ハ内閣書記官長ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條 事務官ハ局長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第五條 技師ハ局長ノ命ヲ承ケ工務ヲ掌理ス

第六條 局ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第七條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ従事ス

第八條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

第七款 文官試驗委員

●文官試驗委員官制 (明治二十七年勅令第五)

文官試驗委員官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 文官高等試驗委員

第一條 文官高等試驗委員ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ文官高等試驗及奏任文官任用ノ銓衡ニ關スル事務並文官普通試驗科目ニ關スル事務ヲ掌ス

第二條 文官高等試驗委員ハ委員長常任委員及臨時委員ヲ以テ組織シ各官廳高等官ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第三條 文官高等試驗委員長ハ委員ヲ監督シ其ノ一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 文官高等試驗委員ハ三人ヲ以テ定員トス委員長ノ監督ヲ承ケ文官高等試驗及奏任文官任用ノ銓衡ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條 文官高等試驗臨時委員ハ文官高等試驗施行ノ際ニ命スル委員長ノ監督ヲ承ケ文官高等試驗ノ事務ヲ掌ル

第六條 文官高等試驗委員長及常任委員ニハ一箇年三百圓以内臨時委員ニハ二百圓以内ニ於テ事務ノ繁簡ニ從ヒ手當トシテ之ヲ給ス

第七條 文官高等試驗委員ノ事務ニ關シ常任書記及臨時書記ヲ控ク

第八條 常任書記ハ内閣所屬又ハ法制局列任官臨時書記ハ各官廳ニ奉職スル吏員ノ中又ハ其ノ他ヨリ之ヲ命ス

第九條 常任書記ハ三人ヲ以テ定員トス臨時書記ハ文官高等試驗施行ノ際必要ニ應ジ之ヲ命ス

第十條 書記ニハ事務ノ繁簡ニ從ヒ百圓以内ノ手當ヲ給ス

第二章 文官普通試驗委員

第十一條 文官普通試驗委員ハ之ヲ各官廳ニ置ク長官ノ監督ニ屬シ文官普通試驗及列任文官任用ノ銓衡ニ關スル事務ヲ掌ス

第十二條 中央官廳ノ文官普通試驗委員長及委員ハ長官其ノ屬ノ高等官ノ中ヨリ之ヲ命ス

第十三條 地方官廳ノ文官普通試驗委員長及委員ハ長官其ノ屬ノ官吏及府縣立學校教官ノ中ヨリ之ヲ命ス但北海道ニ在テハ札幌農學校教官ヲ以テ之ニ加フルコトヲ得

第十四條 文官普通試驗委員長ハ委員ヲ監督シ其ノ一切ノ事務ヲ掌理ス

第十五條 文官普通試驗委員ハ委員長ノ監督ヲ承ケ文官普通試驗及列任文官任用ノ銓衡ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條 文官普通試驗委員ノ事務ニ關シ書記ヲ置キ各官廳ノ列任官ノ中ヨリ之ヲ命ス

第十七條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

●法典調查會規則 (明治二十七年勅令第三十號)

法典調查會規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 法典調查會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ法典及附屬法令ノ改正又ハ制定ニ關スル事項ヲ起案審議シ約條約ノ實施ニ必要ナル事項ヲ調査ス (三十二年勅令第四十八號ヲ以テ本號改正)

前項ニ掲ケタル事項ノ外法令ニ關シ内閣總理大臣ノ諮詢アルトキハ意見ヲ上申ス

第二條 法典調查會ハ總裁、副總裁各一人及委員三十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 總裁、副總裁及委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第四條 委員ニシテ引續キ二箇月以上會議ニ出席セサル者アルトキハ總裁ヨリ之ヲ内閣總理大臣ニ具申スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ内閣總理大臣ヨリ奏請ノ上其ノ委員ヲ免ス

第五條 法典調查會ノ議事及會議整理ニ關スル規則ハ内閣總理大臣ノ制定ス

第六條 總裁ハ諸事ヲ整理シ其ノ決議ヲ内閣總理大臣ニ具申ス

第七條 副總裁ハ總裁ノ指揮ヲ承ケ會議ヲ管理シ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

副總裁ハ前項ノ外委員ト同一ノ資格ヲ以テ議事ニ列ス

第八條 法典調查會ニ部長四人、起草委員及主任委員若干人ヲ置キ委員中ニ就キ總裁之ヲ命ス (同上)

第九條 總裁副總裁及委員ニハ一箇年千圓以内ノ手當ヲ給ス但起草委員及主任委員ニハ二千圓以内ヲ給スルコトヲ得 (同上)

第十條 法典調查會ニ補助委員八人以内ヲ置キ起

第九款 政務調査委員會 第十款 鑛毒調査委員會

●政務調査委員會官制 (明治三十一年勅令第四)

政務調査委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 政務調査委員ハ内閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承ケ附屬ノ政務ニ關スル事項ヲ調査ス

第二條 委員ハ三十人以内トシ高等官ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第三條 政務調査ノ事務ニ關シ主事二人書記若干人ヲ置ク

主事ハ委員ノ中ヨリ書記ハ列任官ノ中又ハ其ノ他ヨリ内閣總理大臣ノ命ス

主事ハ内閣總理大臣ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

●鑛毒調査委員會官制 (明治三十一年勅令第四)

鑛毒調査委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 鑛毒調査委員ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ鑛毒ニ關スル事實及處分ノ方法ヲ調査ス

第二章 鑛毒院

第一條 鑛毒院ハ天皇親臨シテ重要ノ國務ヲ諮詢

第二章 樞密院

●樞密院官制及事務章程 (明治二十一年四月)

樞密院官制及事務章程ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 樞密院ハ國務ヲ諮詢シ其旨決ノ力ニ倚ルノ必要ヲ察シ樞密院ヲ設ケ朕カ至高顧問ノ府トナサントス茲ニ其官制及事務章程ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

第二章 樞密院

第一條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第二條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第三條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第四條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第五條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第六條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第七條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第八條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第九條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第十條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第十一條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第十二條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第十三條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第十四條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第十五條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第十六條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第十七條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第十八條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第十九條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第二十條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第二十一條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第二十二條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第二十三條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

第二十四條 樞密院ハ國務ヲ諮詢

スル所トス
 第二條 樞密院ハ議長一人副議長一人顧問官二十
 五人書記官一人書記官三人ヲ以テ組織ス(二十
 三年勅令第二百十六號ヲ以テ本條改正二十六
 年同第百二十號ヲ以テ書記官三人ト改ム)
 第三條 樞密院ノ議長副議長顧問官ハ親任書記官
 長ハ勅任書記官ハ奏任トス
 第四條 何人タリトモ年齢四十歳ニ達シタルモノ
 ニ非サレハ議長副議長及顧問官ニ任スルコトヲ
 得ス
 第五條 議長ハ書記官ノ内ヲ以テ秘書官ヲ兼テシ
 ムルコトヲ得
 第六條 樞密院ハ左ノ事項ニ付諮詢ヲ待テ會議ヲ
 開キ意見ヲ上奏ス(同上ヲ以テ本條並ニ各項共
 改正)
 一 皇室典範ニ於テ其權限ニ屬セシメタル事項
 二 憲法ノ條項又ハ憲法ニ附屬スル法律勅令ニ
 關スル草案及疑義
 三 憲法第十四條戒嚴ノ宣告同第八條及第七十
 條ノ勅令及其他則例ノ規定アル勅令
 四 列國交渉ノ條約及約束
 五 樞密院ノ官制及事務規程ノ改正ニ關スル事
 六 前條項ニ掲グルモノノ外臨時ニ諮詢セラレ
 タル事項
 第七條 前條第三項ニ掲ケタル勅令ニハ樞密院ノ
 諮詢ヲ經タル旨ヲ記載スヘシ
 第八條 樞密院ハ行政及立法ノ事ニ關シ天皇ノ至
 高ノ顧問タリト雖モ施政ニ干與スルコトナシ
 第三章 會議及事務
 第九條 樞密院ノ會議ハ顧問官十名以上出席スル

ニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス
 第十條 樞密院ノ會議ハ議長之ニ首席シ議長事故
 アルトキハ副議長之ニ首席シ議長副議長共ニ事
 故アルトキハ顧問官其席次ニ依リ首席スヘシ
 第十一條 各大臣ハ其職權上ヨリ樞密院ニ於テ顧
 問官タルノ地位ヲ有シ議長ニ列シ議長ノ權ヲ有
 ス又各大臣ハ委員ヲ添シテ會議ニ出席シ演述及
 說明ヲ爲サシムルコトヲ得但議長ノ數ニ加ラズ
 第十二條 樞密院ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス但
 可否平等ノ場合ニ於テハ會議首席ノ決スル所ニ
 依ル
 第十三條 議長ハ樞密院ニ屬スル一切ノ事務ヲ總
 掌シ樞密院ヨリ發スル一切ノ公文ニ署名ス
 第十四條 書記官長ハ議長ノ監督ヲ受ケ樞密院ノ
 常務ヲ管理シ一切ノ公文ニ副署シ會議ニ付スヘ
 キ事項ヲ審查シテ報告書ヲ調製シ會議ニ列シ辯
 明ノ任ニ當ル但議長ノ數ニ加ラズ
 書記官ハ會議ニ於テ議事ヲ筆記シ及書記官長ノ
 職務ヲ輔佐シ書記官長事故アルトキハ書記官之
 ナ代理ス
 前項ノ筆記ハ出席員ノ姓名會議ノ事件質問答辯
 及議決ノ要旨ヲ記載スルモノトス
 第十五條 特別ノ場合ヲ除クノ外豫メ審查報告書
 ナ調製シ其會議ニ必要ナル書類ト共ニ之ヲ各員
 ニ配送シタル後ニ非レハ會議ヲ開クコトヲ得ス
 議事日程及報告ハ豫メ各大臣ニ通報スヘシ
 樞密院事務規程
 第一條 樞密院ハ勅命ニ由リ會議ニ下付セラレタ
 ル事項ニ意見ヲ述フ
 第二條 樞密院ハ帝國議會若クハ其一院又ハ官署
 又ハ臣民ヨリ請願上書其他通信ヲ受領スルコト

ヲ得ス
 第三條 樞密院ハ内閣及各省大臣トノミ公務上ノ
 交渉ヲ有シ其他ノ官署帝國議會又ハ臣民トノ間
 ニ文書ヲ往復シ又ハ其他ノ交渉ヲ有スルコトヲ
 得ス
 第四條 議長ハ樞密院ニ到達スルノ事項ハ書記官
 長ニ下付シテ之ヲ審查セシメ及會議ニ付スヘキ
 事項ノ報告ヲ調製セシム
 議長ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テ親シ報告ノ
 任ニ當リ又ハ顧問官一人若クハ數人ニ之ヲ任ス
 ルコトヲ得ヘシ
 第五條 審查報告書ハ報告員ヨリ之ヲ議長ニ提出
 スヘシ
 臨時緊急ノ場合ニ於テハ口頭ヲ以テ報告ヲ爲ス
 コトヲ得此場合ニ於テハ其要領ヲ簡短ニ第八條
 ニ載スル件名簿ニ記入スヘシ
 第六條 議長ハ審查報告書ヲ整頓スヘキ期日ヲ限
 定スルコトヲ得報告ハ成ルヘク速ニ之ヲ調製シ
 テ送達スルコトヲ得
 内閣ハ至急ヲ要スル事件ニ付其由ヲ通知シ及其
 會議ノ期日ヲ限定スルコトヲ得
 第七條 審查報告書ハ附屬文書ト共ニ其會議ヲ開
 クノ日ヨリ少クモ三日以前ニ之ヲ各員ニ配達ス
 ヘシ
 第八條 件名簿ハ會議ノ期日ノ順序ニ從ヒ之ヲ配
 入スヘシ件名簿ニ記載スヘキ事項ハ第一事件ノ
 性質第二會議ノ前文書配達ノ日時第三其會議ノ
 期日等トス
 會議ニ付スヘキ各件ニ就テハ前項ニ同シキ議事
 日程ヲ調製シ其會議ヲ開クノ日ヨリ三日以前ニ
 各員ニ通報スヘシ此通報ハ會議ノ招狀ヲ兼メル
 モノトス

第九條 樞密院ノ會議ハ日時ハ議長之ヲ定ム但各
 大臣ハ其日時ノ變更ヲ求ムルコトヲ得
 第十條 樞密院ノ會議ハ左ノ規程ニ從由シ議長若
 クハ副議長之ヲ整理スヘシ
 議長ハ書記官長ヲシテ其事件ヲ聲明セシメ次テ
 各員ヲシテ自由ニ討論セシム何人タリト雖モ議
 長ノ許可ヲ受クルニ非レハ發言スルコトヲ得ス
 議長ノ討論ニ參與スルハ其自由ニ屬スルモノト
 ス討論既ニ盡クル後ハ議長ヨリ問題ヲ定メ表決
 ヲ爲サシム(同上ヲ以テ本項改正)
 第十一條 議事日程ニ掲載シタル事件ノ會議其當
 日ニ結了セザルトキハ之ヲ他日ニ延會スルコト
 ヲ得此場合ニ於テハ更ニ常例ノ定式ヲ履行スル
 コトヲ要セス
 第十二條 樞密院ノ會議ノ意見ハ書記官長又ハ書
 記官表決ノ結果ニ依リ之ヲ起草シ議長ノ檢閱ヲ
 請フヘシ此意見ハ理由ヲ附シ重要ノ事件ニ就
 テハ討論ノ要領書ヲ附屬スヘシ
 反對ノ議論ヲ主持シタル出席員ハ其表決ト其理
 由トヲ議事ハ記理由書又ハ要領書ニ記入セラレ
 ンコトヲ求ムルコトヲ得
 第十三條 前條ノ意見ハ議長ヨリ天皇ニ上奏シ同
 時ニ内閣總理大臣ニ通報スヘシ
 第十四條 樞密院ノ會議ノ議事筆記ハ議長及書記
 官長又ハ出席書記官之ニ署名シ其正確ヲ表明ス
 ヘシ
 ●樞密院ニ屬ヲ置ク (明治二十
 一年五月
 勅令第四
 十一號)
 朕樞密院ニ屬ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ
 シム

樞密院ニ屬ヲ置ク列任トス
 ●樞密院屬定員 (明治二十六年十月
 勅令第百二十一號)
 朕樞密院屬定員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ
 ム
 樞密院屬ハ九人ヲ以テ定員トス(三十五年勅令第
 五十九號ヲ以テ改正)
 附則
 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス
 第三章 宮内省
 第一款 宮内省
 ●宮内省官制 (明治二十二年七月
 宮内省達第十號)
 宮内省官制ヲ改正スルコト左ノ如シ
 (二十三年宮内省達第四號、第八號、第十三號、
 第十七號、第二十二號、二十四年宮内省達甲第
 四號、第二十五年同第六號、第七號、二十九年同第
 四號、三十年同第五號、第九號、第十號、第十二
 號、三十一年同第一號、第三十二年同第一號、第三十三
 年同第四號、三十四年同第三號、第四號ヲ以テ
 改正加除ス)
 宮内省官制
 第一條 宮内大臣ハ皇室ニ關スル一切ノ事務ヲ總
 掌シ所部各官ヲ統轄シ兼テ華族ヲ監督ス
 第二條 宮内大臣ハ皇室典範ニ於テ制定セラレタ
 ルモノヲ除クノ外勅ヲ奉シテ皇室ニ關スル諸法
 規ヲ制定施行スルコトヲ得但法律勅令ニ抵觸ス
 ルコトヲ得ス
 第三條 宮内大臣ハ皇室典範ニ於テ制定セラレタ
 ル主務及前條法規ニ關シ施行細則ヲ定ムルコト
 ヲ得但其重要ナルモノハ裁可ヲ經可シ

第四條 宮内大臣ハ例規ニ依リ宮儀祭典行幸等
 其他主任ニ屬スル皇室事務ニ關シ臣民ニ命令告
 示スルコトヲ得
 第五條 宮内大臣ハ臨時勅ヲ奉シ若クハ例規ニ依
 リ救恤褒賞贈賜ノ事ヲ施行ス
 第六條 宮内大臣ハ主任ノ事務ニ關シ警視總監北
 海道廳長官府縣知事ニ示命スルコトヲ得
 第七條 宮内大臣ハ事故アルトキハ次官ヲシテ其
 職務ヲ代理セシムルコトヲ得又次官事故アルト
 キ及所部各局長員若クハ事故アルトキハ裁
 可ヲ經テ所部高等官ニ其代理ヲ命スルコトヲ得
 第八條 宮内大臣ハ次官及所部各局長員ニ其事務
 ノ幾部ヲ委任スルコトヲ得
 第九條 宮内大臣ハ所部各局長員ノ各課ヲ廢置分
 合シ及其職務規程ヲ定ムルコトヲ得
 第十條 宮内大臣ハ所部責任官ノ進退ハ之ヲ上奏
 シ列任官ノ進退及委任官以下俸給定限内ノ増減
 ハ之ヲ奉行ス准官モ亦同シ
 第十一條 宮内大臣ハ所部各官定員内ニ於テ委任
 官試補列任官見習者置クコトヲ得准官モ亦同シ
 第十二條 宮内大臣ハ裁可ヲ經ルニ非サレハ官制
 定限外ニ所部高等官ヲ増加シ又ハ兼任ヲ爲サシ
 ムルコトヲ得ス
 第十三條 宮内大臣ハ皇室ノ事務ニ關シ必要ノ場
 合ニ於テハ裁可ヲ經テ勅任官又ハ華族ニ委員
 ナ命スルコトヲ得其所部外ニ涉ル者ハ豫メ該長
 官ノ承諾ヲ受ク可シ
 第十四條 宮内大臣ハ皇室ノ事務ニ關シ必要ノ場
 合ニ於テハ補助員顧問員評議員ヲ置クコトヲ得
 其委任以上ノ待遇ニ屬スル者ハ裁可ヲ請フ可シ
 第十五條 宮内大臣ハ裁可ヲ經テ人員及其待遇ノ
 資格ヲ定メ華族ニ勤務ヲ命スルコトヲ得其委任

皇宮警手 判任待遇
 會人 准判任 省中判任官准
 内舍人 官ノ内ヨリ兼補
 准判任三等以下
 等外

第三十八條 圖書寮ニ左ノ職員ヲ置キ帝室ノ圖書
 記録ヲ保管シ皇統譜皇族牒籍ニ關スル事務ヲ管
 理ス
 圖書頭 一人 二等三等
 圖書助 一人 四等以下
 圖書掌理ス

第三十九條 内匠寮ニ左ノ職員ヲ置キ宮殿離宮庭
 園及廳舍ノ土木ニ關スル事務ヲ掌理シ主管ニ屬
 スル會計ヲ掌ル
 但皇太后宮職ノ主管ニ屬スルモノハ此限ニ在
 ラズ
 内匠頭 一人 二等三等
 内匠助 一人 四等以下
 内匠掌理ス

第四十條 主馬寮ニ左ノ職員ヲ置キ車馬乘具調馬
 及牧場ニ關スル事務ヲ掌理シ主管ニ屬スル會計
 ヲ掌ル
 主馬頭 一人 二等三等
 主馬助 一人 四等以下
 主馬掌理ス

第四十一條 諸陵寮ニ左ノ職員ヲ置キ陵墓ニ關ス
 ル事務ヲ掌理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル
 諸陵頭 一人 二等三等
 諸陵助 一人 四等以下
 諸陵掌理ス

第四十二條 侍醫局ニ左ノ職員ヲ置キ診候醫藥衛
 生ニ關スル事務ヲ掌理ス
 侍醫局長 一人 勅任侍醫ヨリ兼任
 侍醫 十六人 一等以下
 侍醫醫藥衛生ニ從事ス

侍醫局主事 三人 奏任侍醫ヨリ兼任
 局務ヲ掌理ス
 醫員 判任
 藥劑師長 一人 五等以下
 藥品製煉検査及調劑ヲ掌理ス
 藥劑師 判任
 侍醫局助 判任

第四十三條 主獵局ニ左ノ職員ヲ置キ狩獵及獵場
 ニ關スル事務ヲ掌理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル
 但主獵官ハ名譽職トス
 主獵局長 一人 二等三等
 局務ヲ掌理シ局員ヲ監督ス
 主獵局主事 一人 四等以下
 局務ヲ掌理ス
 主獵官 十五人 二等以下
 狩獵ニ從事ス

第四十四條 調度局ニ左ノ職員ヲ置キ御服用物及
 宮中省中需用物品被服購買修補運搬ニ關スル事
 務ヲ掌理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル兼テ省中酒
 掃ノ事ヲ掌ル
 但皇太后宮職皇太后宮職主管ニ屬スルモノハ此
 限ニ在ラス
 調度局長 一人 二等三等
 局務ヲ掌理シ局員ヲ監督ス
 調度局主事 一人 四等以下
 局務ヲ掌理ス
 調度局助 判任

第四十五條 帝室會計審査局ニ左ノ職員ヲ置キ帝
 室ノ會計ヲ監督ス
 局長 一人 勅任
 局務ヲ掌理シ局員ヲ監督ス
 帝室會計審査官 五人 三等以下六等以上
 帝室ノ會計審査ヲ掌ル
 帝室會計審査官補 帝室會計審査官定員六等以下
 内ヲ以テ之ヲ置ク
 帝室會計審査局助 判任
 帝室會計審査官ノ職務ヲ補ス

第四十六條 前條々各官勅奏列ノ等級ニ規定ナキ
 モノハ總テ勅任ハ一等二等奏任ハ一等ヨリ六等
 ニ至リ判任ハ一等ヨリ六等ニ至ルモノトス准官
 モ亦同シ

第四十七條 省中各官同内ノ順序ハ任官ノ前後
 ニ依ル准官モ亦同シ

第四十八條 奏任官二等三等ハ毎等在職五年四等
 五等ハ毎等在職三年六等七等八等ハ毎等在職二年ヲ
 滿セルニ非サレハ陞級スルコトヲ得ス其每等定
 員ヲ限ルモノハ缺員アルニ非サレハ其期ヲ滿ユ
 ルト雖モ昇等スルコトヲ得ス准官モ亦同シ

第四十九條 列任官二等三等四等五等六等ハ毎等
 在職二年ヲ滿セルニ非サレハ陞級スルコトヲ得
 ス准官モ亦同シ

第五十條 省中各官及准官ノ俸給ハ別紙甲乙丙三
 表ノ定ムル所ニ依ル

第五十一條 勅任官ニシテ其官最高額ノ俸ヲ受ケ
 勞績拔群顯著ナル者ハ特旨ヲ以テ一級上等ノ俸
 ナ賜フコトアル可シ

第五十二條 奏任官一等ニシテ最高額ノ俸ヲ受ケ
 勞績拔群顯著ナル者ハ宮内大臣ノ上奏ニ依リ其
 俸六分ノ一マテ増賜スルコトアル可シ

第五十三條 列任官一等ニシテ最高額ノ俸ヲ受ケ
 三年ヲ滿ヘ勞績拔群顯著ナル者ハ漸次百圓マテ
 増賜スルコトアル可シ

第五十四條 (勅令) 各部局長ハ宮内大臣ニ具狀シ其部内
 奏任官又ハ判任官ヲ以テ課長トナシ事務ヲ分掌
 セシムルコトヲ得課長事故アルトキハ該長官ニ
 於テ其部員ニ臨時代理ヲ命スルコトヲ得

第五十五條 次官各部局長及書記官ハ皆命ヲ大臣
 ニ承ルモノトス其他各部局長ハ皆命ヲ主務上官
 ニ承ルモノトス其直ニ命ヲ奉シ又ハ大臣若クハ
 上官ノ命ヲ承タルトナシ其主任ノ事務ニ付
 テハ各其責ニ任ス可シ准官モ亦同シ

第五十六條 但經常官ヲ奉シ又ハ大臣若クハ上官ノ委任ヲ
 承ク可キ條項及其職務規程ハ別ニ之ヲ定ム

第五十七條 第十一條ノ奏任官試補判任官見習官
 試驗ヲ經可キモノトス但教官技術官ハ當分ノ内
 試驗ヲ要セス

第五十八條 試補ハ在職三年見習ハ在職二年ヲ滿
 ヲルニ非サレハ本官ニ任スルコトヲ得ス但其本
 官ニ任スルハ試補ハ四等以下トシ見習ハ五等以
 下トス

第五十九條 各官職ニ於テテ會テ滿五年以上奏任官
 ナ奉職セシ者ハ前條ノ例ニ依ラズ試驗ヲ經テ直
 ニ本官ニ任スルコトヲ得准官モ亦同シ

第六十條 各部局長ハ判任官ノ缺ヲ補フ爲メ備員
 ナ置クコトヲ得其給額ハ本官俸ヲ論ユルコトヲ
 得ス准官モ亦同シ

第六十一條 各部局長ハ前條ノ外雜役ニ供スル備
 員ヲ必要トスルトキハ宮内大臣定ムル所ノ定員
 内ニ於テ之ヲ置クコトヲ得

第六十二條 省中判任官及其准官等外並ニ雜役ニ

第二款 御料局支應

御料局支應職制 (明治二十年九月)

御料局支應職制ヲ定ムルコト左ノ如シ

御料局支應職制

第一條 御料財產ヲ管理スル爲メ須要ノ地ニ御料
 局支應ヲ置キ支應ノ下ニ出張所ヲ置ク其位置並
 ニ管轄區域ハ宮内大臣ノ決定ムヘシ

第二條 御料局支應ニ左ノ職員ヲ在勤セシム

理事

技師

技手

技手補

監督

第三條 支應管内廣潤ナルトキハ監督ヲ置キ技師
 屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充テ出張所其他ノ業務ヲ
 監督ス

第四條 支應長ハ御料局長ノ命ヲ承ケ其部内ノ財
 產及一切ノ業務ヲ掌理シ所轄官吏ヲ監督ス

第五條 技師屬技手技手補監督ハ各其主務ニ從事
 ス

第六條 出張所長ハ屬又ハ技手技手補ヲ以テ之ニ
 充テ

第七條 支應及出張所ノ處務規程ハ宮内大臣ノ
 定ム

第八條 支應ノ會計ハ其業務ノ都合ニヨリ御料局
 長ニ於テ宮内大臣ノ認可ヲ經テ特別會計規則ニ

據ルコトヲ得其規則ハ宮内大臣之ヲ定ムヘシ
第九條 支廳長ハ業務ノ都合ニヨリ特ニ僱員ヲ置
クコトヲ得

第三款 東宮職

●東宮職官制 (明治二十二年十一月
宮内省達第二十號)

宮内省中東宮職ヲ置キ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ
東宮職ニ左ノ職員ヲ置キ官事ヲ管理シ供御服用
度營繕及主管ニ關スル會計ヲ掌ル

東宮大夫 一人 一等二等(三十四年宮
内省達甲第四號二十五年同第六號ヲ以テ高等官
官等ヲ改正ス)

職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス
東宮主事 二人 四等以下(三十三年宮
内省達甲第一號改正ニ依ル)

職務ヲ掌理ス
東宮侍從長 一人 二等
常侍奉仕シ侍從ヲ監督ス
東宮侍從 五人 奏任(二十七年宮内省
達甲第三號改正ニ依ル)

常侍奉仕ス
〔東宮武官〕 (二十二年宮内省達第二十七號
ヲ以テ本項削除)
東宮侍從 五人 勅任又ハ奏任五等以上
(二十九年宮内省達甲第二號ヲ以テ追加)
侍從進講シテ御學徳ヲ涵養スルコトヲ掌ル

東宮副
東宮内舍人 准列任三等以下(三十
四年同省達甲第五號改正ニ依ル)
仕人 等外(三十年宮内省達
甲第六號ヲ以テ宮丁ヲ仕人ト改ム)
東宮大夫 奏任ハ宮内省官制第五十條高等官給
付ス

御歌所主事 一人 奏任
長ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理ス
御歌所寄人 七人 名譽職 勅任又ハ奏任
長ノ命ヲ受ケ短歌長歌唱歌等ニ關スル編纂撰
述ヲ分掌ス
御歌所參候 十五人 名譽職 奏任待遇トス
長ノ命ヲ承ケ御會ノ儀式典例ヲ掌理ス
御歌所錄事 列任
上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二條 所長及主事ノ俸給ハ宮内省官制第五十號
高等官俸給表ニ依リ第二級俸ヨリ第五級俸マテ
ノ内ヲ賜ヒ録事俸給ハ同條屬官官等俸給表ニ依
ル
第三條 此ノ官制中別段ノ規定ナキモノハ總テ宮
内省官制ニ依ル

第六款 内大臣並宮中顧問
問官及内大臣祕
書官

●内大臣並宮中顧問官及内大
臣祕書官官制 (明治十八年
太政官達第六
十八號)

宮中ニ内大臣並宮中顧問官及内大臣祕書官ヲ置キ
官制ヲ定ムルコト左ノ如シ
内大臣 一人 親任(二十四年宮内省
達甲第十四號二十五年同第六號參看)

一 御覽圖寫ヲ尙職ス
二 常侍輔弼ス(三十年宮内省達甲第八號改
正ニ依ル)

正ニ依ル
宮中顧問官 十五人 一等二等功勞アル者ヲ
以テ之ニ任ス
(十九年宮内省達外ヲ以テ一等二等功勞メ三
十年同省達甲第八號ヲ以テ一等二等功勞云
々ノ十二字ヲ追加ス)
帝印ノ典範儀式ニ係ル事件ニ付諮詢ニ奉對シ
意見ヲ具上ス
内大臣祕書官 一人又 奏任
内大臣ニ庶屬ス
列任(三十年宮内省達
甲第八號ヲ以テ追加)

●文事祕書局官制 (明治二十三年
宮内省達第
二十三號)

宮中ニ文事祕書局ヲ置キ其官制ヲ定ムルコト左ノ
如シ
文事祕書局官制
第一條 文事祕書官長 一人 一等二等(二十四
年宮内省達甲第四號二十五年同第六號改正ニ依
ル)
官長ノ指揮ヲ承ケ文書ヲ掌理ス
第二條 文事祕書官 二人 二等以下(同上)
官長ノ指揮ヲ承ケ文書ヲ掌理ス
第三條 屬 列任

●皇族職員職制 (明治二十三年一月
宮内省達第一號)

皇族職員職制左ノ通相定ム
皇族職員職制左ノ通相定ム

第八類 官制 第三章 宮内省
第六款 内大臣並宮中顧問官及内大臣祕書官
第八款 皇族職員 第九款 帝室博物館

表 俸給 官等 一 二 三 四 五 等
一級俸 二千五百圓 二千圓 千八百圓 千四百圓
二級俸 二千圓 二千圓 千八百圓 千四百圓
三級俸 二千圓 千八百圓 千四百圓 千二百圓
四級俸 千八百圓 千四百圓 千二百圓 千圓
五級俸 千四百圓 千二百圓 千圓 九百圓
六級俸 千圓 九百圓 八百圓 七百圓

●東宮御所御造營局官制 (明治三十
一年
八月宮内省
達甲第六號)

宮内省中ニ東宮御所御造營局ヲ置キ其官制ヲ定ム
ルコト左ノ如シ
東宮御所御造營局官制
第一條 東宮御所御造營局ハ東宮御所御造營ニ關
スル一切ノ事務ヲ掌理ス
第二條 東宮御所御造營局ニ左ノ職員ヲ置ク
局長 一人 勅任
事務官 二人 一等一人三等以下一人
列任
屬 六人 宮内高等官ヨリ兼任

●東宮御所御造營局
一 東宮内舍人及仕人俸給ハ同條准官俸給表主殿
寮内舍人及皇太后宮職官丁ニ同シ

技師 一人 二等
技師 四人 三等以下(三十四年宮
内省達甲第二號ヲ以テ人員改正)

第三條 長ハ宮内大臣ノ監督ヲ承ケ所部ノ職員ヲ
統轄シ局務ヲ總理ス
第四條 事務官ハ長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス
第五條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス
第六條 技師ハ長ノ命ヲ承ケ工務ヲ掌理ス
第七條 技師ハ長又ハ技師ノ命ヲ承ケ工務ヲ分掌
ス
第八條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス
第九條 長ハ經費豫算定額内ニ於テ囑託員又ハ備
員ヲ置クコトヲ得
第十條 長、事務官、技師ノ俸給ハ宮内省官制第
五十條高等官俸給表、技師ノ俸給ハ技術官俸給
表ニ依リ屬、技師ノ俸給ハ同條屬及技師俸給ニ
依リ但シ技師、技師ノ俸給ハ事務ノ繁簡ニ依リ
官等相當俸給以下ノ額ヲ給スルコトアルヘシ
(三十二年宮内省達甲第四號ヲ以テ改正)

●御歌所官制 (明治三十年十月
宮内省達甲第七號)

御歌所官制左ノ通相定ム
御歌所官制
第一條 御歌所ニ左ノ職員ヲ置ク
御歌所長 一人 勅任
天皇、皇后兩陛下ノ御製ニ關スル事ヲ掌リ兼
テ國民ノ進退ヲ管理シ所務ヲ總理シ職員ヲ監

皇族職員職制
第一條 親王家
別當
輔翼ノ實ニ任シ家務會計ヲ總理シ家令以下ヲ
監督ス
家令
別當ノ職務ヲ助ケ家務會計ヲ管理ス
家扶
家務會計ヲ掌理ス
家從
庶務ニ從事ス
第二條 諸王家
家令
輔翼ノ實ニ任シ家務會計ヲ管理シ家扶以下ヲ
監督ス
家扶
家務會計ヲ掌理ス
家從
庶務ニ從事ス
第三條 宮内省官制第四十八條第四十九條第五十
一條第五十二條第五十三條ハ本制ニモ亦適用ス

●帝室博物館官制 (明治三十三年
宮内省達
甲第三號)

帝國博物館、帝國京都博物館、帝國奈良博物館、東
京帝國博物館、京都帝國博物館、奈良帝國博物館、東
宮帝國博物館官制ヲ定ムルコト左ノ如シ
但シ施行ノ期ハ本年七月一日トス
帝室博物館官制
第一條 東京帝國博物館ニ帝室博物館總長一人ヲ

第一條 東京帝國博物館ニ帝室博物館總長一人ヲ

第一條 東京帝國博物館ニ帝室博物館總長一人ヲ

第一條 東京帝國博物館ニ帝室博物館總長一人ヲ

第一條 東京帝國博物館ニ帝室博物館總長一人ヲ

第一條 東京帝國博物館ニ帝室博物館總長一人ヲ

第一條 東京帝國博物館ニ帝室博物館總長一人ヲ

第一條 東京帝國博物館ニ帝室博物館總長一人ヲ

第一條 東京帝國博物館ニ帝室博物館總長一人ヲ

第一條 東京帝國博物館ニ帝室博物館總長一人ヲ

第一條 東京帝國博物館ニ帝室博物館總長一人ヲ

第一條 東京帝國博物館ニ帝室博物館總長一人ヲ

第一條 東京帝國博物館ニ帝室博物館總長一人ヲ

置ク勅任トス宮内大臣ノ監督ヲ承ケ職員ヲ統轄シ各帝室博物館ノ事務ヲ總理シ兼テ上野公園及動物園ノ事務ヲ管理ス

第二條 東京帝室博物館ニ主事一人ヲ置ク奏任トス總長ヲ輔ケ職務ヲ掌理ス

第三條 京都帝室博物館及奈良帝室博物館ニ館長各一人ヲ置ク奏任トス館務ヲ掌理シ所部職員ヲ監督ス

第四條 各帝室博物館ニ左ノ職員ヲ置ク
部長 奏任 京都帝室博物館及奈良帝室博物館ハ五等以下トス
部次長 列任三等以上
書記 列任
技手 列任

第五條 部長ハ東京帝室博物館四人京都帝室博物館奈良帝室博物館各三人トス總長又ハ館長ノ命ヲ承ケ列品部門ノ別ニ從ヒ部務ヲ分掌ス

第六條 部次長ハ東京帝室博物館四人京都帝室博物館奈良帝室博物館各三人トス部長ヲ助ケ部務ヲ處理ス

第七條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第八條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ列品ノ調査監守ニ從事ス

第九條 館務ノ須要ニ依リ各帝室博物館ニ評議員及學藝委員ヲ置クコトヲ得

第十條 評議員ハ東京帝室博物館五人京都帝室博物館奈良帝室博物館各二人勅任又ハ奏任ノ待遇トス總長又ハ館長ノ諮詢ニ對シ其ノ召集ニ應シテ館務ニ參與ス

第十一條 學藝委員ハ東京帝室博物館七人京都帝室博物館五人奈良帝室博物館三人奏任待遇トス

總長又ハ館長ノ命ヲ承ケ列品ノ鑑査解說又ハ編纂著譯ニ從事ス

第十二條 實際ノ須要アルトキハ各帝室博物館ニ囑託員ヲ置キ部長部次長ノ事務又ハ列品ノ鑑査解說ヲ委嘱スルコトヲ得

第十三條 高等官ノ俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表ニ依リ部次長書記ノ俸給ハ同條屬僚給、技手ハ技手俸給ニ依ル

第十四條 評議員學藝委員及囑託員ノ報酬ハ經費定額内ニ於テ總長適宜之ヲ定ム

第十五條 本官制中別ニ規定ナキモノハ宮内省官制ニ依ル

第十款 學習院
學習院官制左ノ通改定ス

學習院官制
第一條 學習院ニ左ノ職員ヲ置ク
院長 一人 勅任
宮内大臣ノ監督ヲ受ケ學習院教育ノ主旨及學制ニ依リ院務ヲ總理シ職員ヲ統轄シ學生育成ノ責ニ任ス
學習院幹事 二人 奏任
長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス
學習院書記 列任
長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス
學習院教授 勅任又ハ奏任
長ノ命ヲ承ケ教育ニ從事ス
學習院助教授 列任
教授ノ職務ヲ補助ス
學習院寮長 奏任
教授ヨリ委任ス

長ノ命ヲ承ケ各學寮ヲ管理シ且其寮ニ屬スル學生ノ肅陶ニ從事ス

學習院副寮長 奏任又ハ列任 教授又ハ助教寮長ノ職務ヲ補助ス

學習院學生監 一人 奏任
長ノ命ヲ承ケ學生ノ風儀ヲ監督シ且武課ノ教習ニ從事シ學生ヲシテ軍隊ノ紀律ニ慣熟セシムルコトヲ掌ル

學習院學生監副官 一人 奏任
學生監ノ職務ヲ補助ス

學習院學生監部員 列任
學生監及學生監副官ノ指揮ヲ承ケ其職務ノ細節ニ從事ス

學習院醫官 一人 奏任
長ノ命ヲ承ケ醫藥衛生ニ從事ス

學習院醫官助手 列任
醫官ノ指揮ヲ承ケ其職務ノ細節ニ從事ス

第二條 教授上必要アルトキ又ハ列任官團員アルトキハ長適當ナル者ヲ選ビテ囑託員又ハ職員ヲ置クコトヲ得

第三條 教育上ノ規律及職員分掌服務規程ハ長之ヲ定メ宮内大臣ニ申牒スヘシ

第四條 長、幹事、勅任教授、學生監、學生監副官、醫官ノ俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表、奏任教授ノ俸給ハ技術官俸給表ニ依リ書記、學生監部員、醫官助手ノ俸給ハ同條屬僚給、助教授ノ俸給ハ技手俸給ニ依ル(三十二年宮内省官制第二號ヲ以テ改正)

第五條 寮長及副寮長ニハ本官俸給ノ半額以内ノ手当ヲシテ給ス

第六條 教授助教授ニハ授業時間ノ多少學科ノ性質等ニ依リ官等相當俸給以下ノ額ヲ給スルコト

アルヘシ
第七條 囑託員ノ報酬職員ノ俸給ハ長適宜ニ之ヲ定ム

第八條 此官制中別ニ規定ナキモノハ總テ宮内省官制ニ依ル

技手俸給ニ依ル(三十二年宮内省達甲第三號ヲ以テ改正)

第十二款 侍從武官
侍從武官官制(明治二十九年四月勅令第三百十三號)
侍從武官官制
第一條 侍從武官ヲ置ク左ノ如シ
侍從武官長 侍從武官高級故參ノ者ヲ以テ之ニ補ス
侍從武官 陸軍將官及佐尉官 三五
海軍將官及佐尉官 三五
天皇ニ常侍奉仕シ軍事ニ關スル奏上啓答及命令ノ傳達ニ任シ又親兵演習行幸其他祭儀禮典宴會謁見等ニ陪侍從ス

東宮武官官制
第一條 東宮武官ヲ置ク左ノ如シ(三十一年勅令第三百號ヲ以テ改正)
東宮武官長 東宮武官中高級故參ノ者ヲ以テ之ニ補ス
東宮武官 陸軍將官及佐尉官 三五
海軍將官及佐尉官 三五
皇太子ノ威儀整飾ヲ補助シ行軍、觀兵、演習其他ノ軍務及祭儀、禮典、宴會、謁見等ニ陪侍從ス

第十一款 華族女學校
華族女學校職員及官等俸給
(明治十九年二月宮内省達第二號)

華族女學校職員及官等俸給ヲ改定スルコト左ノ如シ

第一條 華族女學校ニ左ノ職員ヲ置ク
校長
學監
幹事
教授
助教
書記

第二條 長一人勅任トス宮内大臣ノ命ヲ受ケ學校ノ事務ヲ總理ス

第三條 學監一人奏任トス長ノ命ヲ受ケ教授及校中ノ事務ヲ監督ス

第四條 幹事二人奏任トス長ノ命ヲ受ケ庶務ヲ掌理ス

第五條 教授ハ奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

第六條 助教ハ列任トス教授ノ職掌ヲ助ケ

第七條 書記ハ列任トス長及幹事ノ命ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第八條 長、學監、幹事ノ俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表、教授ノ俸給ハ技術官俸給表ニ依リ書記ノ俸給ハ同條屬僚給、助教ノ俸給ハ

侍從武官長ハ侍從武官ノ勤務ヲ規定シ且之ヲ監督ス

第六條 侍從武官ハ皆參謀官トス

第七條 第一條ニ掲クル人員ノ外侍從武官ニ陸海軍各二名ヲ附ス(三十年勅令第二百六十四號改正ニ依ル)

第十三款 東宮武官
東宮武官官制(明治三十年勅令第三百一十一號)

朕東宮武官官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ

皇族附陸軍武官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ

第十四款 皇族附武官
皇族附陸軍武官官制(明治二十年勅令第二一八十一號)

皇族附陸軍武官官制左ノ通定ム

第一條 陸軍武官タル皇族ニハ皇族附陸軍武官ヲ附屬シ各兵科佐尉官ヲ以テ之ニ補ス(三十三年勅令第四十一號ヲ以テ本條中改正)

第二條 皇族附陸軍武官ハ其附屬スル皇族ノ威儀整飾ヲ補助シ行軍、觀兵、演習其他ノ軍務及祭

儀、禮典、宴會等ニ關スルヲ任トス
第三條 皇族附海軍武官ハ祭禮禮典宴會等ノ事項ニ關シテハ宮内省ノ規程ヲ遵守スヘシ

皇族附海軍武官官制 (明治三十一年十月六十一號)

朕皇族附海軍武官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

皇族附海軍武官官制

第一條 海軍武官タル皇族ニハ皇族附海軍武官ヲ附屬シ海軍佐尉官ヲ以テ之ニ充ツ (三十二年勅令第四百四十號ヲ以テ條中改正)
第二條 皇族附海軍武官ハ其ノ附屬スル皇族ノ威儀整飾ヲ奉助シ軍務、祭儀、禮典及宴會等ニ關シテ任トス
第三條 皇族附海軍武官ハ祭儀、禮典、宴會等ノ事項ニ關シテハ宮内省ノ規定ヲ遵守スヘシ

第四章 各省官制通則

各省官制通則 (明治二十六年十月二十二號)

朕各省官制通則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

各省官制通則

第一條 本則ハ外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、逓信ノ各省ニ適用ス
第二條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ實ニ任ス
主任ノ明瞭ナル事務ニシテ兩省以上ニ關涉スルモノアルトキハ閣議ニ提出シテ其ノ主任ヲ定ム
第三條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付法律勅令ノ制

定、廢止及改正ヲ要スルコトアルトキハ案ヲ具ヘ閣議ニ提出スヘシ
第四條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ省令ヲ發スルコトヲ得
第五條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ニ指令又ハ訓令ヲ下スコトヲ得
第六條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ヲ監督ス若シ警視總監、北海道廳長官、府縣知事ノ命令又ハ處分ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得
第七條 各省大臣ハ所部ノ官吏ヲ統督シ委任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ列任官以下ハ之ヲ專行ス
第八條 各省大臣ハ所部ノ官吏ヲ統督シ委任官ノ地方官廳委任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ內務大臣ヲ經テ上奏ス但シ視學官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ內務大臣及文部大臣之ヲ上奏ス (二十九年勅令第三百三十七號ヲ以テ收稅長ノ進退ニ關スル但書廢止シ三十二年勅令第二百五十四號ヲ以テ更ニ但書ヲ追加ス)
第九條 各省大臣ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部ノ官吏ノ銜位變動ヲ上奏ス
第十條 各省大臣ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部ノ官吏ノ銜位變動ハ前條第二項ノ例ニ依リ之ヲ專行ス
第十一條 各省大臣ハ所部ノ官吏ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏ス但シ視學官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ內務大臣及文部大臣之ヲ上奏ス (二十九年勅令第三百三十七號ヲ以テ收稅長ノ進退ニ關スル但書廢止シ三十二年勅令第二百五十四號ヲ以テ更ニ但書ヲ追加ス)
第十二條 各省大臣ハ所部ノ官吏ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏ス但シ視學官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ內務大臣及文部大臣之ヲ上奏ス (二十九年勅令第三百三十七號ヲ以テ收稅長ノ進退ニ關スル但書廢止シ三十二年勅令第二百五十四號ヲ以テ更ニ但書ヲ追加ス)
第十三條 各省大臣ハ所部ノ官吏ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏ス但シ視學官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ內務大臣及文部大臣之ヲ上奏ス (二十九年勅令第三百三十七號ヲ以テ收稅長ノ進退ニ關スル但書廢止シ三十二年勅令第二百五十四號ヲ以テ更ニ但書ヲ追加ス)
第十四條 各省大臣ハ所部ノ官吏ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏ス但シ視學官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ內務大臣及文部大臣之ヲ上奏ス (二十九年勅令第三百三十七號ヲ以テ收稅長ノ進退ニ關スル但書廢止シ三十二年勅令第二百五十四號ヲ以テ更ニ但書ヲ追加ス)

大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 機密ニ屬スル事項
二 官吏ノ進退身分ニ關スル事項
三 大臣ノ官印及省印ノ保管ニ關スル事項
各省ノ便宜ニ從ヒ大臣官房ノ事務ヲ各局ニ於テ處理セシムルコトヲ得
陸軍省海軍省ニ於テハ本條第二項第二ノ事務ヲ掌ラシムルヲ特ニ局ヲ置クコトヲ得
第十一條 各省ニ總務局ヲ置ク(同上)
總務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 公文書類及檔案文書ノ接受發送ニ關スル事項
二 統計報告ノ調製ニ關スル事項
三 公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項
四 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算會計ニ關スル事項
五 會計ノ監査ニ關スル事項
六 本省所管ノ官有財產及物品ニ關スル事項
七 其ノ他各省官制ニ依リ特ニ總務局ノ所掌ニ屬セシムル事項
陸軍省海軍省ニ於テハ前項第四乃至第六ノ事務ヲ掌ラシムルヲ特ニ局ヲ置クコトヲ得
第十二條 各省中務務ヲ分掌スル爲局ヲ置ク其ノ分掌事務ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム
第十三條 大臣官房及各局ノ分課ハ各省大臣ノ定ムル所ニ依リ
陸軍省海軍省中ノ分課ハ各其ノ省官制ニ於テ之ヲ定ム
第十四條 各省ニ左ノ職員ヲ置ク (三十三年勅令第四百一十一號ヲ以テ條中改正)
總務局長
官房長

置クコトヲ得 (三十一年勅令第二百五十七號三十二年勅令第六十一號三十五年勅令第六十號ヲ以テ條中改正)
第二十四條 大臣官房及局中各課ニ課長一人ヲ置キ委任官又ハ列任官ヲ以テ之ニ充ツ課長ハ命ヲ上官ニ承ケ職務ヲ掌理ス
陸軍省海軍省中ノ課長ハ各其ノ省官制ノ定ムル所ニ依リ
第二十五條 局ハ列任トス上官ノ指揮ヲ承ケ職務ニ從事ス
第二十六條 各省列任官ノ定員ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム
第二十七條 本則ニ掲グルモノノ外各省特別ノ職員ヲ置クコトヲ要スルモノハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム
附則
第二十八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

各省事務整理綱領標準

(明治二十八年十月二十六日)

本月二十三日ノ聖詔ヲ奉讀シ左ニ各省事務ヲ整理スルノ綱領ヲ擬シ以テ將來ノ標準ヲ示ス各省大臣此範圍内ニ於テ便宜酌量シ案ヲ具ヘテ閣議ニ提出スヘシ
一 官守ヲ明ニスル事
我カ官制ハ草創ノ餘未ダ限ルニ定員ノ制ヲ以テセシ濫弊從テ生シ官愈々多クシテ事務愈々重クナルコトヲ免カシメ十年ニ一タビ官制ヲ改メ數部省ヲ廢シ內務省ニ併セ各省奏列官ヲ減シ其過半數ヲ罷メタリ然レニ當時定員ノ制ヲ設ケテ以テ將來ヲ防範セザリシニ因リ其後又更ニ漸クニ増員シ從テ濫弊

從テ加ハリ以テ其ノ利メニ倍スルニ至レリ今ニ於テ各省大臣宜シク 訓意ヲ奉讀シ左ノ節目ニ依リ各省內局課ノ設置ヲ定メ官吏ノ員數ヲ限リ節減淘汰ノ意見ヲ具ヘテ閣議ニ付シ各省官制ヲ略均一ナラシメ成案トナシ然レ後上奏シテ裁可ヲ請フヘシ
一 各省次官一人ニ限ル
一 各省書記官ハ其省ノ須要ニ從ヒ定員ヲ限ル
一 省中各局ニ屬セザルノ分課ハ其省書記官ノ内ヲ以テ課長ニ充ツ
一 省務ノ職分シテ別ニ一部ヲ爲シ經常ニ繼續スヘキ者ヲ局トス局ニ局長一人又ハ局長局長長ヲ置ク
一 本省又ハ局中ノ事務ヲ分課設クハ各省ノ便宜ニ從フ
一 局長及局長長ハ委任トス局中ノ課長ハ列任ヲ以テ之ニ充ツ
一 局ノ等級ヲ分テ一等局二等局トスハ事務ノ繁簡輕重ニ從ヒ各省大臣ノ具狀スル所ニ依リ裁可ヲ經ヘシ
一 局課ノ設置一定ノ後省務ノ變更ニ依リ新ニ設置シ又ハ新ニ委任官ノ定員ヲ増サント要スルトキハ理由ヲ具ヘテ閣議ノ後裁可ヲ請フヘシ
一 各省ノ須要スル所ニ從ヒ定員ヲ限リ委任官ヲ任スルコトヲ得
一 以上定員ノ外出仕又ハ御用係ノ名義ヲ以テ補任スル所ヲ知ラシムルヲ要ス
一 各省大臣ハ局課ノ規程ヲ定メ局長課長ヲシテ責任スル所ヲ知ラシムルヲ要ス
前項ノ規程ハ可成各省均一ヲ要スル爲ニ閣議ヲ經テ之ヲ定ムヘシ
一 八等官以下ハ各省ノ須要ニ從ヒ定額俸給項内

ニ於テ各省大臣之ヲ列任スヘシ
 一 各省大臣ハ臨時事務ノ爲ニ列任常員ノ外ニ定額内ニ於テ備員ヲ使用スルコトヲ得
 一 學術專科ニ係ル官制及警視稅典獄ノ類ハ別ニ定ムル所ニ依ル
 一 特ニ一事件ヲ審査セシムル爲ニ委員ヲ設ケ又ハ臨時ノ事務ヲ擔當セシムル爲ニ掛ク設ケ省中定員ノ人ヲ使用スルハ各省大臣ノ權内トス
 一 各省ニ試験ヲ經タル候補ヲ置キ省局ノ事務ヲ練習セシメ爾後官アルヲ待テ補任ス各省試験ノ數ハ開議ノ定ムル所ニ依ル
 一 試験ニ關スル規則ハ道ヲ規定シ公布スヘシ
 一 官吏一省內ニ於テ二ツノ事務ヲ兼テシムルコトヲ得ルモ二省ニ涉リテ兼テシムルコトヲ得ス若シ止ムテ得サルノ要用ニ依リテ兼テシムルモ兼官ハ一年ヲ過ルコトヲ得ス
 一 他省ニ涉リテ兼官スルモノハ兼テシムル所ノ官俸三分ノ一ヲ増給スヘシ但武官ニシテ文官ニ任スルハ此例外ナリ
 以上ハ官制ノ綱領トス各省案成ルノ後裁可テ經一定公布スル所アルヘシ
 委任以上ハ官ニ職權アリテ各機關ノ一部ニ當ル者ヲ官官ニ使用テ受ル者ナリ從前官制ノ區別明ナラスシテ職外ノ年ヲ經タル者ハ進テ職官ニ昇リ職官ノ年資ヲ經タル者ハ進テ委任ニ列ス是レ試験法ナキノ致ス所ニ由ル今既ニ試験法ヲ定ムルトキハ凡ソ委任ノ官ハ必ス高等試驗ヲ經ル者ニ限リ職官ノ年資ヲ積ム者ハ漸クニ其俸給ヲ増シ委任利等官(即現七等官)ト相匹等セシムルコトヲ得ヘシ其階ヲ委任トナスニ至テハ必異常功績アリテ大臣ヨリ狀ヲ具ヘ奏請シ又ハ高等試驗ヲ經ル者ニ限ルヘシ此皆九品ヲ防グノ道ナリ

明治四年ニ官等ヲ定メテ以來俸給ヲシテ官等ト相酬當セシメ以テオチ使フノ道ヲ狹限シタリ今之ヲ改正シ凡ソ何ノ官ヲ論テモ試驗ニ由テ進ム者ハ各官等簡ニ從ヒ各官等俸給ヲ定メ大第二階ヲ增俸テ得セシムヘシ本項俸給ニ關スル規則ハ道ヲ開議ノ後裁可テ經テ公布スル所アルヘシ
 二 選拔ノ事
 選拔ノ法未タ定マラスシテ人各知ル所ナク而シテ成學ノ士或ハ其進ム所ヲ失フ此レ皆制度ノ未備ナリ官制ニシテ免レサル所ナリ今官制一ヒ定タマリ官制限アルニ及テ選拔ノ法仍設ケサルトキハ情弊ノ至ル處其失ニ堪ヘス而シテ行政部局其人ヲ得ルニ由ラカラントス
 選拔ノ法ヲ行フニハ事始ニ屬スルヲ以テ其規則節目ノ詳ナルハ委員ヲシテ審査セシメ開議ヲ經ルノ後成案トシテ裁可テ請フヘシ今其大要ヲ舉ケテ以テ標準ヲ示ス
 第一 仕進ハ試驗ニ由ラシムル事
 第二 試驗ニ學術試驗ト普通試驗ヲ分ツ事
 第三 學術試驗ニ初等試驗ト高等試驗ヲ分ツ事
 第四 學術試驗普通試驗ノ外ニ專科試驗ヲ設ケル事(會計官更ハ記簿法ヲ試驗シ外務官更ハ外國語ヲ試驗シ其他技術ヲ試驗スルノ類)
 第五 試驗人ハ定メタル試驗科目ノ外ニ任意ニ其學ノ所ノ專門學ノ試驗ヲ受ケルコトヲ得セシメ試驗委員ニ於テ他ノ科目ト對稱シテ之ヲ採取シ其優等ナル者ハ別ニ優等證書ヲ付シ以テオチ試ミルニ當リナカラン事
 第六 内閣中ニ試驗委員ヲ設ケル事
 第七 各省ニ許可テ得テ設ケル專科試驗法ハ試驗委員ト各省大臣トノ間ニ時制制定セシムル事
 第八 試驗ニ依リ進ムヘキ官更ノ出身ハ年齡性行

健全才能ノ四件ヲ合セテ共ニ試驗委員ノ審査ヲ經ル後選川スル事
 第九 學術試驗合格者ハ一定ノ期限內候補トナシ事務ヲ見習ハシメ又ハ候補簿ニ登記スル事
 第十 現勤列任官ヨリ委任ニ昇ル者ハ少クトモ初等學術試驗ヲ經セシムル事
 第十一 列任ノ缺官又ハ需要アルトキハ普通試驗ヲ行ヒ選川スル事
 第十二 現勤外及雇ヨリ等內官又ハ本官ニ任スル者其列任官ハ皆普通試驗ヲ經セシムル事(但特ニ一藝アル者ハ選用ヲ許ス)
 第十三 現勤列任及准列任御用掛屬等外官ニシテ學術試驗ヲ請フ者ハ開議ニ任スル事
 第十四 試驗委員ノ紀律ヲ嚴ニシ其公正ヲ保タシムル事
 第十五 地方ノ屬官ヲ試驗スルハ別段ノ方法ニ依ル事
 右ハ其概略ノ目的ヲ定ムル者ニシテ此レヲ實行スルニ至テハ更ニ委員ヲ命シ精確ノ審査ヲ經セシメントス
 三 繁文ヲ省ク事
 維新ノ後舊チ變シ新ニ爲クノ際下司ノ上司ニ京請シ命ヲ得テ始メテ施行スルチ例トシ細大多端往復難ルカ如ク相因テ一ノ慣習ヲ成シ一令出ルコトニ疑問百出何ノ文簿積テ堆チ爲シ往々半年或ハ一年ニシテ始メテ定マル此レ從前各省及太政官ノ事務繁劇官更冗多ナル所以ニシテ始メハ已ムテ得サルノ勢ニ出テ終リニ因習ノ弊ニ堪ヘサル者ナリ文書繁多ノ弊ハ
 第一 事務ヲ掩滯シテ疏通便捷ヲラサラシメ公私ノ障害タリ
 第二 官更チ冗多ナラシム

第三 一部ヲ擔任スルノ官俸ヲシテ文書ニ倚賴シテ責任ノ重チ輕カラシム
 今此弊ヲ除カントセハ左ノ方法ニ依ルヘシ
 第一 凡ソ布告ノ法律ハ疑問ナカラシムル爲ニ其說明ヲ要スル者ハ可成說明書ヲ附シ各官廳ニ送スル事
 第二 府縣長官及其他一局部長タル者ハ法律命令ヲ施行スルニ付テ其明文アル者ニ付何種シテ指令ヲ請フコトヲ得ス其明文ナキ者モ實際ノ事務ヲ延滯セサラシムル爲メニハ法律ノ精神ニ由リ處分施行スルヲ以テ當然トナス事
 其他公文ノ旅滯シテ或ハ歲月ヲ經過シ緩慢ニシテ敏活ナラサルハ施政ノ大弊ニシテ公私ノ病患此ヨリ大ナルハナシ今此チ救フノ要領ハ左ノ數點ニ外ナラサルヘシ
 第一 文書受付往復ノ期限ヲ設ケ事ノ輕重緩急ニ從ヒ相當ノ期日ヲ定メ稽滯ヲ以テ過失トシ主任ノ官更其責ニ任セシムル事
 第二 事務ノ各局課ニ關涉スル者ハ各局課ノ間或ハ會議法ヲ設ケ或ハ主任官五ニ面議ヲ行ヒ議決ノ即時ニ捺印シ從前ノ回覽法ニ換ヘ異議附箋ノ煩ヲ除ク事
 第三 文書ニ記録ノ要用トシテ分テ其不要ナル者ハ件録日時ヲ日記ニ登錄スルニ止メ原文ノ謄寫ヲナササル事
 第四 各局長ハ每週一次又ハ二次其局ノ文書往復ノ簿冊ヲ査閱シ稽滯ヲ檢明シ各省次官ハ毎月一次又ハ二次其省ノ文書往復ノ簿冊ヲ査閱シ稽滯ヲ檢明スルノ方法ヲ行フ事
 第五 各局長以下ハ大臣又ハ次官ノ命ナクシテ定期ノ外交官ヲ留置クノ權ナキ事
 以上ハ其大概ヲ略記スルニ止マル者ニシテ其實施

ノ順序節目ニ至テハ開議ノ各省ノ便宜ニ應ジ各省大臣其規程ヲ設ケルノ權内ニ在ル者タリ但タ此事各省ノ整理ニ關シ可成均一ヲ要スルヲ以テ茲ニ之ヲ提議シテ以テ標準ヲ示ス
 四 冗費ヲ節スル事
 凡ソ行政官務整頓確カサルノ國ハ其經費必節省ナラサルハナシ蓋富強ノ道ハ多費ニ在ラスシテ施ス處其實務ヲ緩急其要ヲ得テ以テ成功ヲ永久ニ期スルニ在リ維新以來歲出ノ歲入逐年増加スルハ内政務ノ多端ナル實ニ已ムコトヲ得サルニ由ルト雖モ明治六年ノ會計表ニ據リ此レ昨十七年度ノ歲出ト比較スルニ幾ント四分ノ一増加シタリ又之ヲ十七年度ニ比較スルニ即チ十分ノ六増加シ又九年十年度ノ概數ニ據リ之ヲ十六年度ニ比較スルニ即チ三分ノ一増加シタリ實務ノ繁カル處成果ノ得ル處未タ經費ノ選増ト相比例スルニ至ラズ今宜シク務メテ省減ヲ行ヒ各省ノ定額ハ内閣ニ於テ事務ノ緩急ナリ之ヲ總列議定シ越ユヘカラサルノ限ヲ爲シ各省大臣ハ全局ノ平衡ヲ順ミ以テ各官更ノ費用ヲ節省スヘシ
 委任以上ハ官ニ定員アリ列任以下ハ各省大臣定額俸給項内ニ於テ便宜ニ使用スルコトヲ得今變更ノ際一タヒ節減ヲ行ヒ更ニ永久ニ繼續シテ濫弊ヲ防制スル爲ニ各省府縣廳ハ毎月官吏ノ員數對給額ヲ統計シ翌月十日迄ニ之ヲ檢査院ニ報告セシメ檢査院ニ於テ其制ヲ論ニ限ニ過ル者ヲ檢出シタリトキハ内閣總理大臣ニ上申シテ處分ヲ請ハシムヘシ
 檢査院ハ單ニ會計出入ノ檢査ニ止マルノミナラス需費ノ成績ニ就テ事業ノ得失ヲ察シ各廳内部ノ處務ニ注目シ務メテ儉省確實ノ方法ヲ計畫シテ内閣

提出シ以テ行政各部ノ注意ヲ促スコトヲ得セシムヘシ各省ノ事務互相重複スル者ハ開議ヲ經テ其一チ減省スヘシ
 五 規律ヲ嚴ニスル事
 官更ノ品格ハ實ニ政府ノ威信ニ係リ官更ノ忠順實密勤勉清廉ハ政務ノ得失ニ於テ密接ノ關係ヲ相爲ス此レ宜シク其規律ヲ嚴ニシ秩序ヲ正シクシ一ハ以テ官務ヲ整理シ一ハ以テ忠厚廉潔ノ風ヲ維持セサルヘカラス九年ニ官更懲戒例ヲ設ケテ而シテ監督審理ノ方法備ラズ未タ具文ノ法タル事ヲ免レヌ將來懲戒列ヲ設ケ懲戒及罷免ノ規則ヲ定メ以テ官紀ヲ肅シ且以テ官更ノ位置面目ヲ保護スルコト實ニ止ムヘカラサルノ必要タリ但タ此事他ノ官制ノ細目ト相關係スルヲ以テ現時未タ舉行シ易カラサル者アリ抑モ官更ノ規律ヲ張リ其品格ヲ保ツハ以テ一日モ緩慢ニ付スヘカラス各省大臣ニ在リテ宜シク
 罰意ヲ奉體シ各其權内ニ於テ振勵監督凡ソ官更忠順實密勤勉ニ乖キ法律ヲ格守セズ機事ニ慎密ナラス事務ヲ執テ勤勉ナラサル者ハ其情狀ニ從ヒ之ヲ告戒懲責シ或ハ之ヲ懲罰スヘク附道ノ禁ハ細大ニ及ホシ職務曠廢ノ戒メハ其有意無心ナ間ハ老朽務メニ堪ヘサル者ハ其官ヲ退カシムヘク務メテ核實證明ニシテ効力アルコトヲ要スヘシ其規則ニ涉ル者ハ更ニ裁チ總テ制定スル處アルヘシ

第五章 外務省所管

第一款 外務省

外務省官制 (明治三十一年十月勅令第二百五十八號)
 朕外務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 外務省官制

第一條 外務大臣ハ外國ニ關スル政務ノ施行、外國ニ於ケル帝國領事ノ保護及外國在留帝國臣民ニ關スル事務ヲ管理シ外交官及領事官ヲ指揮監督ス(三十三年勅令第九十號ヲ以テ條中改正)

第二條 總務局ニ於テハ通則ニ揭グルモノノ外帝國ニ駐在スル各國外交官、領事官、外國人叙勳、條約書保管及文書翻譯ニ關スル事務ヲ掌ル(同上)

第三條 外務省專任事務官ハ三人專任外務大臣祕書官ハ二人專任書記官ハ八人ヲ以テ定員トス(三十三年勅令第九十號三十五年勅令第六十一號ヲ以テ條中改正)

第四條 外務省ニ左ノ二局ヲ置ク
政務局
通商局

第五條 政務局ニ於テハ外交ニ關スル事務ヲ掌ル
第六條 通商局ニ於テハ通商航海及移民ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 外務省ニ翻譯官四人ヲ置ク委任トス文書翻譯ニ從事ス
第八條 外務省屬ハ五十人ヲ以テ定員トス(三十五年勅令第六十一號ヲ以テ條中改正)

第九條 外務省ニ翻譯官補六人ヲ置ク列任トス上官ノ指揮ヲ承ク文書翻譯及通譯ニ從事ス
第十條 外務省ニ技手三人ヲ置ク上官ノ指揮ヲ承ク電信及電報事務ニ從事ス(三十三年勅令第五十九號ヲ以テ條中改正)

第二款 外交官及領事官 試驗委員

第七條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

● 外交官及領事官試驗委員官制 (明治二十六年十月 勅令第百二十六號)

朕外交官及領事官試驗委員官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 外交官及領事官試驗委員官制ニ外交官及領事官試驗委員ヲ置キ外務大臣ノ管轄ニ屬セシム

第二條 外交官及領事官試驗委員ハ左ノ人員ヲ以テ組織ス
委員長 外務次官
委員 外務省政務局長
外務省通商局長
文官高等試驗委員二名
帝國大學教授二名

第三條 前條委員ノ外臨時必要アルトキハ臨時試驗委員ヲ命スルコトヲ得

第四條 外交官及領事官試驗委員ハ職務上當然委員長又ハ委員タル者ヲ除クノ外外務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス臨時委員亦同シ

第五條 試驗事務ニ關シ庶務ニ從事セシムル爲ニ書記ヲ置キ外務省列任官ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 外交官及領事官試驗委員臨時試驗委員ニハ外務省官更ヲ除クノ外年額百圓以内ノ手當金ヲ給スルコトヲ得

第七條 本令ハ明治廿六年十一月十日ヨリ施行ス

第三款 外交官及領事官 (明治三十一年六月 勅令第百八十號)

朕外交官及領事官官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 外交官ハ特命全權公使、辦理公使、公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官及外交官補トス

第二條 特命全權公使及辦理公使ハ勅任トシ公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官及外交官補ハ奏任トス

第三條 領事官ハ總領事、領事、副領事及領事官補トス

第四條 總領事、領事、副領事及領事官補ハ奏任トス

第五條 外交官ヲ置カサル地ニ於テハ外交事務官ヲ置クコトヲ得

第六條 領事官ヲ置カサル地ニ於テハ貿易事務官又ハ名譽領事若ハ名譽副領事ヲ置クコトヲ得貿易事務官ハ奏任トシ名譽領事及名譽副領事ハ奏任待遇トス

第七條 公使館、領事館及貿易事務官ニ外務書記生ヲ置ク

第八條 英吉利語、佛蘭西語及獨逸語以外ノ外國語ノ翻譯ヲ要スル公使館ニ公使館一等翻譯官、公使館二等翻譯官ヲ置クコトヲ得

第九條 英吉利語、佛蘭西語及獨逸語以外ノ外國語ノ翻譯ヲ要スル公使館、領事館及貿易事務官ニ外務翻譯生ヲ置クコトヲ得

第十條 外交官又ハ領事官ニシテ一時外國在勤ヲ免シタル者及外務省官更ニシテ外交官又ハ領事官ニ轉任シ未タ任所ヲ命セザル者ヲ待命トス

待命ノ外交官及領事官ハ其ノ本官ヲ奉シテ職務ニ從事セシム其ノ他本令及公使館領事館費用條例ニ特別ノ規定アル事項ヲ除ク外總テ在職官更ト異ナルコトナシ

待命ノ外交官及領事官ハ臨時外務省ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ在職官更ニ關スル規定ヲ適用ス

待命ハ滿五箇年ヲ以テ期トス期滿レハ其ノ官ヲ免スルモノトス(三十三年勅令第百十九號ヲ以テ本項中改正)

待命ノ外交官及領事官ニハ休職ヲ命スルコトヲ得ス

前各項ノ規定ハ貿易事務官、公使館一等翻譯官及公使館二等翻譯官ニ之ヲ適用ス

附則
第十一條 明治二十八年勅令第八十二號及同年勅令第八十七號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
第十二條 本令施行ノ際一等領事又ハ二等領事タル者ニシテ別ニ辭令書ヲ交付セザルモノハ領事ニ任セラレタルモノトス

● 在外公館職員定員令 (明治三十一年六月 勅令第百八十一號)

朕在外交官職員定員令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第九條 英吉利語、佛蘭西語及獨逸語以外ノ外國語ノ翻譯ヲ要スル公使館、領事館及貿易事務官ニ外務翻譯生ヲ置クコトヲ得

第十條 外交官又ハ領事官ニシテ一時外國在勤ヲ免シタル者及外務省官更ニシテ外交官又ハ領事官ニ轉任シ未タ任所ヲ命セザル者ヲ待命トス

待命ノ外交官及領事官ハ其ノ本官ヲ奉シテ職務ニ從事セシム其ノ他本令及公使館領事館費用條例ニ特別ノ規定アル事項ヲ除ク外總テ在職官更ト異ナルコトナシ

● 戰時若ハ事變ニ際シ待命外交官及待命領事官ニ關スル件 (明治二十七年十一月 勅令第百八十九號)

朕戰時若ハ事變ニ際シ職務ニ從事セシムル待命外交官及待命領事官ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 在外公館職員定員令
第一條 外交官、領事官、貿易事務官、公使館一等翻譯官、公使館二等翻譯官、外務書記生及外務翻譯生ノ定員ハ左ノ如シ(三十三年勅令第百二十號三十四年勅令第百二十四號三十五年勅令第百九十八號ヲ以テ條中人員改正)

待命全權公使、辦理公使ハ通シテ十六人
公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官ハ通シテ三十人
總領事、領事、副領事、貿易事務官ハ通シテ三十七人
公使館一等翻譯官、公使館二等翻譯官ハ通シテ七人
外交官補、領事官補ハ通シテ三十人
外務書記生、外務翻譯生ハ通シテ百二十八人
外交官ニシテ領事官ヲ兼任シ及領事官ニシテ外交官ヲ兼任スルトキハ其ノ兼官ハ定員ノ内ニ算入セス

第二條 待命ノ外交官、領事官、貿易事務官、公使館一等翻譯官及公使館二等翻譯官ハ通シテ二十五人トシ前條定員ノ内ニ算入セス(三十三年勅令第百二十號ヲ以テ條中人員改正)

● 戰時特設ノ職務ニ從事スル 待命外交官同領事官ヲ定員 外トス (明治二十七年十一月 勅令第百九十號)

朕待命外交官及待命領事官ニシテ戰時特設ノ職務ニ從事スル者ハ之ヲ定員外ト爲スコトヲ得

待命外交官及待命領事官ニシテ戰時特設ノ職務ニ從事スル者ハ之ヲ定員外ト爲スコトヲ得

待命外交官及待命領事官ニシテ戰時特設ノ職務ニ從事スル者ハ之ヲ定員外ト爲スコトヲ得

待命外交官及待命領事官ニシテ戰時特設ノ職務ニ從事スル者ハ之ヲ定員外ト爲スコトヲ得

外交官領事官赴任及賜暇規則

(明治二十六年十月) 則 (勅令第七十二號)

外交官領事官赴任及賜暇規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外交官領事官赴任及賜暇規則

第一條 外交官及領事官ハ特別ノ命令アルトキ...

第二條 外交官及領事官ニシテ滿三年以上外國ニ...

第三條 賜暇歸朝中ハ其ノ本俸全額ヲ給ス...

第五條 本令ハ貿易事務官、公使館書記生及領事...

通譯官及通譯生ニ外交官領事官赴任及賜暇規則適用方

(明治二十八年六月) 勅令第八十四號

朕通譯官及通譯生ニ外交官領事官赴任及賜暇規則...

領事官ノ職務ニ關スル件

(明治三十二年三月) 法律第七十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ領事官ノ職務ニ關スル...

領事官職務規則

(明治三十三年四月) 勅令第三百五十三號

第一條 領事官ハ外務大臣ノ指揮監督及其ノ駐在...

第二條 領事官ハ駐在國ニ於テ日本臣民ヲ保護シ...

第三條 領事官ハ駐在國ノ利益ヲ維持増進ス...

第四條 領事官ハ駐在國ノ官廳ニ對シテ必要ナル...

第五條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣民...

第六條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣民...

第七條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣民...

設クルコトヲ得

第四條 外國ニ於ケル施行期日ヲ定メサル法律ニ...

第五條 領事官ノ職務ニ關スル管轄區域ハ命令ヲ...

第六條 條約又ハ慣例ニ因リ領事裁判權ヲ行フコ...

第七條 前條ノ事務ニ關シテハ領事官ハ法令、條...

第八條 領事官ハ重罪ノ公判ヲ爲スコトヲ得ス...

第九條 領事官ノ豫審ヲ爲シタル重罪ノ公判ハ長...

第十條 領事官ノ管轄ニ屬スル刑事ニ關シテ國交上...

第十一條 前條ノ申請及裁判ニ關シテハ刑事訴訟...

第十二條 地方裁判所ノ權限ニ屬スル事項ニ關シ...

第十三條 地方裁判所ノ權限ニ屬スル事項ニ關シ...

第十四條 領事官ハ其ノ駐在國ノ官廳又ハ公署ノ發...

第十五條 領事官ハ日本臣民又ハ外國人ノ申請ニ...

第十六條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第十七條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第十八條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第十九條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第二十條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第二十一條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第二十二條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第二十三條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第二十四條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第二十五條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第二十六條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第二十七條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第二十八條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第二十九條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第三十條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第三十一條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第三十二條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第三十三條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第三十四條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第三十五條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第三十六條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第三十七條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第三十八條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第三十九條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

第四十條 領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣...

英領コロンビヤ州及西北トリリヲ除キ其ノ他ノ各洲及各トリリ
但加奈陀殖民地政府ニ關係スル事項ニ付テハ全英領加奈陀ヲ管轄ス
在加奈陀晚香坡帝國領事館管轄區域
英領コロンビヤ州及西北トリリ
○外務省告示第一號 明治三十四年十二月二十七日已降在倫敦、紐育、天津、シドニー、モントリール帝國領事館ヲ帝國總領事館ニ改定セリ

●領事官ノ徵收スル手数料及出張費用ニ關スル規程
(明治三十三年八月)
(外務省令第三號)

領事官ノ徵收スル手数料及出張費用ニ關スル規程左ノ通定ム
領事官ノ徵收スル手数料及出張費用ニ關スル規程
第一條 領事官ノ徵收スル手数料及出張費用ハ法令ニ特別ノ明文アル場合ノ外本令ノ定ムル所ニ依ル
第二條 領事官ハ左記ノ手数料ヲ徵收ス
一 領事官職務規則第六條ニ依ル財產又ハ遺產ノ保護管理
財產價格百分ノ一トシ最多額ヲ五十圓トス但シ錢ニ滿タサル端數ノ金額ハ之ヲ徵收セズ
二 領事官職務規則第七條ニ依ル名簿又ハ其ノ他ノ文書ノ閲覧
五十錢
三 名簿又ハ其ノ他ノ文書ノ認証シタル原本又ハ抄本ノ交付
五十錢
四 民法及戶籍法ノ規定ニ依ル身分ニ關スル証明書
五十圓

一	遺言ノ取扱	五十錢
二	在留證明	五十圓
三	船舶積量ノ測定又ハ改測ノ取扱	五十圓
四	假船積量ノ證明	五十圓
五	船舶積量ノ證明	五十圓
六	船舶積量ノ證明	五十圓
七	船舶積量ノ證明	五十圓
八	船舶積量ノ證明	五十圓
九	船舶積量ノ證明	五十圓
十	船舶積量ノ證明	五十圓
十一	船舶積量ノ證明	五十圓
十二	船舶積量ノ證明	五十圓
十三	船舶積量ノ證明	五十圓
十四	船舶積量ノ證明	五十圓
十五	船舶積量ノ證明	五十圓
十六	船舶積量ノ證明	五十圓
十七	船舶積量ノ證明	五十圓
十八	船舶積量ノ證明	五十圓
十九	船舶積量ノ證明	五十圓
二十	船舶積量ノ證明	五十圓

第四條 第二條第一號ニ定メタル手数料ハ財產價格二百圓ニ滿タサルトキハ之ヲ免除ス
第五條 第二條第四號及第六號ニ定メタル手数料ハ申請者無資力ナルトキハ之ヲ免除スルコトヲ得
第六條 領事官ノ取扱ノ事項ニシテ第二條ニ掲ケサルモノニ關シテハ領事官ハ其ノ地ノ慣例ヲ參酌シ外務大臣ノ認可ヲ經テ二十圓以内ノ手数料ヲ徵收スルコトヲ得
第七條 人民ノ申請ニ因リ領事館所在地外ニ出張シテ事務ノ取扱ヲ爲スコトヲ要スルトキハ出張費用ヲ徵收ス
出張費用ハ最初一時間二圓トシ一時間ヲ加フル毎二時間ヲ加フル又每一日八圓トス但シ一時間未満ハ一時間トシテ計算シ六時間以上二十四時間以下ハ一日トシテ計算ス
第八條 領事官ノ徵收スル手数料及出張費用ハ外國ノ貨幣ヲ以テ納ムルコトヲ得其ノ換算相場ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル
第九條 領事官ノ徵收スル手数料及出張費用ハ外務大臣ノ特ニ指定スル地ニ於テハ收入印紙ヲ以テ納付セシムルコトヲ得
第十條 本令ハ貿易事務官ノ徵收スル手数料及出張費用ニ之ヲ準用ス
第十一條 本令ハ領事官職務規則施行ノ日ヨリ施行ス
●領事官ノ徵收スル手数料及出張費用ニ對シ收入印紙ヲ以テ納付セシムル地方指定
(明治三十三年九月)
(外務省告示第四十一號)

●日本專管居留地經營事務所
(明治三十三年三月)
(勅令第三百十號)

日本專管居留地經營事務所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 日本專管居留地經營事務所ハ在外國帝國專管居留地ニ之ヲ設ケ外務大臣ノ管理ニ屬シ在外國帝國專管居留地經營ニ關スル事務ヲ掌理ス
第二條 各日本專管居留地經營事務所ニ左ノ職員ヲ置ク
所長 一人 委任
技師 一人
技手 五人
書記 三人 委任
第三條 所長ハ所在地帝國領事ヲ以テ之ニ充ツ所中一切ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ指揮監督ス
第四條 技師ハ所長ノ指揮ヲ承ケ工務ヲ掌理ス
第五條 技手ハ所長ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス
第六條 書記ハ外務書記生及外務通譯生ヲ以テ之ニ充ツ所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

●在外國帝國專管居留地經營事務所監督ノ爲臨時職員ヲ置クノ件
(明治三十三年三月)
(勅令第三百十三號)

朕在外國帝國專管居留地經營事務所監督ノ爲臨時職員ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
在外國帝國專管居留地經營事務所監督ヲ爲サシムル爲臨時外務官ニ日本專管居留地經營事務所監督官三人ヲ置キ外務省及大藏省高等官ヲ以テ之ニ充ツ
第六款 日本專管居留地
經營事務所
第一條 內務省官制
(明治三十一年十月)
(勅令第二百五十九號)
朕內務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 內務大臣ハ神社、地方行政、職員選舉、警察、土木、衛生、地理、宗教、出版、著作權、醫藥及救濟ニ關スル事務ヲ掌理シ臺灣總督、警視總監、北海道廳長官及府縣知事ヲ監督ス(三十三年勅令第六十三號及第六十六號ヲ以テ條中改正)
第二條 總務局ニ於テハ通則ニ據クルモノノ外臺灣及南洋ニ關スル事務並北海道ニ於ケル林野、官設鐵道及拓殖ニ關スル事務其他北海道ニ關スル事務ニシテ他局ノ所掌ニ屬セサルモノヲ掌ル(三十五年勅令第六十二號ヲ以テ條中改正)
第三條 內務省專任事務官ハ四人專任書記官ハ十人ヲ以テ定員トス(三十三年勅令第九十一號ヲ以テ人員改正)
第四條 內務省ニ左ノ六局ヲ置ク(三十三年勅令第六十三號及第六十六號ヲ以テ條中改正)

神社局
地方局
警保局
土木局
衛生局
宗教局
第四條ノ二 神社局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(三十三年勅令第六十三號ヲ以テ追加)
一 神社、官國幣社、府縣鄉村社、招魂社其ノ他ニ關スル事項
二 神社官及神職ニ關スル事項
三 職員選舉ニ關スル事項
四 府縣會、府縣經濟其ノ他總テ府縣行政ニ關スル事項
五 郡會、郡經濟其ノ他總テ郡ノ行政ニ關スル事項
六 市町村會、公共組合及市町村公共組合ノ經濟其ノ他總テ市町村公共組合ノ行政ニ關スル事項
五 (三十三年勅令第九十一號ヲ以テ削除)
六 縣廳及救濟ニ關スル事項
七 府縣立以下ノ醫院、盲啞院、瘋癲院及盲兒院其ノ他慈善ノ用ニ供スル營造物ニ關スル事項
八 徴兵及徴發ニ關スル事項
第六條 警保局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 行政警察ニ關スル事項
二 高等警察ニ關スル事項
三 圖書出版及著作權ニ關スル事項(三十三年勅令第六十三號ヲ以テ條中改正)
第七條 土木局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 本省直轄ノ土木工事ニ關スル事項
- 二 府縣轉轄ノ土木工事其ノ他公共ノ土木工事ニ關スル事項
- 三 直轄工費及府縣工費補助ノ調査ニ關スル事項
- 四 水面埋立ニ關スル事項
- 五 土地收用ニ關スル事項
- 六 衛生局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 傳染病及地方病ノ預防、瘧疾其ノ他總テ公衆衛生ニ關スル事項
 - 二 檢疫停船ニ關スル事項
 - 三 醫局及藥劑師ノ業務並藥品賣取取締ニ關スル事項
 - 四 衛生會及地方病院ニ關スル事項
- 七 第九條 宗教局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル（三十三年勅令第六十三號ヲ以テ改正）
 - 一 神佛各派、寺院、宗教ノ用ニ供スル堂宇其ノ他總テ宗教ニ關スル事項
 - 二 僧侶及教師ニ關スル事項
- 八 第十條（三十三年勅令第六十六號ヲ以テ附除）
 - 一 第十一條（同上）
 - 二 第十二條 內務省ニ專任技師五人ヲ置ク内一人ヲ勅任トス
 - 三 內務省ニ專任技師十三人ヲ置ク（三十五年勅令第六十二號ヲ以テ人員改正）
 - 四 內務省屬ハ百六十七人ヲ以テ定員トス（同上）
- 九 第十三條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

●臨時建築職員ヲ置ク（明治二十六年十月二十八號）
 臨時建築職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 臨時建築ノ事務ヲ掌理セシムル爲メ內務省ニ左ノ職員ヲ置キ土木局ニ屬セシム（三十一年勅令第二百六十三號ヲ以テ改正）

技師 一人
 技手 五人

附則
 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

●臨時檢疫職員設置ノ件
 （明治三十一年十月勅令第二百六十八號）
 臨時檢疫職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

技師 專任三人 兼任二人
 技手 專任二人 兼任二人

附則
 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

- 土木監督署官制（明治二十七年七月十六號）
- 第一條 地方土木事業監督ノ爲メ府縣ヲ分置シテ七土木監督區トス其ノ區域左ノ如シ
- | | | | | |
|------|-----|------|------|-----|
| 第一區 | 東京府 | 神奈川縣 | 埼玉縣 | 群馬縣 |
| 第二區 | 千葉縣 | 茨城縣 | 栃木縣 | 山梨縣 |
| 第三區 | 宮城縣 | 福島縣 | 巖手縣 | 青森縣 |
| 第四區 | 山形縣 | 秋田縣 | | |
| 第五區 | 新潟縣 | 長野縣 | 石川縣 | 富山縣 |
| 第六區 | 三重縣 | 愛知縣 | 靜岡縣 | 岐阜縣 |
| 第七區 | 京都府 | 大阪府 | 兵庫縣 | 奈良縣 |
| 第八區 | 滋賀縣 | 和歌山縣 | 德島縣 | 高知縣 |
| 第九區 | 鳥取縣 | 島根縣 | 岡山縣 | 廣島縣 |
| 第十區 | 山口縣 | 香川縣 | 愛媛縣 | |
| 第十一區 | 長崎縣 | 福岡縣 | 大分縣 | 佐賀縣 |
| 第十二區 | 熊本縣 | 宮崎縣 | 鹿兒島縣 | 沖繩縣 |
- 第二條 各土木監督區ニ土木監督署ヲ置ク其ノ位置ハ內務大臣ノ之ヲ定ム
- 第三條 各土木監督署ニ左ノ職員ヲ置ク
- 署長 一人
 技師 一人
 技手 一人
- 附則
 第四條 署長ハ技師ヲ以テ之ニ充テ內務大臣ノ指
 揮監督ヲ承ケ署務ヲ掌理シ所屬職員ヲ指揮ス
 第五條 署長ハ區內地方ノ土木事業ヲ監視シ利害

- 得失ヲ查數シ內務大臣ニ報告ス
- 第六條 署長ハ第一條ニ記載シタル事務ノ外內務大臣ノ命ヲ承ケ內務省直轄ノ土木事業ヲ計畫シ及其ノ施行ヲ管理ス
- 第七條 技師ハ各署ヲ通シ二十一人ヲ以テ定員トシ內四人以テ勅任トス署長ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ分掌シ並第六條ノ事務ヲ補助ス（三十一年勅令第二百六十號三十五年勅令第六十七號ヲ以テ人員改正）
- 第八條 土木監督署ニ勅任技師ヲ置クトキハ勅任技師ヲ以テ署長トス
- 第九條 技師ハ各署ヲ通シ二十三人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス（三十一年勅令第二百六十號三十五年勅令第六十七號ヲ以テ人員改正）
- 第十條 直轄土木事業ノ管理ハ第一條ノ區域ニ依ラサルコトヲ得
- 第十一條 本令ハ明治二十七年十月一日ヨリ施行ス

●土木監督署處務規程
 （明治三十二年十一月）
 （內務省訓令第三十七號）

土木監督署

第一條 署長ハ區內ヲ巡視シ及署員ニ區內巡回又ハ區外出張ヲ命スルコトヲ得

第二條 署長ハ委任官以下ノ隨省、看護、慕養又ハ轉地療養ヲ許可シ其除服出任ヲ命スルコトヲ得

第三條 署長ハ職員以下ノ命免ヲ專行スルコトヲ得

第四條 署長ハ署中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第五條 府縣知事ノ稟向又ハ報告等ニシテ土木監督署ヲ經由スルモノハ署長ニ於テ審査ヲ送ケ意見ヲ付シ之ヲ進達スヘシ

第六條 土木監督署ヲ經由スル府縣知事ノ稟向ニシテ左ニ掲ケタル事項ノ内事體ノ輕易ナルモノハ特別ノ規程アルモノヲ除ク外署長ニ於テ依命通過ヲ以テ之ヲ處分スルコトヲ得

一 河川法施行シタル河川ニ關スル新築、改良又ハ除却工事ノ施行並其計畫及工費豫算

二 河川法第十七條及第十八條ニ依リ與フル許可

三 河川法第三十九條ニ依リ建築物ノ除却

四 明治三十二年內務省令第二十一號ニ依リ河川ノ工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ニ對スル補助ニシテ河川ニ關スル費用ノ内該補助費ニ充テタル豫算金額以內ニ於テ支出シ得ルモノ

五 砂防法ニ依リ國庫ノ補助ヲ受ケタル砂防工事ノ計畫及其工費豫算

六 明治三十年內務省訓令第九百七十六號第一條第一號乃至第三號、第四號中國道及假定中國道ノ變更並其計畫及工費豫算、第五號中國道及假定中國道ニ架スヘキ橋梁ノ變更及從來ノ構造ニ顯著ナル變更ヲ加フヘキ架替並其計畫及工費豫算、第四條ニ依リル稟向

七 公有水面ノ埋立並使用ニシテ港灣ニ關係ナキモノ及船塢ノ築造ヲ目的トセサルモノ

- 八 明治三十二年內務省訓令第九百六號ニ依リル稟向
- 九 明治三十三年勅令第三百號第九條第一號ニ依リル稟向（三十三年內務省訓令第二十五號ヲ以テ木號追加）
- 署長ハ毎月十日マテニ前月間本條ニ依リ處分シタル事項ヲ報告スヘシ
- 第七條 署長ハ區內地方ノ土木事業ニ付キ毎年六月三十日マテニ前年度中ノ狀況ヲ報告スヘシ但臨時重要ノ事項ハ其程度之ヲ報告スヘシ
- 第八條 署長ハ直轄工事ニ付テハ既定ノ計畫ニ基キ毎年度施行區域ヲ定メ目録見報及圖面ヲ調製シ報告スヘシ
- 第九條 署長ハ特別ノ規定アルモノノ外左ニ掲ケタル事項ニ付テハ其程度之ヲ報告スヘシ
- 一 直轄工事既定計畫ノ變更
- 二 豫定施行區域外ノ工事但修繕工事ニシテ一ヶ所金額百圓未満ノモノハ此限ニ在ラズ
- 三 訴訟ノ提起、取下、和解及訴訟ノ拋棄
- 四 謝金百圓以上ノ贈賄ノ收受
- 五 金額百圓以上ノ手當ヲ要スル事務ノ處託
- 六 河川、道路又ハ港灣調査施行ノ順序
- 七 其他重要ト認メタル事項
- 第十條 署長ハ特別ノ規程アルモノノ外左ニ掲ケタル事項ニ付テハ其程度之ヲ報告スヘシ
- 一 署員ノ分掌
- 二 署長ノ發著
- 三 列任官以上ノ區外出張
- 四 列任官ノ隨省、看護、慕養、轉地療養及除服出任
- 五 職員ノ命免
- 六 署中處務ノ細則

七 住居保算目ノ流用
八 金銀貨百圓未満ノ手當ヲ要スル事務ノ囑託
九 渠等ニ因リテ生シタル直轄工事ノ破損
十 直轄工事ニ係ル寄付物件等ノ受領
十一 土地ノ買入及收用
十二 重要物品ノ貸借
十三 其他必要ト認メタル事項

第十一條 署長ハ毎年六月三十日マテニ前年度中ニ施行シタル直轄工事及調査事業ノ狀況ヲ報告スヘシ但工事ニ付テハ其竣功シタル部分ノ圖面ヲ添付スヘシ
第十二條 署長ハ毎年二月末日マテニ前年中調製シタル水位表ヲ進送スヘシ
第十三條 署長ハ毎年二月末日マテニ前年中編製シタル圖面及書籍ヲ報告スヘシ
第十四條 署長ヨリ内務大臣ニ經何又ハ報告スヘキモノハ會計ノ事項ニ付テハ大臣官房庶務課長ニ其他ハ土木局長ニ送附スヘシ
第十五條 明治二十三年(八月)内務省訓令第五百二十九號土木監督署事務細則ハ之ヲ廢止ス

● 河川道路港灣臨時調査職員ノ件
(明治二十七年七月) (勅令第八十四號)

朕河川道路港灣調査ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
河川道路及港灣ニ關スル事業ノ臨時調査ヲ爲サシムル爲メ内務省及土木監督署ニ臨時左ノ職員ヲ置ク
内務省 技師 一人 (三十一年勅令第二百六十一號ヲ以テ人員改正)
土木監督署

● 警察監獄學校官制
(明治三十四年四月) (勅令第五十四號)

朕警察監獄學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
警察監獄學校官制
第一條 警察監獄學校ニ左ノ職員ヲ置ク
校長 一人 勅任
教授 一人 奏任
幹事 一人 奏任
「通譯官」(三十三年勅令第五百十五號ヲ以テ追加三十五年勅令第六十四號ヲ以テ削除)
書記 奏任四人 列任
第二條 校長ハ内務次官ヲシテ之ヲ兼シシメ内務大臣ノ指揮ヲ承ケ校中一切ノ事務ヲ統理ス
第三條 教授ハ校長ノ指揮ヲ承ケ教授ノ事ヲ掌ル
第四條 幹事ハ校長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計及生徒監督ノ事ヲ掌ル
第五條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

● 古社寺保存會規則
(明治三十一年十月) (勅令第六號)

朕古社寺保存會規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
古社寺保存會規則
第一條 古社寺保存會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ古

第八類 官制 第六章 内務省所管 第四款 警察監獄學校 第五款 古社寺保存會

技師 七人 (三十三年勅令第六十一號ヲ以テ人員改正)
技手 二十一人(同上)
● 内務省直轄臨時土木工事施行ニ關スル職員ノ件
(明治二十七年七月勅令) (勅令第七十五號)

朕内務省直轄臨時土木工事施行ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
内務省直轄臨時土木工事施行セシムル爲メ土木監督署ニ臨時左ノ職員ヲ置ク
技師 二十四人 (三十五年勅令第六十六號ヲ以テ人員改正)
技手 八十九人(同上)
書記 二十三人 列任(同上)
本令ハ明治二十七年十月一日ヨリ施行ス

● 土木會規則
(明治二十七年八月) (勅令第五百五十四號)

朕土木會規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
土木會規則
第一條 土木會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ治水修路ニ關スル重要事項ニ付内務大臣ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ開申ス(三十三年勅令第三百七十七號ヲ以テ條中改正)
第二條 土木會ハ土木ニ關スル事項ニ付主任各省大臣ニ建議スルコトヲ得
第三條 土木會ハ會務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第四條 土木會ハ會長一人委員二十人以上ヲ以テ之ヲ組織ス

● 古社寺保存會規則
(明治三十一年十月) (勅令第六號)

朕古社寺保存會規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
古社寺保存會規則
第一條 古社寺保存會ハ古社寺保存ニ關スル事項ニ付内務大臣ニ建議スルコトヲ得
第二條 古社寺保存會ハ古社寺保存ニ關スル事項ニ付内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第三條 古社寺保存會ハ會長一人委員二十人以上ヲ以テ之ヲ組織ス
第四條 古社寺保存會ニ幹事一人ヲ置キ内務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ
第五條 特別ノ事件ヲ審議スル爲メ臨時必要ノ場合ニ於テハ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得
第六條 會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ
第七條 委員及臨時委員ハ官更又ハ學識若ハ經驗アル者ノ中ニ就キ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
第八條 古社寺保存會ニ幹事一人ヲ置キ内務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ
第九條 會長ハ諸事規則ニ依リ諸事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ内務大臣ニ具申ス
第十條 會長事故アルトキハ内務大臣ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム
第十一條 會長委員及幹事ニハ一箇年五百圓以内ノ臨時委員ニハ事件ノ輕重ニ應ジ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得
第十二條 古社寺保存會ニ書記ヲ置ク會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第十三條 書記ニハ事務ノ繁簡ニ應ジ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得
第十四條 内務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ委

第四款 警察監獄學校 第五款 古社寺保存會 第六款 神宮司廳附造神宮使廳

内務省高等官三人、陸軍省及參謀本部高等官二人、遞信省高等官二人、海軍省農商務省高等官及工科大学教授各一人ハ委員中ニ加フヘキモノトス
土木監督署長ハ定員ノ外委員トシテ會議ニ列席シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得
第五條 特別ノ事件ヲ審議スル爲メ臨時必要ノ場合ニ於テ前條定員外ノ臨時委員ヲ命スルコトヲ得
第六條 會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ
高等官ノ内ヨリ命スヘキ委員ハ所屬大臣ノ奏請ニ依リ其ノ他ノ委員及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
第七條 會長ハ諸事規則ニ依リ諸事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ内務大臣及主任各省大臣ニ具申ス
第八條 會長事故アルトキハ内務大臣ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム
第九條 土木會ニ幹事一人ヲ置キ内務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ
幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス
第十條 會長、委員及幹事ニハ一箇年五百圓以内ノ臨時委員ニハ事件ノ輕重ニ應ジ其ノ都度相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得
第十一條 土木會ニ書記ヲ置ク會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第十二條 書記ニハ一箇年五百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得
附則
第十三條 從前ノ會長及委員ハ別ニ辭令ヲ用キ本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモノトス

● 神宮司廳附造神宮使廳
(明治二十九年十一月) (勅令第三百七十一號)

朕神宮司廳官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
神宮司廳官制
第一條 神宮司廳ニ左ノ職員ヲ置ク(三十三年勅令第三百七十六號ヲ以テ條中改正)
祭主 一人
大宮司 一人
少宮司 一人
禰宜 十人
禰宜立 二十人
宮掌 四十人
第二條 祭主ハ親任トシ皇族ヲ以テ之ニ任ス大御手代トシテ奉齋シ祭事ヲ管理ス但公府ヲ以テ之ニ任スルコトアルヘシ
第三條 大宮司ハ勅任又ハ奏任トス祭主ノ命ヲ承ケテ祭祀ニ奉仕シ禰宜ヲ奉讀シ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケテ所部ノ職員ヲ統轄シ廳中ノ事務ヲ管理ス(三十三年勅令第三百七十六號ヲ以テ條中改正)
第四條 大宮司ハ廳中ノ事務ヲ分掌スル爲メ課ヲ置キ及庶務ノ細則ヲ設ケルコトヲ得(同上)
第五條 少宮司ハ奏任トス大宮司ヲ佐ケテ祭祀ニ奉仕シ廳中ノ事務ヲ整理ス(同上)
第六條 禰宜ハ奏任トス大宮司又ハ少宮司ノ命ヲ承ケテ神前ニ祓饒シ神膳ヲ供進シ殿内一切ノ事

● 古社寺保存會規則
(明治三十一年十月) (勅令第六號)

朕古社寺保存會規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
古社寺保存會規則
第一條 古社寺保存會ハ古社寺保存ニ關スル事項ニ付内務大臣ニ建議スルコトヲ得
第二條 古社寺保存會ハ古社寺保存ニ關スル事項ニ付内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第三條 古社寺保存會ハ會長一人委員二十人以上ヲ以テ之ヲ組織ス
第四條 古社寺保存會ニ幹事一人ヲ置キ内務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ
第五條 特別ノ事件ヲ審議スル爲メ臨時必要ノ場合ニ於テハ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得
第六條 會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ
第七條 委員及臨時委員ハ官更又ハ學識若ハ經驗アル者ノ中ニ就キ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
第八條 古社寺保存會ニ幹事一人ヲ置キ内務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ
第九條 會長ハ諸事規則ニ依リ諸事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ内務大臣ニ具申ス
第十條 會長事故アルトキハ内務大臣ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム
第十一條 會長委員及幹事ニハ一箇年五百圓以内ノ臨時委員ニハ事件ノ輕重ニ應ジ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得
第十二條 古社寺保存會ニ書記ヲ置ク會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第十三條 書記ニハ事務ノ繁簡ニ應ジ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得
第十四條 内務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ委

第八類 官制 第六章 内務省所管 第六款 神宮司廳附造神宮使廳

ナ辨シ臨時祈禱被除ヲ爲シ廳中ノ庶務ニ從事ス
 (同上)
 第七條 (同上ヲ以テ削除)
 第八條 權彌宜ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケテ神
 饑ヲ調理シ其ノ他祭事及庶務ニ從事ス(三十三年
 勅令第三百七十六號ヲ以テ條中改正)
 第九條 宮掌ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケテ祭事
 及庶務ニ從事ス
 第十條 大宮司ハ所屬判任官、神部署職員中判任
 侍遇ノ官ニ在ル者及神宮衛士長衛士副長衛士ノ
 進退及懲戒ヲ内務大臣ニ具狀ス(三十三年勅令
 第三百七十六號ヲ以テ追加)

●神宮衛士長衛士副長及衛士

ニ關スル件 (明治三十一年八月
勅令第三百八十九號)

朕神宮衛士長衛士副長衛士ニ關スル件ヲ裁可シ茲
 ニ之ヲ公布セシム
 第一條 神宮ニ左ノ職員ヲ置キ神宮警衛ノ事ヲ掌
 フシム
 衛士長 一人
 衛士副長 二人
 衛士 四十人(三十三年勅令第九十一號
 ナ以テ人員改正)
 第二條 衛士長ハ大宮司ノ命ヲ承ケ部下ノ職員ヲ
 監督シ警衛事務ヲ掌理ス(三十三年勅令第三百
 七十七號ヲ以テ條中改正)
 第三條 衛士副長ハ衛士長ヲ佐ケ衛士長故障アル
 トキハ上官ノ指揮ヲ承ケ警衛ヲ代理ス
 第四條 衛士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警衛ニ從事ス
 第五條 衛士長衛士副長及衛士ハ判任官ノ侍遇ト
 ス
 第六條 衛士長衛士副長及衛士ノ俸給、服制其ノ

他服務ニ關スル細則ハ内務大臣之ヲ定ム
 第七條 明治二十七年勅令第五號ハ本令施行ノ日
 ヲリ廢止ス
 ●衛士長衛士副長衛士服務規
 則 (明治三十二年十月
勅令第五百三十三號)

第一條 衛士長、衛士副長、衛士服務規則
 第二條 衛士長、衛士副長ハ部下諸員ノ勤惰ヲ視
 察シ懲戒ノ報告ヲ數シ職務ニ關スル指揮ヲ行フ
 第三條 衛士ハ宮内ニ於テ服裝、言語、舉動等敬
 意ヲ失シ又ハ火災ノ虞アル行爲ヲ爲ス者アルト
 キハ嚴ニ之ヲ制止スヘシ
 第四條 衛士ハ神地ニ於テ死亡人、病人、迷兒、發
 狂人等ヲ認知シタルトキハ相當ノ處置ヲ爲シ行
 旅病人、行旅死亡人、飢餓凍餒ニ迫リ歩行ニ堪ヘ
 サル行旅者、行旅中ノ妊婦產婦ニシテ手當ヲ要
 スルモ其ノ途ヲ有セサルモノ及其ノ同伴者ニ付
 テハ其ノ所在地市町村長ニ其ノ他ニ付テハ警察
 官更ニ引渡スヘシ
 第五條 衛士ハ神地ニ於テ殿舎、橋梁、道路ノ破
 損、樹木ノ傾倒、溝渠ノ淤塞等ヲ認知シタルトキ
 ハ衛士長ニ報告シ衛士長ハ之ヲ宮司ニ報告スヘ
 シ
 第六條 衛士ハ其職務ヲ行フ爲メ必要ナル場合ニ
 於テ制止ヲ肯セサル者ヲ神地外ニ退去セシメ妨
 害物又ハ不潔物ヲ神地内ニ存在セシムヘカラス

第七條 衛士ハ神地ニ於テ重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該
 ル可キ輕罪ノ現行犯人アルトキハ之ヲ逮捕シ司
 法警察官ニ引致スヘシ罰金ノ刑ニ該ルヘキ輕罪
 又ハ違警罪ノ現行犯人アルコトヲ知リタルトキハ
 被告人ノ氏名住所等間ヒ輕罪ニ付テハ檢事違警
 罪ニ付テハ即決ヲ爲スヘキ官署ニ告發スヘシ但
 止ムテ得サル場合ヲ除クノ外其ノ引致又ハ告發
 前衛士長ノ指揮ヲ請フコトヲ要ス
 第八條 衛士ハ神地又ハ其ノ近傍ニ火災其ノ他ノ
 事變アルトキハ隨機ノ處置ヲ行フノ外宮司、司廳、
 警衛及衛士長ハ急報スヘシ
 第九條 衛士長、衛士副長及衛士ハ祭典等ニ際シ
 宮司ノ命ニ依リ其ノ警衛ニ從事ス
 第十條 宮司及衛士長ハ事變其ノ他必要ノ場合ニ
 於テ衛士長以下衛士ヲ總テ召集スルコトヲ得
 第十一條 衛士長ハ部下諸員ノ賞罰及願届等ヲ審
 理シ宮司ヘ具狀スヘシ
 第十二條 警衛事務中重大ナルモノハ衛士長ノ指
 揮ヲ請ヒ衛士之ヲ施行スヘシ其ノ急務ヲ要スル
 トキハ施行後直ニ衛士長ニ報告スヘシ
 第十三條 衛士長、衛士副長及衛士ハ職務執行ノ
 際制服ヲ着用スヘシ
 第十四條 衛士長、衛士副長及衛士ノ配置、駐在、
 巡邏、心得、勤務、監督其ノ他本令施行上必要ナル
 事項ニ關スル細則ハ宮司ニ於テ之ヲ定メ内務
 大臣ノ認可ヲ請フヘシ
 第十五條 衛士ノ職務ハ衛士長又ハ衛士副長ニ於
 テ之ヲ行フコトヲ得
 第十六條 本令ハ明治三十二年十月二十三日ヨリ
 施行ス

●神部署官制 (明治三十三年九月
勅令第三百七十四號)

朕神部署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 神部署官制
 第一條 神部署ハ神宮大宮司ノ監督ニ屬シ大麻、
 曆ノ製造頒布及臣民ノ奉養ニ關スル事ヲ掌ル
 第二條 神部署ニ左ノ職員ヲ置ク
 署長 一人 奏任待遇
 神部 二人 奏任待遇
 神部補 十四人 列任待遇
 第三條 署長ハ一切ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監
 督ス
 第四條 神部ハ署長ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス
 第五條 神部補ハ署長及神部ノ命ヲ承ケ庶務ニ從
 事ス
 第六條 神部署ニ參務員ヲ置クコトヲ得
 參務員ハ奏任待遇トス署長ノ諮詢ニ應ジ事務ニ
 關シ意見を開中ス
 第七條 署長事故アルトキハ上官神部其ノ事務ヲ
 代理ス
 第八條 署長、神部及參務員ハ内務大臣ノ奏請ニ
 依リ内閣ニ於テ之ヲ命シ神部補ハ内務大臣之ヲ
 命ス
 附則
 本令ハ明治三十三年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス
 ●造神宮使廳官制 (明治三十
 二年六月
勅令第三百
 百二號)

●造神宮使廳二左ノ職員ヲ置ク

使 一人 奏任
 主事 二人 奏任
 技師 一人 奏任
 技手 一人 奏任
 第三條 使ハ一人神宮祭主ヲ以テ之ニ充ツ内務大
 臣ノ指揮監督ヲ承ケ廳中ノ事務ヲ掌理ス
 第四條 使ハ所屬ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ
 内務大臣ニ具狀シ列任官以下ハ之ヲ專行ス
 第五條 副使ハ一人内務省神部局長ヲ以テ之ニ充
 ツ使ノ事務ヲ佐ケ使事故アルトキハ其ノ職務ヲ
 代理ス(三十三年勅令第六百六十四號ヲ以テ條中
 改正)
 第六條 主事ハ二人奏任トス使、副使ノ命ヲ承ケ
 廳中ノ事務ヲ分掌ス
 第七條 技師ハ使、副使ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル
 事ヲ掌ル
 第八條 副使ハ列任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事
 ス
 第九條 技手ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

●官國幣社職制 (明治三十五年二月
勅令第二百七號)

朕官國幣社職制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 官國幣社職制
 第一條 官幣社及國幣社ニ左ノ神職ヲ置ク
 宮司 一人
 權宮司 一人
 禰宜 一人
 主典 一人
 但シ官幣大社熱田神宮及
 官幣大社出雲大社ニ限ル

第七條 官國幣社神職ノ服務、俸給及旅費ニ關ス
 ル規程ハ内務大臣之ヲ定ム
 第十條 本令中内務大臣及地方長官ニ屬スル職權
 ハ別格官幣社靖國神社ノ神職ニ關シテハ陸軍大
 臣及海軍大臣之ヲ行フ
 第十一條 本令中内務大臣及地方長官ニ屬スル職
 權ハ臺灣ニ於テハ臺灣總督之ヲ行フ但シ第七條
 ノ奏請ニ關シテハ内務大臣ヲ經由スヘシ
 附則
 第十二條 本令ハ明治三十五年二月二十日ヨリ之
 ヲ施行ス

第十三條 本令施行ノ際現ニ官國幣社神職タル者ハ本令ニ依リ各其ノ職ニ命セラレタルモノト看做ス

●官國幣社主典及宮掌ノ定員
等ニ關スル件 (明治三十五年二月内務省令第一號)

官國幣社主典及宮掌ノ定員等ニ關スル件左ノ通相定ム
第一條 主典ノ定員ハ一社ニ付二人以内トス
第二條 主典現在ノ定員一人ノ神社ニ於テ二人ニ増員セントスルトキハ地方長官ハ理由ヲ具シ内務大臣ノ認可ヲ受ケルヘシ
第三條 特別ノ事由アル神社ニ付テハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ第一條ノ定員外ニ主典ヲ増置スルコトヲ得
第四條 主典ノ現員三人以上ノ神社ニ在テハ當分ノ内現員ノ儘存置スルコトヲ得但退職其ノ他ノ事故ニ依リ減員スルトキハ定員ニ復スルマテ補命スルコトヲ得ス
前條ニ依リ補命ニ付テハ前項但書ノ規定ヲ適用スル限ニ在ラス
第五條 熱山神宮宮掌ノ定員ハ五人以内トス
第六條 願員ハ宮司之ヲ命免ス
第七條 願員ハ主典宮掌ノ補免及死亡ハ其ノ時時地方長官ヨリ内務大臣ニ報告スヘシ
第八條 第二條及第四條ノ事項ニ關シ本規則施行前内務大臣ノ認可ヲ得タルモノハ本規則施行ノ爲メ其ノ效力ヲ失フコトナシ
第九條 本規則ハ明治三十五年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

●衛生試驗所官制 (明治三十五年五月五號)
勅令第五號

衛生試驗所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

衛生試驗所官制
第一條 東京大阪横濱ニ衛生試驗所ヲ置ク
第二條 衛生試驗所ハ内務大臣ノ管轄ニ屬シ衛生上試驗ニ關スル事項ヲ取扱フ所トス
第三條 各衛生試驗所ニ左ノ職員ヲ置ク (二十六勅令第三百三十一號ヲ以テ技師試補ヲ削除)
技師 一人
技手 一人
書記 一人
第四條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所内ノ事務ヲ管理シ所屬職員ヲ統督ス
第五條 技師ハ委任トス專任九人ヲ以テ定員トス各試驗所ニ分屬シ所長ノ指揮ヲ承ケ試驗ノ事務ヲ分掌ス (二十四勅令第三百二十九號勅令第三百六十一號三十二年勅令第六十二號改正ニ依リ二十六勅令第三百三十一號ヲ以テ第二項削除)
第六條 技手ハ委任トシ專任二十人ヲ以テ定員トス上上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス (二十四勅令第三百五號三十二年勅令第三百三十一號三十二年勅令第三百六十五號三十五年勅令第六十三號改正ニ依リ)
第七條 書記ハ委任トシ專任六人ヲ以テ定員トス

●傳染病研究所官制 (明治三十三年三月十三號)
勅令第九號

傳染病研究所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

傳染病研究所官制
第一條 東京ニ傳染病研究所ヲ置ク
第二條 傳染病研究所ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ傳染病其ノ他病原ノ検査豫防治療方法ノ研究預防消毒治療材料ノ検査及傳染病研究方法ノ講習ニ關スル事務ヲ掌ル
第三條 傳染病研究所ニ左ノ職員ヲ置ク
所長 一人 勅任
部長 一人 勅任
部長 一人 委任
助手 一人 委任
書記 一人 委任
前項定員ノ外二十人以上ノ無給助手ヲ置クコトヲ得
第四條 所長ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ管理シ部下ヲ監督ス
第五條 部長ハ所長ノ命ヲ承ケ研究検査講習ヲ掌ル
第六條 助手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ研究検査講習ニ從事ス
第七條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第八條 傳染病研究所事務ノ分課ハ内務大臣之ヲ定ム
附則
本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十款 血清藥院

血清藥院官制 (明治二十九年三月) 勅令第四百四號

血清藥院官制
第一條 東京ニ血清藥院ヲ置ク
第二條 血清藥院ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ血清製造ニ關スル事務ヲ掌ル
第三條 血清藥院ニ左ノ職員ヲ置ク
院長 一人
技師 專任二人 (三十四年勅令第七十號ヲ以テ人員改正)
技手 專任六人 (同上)
書記 專任二人 (同上)
第四條 院長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所内ノ事務ヲ管理シ部下ノ職員ヲ監督ス
第五條 技師ハ院長ノ指揮ヲ承ケ製造ニ關スル事務ヲ分掌ス
第六條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ製造ニ關スル事務ニ從事ス
第七條 書記ハ委任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第八條 血清藥院事務ノ分課ハ内務大臣之ヲ定ム
●血清藥院ニ顧問ヲ置クノ件 (明治二十九年五月) 勅令第二百二十四號
血清藥院ニ顧問一人ヲ置キ手當ヲ給スルコトヲ得 (三十二年勅令第五十八號改正ニ依リ)
顧問ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第十一款 痘苗製造所

痘苗製造所官制 (明治二十年) 勅令第五號

痘苗製造所官制
第一條 東京ニ痘苗製造所ヲ置ク (三十五年勅令第二百六十九號ヲ以テ條中改正)
第二條 痘苗製造所ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ痘苗製造ニ關スル事務ヲ掌ル
第三條 痘苗製造所ニ左ノ職員ヲ置ク (三十五年勅令第二百六十九號ヲ以テ條中改正)
所長 一人
技師 專任二人
技手 專任十人
書記 專任三人
第四條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所内ノ事務ヲ管理シ部下ノ職員ヲ監督ス (同上ヲ以テ條中改正)
第五條 技師ハ所長ノ命ヲ承ケ製造ニ關スル事務ヲ掌ル
第六條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ製造ニ關スル事務ニ從事ス
第七條 書記ハ委任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第八條 痘苗製造所事務ノ分課ハ内務大臣之ヲ定ム
●痘苗製造所ニ顧問ヲ置クノ件 (明治三十二年四月) 勅令第三百二十九號
痘苗製造所ニ顧問一人ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ定ム

第十二款 豫防事務局

臨時「ベスト」豫防事務局官制 (明治三十三年十二月) 勅令第四百十號

臨時「ベスト」豫防事務局官制
第一條 臨時「ベスト」豫防事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
臨時「ベスト」豫防事務局官制
第一條 大阪府大阪市ニ臨時「ベスト」豫防事務局ヲ置ク
第二條 臨時「ベスト」豫防事務局ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ大阪府管内ノ「ベスト」豫防ニ關スル事務ヲ掌理ス
第三條 臨時「ベスト」豫防事務局ニ左ノ職員ヲ置ク
長官 一人
次長 一人
事務官 一人
検査醫 六十人
書記 六十人
前項ノ外臨時「ベスト」豫防事務局ニ四人以内ノ顧問ヲ置クコトヲ得
第四條 長官ハ大阪府知事、次長ハ大阪府警部長

第五條 事務官ハ内務省高等官及大阪府高等官ノ中ヨリ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第六條 検査官、書記及監更ハ長官之ヲ命ス

第七條 顧問ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第八條 官吏ニシテ臨時「ハスト」豫防事務局職員タル者ハ各其ノ本官ノ待遇ヲ受ケ

第九條 長官ハ局中一切ノ事務ヲ總理シ所部ノ職員ヲ指揮監督ス

第十條 次長ハ長官ノ命ヲ承ケ部下ノ職員ヲ監督シ局務ヲ掌理ス

第十一條 事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第十二條 検査官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ検査事務ニ従事ス

第十三條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十四條 監更ハ上官ノ指揮ヲ承ケ清潔方法消毒方法ノ施行及鼠疫驅除ニ關スル事務ヲ監察ス

第十五條 顧問ハ「ハスト」豫防事務局ニ關シ長官ノ諮詢ニ應ジ其ノ意見ヲ具申ス

第十六條 臨時「ハスト」豫防事務局ニ六部ヲ置キ事務ヲ分掌スルコトヲ左ノ如シ

第一部 細菌検査ニ關スル件

第二部 健康診斷死體検査ニ關スル件

第三部 消毒方法消毒方法施行ニ關スル件

第四部 鼠疫驅除ニ關スル件

第五部 庶務會計其ノ他他部ニ關セザル件

第十七條 大阪府以外ノ地ニ在ル「ハスト」臨時「ハスト」豫防事務局職員ヲ兼スル者ニハ一箇

月百二十圓以内其ノ他ノ職員ニハ一箇年七百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得但シ検査官、書記及監更ニ支給スヘキ手當ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十八條 明治三十三年勅令第九十七號ニ依リ大阪府ニ設置シタル検査官ハ「ハスト」豫防事務局ニ關シテハ臨時「ハスト」豫防事務局長官ノ指揮監督ニ屬セシム

第十三款 臨時海港檢疫所
 勅令第七十五號
 臨時海港檢疫所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 臨時海港檢疫所官制
 第一條 臨時海港檢疫所ハ臨時海港檢疫ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 臨時海港檢疫所ハ内務大臣ノ命ヲ承ケ地方長官之ヲ管理ス

第三條 臨時海港檢疫所ノ開設及閉鎖ハ内務大臣之ヲ告示ス

第四條 臨時海港檢疫所ニ左ノ職員ヲ置ク
 所長 一人
 臨時海港檢疫官補
 臨時海港檢疫所書記
 臨時海港檢疫員
 臨時海港檢疫醫員

第五條 所長ハ臨時海港檢疫所所在地道府縣ノ警部長ハ地方長官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス

第六條 臨時海港檢疫官補及臨時海港檢疫所書記ハ道府縣府任官ヲ以テ之ニ充テ地方長官之ヲ命ス

第七條 臨時海港檢疫員及臨時海港檢疫醫員ハ地方長官之ヲ命シ其ノ待遇ハ列任トス

第八條 臨時海港檢疫官補ハ所長ノ命ヲ承ケ検査ニ従事ス

第九條 臨時海港檢疫所書記ハ所長ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十條 臨時海港檢疫員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ検査ニ従事ス

第十一條 臨時海港檢疫醫員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫務ニ従事ス

附則
 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

臨時海港檢疫所開設 (明治三十三年三月二十八號)
 內務省告示
 本年勅令第七十五號臨時海港檢疫所官制ニ依リ來四月一日ヨリ左ノ各地ニ臨時海港檢疫所ヲ開設ス(三十四年內務省告示第四十三號第六十號ニ依リ本告示中刪除ス)

兩館臨時海港檢疫所	渡島國	函館
武野臨時海港檢疫所	尾張國	武豐
宇品臨時海港檢疫所	安藝國	宇品
唐津臨時海港檢疫所	肥前國	唐津
鹿兒島臨時海港檢疫所	薩摩國	鹿兒島
那霸臨時海港檢疫所	琉球國	那霸

第十四款 中央衛生會
 勅令第五十號
 中央衛生會官制 (明治二十八年四月)

中央衛生會官制
 第一條 中央衛生會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ニ就キ各省大臣ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ開申ス

第二條 中央衛生會ハ各省主管事務中衛生ニ關スル事項ニ就テハ其ノ主任大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條 中央衛生會ハ衛生各般ノ事項ニ關シ監視總監北海道廳長官及府縣知事ニ尋問ヲ要シ或ハ臨時會員ヲ各地方ニ派遣シテ調査檢察ヲ要スト認ムルトキハ之ヲ内務大臣ニ具申スヘシ

第四條 中央衛生會ハ議事整理ノ爲メ規則ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第五條 中央衛生會ハ會長一人委員二十八人以内ヲ以テ之ヲ組織ス(三十二年勅令第二百九十六號ヲ以テ全條改正三十五年勅令第二百三十號ヲ以テ第二項刪除)

委員ハ宮内省待醫局長内務省參事官内務省地方局長内務省警保局長内務省土木局長内務省衛生局長内務省高等官三名傳染病研究所長陸軍省醫務局長陸軍獸醫監一名海軍省醫務局長東京帝國大學醫科大學長農商務省農務局長農商務省高等官一名及醫師藥學者衛生工學者若干人ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 特別ノ事件ヲ審議スル爲メ臨時必要ノ場合ニ於テハ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第七條 會長及委員中内務省高等官陸軍獸醫監農商務省高等官醫師藥學者衛生工學者及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

(三十二年勅令第二百九十六號ヲ以テ全條改正三十五年勅令第二百三十號ヲ以テ本項中改正) 醫師藥學者衛生工學者ヨリ出テタル委員ノ任期ハ四箇年トス但シ滿期後再任セラルルコトヲ得

第八條 會長ハ會務ヲ總管シ議事規則ニ依リ諸事ヲ整理シ其ノ決議ヲ内務大臣及主任大臣ニ具申ス

第九條 會長事故アルトキハ内務大臣ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第十條 中央衛生會ニ幹事一人ヲ置ク
 幹事ハ内務省高等官ヲ以テ之ニ充テ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス(三十五年勅令第二百三十號ヲ以テ本項改正)

第十一條 會長委員及幹事ニハ一箇年五百圓以内臨時委員ニハ事件ノ輕重ニ應ジ其ノ都度相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得(同上ヲ以テ第一項刪除)

第十二條 中央衛生會ニ書記ヲ置キ内務廳ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ議事ノ筆記及庶務ニ従事ス

第十三條 書記ニハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十四條 從前ノ委員ハ別ニ辭令ヲ用井本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモノトス

第十五款 日本藥局方調查會
 日本藥局方調查會官制

(明治三十三年三月) 勅令第八十號
 日本藥局方調查會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 日本藥局方調查會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ日本藥局方改正ニ關スル事項ヲ調査ス

第二條 日本藥局方調查會ハ會長一人委員十六人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 會長及委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條 日本藥局方調查會ニ幹事一人ヲ置ク
 幹事ハ内務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 日本藥局方調查會ニ主査委員ヲ置クコトヲ得

主査委員ハ内務大臣委員中ヨリ之ヲ命ス

第六條 會長ハ會務及議事ヲ整理シ其ノ決議ヲ內務大臣ニ具申ス

第七條 會長事故アルトキハ内務大臣ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理ス

第八條 日本藥局方調查會ハ議事規則ヲ議定シ內務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第九條 會長、委員及幹事ニハ一箇年五百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十條 日本藥局方調查會ニ書記ヲ置キ内務省任官ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附則
 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十六款 醫術藥劑師試驗委員

醫術開業試驗委員官制

(明治二十九年四月)

朕醫術開業試驗委員官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 醫術開業試驗委員ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ醫術開業試驗ニ關スル事務ヲ掌ス
第二條 醫術開業試驗委員ハ委員長一人主事二人委員若千人ヲ以テ組織ス
醫術開業試驗委員長及主事ハ高等官ヲ以テ之ニ充ツ
高等官ニアラサル醫術開業試驗委員ノ待遇ハ委任トス
第三條 醫術開業試驗委員長主事委員及附屬病院長ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス
(三十二年勅令第九十二號ヲ以テ修正)

醫術藥劑師試驗委員官制

(明治二十九年四月)

朕醫術藥劑師試驗委員官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 醫術藥劑師試驗委員ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ醫術藥劑師試驗ニ關スル事務ヲ掌ス
第二條 醫術藥劑師試驗委員ハ委員長一人主事二人委員若千人ヲ以テ組織ス
醫術藥劑師試驗委員長及主事ハ高等官ヲ以テ之ニ充ツ
高等官ニアラサル醫術藥劑師試驗委員ノ待遇ハ委任トス
第三條 醫術藥劑師試驗委員長主事委員及附屬病院長ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス
(三十二年勅令第九十二號ヲ以テ修正)

附則
第十一條 從前ノ藥劑師試驗委員長及主事ハ別ニ辭令ヲ用テ本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解除ス
第十二條 明治二十七年勅令第七十四號藥劑師試驗委員組織權限ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

港灣調查會規則

- 第一條 港灣調查會ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ港灣制度ニ關スル調査ヲ爲シ及港灣ニ關スル重要事項ニ付關係各省大臣ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ開申ス
第二條 港灣調查會ハ港灣ニ關スル事項ニ付關係各省大臣ニ諮詢スルコトヲ得
第三條 港灣調查會ノ議事及事務整理ニ關スル規則ハ內務大臣之ヲ定ム
第四條 港灣調查會ハ會長一人委員十六人ヲ以テ之ヲ組織ス
前項委員ノ外必要ノ場合ニ於テハ臨時委員ヲ命スルコトヲ得
第五條 會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ

又會議ニ列席シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得
第六條 會長ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス
委員ハ所屬大臣ノ奏請ニ依リ臨時委員ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス
第七條 會長ハ議事ヲ整理シ其ノ決議ヲ內務大臣ニ具申ス但シ其ノ議事ノ關係各省大臣ノ諮詢ニ係ルトキハ其ノ決議ヲ關係各省大臣ニ具申シ及之ヲ內務大臣ニ報告スヘシ
會長事故アルトキハ內務大臣ノ指名シタル委員其ノ事務ヲ代理ス
第八條 港灣調查會ニ幹事一人ヲ置キ內務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ
幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス
第九條 港灣調查會ニ書記若千人ヲ置キ內務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ
書記ハ幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

大藏省官制

- 第一條 大藏大臣ハ政府ノ財務ヲ總轄シ會計、出納、租稅、國債、貨幣、預金、保管物及銀行ニ關スル事務ヲ管理シ府縣郡市町村及公共組合ノ財務ヲ監督ス
第二條 大藏省專任事務官ハ二人專任書記官ハ十人ヲ以テ定員トス
第三條 大藏省ニ左ノ三局ヲ置ク
主計局

主計局
第四條 主計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 總豫算總決算ニ關スル事項
二 特別會計ノ豫算決算ニ關スル事項
三 仕掛簿ノ登記ニ關スル事項
四 主計簿ノ登記ニ關スル事項
五 歲入歳出現計書ノ調製ニ關スル事項
六 諸計算書ノ下檢査ニ關スル事項
七 出納官吏ノ監督及身元保證ニ關スル事項
八 豫備金支出ニ關スル事項
九 定額繰越ノ承認及定額戻入年度開始前支出ニ關スル事項
十 收入支出ノ科目ニ關スル事項
十一 金錢及物品會計ノ統一ニ關スル事項
十二 府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ歲計ニ關スル事項

- 第五條 主稅局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 國稅ノ賦課徵收ニ關スル事項
二 稅務ノ管理監督ニ關スル事項
三 民有地地租日變換ニ關スル事項
四 土地增價ニ關スル事項
五 稅關輸出入ノ調査ニ關スル事項
六 外國貿易ノ船舶及輸出入品ノ監督ニ關スル事項
七 保稅倉庫ニ關スル事項
八 大藏省所管稅外諸收入ニ關スル事項
九 府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ諸收入ニ關スル事項
第六條 理財局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 國債ノ運用出納ニ關スル事項
二 國庫ノ出納管理ニ關スル事項

三 國庫ノ出納計算ニ關スル事項
 四 國債ノ募集借入償還及利拂ニ關スル事項
 五 國債及國庫簿ノ登記ニ關スル事項
 六 貨幣ニ關スル事項
 七 紙幣、國債證券、大蔵省證券及借入證書ノ取
 換ニ關スル事項
 八 國債計算書ノ調製ニ關スル事項
 九 年金恩給及諸條ノ給與ニ關スル事項
 十 備荒儲蓄ニ關スル事項
 十一 金庫ノ監督ニ關スル事項
 十二 銀行ノ管理監督ニ關スル事項
 十三 國立銀行紙幣交換基金ニ關スル事項
 十四 預金保管物及供託物ニ關スル事項
 十五 地方財務ノ監督ニ關スル事項
 十六 合社債券ニ關スル事項
 十七 一般金融ニ關スル事項
 十八 府縣都市町村其ノ他公共組合ノ公債ニ關
 スル事項
 第七條 大蔵省ニ專任鑑定官二人專任技師一人ヲ
 置ク委任トス鑑定官ハ主稅局ニ技師ハ必要ニ依
 リ熱務局其ノ他ニ關シ其ノ事務ヲ掌ル(三十五
 年勅令第七十八號ヲ以テ條中改正)
 第八條 大蔵省ニ專任鑑定官補二人專任技師三人
 ナリテ列任トス鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ鑑
 定ノ事務ニ從事シ技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ建築
 又ハ電信ノ事務ニ從事ス(三十三年勅令第六十
 五號ヲ以テ全條改正三十五年勅令第七十八號ヲ
 以テ條中改正)
 第九條 大蔵省專任屬ハ百九十二人ヲ以テ定員ト
 ス(三十五年勅令第七十八號ヲ以テ人員改正)
 附則

第十條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行
 ス
 明治二十七年勅令第九十八號ヲ廢止ス
 第二款 造幣局
 ●造幣局官制 (明治二十六年十月
 勅令第三百三十六號)
 朕造幣局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 造幣局官制
 第一條 造幣局ハ大阪府ニ置キ大蔵大臣ノ管理ニ
 屬シ貨幣ノ鑄造、舊貨幣ノ銷毀、賞牌ノ製造、地
 金銀ノ精製分析及諸礦物ノ試驗ヲ掌ル
 第二條 造幣局ニ左ノ職員ヲ置ク
 局長 一人 勅任(三十一年勅令第二
 百七十號ヲ以テ委任ヲ勅任ト改ム)
 技師 四人
 屬 二十人列任(三十一年勅令第四百
 十一號三十五年勅令第三百三十號ヲ以テ人員改
 正)
 技手 二十人 (同上)
 第三條 局長ハ大蔵大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一
 切ノ事務ヲ掌理ス
 第四條 技師ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ工務ヲ監理
 ス
 第五條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
 第六條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス
 第七條 東京市ニ造幣支局ヲ置キ地金ノ買入及代
 リ貨幣拂渡ノ事務ヲ分掌セシム
 造幣支局長ハ大蔵省高等官ヲ以テ之ニ充ツ
 附則
 第八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行
 ス

第三款 税關
 ●税關官制 (明治三十二年四月
 勅令第六十一號)
 朕税關官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 税關官制
 第一條 税關ハ大蔵大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ
 掌ル
 一 税關、噸稅及税關諸收入ニ關スル事項
 二 保税倉庫其ノ他ノ倉庫ニ關スル事項
 三 船舶及貨物ノ取締ニ關スル事項
 四 關稅法及噸稅法犯則者ノ處分ニ關スル事項
 五 酒類硝石稅、醬油稅下戻及製造煙草輸出交
 付金ニ關スル事項
 六 關稅通關ノ取締ニ關スル事項
 七 税關又ハ保税倉庫ヨリ引取ラレル砂糖ノ消
 費稅及骨牌ノ課稅ニ關スル事項(三十五年勅
 令第二百三十八號ヲ以テ本條追加)
 第二條 左ノ五港ニ税關ヲ置ク(同上ヲ以テ條中
 改正)
 武蔵國橫濱
 攝津國神戸
 攝津國大阪
 肥前國長崎
 波島國函館
 第三條 税關ニ税關長一人ヲ置ク委任トス
 滿三年以上高等官三等ニ在リテ功績顯著ナル者
 ハ高等官二等ニ陞叙スルコトヲ得
 第四條 税關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク
 事務官 專任 八人
 監督官 專任 四人
 鑑定官 專任 十二人
 事務官補 專任 二百八十三人(三

十五年勅令第七十九號ヲ以テ人員改正)
 監督官 專任 百一人(同上)
 鑑定官 專任 百三十六人(同上)
 監吏 專任 列任 五百九十九人(同
 上)
 技手 專任 三十八人(三十五
 年勅令第二百二十九號ヲ以テ人員改正)
 第五條 税關長ハ大蔵大臣ノ指揮ヲ承ケ税關ニ關
 スル一切ノ事務ヲ掌理ス
 第六條 事務官ハ税關支署長タル者ノ外税關二分
 屬シ税關長ノ事務ヲ助ク
 第七條 監督官ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及
 犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理ス
 第八條 鑑定官ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ検査
 鑑定ニ關スル事務ヲ掌理ス
 第九條 事務官補ハ税關支署長タル者ノ外上官ノ
 指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
 第十條 監督官ハ税關監視部長若ハ税關監視署長タ
 ル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分
 ニ關スル事務ニ從事ス
 第十一條 鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ檢
 査鑑定ニ從事ス
 第十二條 監督官ハ税關監視署長タル者ノ外上官ノ
 指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ニ
 從事ス
 第十三條 税關ニ税關監視部ヲ置ク
 税關監視部ニ部長一人ヲ置キ監視官又ハ監視ヲ
 以テ之ニ充ツ
 税關監視部長ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及
 犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理ス
 第十四條 税關管轄區域内必要ナル場所ニ税關支
 署及税關監視署ヲ置クコトヲ得

税關監視署ノ位置ハ大蔵大臣ノ決定ム
 第十五條 税關支署ニ支署長一人ヲ置ク事務官若
 ハ事務官補ヲ以テ之ニ充ツ
 第十六條 税關監視署ニ署長一人ヲ置キ監視若ハ
 監吏ヲ以テ之ニ充ツ
 第十七條 税關支署長ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ其ノ
 管轄内ノ税關事務ヲ掌理ス
 第十八條 税關監視署長ハ税關長ノ指揮ヲ承ケ關
 稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理ス
 附則
 第十九條 本令ハ明治三十二年四月二十五日ヨリ
 施行ス
 ●税關管轄區域 (明治二十
 三年九月
 勅令第二
 百四號)
 朕税關管轄區域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 本令ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコ
 トヲ命ス
 税關管轄區域左ノ通之ヲ定ム(三十二年勅令第百
 六十八號三十四年勅令第百七十一號三十五年勅令
 第二百三十九號ヲ以テ區域中改正)
 橫濱税關管轄區域
 陸前 磐城 常陸 下總 上總 安房 武藏
 相模 伊豆 駿河 遠江 越後 羽前 佐渡
 十四箇國及小笠原島
 大阪税關管轄區域
 參河 尾張 伊勢 志摩 紀伊 和泉 攝津 西
 郡 山城 若狹 越前 加賀 能登 越中
 十三箇國
 神戶税關管轄區域
 攝津 河内 播磨 備前 備中 備後 安藝
 岡山 美作 備前 備中 備後 安藝

●税關支署ノ名稱位置及管轄
 區域 (明治三十二年四月
 勅令第六十九號)
 朕税關支署ノ名稱位置及管轄區域ノ件ヲ裁可シ茲
 ニ之ヲ公布セシム
 税關支署ノ名稱位置及管轄區域別表ノ通之ヲ定ム
 附則
 本令ハ明治三十二年四月二十五日ヨリ施行ス
 明治二十六年勅令第三百三十九號ハ本令施行ノ日ヨ
 リ廢止ス
 (別表)(三十二年勅令第三百五十一號三十三
 年勅令第五十四號三十五年勅令第五十二號第
 二百四十號ヲ以テ改正追加)
 税關支署名稱位置及管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
東京	武蔵國東京	武蔵國東京市、南葛飾郡、 南足立郡、北葛飾郡、野多 摩郡、荏原郡
新瀉	越後國新瀉	越後國 羽前國

清水	駿河國清水	遠江國
武豐	尾張國武豐	三河國 尾張國
四日市	伊勢國四日市	志摩國
絲崎	備後國絲崎	安藝國
濱田	石見國濱田	石見國
境	伯耆國境	伯耆國
宮津	丹後國宮津	因幡國 但馬國 丹後國
門司	豐前國門司	周防國 長門國 豐前國
博多	筑前國博多	筑前國
唐津	肥前國唐津	肥前國東松浦郡 西松浦郡 北松浦郡 小島郡
口ノ津	肥前國口ノ津	肥前國南高來郡 北高來郡
三角	肥後國三角	大隅國 薩摩國 肥後國
殿原	對馬國殿原	對馬國下船郡
佐須奈	對馬國佐須奈	對馬國上縣郡 中縣郡 下縣郡
鹿見	對馬國鹿見	對馬國上縣郡 中縣郡 下縣郡
那霸	琉球國那霸	琉球國
小樽	後志國小樽	後志國 石狩國 天鹽國
釧路	釧路國釧路	根室國 釧路國 十勝國
室蘭	釧路國室蘭	日高國 釧路國
敦賀	越前國敦賀	若狹國 越前國

●稅關監視署設置ノ件 (明治三十四年四月)

左ノ各地ニ稅關監視署ヲ設置ス但新設稅關監視署ハ漸次之ヲ開闢ス(三十三年大藏省令第三十五號三十五年大藏省令第四號第十三號第二十二號ニ依リ加除ス)

本令ハ明治三十二年四月二十五日ヨリ施行ス

陸前國石卷 石卷稅關監視署
下總國銚子 銚子稅關監視署
安房國館山 館山稅關監視署
武藏國厚風浦 厚風浦稅關監視署
相模國油賀 油賀稅關監視署
相模國三崎 三崎稅關監視署
伊豆國下田 下田稅關監視署
伊豆國大島新島 新島稅關監視署
小笠原國父島 父島稅關監視署
志摩國鳥羽 鳥羽稅關監視署
紀伊國新宮 新宮稅關監視署
和泉國和歌山 和歌山稅關監視署
和泉國堺 堺稅關監視署
攝津國西宮 西宮稅關監視署
淡路國洲本 洲本稅關監視署
伊豫國宇和島 宇和島稅關監視署
伊豫國今治 今治稅關監視署
讃岐國土庄 土庄稅關監視署
播磨國明石 明石稅關監視署

●臨時稅關工事部官制 (明治三十五年五月)

臨時稅關工事部ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ橫濱稅關ノ獨立工事ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

第一條 臨時稅關工事部ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル部長 一人 勅任

第二條 臨時稅關工事部ニ左ノ職員ヲ置ク

備中國玉島	玉島稅關監視署
安藝國宇品	宇品稅關監視署
隱岐國四郷	四郷稅關監視署
周防國徳山	徳山稅關監視署
長門國萩	萩稅關監視署
肥前國平戸	平戸稅關監視署
肥前國呼子	呼子稅關監視署
肥前國島原	島原稅關監視署
肥前國福江	福江稅關監視署
豐前國小倉	小倉稅關監視署
豐後國大分	大分稅關監視署
大隅國大島	大島稅關監視署
薩摩國鹿兒島	鹿兒島稅關監視署
奄美國勝本	勝本稅關監視署
琉球國八重山	八重山稅關監視署
羽後國土崎港	土崎港稅關監視署
薩摩國青森	青森稅關監視署
根室國根室	根室稅關監視署
千島國紗那	紗那稅關監視署
北見國稚内	稚内稅關監視署
北見國釧路	釧路稅關監視署
後志國帯志	帯志稅關監視署

●關稅訴訟審査委員會規則 (明治三十二年六月)

第一條 關稅訴訟審査委員會ハ關稅訴訟審査委員ト稱シ會長一人委員九人ヲ以テ組織ス

第二條 會長ハ大藏次官委員ハ大藏省高等官三人帝國大學教授三人農商務省高等官二人司法省高等官一人ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 特別ノ必要アル場合ニ於テハ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第四條 委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條 會長事故アルトキハ其ノ指名シタル委員

●稅務監督局官制 (明治三十五年十月)

第一條 稅務監督局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ内閣稅ニ關スル事務ヲ監督ス

第二條 各稅務監督局ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク局長 十八人 奏任
事務官 專任五十九人 奏任
事務員 專任四百人 判任
技手 專任百人

第三條 局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ其ノ管轄内ニ於ケル内閣稅事務ヲ管理シ稅務署長ヲ指揮監督ス

第四條 局長ハ稅務署長ノ處分法律命令ニ違犯スルコトキハ之ヲ取消スコトヲ得

第五條 局長ハ部下ノ官吏ヲシテ間接國稅ニ關スル檢査ヲ行ハシムルコトヲ得

第六條 局長ハ部下ノ官吏ヲ監督シ稅務監督局及稅務署判任官ノ任免ヲ大藏大臣ニ具狀ス

●稅務監督局名稱位置及管轄區域表 (別表)

名稱	位置	管轄區域
札幌稅務監督局	札幌	北海道
東京稅務監督局	東京	東京府 埼玉縣 千葉縣 山梨縣
京都稅務監督局	京都	京都府 滋賀縣
大阪稅務監督局	大阪	大阪府 奈良縣
濱州稅務監督局	濱州	和歌山縣 靜岡縣
神戶稅務監督局	神戶	兵庫縣 岡山縣
長崎稅務監督局	長崎	長崎縣 佐賀縣
長野稅務監督局	長野	新潟縣 長野縣
宇都宮稅務監督局	宇都宮	群馬縣 茨城縣
名古屋稅務監督局	名古屋	岐阜縣 愛知縣 三重縣
仙臺稅務監督局	仙臺	宮城縣 岩手縣

概										阪																															
川					奈					神					山					歌					和					其					奈						
厚木	小田原	松田	大磯	藤澤	横須賀	神奈川	横濱	新宮	田邊	御坊	湯淺	橋本	岩出	和歌山	上市	五條	御所	松山	三輪	愛甲郡	足柄下郡	足柄上郡	中郡	高座郡	鎌倉郡	三浦郡	横濱市	東平郡	四季郡	日高郡	有田郡	伊都郡	那賀郡	和歌山市	吉野郡	宇智郡	高市郡	南葛城郡	北葛城郡	宇陀郡	磯城郡
神										濱										靜																					
兵					岡					中野					津久井					下田					賀茂																
三木	明石	三田	伊丹	西宮	神戶	氣賀	濱松	見付	森	掛川	靜波	藤枝	靜岡	江尻	吉原	沼津	三島	下田	中野	美濃郡	明石郡	有馬郡	川邊郡	武庫郡	神戶市	引佐郡	濱名郡	磐田郡	周智郡	小笠郡	榛原郡	志太郡	靜岡市	庵原郡	富士郡	駿東郡	田方郡	賀茂郡	津久井郡		
原										加東																															
瀬戸	岡山	市村	洲本	篠山	柏原	村岡	和山	出石	豊岡	山崎	佐川	赤穂	龍野	田原	姫路	加古川	北條	中村	社	和氣郡	岡山市	三原郡	津名郡	多紀郡	水上市郡	英方郡	養父郡	出石郡	城崎郡	栗原郡	佐川郡	赤穂郡	神崎郡	姫路市	加古郡	加西郡	多可郡	加東郡			

長										月																															
崎					長					山					岡																										
武生	福江	平戸	島原	諫早	佐世保	長崎	司	英田	勝岡	津山	久世	新見	高梁	總社	笠岡	玉島	倉敷	味野	四大寺	空岐郡	南松浦郡	北松浦郡	南高來郡	北高來郡	佐世保市	長崎市	久米郡	英田郡	勝田郡	苦田郡	真庭郡	阿智郡	上房郡	吉備郡	小田郡	後月郡	渡口郡	都窪郡	兒島郡	邑久郡	上道郡
長										崎																															
新					賀					佐					原																										
十日町	六日町	小千谷	長岡	興板	津川	三條	卷	新津	新發田	新潟	鹿島	武雄	伊萬里	唐津	小城	森木	神崎	佐賀	原	中魚沼郡	南魚沼郡	北魚沼郡	古志郡	三島郡	東蒲原郡	南蒲原郡	西蒲原郡	中蒲原郡	北蒲原郡	新潟市	津津郡	杵島郡	四松郡	東松浦郡	小城郡	三養基郡	神崎郡	佐賀市	佐賀郡	上縣郡	下縣郡
野										湯																															
野					長					加東					加東																										
中野	須坂	屋代	鹽崎	大町	豊科	松本	福島	飯田	伊那	上諏訪	上田	岩村	白田	相川	村上	糸魚川	高田	安曇	柏崎	下高井郡	上高井郡	埴科郡	更級郡	北安曇郡	南安曇郡	東筑摩郡	西筑摩郡	下伊那郡	上伊那郡	諏訪郡	小縣郡	北佐久郡	南佐久郡	佐渡郡	岩船郡	四頭郡	中頸郡	東頸郡	刈羽郡	加東郡	

田																				
山					田					秋										
酒田	鶴岡	森島	新庄	磐前	寒河江	天童	山形	花輪	湯淺	楡手	大曲	本莊	鹽竈	能代	秋田	八戸	田名部	七戸	原	五所川
鮎川郡	西田川郡	東田川郡	最上郡	北村山郡	四村山郡	東村山郡	山形市 南村山郡	鹿角郡	雄勝郡	平鹿郡	仙北郡	由利郡	北秋田郡	山本郡	秋田市 河邊郡 南秋田郡	三月郡	下北郡	上北郡	北津輕郡	北津輕郡
金																				
井					福					川					石					
雲濱	三方	敦賀	朝日	武生	大野	三國	福井	飯田	輪島	七尾	羽咋	津幡	金澤	松任	小松	大聖寺	米澤	長井	高畑	東置賜郡
遠敷郡	三方郡	敦賀郡	丹生郡	南條郡 今立郡	大野郡	坂井郡	福井市 足羽郡 吉田郡	珠洲郡	鳳至郡	鹿島郡	羽咋郡	河北郡	金澤市	石川郡	能美郡	江沼郡	米澤市 南置賜郡	西置賜郡	東置賜郡	東置賜郡
松																				
根					島					山					富					
西郷	津和野	益田	濱田	川木	大森	掛合	今市	廣瀬	松江	井波	石動	氷見	高岡	八尾	魚津	上市	富山	高浪	大飯郡	大飯郡
周吉郡	鹿足郡	美濃郡	那賀郡	邑智郡	遼東郡 安濃郡	飯石郡	鏡川郡	能登郡	松江市 八束郡	東礪波郡	四礪波郡	氷見郡	高岡市 射水郡	婦負郡	下新川郡	中新川郡	富山市 上新川郡	大飯郡	大飯郡	大飯郡

廣																								
島					取					島														
岩國	屋代	庄原	三次	府中	福山	尾道	忠海	四條	吉田	可部	廿日市	吳	廣島	二部	米子	倉吉	吉岡	郡家	島取					
攻珂郡	大島郡	比婆郡	雙三郡	廣品郡 神石郡 甲奴郡	深安郡 沼隈郡	尾道市 御調郡 世羅郡	豐田郡	加茂郡	高田郡	安佐郡 山縣郡	佐伯郡	安藝郡	廣島市	日野郡	四伯郡	東伯郡	氣高郡	八頭郡	取市 岩美郡					
丸																								
德					川					香														
川島	撫養	石井	日和佐	宮岡	徳島	長尾	土庄	觀音寺	丸龜	高松	下關	萩	深川	大田	船木	山口	三田尻	徳山	室積					
阿波郡	板野郡	名西郡	海部郡	那賀郡	徳島市 名東郡 勝浦郡	大川郡	小豆郡	三豊郡	丸龜市 仲多度郡 綾歌郡	高松市 香川郡 木田郡	下關市 豊浦郡	阿武郡	大津郡	美禰郡	厚狹郡	吉敷郡	佐波郡	郡津郡	熊毛郡					
龜																								
熊					緩					愛					知					高				
宇土	熊木	宇和島	卯ノ町	八幡濱	大洲	久万町	川之江	西條	今治	松山	中村	須崎	伊野	高知	後免	赤岡	安藝	池田	藤野					
宇土郡	熊本市 飽託郡	南宇和郡 北宇和郡	東宇和郡	西宇和郡	喜多郡	上浮穴郡	宇摩郡	新居郡 周桑郡	越智郡	松山市 温泉郡 伊豫郡	幡豆郡	高岡郡	香川郡	高知市 土佐郡	長岡郡	香美郡	安藝郡	三好郡	美馬郡					

●專賣支局出張所名稱位置 (明治三十五年十一月) (大藏省令第二十四號)
專賣支局出張所名稱位置左ノ通改正ノ明治三十五年十一月五日ヨリ施行ス
專賣支局出張所名稱位置

專賣支局名稱	出張所名稱	同上	位置	
東京專賣支局	野田出張所	千葉縣東葛飾郡野田町	野田	
	一宮出張所	千葉縣長生郡一宮町	一宮	
	秋元出張所	千葉縣津那根郡秋元村	秋元	
	北條出張所	千葉縣安房郡北條町	北條	
	岩井出張所	千葉縣安房郡岩井村	岩井	
	大宮出張所	茨城縣秩父郡大宮町	大宮	
	小宮出張所	埼玉縣秩父郡小宮町	小宮	
	吉井出張所	群馬縣多野郡吉井町	吉井	
	沼田出張所	群馬縣利根郡沼田町	沼田	
	飯野出張所	山梨縣中巨摩郡飯野村	飯野	
	横濱出張所	神奈川縣横濱市花咲町	横濱	
	長井出張所	神奈川縣三浦郡長井村	長井	
水戸專賣支局	太田出張所	茨城縣久慈郡太田町	太田	
	大宮出張所	茨城縣久慈郡大宮町	大宮	
	大子出張所	茨城縣那珂郡大子町	大子	
	長介出張所	茨城縣那珂郡長介村	長介	
	石碓出張所	茨城縣東茨城郡石碓村	石碓	
	助川出張所	茨城縣多賀郡高鈴村	助川	
	茂木專賣支局	真岡出張所	栃木縣芳賀郡真岡町	真岡
		烏山出張所	栃木縣那須郡烏山町	烏山
		馬頭出張所	栃木縣那須郡馬頭町	馬頭
		北高根出張所	栃木縣鹽谷郡北高根村	北高根
		東那須出張所	栃木縣那須郡東那須野村	東那須
		須賀川出張所	福島縣若狹郡須賀川町	須賀川
石川出張所		福島縣石川郡石川町	石川	
大田原專賣支局		岩村出張所	岐阜縣惠那郡岩村町	岩村
		高須出張所	岐阜縣津市郡高須町	高須
		四日市出張所	三重縣四日市市北納屋町	四日市
		阿下喜出張所	三重縣員辨郡阿下喜村	阿下喜
		山田出張所	三重縣度會郡山田町	山田
	上野出張所	三重縣阿山郡上野町	上野	
	八知出張所	三重縣一志郡八知町	八知	
	勝山出張所	福井縣大野郡勝山町	勝山	
	山中出張所	石川縣江沼郡山中村	山中	
	小泉出張所	富山縣上新川郡小泉村	小泉	
	大久保出張所	富山縣上新川郡大久保村	大久保	
	愛木出張所	富山縣下新川郡愛木村	愛木	
名古屋專賣支局	岩村出張所	岐阜縣惠那郡岩村町	岩村	
	高須出張所	岐阜縣津市郡高須町	高須	
	四日市出張所	三重縣四日市市北納屋町	四日市	
	阿下喜出張所	三重縣員辨郡阿下喜村	阿下喜	
	山田出張所	三重縣度會郡山田町	山田	
	上野出張所	三重縣阿山郡上野町	上野	
	八知出張所	三重縣一志郡八知町	八知	
	勝山出張所	福井縣大野郡勝山町	勝山	
	山中出張所	石川縣江沼郡山中村	山中	
	小泉出張所	富山縣上新川郡小泉村	小泉	
	大久保出張所	富山縣上新川郡大久保村	大久保	
	愛木出張所	富山縣下新川郡愛木村	愛木	
大阪專賣支局	和歌山出張所	大阪府和歌山郡和歌山町	和歌山	
	妙寺出張所	和歌山縣伊都郡妙寺村	妙寺	
	松原出張所	和歌山縣日高郡松原村	松原	
	大淀出張所	奈良縣吉野郡大淀村	大淀	
	松山出張所	奈良縣宇陀郡松山村	松山	
	高田出張所	奈良縣北葛城郡高田町	高田	
	八日市出張所	滋賀縣神崎郡八日市町	八日市	
	中洲出張所	滋賀縣野洲郡中洲町	中洲	
	龜岡出張所	京都府南桑田郡龜岡町	龜岡	
	周山出張所	京都府北桑田郡周山村	周山	
	世木出張所	京都府船井郡世木村	世木	
	上野出張所	京都府船井郡上野村	上野	
曾我出張所	京都府天田郡曾我井村	曾我		
神戶出張所	兵庫縣神戶市東瓦池村	神戶		
姫路出張所	兵庫縣飾磨郡國衙村	姫路		
三日月出張所	兵庫縣佐用郡三日月村	三日月		
成松出張所	兵庫縣水上郡成松村	成松		
八鹿出張所	兵庫縣養父郡八鹿町	八鹿		
池田專賣支局	關山出張所	岡山縣御津郡關山町	關山	
	久世出張所	岡山縣津島郡久世町	久世	
	中津出張所	岡山縣津島郡中津町	中津	
	弓削出張所	岡山縣久米郡弓削村	弓削	
	中津井出張所	岡山縣上房郡中津井村	中津井	
	草間出張所	岡山縣阿賀郡草間村	草間	
	布賀出張所	岡山縣川上郡布賀村	布賀	
	地頭出張所	岡山縣川上郡地頭村	地頭	
	井原出張所	岡山縣後月郡井原町	井原	
	油木出張所	廣島縣神石郡油木村	油木	
	福永出張所	廣島縣甲斐郡福永村	福永	
	三草出張所	廣島縣御調郡三草町	三草	
三原出張所	廣島縣賀茂郡三原町	三原		
竹原出張所	廣島縣高田郡竹原町	竹原		
吉田出張所	廣島縣高田郡吉田町	吉田		
廣島出張所	廣島縣廣島市段原村	廣島		
太田出張所	山口縣美禰郡太田村	太田		
府中專賣支局	岡山出張所	岡山縣御津郡岡山町	岡山	
	久世出張所	岡山縣津島郡久世町	久世	
	中津出張所	岡山縣津島郡中津町	中津	
	弓削出張所	岡山縣久米郡弓削村	弓削	
	中津井出張所	岡山縣上房郡中津井村	中津井	
	草間出張所	岡山縣阿賀郡草間村	草間	
	布賀出張所	岡山縣川上郡布賀村	布賀	
	地頭出張所	岡山縣川上郡地頭村	地頭	
	井原出張所	岡山縣後月郡井原町	井原	
	油木出張所	廣島縣神石郡油木村	油木	
	福永出張所	廣島縣甲斐郡福永村	福永	
	三草出張所	廣島縣御調郡三草町	三草	
三原出張所	廣島縣賀茂郡三原町	三原		
竹原出張所	廣島縣高田郡竹原町	竹原		
吉田出張所	廣島縣高田郡吉田町	吉田		
廣島出張所	廣島縣廣島市段原村	廣島		
太田出張所	山口縣美禰郡太田村	太田		
米子專賣支局	岡山出張所	岡山縣御津郡岡山町	岡山	
	久世出張所	岡山縣津島郡久世町	久世	
	中津出張所	岡山縣津島郡中津町	中津	
	弓削出張所	岡山縣久米郡弓削村	弓削	
	中津井出張所	岡山縣上房郡中津井村	中津井	
	草間出張所	岡山縣阿賀郡草間村	草間	
	布賀出張所	岡山縣川上郡布賀村	布賀	
	地頭出張所	岡山縣川上郡地頭村	地頭	
	井原出張所	岡山縣後月郡井原町	井原	
	油木出張所	廣島縣神石郡油木村	油木	
	福永出張所	廣島縣甲斐郡福永村	福永	
	三草出張所	廣島縣御調郡三草町	三草	
三原出張所	廣島縣賀茂郡三原町	三原		
竹原出張所	廣島縣高田郡竹原町	竹原		
吉田出張所	廣島縣高田郡吉田町	吉田		
廣島出張所	廣島縣廣島市段原村	廣島		
太田出張所	山口縣美禰郡太田村	太田		
三春專賣支局	岡山出張所	岡山縣御津郡岡山町	岡山	
	久世出張所	岡山縣津島郡久世町	久世	
	中津出張所	岡山縣津島郡中津町	中津	
	弓削出張所	岡山縣久米郡弓削村	弓削	
	中津井出張所	岡山縣上房郡中津井村	中津井	
	草間出張所	岡山縣阿賀郡草間村	草間	
	布賀出張所	岡山縣川上郡布賀村	布賀	
	地頭出張所	岡山縣川上郡地頭村	地頭	
	井原出張所	岡山縣後月郡井原町	井原	
	油木出張所	廣島縣神石郡油木村	油木	
	福永出張所	廣島縣甲斐郡福永村	福永	
	三草出張所	廣島縣御調郡三草町	三草	
三原出張所	廣島縣賀茂郡三原町	三原		
竹原出張所	廣島縣高田郡竹原町	竹原		
吉田出張所	廣島縣高田郡吉田町	吉田		
廣島出張所	廣島縣廣島市段原村	廣島		
太田出張所	山口縣美禰郡太田村	太田		
東根專賣支局	岡山出張所	岡山縣御津郡岡山町	岡山	
	久世出張所	岡山縣津島郡久世町	久世	
	中津出張所	岡山縣津島郡中津町	中津	
	弓削出張所	岡山縣久米郡弓削村	弓削	
	中津井出張所	岡山縣上房郡中津井村	中津井	
	草間出張所	岡山縣阿賀郡草間村	草間	
	布賀出張所	岡山縣川上郡布賀村	布賀	
	地頭出張所	岡山縣川上郡地頭村	地頭	
	井原出張所	岡山縣後月郡井原町	井原	
	油木出張所	廣島縣神石郡油木村	油木	
	福永出張所	廣島縣甲斐郡福永村	福永	
	三草出張所	廣島縣御調郡三草町	三草	
三原出張所	廣島縣賀茂郡三原町	三原		
竹原出張所	廣島縣高田郡竹原町	竹原		
吉田出張所	廣島縣高田郡吉田町	吉田		
廣島出張所	廣島縣廣島市段原村	廣島		
太田出張所	山口縣美禰郡太田村	太田		
小出專賣支局	岡山出張所	岡山縣御津郡岡山町	岡山	
	久世出張所	岡山縣津島郡久世町	久世	
	中津出張所	岡山縣津島郡中津町	中津	
	弓削出張所	岡山縣久米郡弓削村	弓削	
	中津井出張所	岡山縣上房郡中津井村	中津井	
	草間出張所	岡山縣阿賀郡草間村	草間	
	布賀出張所	岡山縣川上郡布賀村	布賀	
	地頭出張所	岡山縣川上郡地頭村	地頭	
	井原出張所	岡山縣後月郡井原町	井原	
	油木出張所	廣島縣神石郡油木村	油木	
	福永出張所	廣島縣甲斐郡福永村	福永	
	三草出張所	廣島縣御調郡三草町	三草	
三原出張所	廣島縣賀茂郡三原町	三原		
竹原出張所	廣島縣高田郡竹原町	竹原		
吉田出張所	廣島縣高田郡吉田町	吉田		
廣島出張所	廣島縣廣島市段原村	廣島		
太田出張所	山口縣美禰郡太田村	太田		
桑野專賣支局	岡山出張所	岡山縣御津郡岡山町	岡山	
	久世出張所	岡山縣津島郡久世町	久世	
	中津出張所	岡山縣津島郡中津町	中津	
	弓削出張所	岡山縣久米郡弓削村	弓削	
	中津井出張所	岡山縣上房郡中津井村	中津井	
	草間出張所	岡山縣阿賀郡草間村	草間	
	布賀出張所	岡山縣川上郡布賀村	布賀	
	地頭出張所	岡山縣川上郡地頭村	地頭	
	井原出張所	岡山縣後月郡井原町	井原	
	油木出張所	廣島縣神石郡油木村	油木	
	福永出張所	廣島縣甲斐郡福永村	福永	
	三草出張所	廣島縣御調郡三草町	三草	
三原出張所	廣島縣賀茂郡三原町	三原		
竹原出張所	廣島縣高田郡竹原町	竹原		
吉田出張所	廣島縣高田郡吉田町	吉田		
廣島出張所	廣島縣廣島市段原村	廣島		
太田出張所	山口縣美禰郡太田村	太田		
三春專賣支局	岡山出張所	岡山縣御津郡岡山町	岡山	
	久世出張所	岡山縣津島郡久世町	久世	
	中津出張所	岡山縣津島郡中津町	中津	
	弓削出張所	岡山縣久米郡弓削村	弓削	
	中津井出張所	岡山縣上房郡中津井村	中津井	
	草間出張所	岡山縣阿賀郡草間村	草間	
	布賀出張所	岡山縣川上郡布賀村	布賀	
	地頭出張所	岡山縣川上郡地頭村	地頭	
	井原出張所	岡山縣後月郡井原町	井原	
	油木出張所	廣島縣神石郡油木村	油木	
	福永出張所	廣島縣甲斐郡福永村	福永	
	三草出張所	廣島縣御調郡三草町	三草	
三原出張所	廣島縣賀茂郡三原町	三原		
竹原出張所	廣島縣高田郡竹原町	竹原		
吉田出張所	廣島縣高田郡吉田町	吉田		
廣島出張所	廣島縣廣島市段原村	廣島		
太田出張所	山口縣美禰郡太田村	太田		
東根專賣支局	岡山出張所	岡山縣御津郡岡山町	岡山	
	久世出張所	岡山縣津島郡久世町	久世	
	中津出張所	岡山縣津島郡中津町	中津	
	弓削出張所	岡山縣久米郡弓削村	弓削	
	中津井出張所	岡山縣上房郡中津井村	中津井	
	草間出張所	岡山縣阿賀郡草間村	草間	
	布賀出張所	岡山縣川上郡布賀村	布賀	
	地頭出張所	岡山縣川上郡地頭村	地頭	
	井原出張所	岡山縣後月郡井原町	井原	
	油木出張所	廣島縣神石郡油木村	油木	
	福永出張所	廣島縣甲斐郡福永村	福永	
	三草出張所	廣島縣御調郡三草町	三草	
三原出張所	廣島縣賀茂郡三原町	三原		
竹原出張所	廣島縣高田郡竹原町	竹原		
吉田出張所	廣島縣高田郡吉田町	吉田		
廣島出張所	廣島縣廣島市段原村	廣島		
太田出張所	山口縣美禰郡太田村	太田		
小出專賣支局	岡山出張所	岡山縣御津郡岡山町	岡山	
	久世出張所	岡山縣津島郡久世町	久世	
	中津出張所	岡山縣津島郡中津町	中津	
	弓削出張所	岡山縣久米郡弓削村	弓削	
	中津井出張所	岡山縣上房郡中津井村	中津井	
	草間出張所	岡山縣阿賀郡草間村	草間	
	布賀出張所	岡山縣川上郡布賀村	布賀	
	地頭出張所	岡山縣川上郡地頭村	地頭	
	井原出張所	岡山縣後月郡井原町	井原	
	油木出張所	廣島縣神石郡油木村	油木	
	福永出張所	廣島縣甲斐郡福永村	福永	
	三草出張所	廣島縣御調郡三草町	三草	
三原出張所	廣島縣賀茂郡三原町	三原		
竹原出張所	廣島縣高田郡竹原町	竹原		
吉田出張所	廣島縣高田郡吉田町	吉田		
廣島出張所	廣島縣廣島市段原村	廣島		
太田出張所	山口縣美禰郡太田村	太田		
桑野專賣支局	岡山出張所	岡山縣御津郡岡山町	岡山	
	久世出張所	岡山縣津島郡久世町	久世	
	中津出張所	岡山縣津島郡中津町	中津	
	弓削出張所	岡山縣久米郡弓削村	弓削	
	中津井出張所	岡山縣上房郡中津井村	中津井	
	草間出張所	岡山縣阿賀郡草間村	草間	
	布賀出張所	岡山縣川上郡布賀村	布賀	
	地頭出張所	岡山縣川上郡地頭村	地頭	
	井原出張所	岡山縣後月郡井原町	井原	
	油木出張所	廣島縣神石郡油木村	油木	
	福永出張所	廣島縣甲斐郡福永村	福永	
	三草出張所	廣島縣御調郡三草町	三草	
三原出張所	廣島縣賀茂郡三原町	三原		
竹原出張所	廣島縣高田郡竹原町	竹原		
吉田出張所	廣島縣高田郡吉田町	吉田		
廣島出張所	廣島縣廣島市段原村	廣島		
太田出張所	山口縣美禰郡太田村	太田		
三春專賣支局	岡山出張所	岡山縣御津郡岡山町	岡山	
	久世出張所	岡山縣津島郡久世町	久世	
	中津出張所	岡山縣津島郡中津町	中津	
	弓削出張所	岡山縣久米郡弓削村	弓削	
	中津井出張所	岡山縣上房郡中津井村	中津井	
	草間出張所	岡山縣阿賀郡草間村	草間	
	布賀出張所	岡山縣川上郡布賀村	布賀	
	地頭出張所	岡山縣川上郡地頭村	地頭	
	井原出張所	岡山縣後月郡井原町	井原	
	油木出張所	廣島縣神石郡油木村	油木	
	福永出張所	廣島縣甲斐郡福永村	福永	
	三草出張所	廣島縣御調郡三草町	三草	
三原出張所	廣島縣賀茂郡三原町	三原		
竹原出張所	廣島縣高田郡竹原町	竹原		
吉田出張所	廣島縣高田郡吉田町	吉田		
廣島出張所	廣島縣廣島市段原村	廣島		
太田出張所	山口縣美禰郡太田村	太田		
東根專賣支局	岡山出張所	岡山縣御津郡岡山町	岡山	
	久世出張所	岡山縣津島郡久世町	久世	
	中津出張所	岡山縣津島郡中津町	中津	
	弓削出張所	岡山縣久米郡弓削村	弓削	
	中津井出張所	岡山縣上房郡中津井村	中津井	
	草間出張所	岡山縣阿賀郡草間村	草間	
	布賀出張所	岡山縣川上郡布賀村	布賀	
	地頭出張所	岡山縣川上郡地頭村	地頭	
	井原出張所	岡山縣後月郡井原町	井原	
	油木出張所	廣島縣神石郡油木村	油木	
	福永出張所	廣島縣甲斐郡福永村	福永	
	三草出張所	廣島縣御調郡三草町	三草	
三原出張所	廣島縣賀茂郡三原町	三原		
竹原出張所	廣島縣高田郡竹原町	竹原		
吉田出張所	廣島縣高田郡吉田町	吉田		
廣島出張所	廣島縣廣島市段原村	廣島		
太田出張所	山口縣美禰郡太田村	太田		
小出專賣支局	岡山出張所	岡山縣御津郡岡山町	岡山	
	久世出張所	岡山縣津島郡久世町	久世	
	中津出張所	岡山縣津島郡中津町	中津	
	弓削出張所	岡山縣久米郡弓削村	弓削	
	中津井出張所	岡山縣上房郡中津井村	中津井	
	草間出張所	岡山縣阿賀郡草間村	草間	
	布賀出張所	岡山縣川上郡布賀村	布賀	
	地頭出張所	岡山縣川上郡地頭村	地頭	
	井原出張所	岡山縣後月郡井原町	井原	
	油木出張所	廣島縣神石郡油木村	油木	
	福永出張所	廣島縣甲斐郡福永村		

第八類 官制 第七章 大藏省所管 第五款 專賣局 第六款 臨時沖繩縣土地整理事務局

Table with 2 columns: Office Name (e.g., 鹿兒島專賣支局, 鹿兒島專賣支局) and Location (e.g., 鹿兒島, 鹿兒島). Includes various branches and their respective locations.

Table with 2 columns: Office Name (e.g., 鹿兒島專賣支局, 鹿兒島專賣支局) and Location (e.g., 鹿兒島, 鹿兒島). Includes various branches and their respective locations.

●專賣局見習員ニ關スル件

明治三十年六月 勅令第七十八號 鹿兒島專賣局見習員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セム 第一條 鹿兒島專賣局見習員ニ關スル件...

第七款 臨時秩祿處分調查局官制

臨時秩祿處分調查局官制 第一條 臨時秩祿處分調查局ハ大藏大臣ノ管理ニ...

●臨時秩祿處分調查局官制

臨時秩祿處分調查局官制 第一條 臨時秩祿處分調查局ハ大藏大臣ノ管理ニ...

●臨時秩祿處分調查委員會規則

臨時秩祿處分調查委員會規則 第一條 臨時秩祿處分調查委員會ハ大藏大臣ノ...

第八章 元帥府附軍事 參議官

元帥府附軍事 參議官 第一款 元帥府 元帥府設置ノ詔勅...

第八類 官制

第七章 大藏省所管 第七款 臨時秩祿處分調查局 第一款 元帥府

ラントス茲ニ朕カ平務ヲ輔翼セシムル爲メ特ニ元帥府ヲ設ケ陸海軍大將ノ中ニ於テ老功卓著ナル者ヲ簡選シ朕カ平務ノ顧問タラシメントス其所掌ノ事項ハ朕カ別ニ定ムル所ニ依ラシム

●元帥府條例 (明治三十一年一月) (勅令第五號)

- 元帥府條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
元帥府條例
第一條 元帥府ニ列セラルル陸海軍大將ニハ特ニ元帥ノ稱號ヲ賜フ
第二條 元帥府ハ軍事上ニ於テ最高顧問トス
第三條 元帥ハ勅ヲ奉シ陸海軍ノ檢閲ヲ行フコトアルヘシ
第四條 元帥ニハ副官トシテ佐尉官各一人ヲ附屬セシム

第二款 軍事參議官

●軍事參議官條例

(明治二十六年五月) (勅令第三十五號)

- 朕軍事參議官條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
軍事參議官條例
第一條 軍事參議官ハ之ヲ輔翼ノ中ニ置キ軍事ニ關スル機務ニ參議セシム
第二條 軍事參議官ハ左ノ如シ (三十三年勅令第二百二十二號ヲ以テ條中改正)
陸軍大臣
海軍大臣
參謀總長
教育總監
海軍軍令部長
第三條 凡ソ軍事陸海軍ニ關スルモノハ各該官官

ヲシテ其職ニ參セシメ陸軍ノミニ關スモノハ陸軍大臣參謀總長教育總監海軍ノミニ關スルモノハ海軍大臣海軍軍令部長ヲシテ其職ニ參セシム (三十三年勅令第二百二十二號ヲ以テ條中改正)

第九章 陸軍省所管

第一款 陸軍省

●陸軍省官制 (明治三十三年五月) (勅令第九十三號)

- 朕陸軍省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
陸軍省官制
第一條 陸軍大臣ハ陸軍軍政ヲ管理シ陸軍軍人軍屬ヲ統督シ及所管諸部ヲ監督ス
第二條 陸軍省ニ副官ヲ置キ祕書官ニ兼補ス
第三條 陸軍省ニ左ノ六局ヲ設ケ
總務局
人事局
軍務局
經理局
醫務局
法務局
第四條 總務局ニ機密課及庶務課ヲ設ケ
第五條 機密課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 機密ニ關スル事項
二 大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項
三 外國駐在員及留學將校同相當官ニ關スル事項
四 徵發物件表、報告及統計ニ關スル事項
五 翻譯ニ關スル事項
六 各局課ニ關セサル事項
第六條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 例規ニ依リ取扱フヘキ庶務ニ關スル事項

公文書類ノ接受發送ニ關スル事項
公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項
印刷ニ關スル事項
軍旗及精國神社ニ關スル事項
省内ノ風紀ニ關スル事項
省屬列任文官ノ人事ニ關スル事項
本省ノ賭博及用度ニ關スル事項
本省ノ賭博及用度ニ關スル事項
人事局ニ補任課及恩賞課ヲ設ケ
第八條 補任課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 將校、同相當官准士官、並文官ノ進退、任免、補職、命、俸、給、給ニ關スル事項
二 將校、同相當官准士官、並文官名簿、停年名簿、列次名簿及充員名簿ニ關スル事項
三 退職將校、同相當官准士官ノ人事及名簿ニ關スル事項

- 第九條 恩賞課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 恩給ニ關スル事項
二 銜位、勳章、記章、褒章、賞典ニ關スル事項
三 准士官下士官採用ニ關スル事項
四 賜假ニ關スル事項
五 結婚ニ關スル事項
第十條 軍務局ニ軍事課、步兵課、騎兵課、砲兵課、工兵課及獸醫課ヲ設ケ
第十一條 軍事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 建制及編制ニ關スル事項
二 動員計畫、戒嚴及徵發ニ關スル事項
三 演習及檢閱ニ關スル事項
四 教育總監部及同總監部直轄諸學校ニ關スル事項
五 團隊配置ニ關スル事項
六 鐵道及兵站業務ニ關スル事項
七 水陸交通路ニ關スル事項

- 第十二條 以下本號中改正)
經理部ノ教育補充及其ノ士官以上ノ兵籍ニ關スル事項 (同上)
第十三條 被服課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 被服一切ノ經理ニ關スル事項
二 被服給與ノ規定ニ關スル事項
三 被服ノ檢査ニ關スル事項
四 馬匹手入具ニ關スル事項
五 被服廠及手製織所ニ關スル事項
第二十一條 糧秣課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 平時及戰時ノ糧秣給與、野戰軍ノ給與準備ニ關スル事項
二 要塞ノ糧秣準備ニ關スル事項
三 經理部ノ野戰給養勤務ノ規定ニ關スル事項 (三十五年勅令第十二號ヲ以テ本號中改正)
四 糧秣及馬匹ニ係ル給與ノ規定ニ關スル事項
五 於養ノ實驗ニ關スル事項
六 戰用炊具ニ關スル事項
七 糧秣廠ニ關スル事項 (三十五年勅令第十二號ヲ以テ本號中改正)
第二十二條 建築課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 陸軍用地及諸建築 (工兵事業及砲兵工廠)ニ關スル事項
二 宅料、陣營具及水料、消耗品料埋葬料並諸調度ノ規定ニ關スル事項
三 物品會計及出納官吏ニ關スル事項
四 官有財産ニ關スル事項
五 金櫃、公用行李ニ關スル事項
六 (三十五年勅令第十二號ヲ以テ削除)
第二十三條 經理局長ハ經理部士官以上ノ人事ヲ

- 八 儀式、禮式、服制、徽章ニ關スル事項
九 風紀軍紀ニ關スル事項
十 參謀本部、陸軍大學校、鐵道大隊ニ關スル事項
第十一條 步兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 兵役、召集及解兵ニ關スル事項
二 各兵科將校ノ補充ニ關スル事項
三 各兵科各部准士官以下補充ノ規定ニ關スル事項
四 憲兵、歩兵、屯田兵、警備隊、軍樂隊ノ下士以下補充ニ關スル事項
五 同上及聯隊司令部ノ本務ニ關スル事項
六 現役、豫備役、後備軍人及國民軍ニ關スル事項
七 軍隊ノ內務、衛戍勤務及軍事警察ニ關スル事項
八 練兵場及小銃射擊場ニ關スル事項 (築設及管理ヲ除ク)
第十三條 騎兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 騎兵及輜重兵ノ本務ニ關スル事項
二 騎兵、輜重兵下士以下ノ補充ニ關スル事項
三 軍馬ノ供給、飼養、保檢及徵發ニ關スル事項
四 蹄鐵ニ關スル事項
五 各兵科蹄鐵工長ノ補充ニ關スル事項
六 騎兵實施學校及軍馬補充部ニ關スル事項
第十四條 砲兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 野戰砲兵及要塞砲兵ノ本務ニ關スル事項
二 砲兵下士以下ノ補充ニ關スル事項
三 砲兵射擊場ニ關スル事項 (築設、維持及管理ヲ除ク)
四 兵器ノ供給、保檢及兵器監部ニ關スル事項
五 砲兵會廳ニ關スル事項

- 六 野戰及要塞砲兵射擊學校、砲兵工科學校ニ關スル事項
七 國防上砲兵ニ關スル事項
八 陸軍職工ニ關スル事項
第十五條 工兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 工兵ノ本務ニ關スル事項
二 工兵下士以下補充ニ關スル事項
三 工兵會廳及築城部ニ關スル事項
四 東京防禦總督部、要塞司令部、陸地測量部ニ關スル事項
五 國防上工兵ニ關スル事項
六 通信及電氣術、電信術、電燈ニ關スル事項
七 橋梁及隧道等破壞ニ關スル事項
八 砲氣球及使鳩ニ關スル事項
九 運輸及糞糶補給廠ニ關スル事項
第十六條 獸醫課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 獸醫材料ニ關スル事項
二 獸醫部ノ勤務及教育ニ關スル事項
三 獸醫部ノ人員補充及兵籍ニ關スル事項
四 蹄鐵術ノ教育ニ關スル事項
五 獸醫學校及軍馬衛生會議ニ關スル事項
第十七條 軍務局長ハ獸醫部上長官士官ノ人事ヲ掌ル
第十八條 經理局ニ主計課、被服課、糧秣課及建築課ヲ設ケ
第十九條 主計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 陸軍總預算、決算報告及動員計畫ニ係ル豫算算計ニ關スル事項
二 贈給與及會計規定ノ審查ニ關スル事項
三 俸給、諸手当放貸ノ規定及簿記證書ニ關スル事項
四 經理部ノ勤務ニ關スル事項 (三十五年勅令

- 第二十二號ヲ以テ本號中改正)
經理部ノ教育補充及其ノ士官以上ノ兵籍ニ關スル事項 (同上)
第十三條 被服課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 被服一切ノ經理ニ關スル事項
二 被服給與ノ規定ニ關スル事項
三 被服ノ檢査ニ關スル事項
四 馬匹手入具ニ關スル事項
五 被服廠及手製織所ニ關スル事項
第二十一條 糧秣課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 平時及戰時ノ糧秣給與、野戰軍ノ給與準備ニ關スル事項
二 要塞ノ糧秣準備ニ關スル事項
三 經理部ノ野戰給養勤務ノ規定ニ關スル事項 (三十五年勅令第十二號ヲ以テ本號中改正)
四 糧秣及馬匹ニ係ル給與ノ規定ニ關スル事項
五 於養ノ實驗ニ關スル事項
六 戰用炊具ニ關スル事項
七 糧秣廠ニ關スル事項 (三十五年勅令第十二號ヲ以テ本號中改正)
第二十二條 建築課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 陸軍用地及諸建築 (工兵事業及砲兵工廠)ニ關スル事項
二 宅料、陣營具及水料、消耗品料埋葬料並諸調度ノ規定ニ關スル事項
三 物品會計及出納官吏ニ關スル事項
四 官有財産ニ關スル事項
五 金櫃、公用行李ニ關スル事項
六 (三十五年勅令第十二號ヲ以テ削除)
第二十三條 經理局長ハ經理部士官以上ノ人事ヲ

- 第二十四條 國務局ニ衛生課及醫事課ヲ置ク
- 第二十五條 衛生課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 衛生部ノ勤務及教育ニ關スル事項
 - 二 衛生部ノ人員補充及士官以上ノ兵醫ニ關スル事項
 - 三 軍事衛生及治病上ノ審案ニ關スル事項
 - 四 恩給診斷及傷病ニ因ル除役ニ關スル事項
 - 五 衛生報告及衛生部員學術上ノ榮績ニ關スル事項
- 第二十六條 軍醫學校及衛生會議ニ關スル事項
- 第二十七條 醫務局長ハ衛生部士官以上ノ人事ヲ掌ル
- 第二十八條 法務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 軍事司法ニ關スル事項
 - 二 監獄ニ關スル事項
 - 三 特赦及罪人引渡ニ關スル事項
 - 四 理事録事及監獄職員ノ人事ニ關スル事項
- 第二十九條 法務局ノ職員ハ高等軍法會議ノ事務ニ服ス
- 第三十條 陸軍省職員ハ附表ノ如シ

考 備	大臣 (將中)		局長 (將少)		局長 (將少)		局長 (將少)		局長 (將少)		局長 (將少)		局長 (將少)		局長 (將少)		局長 (將少)		局長 (將少)	
	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長
一、陸軍大臣及總務局長ニ任セラルルモノハ現役將官ヲ以テス	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長
二、水表定員ノ外出仕トシテ將校同相當官八名ヲ置クコトヲ得	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長
三、課員ニ缺員アルトキハ之ニ代フルニ由テ將校同相當官増員スルコトヲ得	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長
四、本表中副官兼務書記官大尉一及總務局課員佐官一ハ兼務トス	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長

- 陸軍ニ通譯生ヲ置ク (明治二十六年九月)
- 陸軍通譯生ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 第一條 外國語ヲ通譯スルノ必要アル陸軍官衛及各部ニ於テハ列任官定員以內ヲ以テ陸軍通譯生ヲ置クコトヲ得
- 第二條 陸軍通譯生ハ列任トス
- 第三條 陸軍通譯生ハ文官任用令ノ規程ニ依リテ文官普通試驗委員ノ陸軍ヲ經テ任用スルコトヲ得
- 陸軍及海軍諸學校ニ教官ヲ置ク (明治十九年十月)
- 陸軍及海軍諸學校ニ教官ヲ置クコトヲ裁可ス
- 第一條 陸軍及海軍諸學校ニ武官教官ノ外文官教官ヲ置ク左ノ如シ
 - 一 教授
 - 二 助教
- 第二條 教授ノ官等俸給ハ勅令第六號高等官官等俸給令ニ依リ助教ノ官等俸給ハ勅令第三十六號列任官官等俸給令ニ依ル
- 第三條 教官ヲ以テ教官ニ充メルトキハ本條ノ限ニアラズ
- 陸軍編修官官制 (明治二十年)
- 勅令第八十九號

- 陸軍編修官官制 (明治二十年)
- 勅令第八十九號
- 陸軍編修官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 第一條 兵要戰史地圖政務編修ノ業務ニ從事セシムルモノハ陸軍編修官ヲ置ク
- 第二條 陸軍編修官ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ其業務ニ關シテハ參謀總長ノ指揮監督ヲ承ク
- 第三條 陸軍編修官ヲ分テ陸軍編修及陸軍編修書記トス
- 第四條 陸軍編修ハ委任トシ陸軍編修書記ハ列任トス
- 第五條 陸軍編修官ノ定員ハ左ノ如シ
 - 編修官 四人
 - 編修書記 十四人
- 陸軍測量官官制 (明治二十年)
- 勅令第三十四號
- 陸軍測量官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 第一條 陸軍測量ノ業務ニ從事セシムルモノハ陸軍測量官ヲ置ク
- 第二條 陸軍測量官ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ其業務ニ關シテハ陸軍測量部長ノ指揮監督ヲ承ク
- 第三條 陸軍測量官ヲ分テ陸軍測量師及陸軍測量師トス
- 第四條 陸軍測量師ハ委任トシ陸軍測量師ト列任トス
- 陸軍獸醫學校條例 (明治二十年)
- 勅令第四百二十號
- 陸軍獸醫學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 第一條 陸軍獸醫學校ハ學生ニ各專門ノ學術ヲ教授セシメテ常ニ獸醫及陸軍ニ關スル學術ノ調査研究ヲ爲シ軍馬衛生ニ關スル試驗ヲ行ヒ且蹄鐵工長候補生ニ蹄鐵工長タルニ必要ノ教育ヲ爲ス所トス
- 第二條 學生ハ獸醫部士官及陸軍騎兵、砲兵、輜重兵、騎鐵工長、候補生、野戰砲兵、輜重兵隊ヨリ分遣スル蹄鐵工長候補生ヲ以テ之ニ充メ
- 第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク (三十五年勅令第八百八十一號ヲ以テ條文中改正)
 - 校長
 - 副校長
 - 教官
 - 軍醫
 - 副軍醫
 - 下士、列任文官
- 第四條 (同上ヲ以テ削除)
- 第五條 校長ハ陸軍省軍務局長ニ隷シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス
- 第六條 副校長ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル
- 第七條 教官ハ學術ノ教授及調査研究ヲ分擔シ軍馬ノ衛生ニ關スル試驗ニ從事ス
- 第八條 學期ハ概シテ學生士官ニ在テハ五箇月、同下士ニ在テハ三箇月、候補生ニ在テハ九箇月トス
- 第九條 學生、候補生ノ人員及入校時日ハ陸軍大臣ノ管轄トス
- 第十條 學生、候補生分遣ノ旨達アレハ師團長ハ該團長ヲシテ選定セシメ入校期日十日以前迄ニ其人名ヲ校長ニ通報セシム (三十五年勅令第八百八十一號)

十一號ヲ以テ條中改正)

第十一條 學生士官ハ校外ニ同下士及候補生ハ校外ニ居住セシム但營外居住ノ下士ニ在テハ校外トス

第十二條 學用品ハ學生士官ニ在テハ自辨トシ同下士及候補生ニハ之ヲ貸與又ハ支給ス但學生士官ト雖モ科樂ノ種類ニ由リ之ヲ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第十三條 候補生ニ在テハ武器被服及器具ヲ其所屬隊ヨリ推行セシム

第十四條 學生、候補生ノ願願其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十五條 學生、候補生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ得ス

第十六條 學生、候補生中左ノ事項ニ該ル者ハ校長其事由ヲ具シ軍務局長ノ認可ヲ請ケ退校歸隊セシム但候補生徒ニ在テハ豫メ所屬隊長ニ通報シ退校ト同時ニ除隊ノ處分ニ附スルコトアリ

第十七條 學術ノ修得全カラズ卒業ノ日途ナキ者

第十八條 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

第十九條 品行不正ニシテ改校ノ日途ナキ者

第二十條 傷寒疾病ニ依リ卒業ノ日途ナキ者

第二十一條 終末試驗ニ落第セシ者

第二十二條 候補生ニ在テハ傷寒疾病其他ノ事故ニ依リ終末試驗ヲ受ケサルモ望ミアル者ハ若干日ノ後特ニ受驗セシムルコトヲ得又終末試驗ニ落第スルモ尙ホ望ミアル者ハ若干日間學術ノ補修ヲ爲シ卒業セシムルコトヲ得

第二十三條 校長ハ學期末ニ於テ學生ニ在テハ教官會議ヲ開キ其成績ヲ審查シテ修得證明書ヲ附與シ候補生ニ在テハ終末試驗ヲ施行シ及第者ニハ卒業證書ヲ附與ス

學生及候補生修學ヲ終ルハ校長ハ原所管ニ復歸シ命シ且其成績ヲ軍務局長ニ報告シ所屬長及所管師團駐營部長ニ通知ス

第十七條 授業上所要ノ馬匹ハ陸軍騎兵實施學校飼養ノモノヲ以テ之ニ充テ時宜ニ依リ他ノ學校及軍隊飼養ノ馬匹ヲモ之ニ充ツルコトヲ得

第十八條 現在ノ陸軍獸醫學校生徒ニ關シテハ本令施行後ト雖モ尙ホ從前ノ規定ニ依ル

●陸軍軍醫學校條例 (明治二十年勅令第百九十四號)

陸軍軍醫學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 陸軍軍醫學校ハ學生ノ練習、生徒ノ養成、衛生部ニ關スル教科用書ノ編修若クハ撰譯及兵衣、兵食、兵營、兵器等ノ軍醫衛生ニ關スル試驗ヲ行フ所トス (三十二年勅令第四百十九號ヲ以テ條中改正)

第二條 學生ハ各部隊附ノ衛生部士官ヲ分遣シテ之ニ充テ其特科ヲ練習セシム (三十二年勅令第四百十九號三十五年勅令第八十號ヲ以テ條中改正)

第三條 生徒ハ醫術開業免狀又ハ藥劑師免狀ヲ所持シ衛生部現役士官ニ出身志願ノ者ヲ選拔シテ採用ス (三十二年勅令第二十號改正ニ依ル)

第四條 本校ニ在ノ職員ヲ置ク (三十二年勅令第四百十九號三十五年勅令第八十號ヲ以テ條中改正)

校長

副官

教官

副監查

第五條 校長ハ陸軍省醫務局長ニ隸シ校務ヲ掌理シ第一條ノ事項ニ關シテ其實ニ任ス (三十二年勅令第四百十九號ヲ以テ條中改正)

第六條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ陸軍屬ヲ置ク

第七條 教官ハ各專同學科ノ教授ニ任シ兼テ第一條ノ事項ヲ分擔ス (三十二年勅令第四百十九號ヲ以テ全條改正)

第八條 學生ノ練習期ハ四箇月以内トシ生徒ノ教成期ハ一箇年以内トス

第九條 學生及生徒ノ人員入校時日並ニ生徒採用ニ關スル規定ハ陸軍大臣之ヲ定メテ公告ス

第十條 學生分遣ノ管送アルハ軍醫部長ハ入校期十日前ニ其人名ヲ軍醫學校長ニ通報スルモノトス (三十五年勅令第八十號ヲ以テ條中改正)

第十一條 學生及生徒ハ校外ニ居住セシメ其科樂ニ關シ所要ノ書籍、器具、消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第十二條 學生ノ名籍ハ原所管ヲ離ルルコトナシト雖モ分遣中ノ願願其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十三條 學生ノ練習ヲ終ルトキハ校長ハ原所管ニ復歸シ命シ練習中ノ成績ヲ醫務局長ニ報告シ且所管ノ軍醫部長ニ之ヲ通知ス (三十五年勅令第四百十九號ヲ以テ條中改正)

第十四條 生徒ノ教成ヲ終ルトキハ校長ハ卒業試驗ヲ行ヒ其成績ニ據リ列序ヲ定メ考科表ヲ製シテ醫務局長ニ進達シ其認可ヲ請ケ卒業證書ヲ付與ス

第十五條 學生及生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ得

第十六條 學生中疾病又ハ其他ノ事故ニ依リ練習ヲ終ルノ日途ナキ者ハ原所管ニ復歸セシム

第十七條 生徒中左ノ事項ノ一ニ該ル者ハ退校セシム

第十八條 學力乏クシテ卒業ノ日途ナキ者

第十九條 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

第二十條 品行不正ニシテ改校ノ日途ナキ者

第二十一條 疾病ニ依リ卒業ノ日途ナキ者

第二十二條 卒業試驗ニ落第セシ者

第二十三條 候補生ニ在テハ傷寒疾病其他ノ事故ニ依リ練習ヲ終ルノ日途ナキ者ハ若干日ノ後特ニ受驗セシムルコトヲ得又終末試驗ニ落第スルモ尙ホ望ミアル者ハ若干日間學術ノ補修ヲ爲シ卒業セシムルコトヲ得

第二十四條 校長ハ學期末ニ於テ學生ニ在テハ教官會議ヲ開キ其成績ヲ審查シテ修得證明書ヲ附與シ候補生ニ在テハ終末試驗ヲ施行シ及第者ニハ卒業證書ヲ附與ス

●陸軍衛生材料廠條例 (明治三十年勅令第四百十六號)

陸軍衛生材料廠條例ノ改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 陸軍衛生材料廠ハ衛生材料獸醫材料ノ模範品及戰用豫備品ノ製作、貯藏、交換、品質

第二條 陸軍衛生材料廠ハ陸軍大臣ニ隸シ部務ヲ總理シ砲

第三條 兵器監ハ陸軍大臣ニ隸シ部務ヲ總理シ砲

●陸軍兵器監部條例 (明治三十年勅令第百五十八號)

陸軍兵器監部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 陸軍兵器監部ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ兵器ニ關スル一切ノ經理ヲ掌リ兵器監ヲ行フ所トス

第二條 兵器監部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

副部長

前項ノ外下士、列任文官ヲ置ク

第三條 廠長ハ陸軍省醫務局長ニ隸シ廠務ヲ掌理ス但シ獸醫材料ニ關シテハ軍務局長、醫務局長協同ノ上ニ之ヲ處置ス

第四條 廠員及副監查ハ廠長ノ命ヲ承ケ廠務ニ服ス (三十五年勅令第八十九號ヲ以テ條中改正)

●陸軍兵器廠條例 (明治三十年勅令第百六十號)

陸軍兵器廠條例ノ改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 陸軍兵器廠ハ兵器ノ購買、貯藏、保存、修理、支給、交換及製器ノ備用工事ヲ掌ル所トス

第二條 兵器廠ハ兵器本廠、兵器支廠及兵器分廠ヨリ成ル

兵器本廠ハ東京、大阪、門司及釧路ニ置キ兵器支廠ヲ統轄ス其ノ所管區域左ノ如シ

東京兵器本廠 第一、第二、第七及第八師管

大阪兵器本廠 第三、第四、第九及第十師管

門司兵器本廠 第五、第六、第十一及第十二師管

者ハ若干日開學術ノ補習ヲ爲シ卒業セシムルコトヲ得

附則
本令施行前入校ノ生徒ハ總テ砲兵工長候補生徒ト爲シ尙ホ卒業ノ目途ナキ者ニ就テハ舊條例第十五條ノ規定ニ依ル

本令ハ明治三十二年十二月一日ヨリ施行ス

●陸軍砲兵會議條例 (明治三十一年一月)

勅令第百一十二號

朕陸軍砲兵會議條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 陸軍砲兵會議ハ砲兵技術及兵器材料(工兵會議ニ屬スルモノヲ除ク)ニ關シ陸軍大臣ノ諮詢ニ應ジ且其改良進歩ヲ圖リ審査立案スル所トス
- 第二條 陸軍砲兵會議ニ左ノ職員ヲ置ク
議長 少將若クハ砲兵大佐
議員 各兵科佐官
臨時議員 各兵科各部上長官或ハ陸軍技師
審査官 砲兵佐官同大尉
第三條 前條ニ掲ケル職員ノ外審査官ノ下ニ准士官、下士並ニ技術手ヲ置ク
- 第四條 議長ハ陸軍大臣ニ請シ議事ヲ整理シ會議一切ノ事務ヲ總理ス
- 第五條 審査官ハ審査試驗ノ事ヲ分擔シ其ノ分擔事項ニ關シテハ臨時議員ニ列シ答辯說明ノ任ニ當リ且會議且會議ノ事務ヲ處理ス
- 第六條 議員ハ他ニ本職アル者ヲ以テ兼補ス臨時議員ハ臨時ノ必要ニ當リ陸軍大臣他ニ本職

アル者ヲ以テ之ヲ命シ議事ヲ了レハ直ニ解任スルモノトス

第七條 議長不在ノトキハ議長ニ關シテハ議員中高級故參ノ者其代理ヲ爲スヘシ但議員ハ事務ニ關シ代理スルコトナシ

第八條 陸軍砲兵會議ノ立案ニ係ル事項ハ陸軍大臣ニ建議スルモノトス但輕易ノ事項ニシテ議長ニ附スルノ必要ナシト認ムルモノニ在テハ議長ハ直ニ之ヲ建議スルコトヲ得

第九條 陸軍砲兵會議ハ議事規則ヲ制定シ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十條 歩、騎、工、輜重兵科ノ議員ハ其兵科ニ關係アル議事ニノミ列セシムルモノトス

第十一條 議事ニ關係アル議員二分ノ一以上出席スルニアラザレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス但緊急ノ場合ニ在テハ議事ニ關係アル議員三分ノ一以上出席スルトキハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得

第十二條 議長ハ議事表決ノ數ニ與カルコトヲ得ス

第十三條 議員ハ出席議員ノ過半數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ據ル

第十四條 輕易ノ事項ニシテ議事ニ附スルノ必要ナキモノハ陸軍大臣ハ單ニ審査若クハ起案ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條 試驗ノ爲メ必要ト認ムルモノハ其種類ニ應ジ陸軍戸山學校、陸軍砲兵實地學校、陸軍野戰砲兵射擊學校、陸軍要塞砲兵射擊學校ニ於テ實施セシムルモノトス又特ニ要スル場合ニ在テハ議長ハ師團長ニ稟請シ軍隊中ニ於テ實施セシメ若クハ必要ノ人員材料ヲ使用スルコトヲ得

●陸軍工兵會議條例 (明治三十一年七月)

勅令第百三十七號

朕陸軍工兵會議條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 陸軍工兵會議ハ工兵技術並兵器材料(砲兵會議ニ屬スルモノヲ除ク)ニ關シ陸軍大臣ノ諮詢ニ應ジ且其改良進歩ヲ圖リ審査立案スル所トス(三十二年勅令第十三號ヲ以テ改正)
- 第二條 陸軍工兵會議ニ左ノ職員ヲ置ク
議長 少將若クハ工兵大佐
議員 工兵佐官
臨時議員 各兵科各部上長官或ハ陸軍技師
審査官 工兵佐官同大尉
第三條 前條ニ掲ケル職員ノ外審査官ノ下ニ准士官、下士並ニ技術手ヲ置ク

第十六條 砲工兵兩科ノ技術ニ跨カル議案ニシテ砲工兵兩會議ノ議員ヲ合シ討論セシムルノ必要アルトキハ合同會議ヲ開クモノトス此場合ニアルトキハ陸軍大臣之ヲ特選ス

第十七條 合同會議ヲ開クトキハ砲工兵兩會議議長中高級故參ノ者議長トナリ下級ノ者ハ議員ニ列シ表決ニ與カルモノトス本條第二項ノ場合ニ於テハ高級故參ノ者モ亦同シ

第十八條 議長ニ命スルコトアルヘシ但其議事ヲ了レハ直ニ解任スルモノトス

第十九條 合同會議ハ總テ本會議ノ規定ニ據ル

第二十條 合同會議議長ハ砲工兵兩會議ノ審査官ヲシテ第五條ノ事項ヲ處理セシムルモノトス

- 第四條 議長ハ陸軍大臣ニ請シ議事ヲ整理シ會議一切ノ事務ヲ總理ス
- 第五條 審査官ハ審査試驗ノ事ヲ分擔シ其ノ分擔事項ニ關シテハ臨時議員ニ列シ答辯說明ノ任ニ當リ且會議ノ事務ヲ處理ス
- 第六條 審査官ニハ陸軍技師ヲ混用スルコトヲ得
- 第七條 議員ハ他ニ本職アル者ヲ以テ兼補ス臨時議員ハ臨時ノ必要ニ當リ陸軍大臣他ニ本職アル者ヲ以テ之ヲ命シ議事ヲ了レハ直ニ解任スルモノトス
- 第八條 議長不在ノトキハ議長ニ關シテハ議員中高級故參ノ者其ノ代理ヲ爲スヘシ但議員ハ事務ニ關シ代理スルコトナシ
- 第九條 陸軍工兵會議ノ立案ニ係ル事項ハ陸軍大臣ニ建議スルモノトス但輕易ノ事項ニシテ議長ニ附スルノ必要ナシト認ムルモノニ在テハ議長ハ直ニ之ヲ建議スルコトヲ得(同上)
- 第十條 陸軍工兵會議ハ議事規則ヲ制定シ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ
- 第十一條 總議員二分ノ一以上出席スルニアラザレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得
- 第十二條 議長ハ議事表決ノ數ニ預ルコトヲ得ス
- 第十三條 議員ハ出席議員ノ過半數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
- 第十四條 輕易ノ事項ニシテ議事ニ附スルノ必要ナキモノハ陸軍大臣ハ單ニ審査若クハ起案ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十五條 試驗ノ爲メ軍隊ヲ要スルトキハ議長ハ師團長ニ稟請シテ之ヲ使用スルコトヲ得(同上)
- 第十六條 砲工兵兩科ノ技術ニ跨ル議案ニシテ砲

工兵兩會議ノ議員ヲ合シ討論セシムルノ必要アルトキハ合同會議ヲ開クモノトス此場合ニ在テハ陸軍大臣之ヲ特選ス

第十七條 合同會議ヲ開クトキハ砲工兵兩會議議長中高級故參ノ者議長トナリ下級ノ者ハ議員ニ列シ表決ニ預ルモノトス第二項ノ場合ニ於テハ高級故參ノ者モ亦同シ

第十八條 議長ニ命スルコトアルヘシ但其議事ヲ了レハ直ニ解任スルモノトス

第十九條 合同會議ハ總テ本會議ノ規定ニ據ル

第二十條 合同會議議長ハ砲工兵兩會議ノ審査官ヲシテ第五條ノ事項ヲ處理セシムルモノトス(同上勅令ヲ以テ追加)

●軍馬補充部條例 (明治三十年五月)

勅令第百九十三號

朕軍馬補充部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 軍馬補充部ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ軍馬ノ供給、育成、購買並ニ軍馬ノ資源ノ調査ヲ掌ル所トス
- 第二條 軍馬補充部ハ本部及支部ヨリ成リ本部ハ東京ニ支部ハ第一、第二、第六、第七、第八及第十師管下ニ一箇若クハ二箇ヲ置キ軍馬補充部某地支部ト稱ス支部ハ三等ニ區分シ其設置及地位ハ陸軍大臣之ヲ定ム(三十三年勅令第三百八十三號ヲ以テ條文中改正)
- 第三條 軍馬補充部本部及支部ニ左ノ職員ヲ置ク
本部 陸軍少將騎兵大佐
本部長 陸軍少將騎兵大佐

第四條 前條ニ掲ケル職員ノ外本部及支部ニ下士並ニ技術手ヲ置ク

第五條 本部長ハ陸軍大臣ニ請シ軍馬補充部ノ業務ヲ總理ス

第六條 支部長ハ本部長ニ關シ軍馬ノ供給及育成ニ關スル業務ヲ分擔シ特ニ牧場事業ノ整理ニ任ス

第七條 本部及支部ノ部員、獸醫及軍吏等ハ各其長ノ命ヲ受ケテ本部又ハ支部ノ業務ヲ處理ス

第八條 陸軍大臣ハ所要ニ應ジ支部ノ派出部員及出張所ヲ設ケ支部ノ部員ヲ以テ派出部長ニ充ルコトヲ得

附則
第九條 明治二十六年勅令第二十七號軍馬補充部條例ハ廢止ス

●築城部條例 (明治三十年九月)

勅令第三百六號

朕築城部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 築城部ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ國防用防禦營造物ノ建築修繕保管及之ニ關スル砲兵事業ノ調査並ニ工兵事業ヲ掌リ且其所屬地ヲ管轄スル所トス

第二條 築城部ハ築城本部及築城支部ヨリ成ル
本部ハ之ヲ東京ニ置キ各支部ヲ統轄ス
支部ハ要塞所在地ニ置キ築城事業及守城器具材
料ノ保管ニ任ス但シ支部ハ三等ニ區分シ其新設
及等位ハ陸軍大臣ノヲ定ム

第三條 築城部ニ左ノ職員ヲ置ク
本部
本部長 陸軍少將若クハ工兵大佐
部長 砲工兵佐官大尉
技師
支部長 工兵中少佐大尉
支部長 工兵大尉
支部長 工兵大尉

右ニ掲ケル職員ノ外木支部ニ准士官、下士、列任
文官ヲ置ク

第四條 本部長ハ陸軍大臣ニ隸シ築城部ノ事務ヲ
總理シ且要塞ノ新設若クハ補修ニ關スル砲工兵
事業ノ調査ニ任ス

第五條 支部長ハ本部長ニ隸シ支部ノ事務ヲ整理
ス

第六條 砲工兵及軍吏ハ本支部長ノ命ヲ受ケ各分擔
ノ事務ニ服ス

第七條 技師ハ本部長ノ指揮ヲ承ケ技術上ノ調査
ニ從事ス

第八條 本部長ハ業務ノ繁閑ニ應ジ必要ト認ムル
トキハ木支部ノ官僚ヲ被差應用スルコトヲ得
附則
第九條 本條例ハ明治三十年九月十五日ヨリ施行

第十條 明治二十九年(三月)勅令第百十號工兵方
面條例ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

●陸軍監督部條例 (明治三十
九年一月
十九號)

陸軍監督部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
陸軍監督部條例
第一條 陸軍監督部ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍各部ノ
會計經理ヲ監督ス
第二條 監督部ニ左ノ職員ヲ置ク
部長
准士官下士並列任文官

第三條 部長ハ陸軍大臣ニ隸シ部務ヲ總理ス
第四條 部長ハ陸軍各部ノ會計經理ノ検査ヲ行フ
ヘシ

第五條 部長ハ師團團長陸軍經理部管轄以外ノ
官衙學校ノ廢品處分ヲ承認ス但シ當該長官ニ之
ヲ分任スルコトヲ得

第六條 部長ハ會計上ニ關シ必要アルトキハ當該
長官若クハ主任官吏ニ質問シ聲明ヲ求ルコトヲ得

第七條 部長ハ部員ノ命ヲ受ケ部務ヲ分掌ス
第八條 准士官以下ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス
附則
本令ハ明治三十五年二月一日ヨリ施行ス

●陸軍經理學校條例 (明治三十
五年一月
十四號)

陸軍經理學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム

陸軍經理學校條例

第一條 陸軍經理學校ハ陸軍經理部士官ト爲スヘ
キ者ヲ養成スル所トス
第二條 學生教育ノ實施ハ陸軍大臣ノ定ムル教育
綱領ニ據ル
第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク
校長
副官
教官
下士並列任文官

第四條 校長ハ陸軍大臣ニ隸シ校務ヲ總理シ學生
教育ノ責ニ任ス

第五條 副官ハ校長ノ命ヲ受ケ庶務ニ服ス
第六條 教官ハ校長ノ命ヲ受ケ學術ノ教授ニ任ス
第七條 學生ハ身體強健年齢滿三十年七月一以下
ニシテ左ノ資格ヲ備ル者ヨリ採用ス

一、各兵科現役(休職、停職)中、少尉ノ志願者ニ
シテ試驗ニ合格シタル者但シ陸軍大學校卒業
者ハ第九條ノ木試驗ヲ行ハス

二、監修候補生ニシテ見習監督ヲ命セラレタル
者

第八條 學生卒業者中優秀ノ者ヲ選抜シテ員外學
生ト爲シ帝國大學ノ規程ニ依リ帝國大學ニ入學
セシメ必要ナル科學ヲ研究セシムルコトヲ得

第九條 陸軍大臣ハ學生志願者ノ學力ヲ檢定スル
爲試驗委員ヲ設ケ陸軍省經理局長ヲ委員長ト爲
シ左ノ試驗ヲ行ハシム

一、豫備試驗 學生志願者ハ陸軍大臣ノ告達ニ
從ヒ自論論文ヲ作リ密封シテ所管長官ニ出
シ所管長官ハ之ニ本人ノ考科表寫ヲ添ヘ試
驗委員ニ送付シ試驗委員長ハ之ヲ審査シ
木試驗ヲ受ケケシムヘキ者ヲ定メ所管長官ヲ

二、木試驗 木試驗ハ分テ筆記及口述トシ試驗
委員之ヲ行フ

第十條 試驗委員長ハ木試驗了ルノ後學生ニ採用
スヘキ者ヲ選定シテ陸軍大臣ニ上申シ陸軍大臣
之ヲ裁定シ學生ヲ命ス(三十五年勅令第百七十
九號ヲ以テ條中削除)

第十一條 學生ノ人員、入校期日其ノ他採用ニ關
スル規定ハ陸軍大臣ノヲ告達ス

第十二條 學生ノ修學期ハ第七條其ノ一ニ當ル者
ニ在リテハ概テ二箇年トシ其ノ二ニ在リテハ概
テ六箇月トス

第十三條 學生ノ名簿ハ原所管ヲ離ルルコトナシ
ト雖モ願屆其ノ他業務上ニ關スル諸件ハ總テ校
長ノ管理トス

第十四條 校長ハ各學期ノ終ニ於テ教官ヲ會シ學
生ノ修學結果及技術ヲ審査シ之ヲ陸軍大臣ニ報
告シ尚卒業學生ノ爲ニハ技術證明書並列次名簿
ヲ進達シ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ卒業證書ヲ附與
ス

第十五條 校長ハ學生入學ノ後退校若クハ滯學セシ
ムヘキ必要アリト認メタル者アルトキハ之ヲ陸
軍大臣ニ具申シ陸軍大臣之ヲ裁定シテ退校若クハ
滯學ヲ命ス

第十六條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス
トヲ得

第十七條 修學ニ所要ノ圖書、器具ハ貸與スルコ
トヲ得

第十八條 學生ノ乘馬演習ニハ陸軍砲工學校乘馬
ノ馬匹ヲ用ク

第十九條 校長ハ毎年學生ニ三週間以内ノ夏期休
暇ヲ與フルコトヲ得
附則

第二十條 當分ノ内補充上ノ必要ニ依リ本校ニ監
查講習生ヲ置ク其ノ學期ハ六箇月以内トス
本條例第十一條第十三條乃至第十八條ハ監督部
習生ニ之ヲ準用ス

第二十一條 監督講習生ハ左ノ資格ヲ備ル者ヨリ
採用ス
一、各兵科現役士官(休職、停職)ノ志願者ニシテ
試驗ニ合格シタル者但シ陸軍大學校卒業ノ
者ニハ木試驗ヲ行ハス

二、現役軍吏(休職、停職)ニシテ選拔セラレ試験
ニ合格シタル者

前二條ノ試驗ニ關シテハ本條例第九條第十條ヲ
準用ス

第二十二條 本令ハ明治三十五年二月一日ヨリ施
行ス但シ講習生採用ニ係ル事項ハ本令發布ノ日
ヨリ施行ス

現在ノ軍吏學生ハ本令發布ノ際各自原所管ニ復
歸セシメ若クハ志願ニ依リ上等計手ニ任用スルコ
トヲ得

●千住製絨所官制 (明治二十
六年十月
四十一號)

朕千住製絨所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ
シム
千住製絨所官制
第一條 千住製絨所ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ陸軍
所用ノ絨布製造ノ事ヲ掌ル
官廳又ハ人民ヨリ絨布ノ製造ヲ依頼スルトキハ
陸軍所用ノ絨布製造事業ニ妨ケナキ限リハ之ニ
應スルコトヲ得

第二條 千住製絨所ニ左ノ職員ヲ置ク(三十二年
勅令第七十九號及三十五年勅令第八十四號改正
第一條 陸軍省)

二(依ル) 一人
所長 一人
事務官 二人
技師 二人
匠師 八人
助手 十二人

第三條 所長ハ委任トス陸軍大臣ノ指揮監督ヲ承
ケ所中一切ノ事務ヲ掌理ス

第三條ノ二 事務官ハ委任トス上官ノ命ヲ承ケ所
務ヲ掌ル(三十五年勅令第八十四號ヲ以テ追加)

第四條 技師ハ所長ノ指揮監督ヲ承ケ製絨ノ事ヲ
監督ス

第五條 匠師ハ列任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從
事ス

第六條 助手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ製絨ノ事ニ從
事ス
附則
第七條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行

●陸軍糧秣廠條例 (明治三十
五年一月
十一號)

朕陸軍糧秣廠條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
陸軍糧秣廠條例
第一條 陸軍糧秣廠ハ戰用糧秣ノ調製、製造、貯
藏、補給等ノ事ヲ掌リ且糧秣ニ係ル試驗ヲ行フ
所トス

第二條 陸軍糧秣廠ハ之ヲ東京ニ置ク但シ必要ニ
際シ支廠若クハ派出所ヲ置クコトヲ得

第三條 陸軍糧秣廠ニ左ノ職員ヲ置ク
廠長
廠員
技師
下士並列任文官技手

第四條 廠長ハ陸軍大臣ニ隷シ職務ヲ總理ス
 第五條 廠員以下ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス
 附則
 本令ハ明治三十五年二月一日ヨリ施行ス
 明治三十年勅令第二十八號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●陸軍被服廠條例 (明治三十一年一月)

陸軍被服廠條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 陸軍被服廠ハ陸軍被服品ノ調辦、製造、貯藏、補給等ノ事ヲ掌リ且被服ニ係ル試驗ヲ行フ所トス
 第二條 陸軍被服廠ハ之ヲ東京ニ置ク但シ必要ニ際シ支廠若ハ派出所ヲ置クコトヲ得
 第三條 陸軍被服廠ニ左ノ職員ヲ置ク
 廠長
 廠員
 技師
 准士官下士並列任文官技師

第四條 廠長ハ陸軍大臣ニ隷シ職務ヲ總理ス
 第五條 廠員以下ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス
 附則
 本令ハ明治三十五年二月一日ヨリ施行ス

●臨時陸軍建築部官制 (明治二十九年三月)

臨時陸軍建築部官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 臨時陸軍建築部官制

第一條 臨時陸軍建築部ハ陸軍大臣ノ監督ニ屬シ兵營其ノ他ノ新設ノ臨時工事ヲ掌リ且少所屬地ヲ管轄ス但砲臺ノ建設ハ此ノ限ニ在ラス
 第二條 (三十三年勅令第二十三號ヲ以テ削除)
 第三條 臨時陸軍建築部ニ左ノ職員ヲ置ク (三十一年勅令第二百七十五號改正ニ依ル)
 部長 一人
 副部長 一人
 事務官 七人
 技師 六人
 技手 二十一人
 書記 十八人
 第四條 (三十三年勅令第二十三號ヲ以テ削除)
 第五條 部長及副部長ハ將官若クハ同相當官ヲ以テ之ヲ任シ又ハ補ス (二十九年勅令第三百四十八號ヲ以テ改正)
 第六條 事務官ハ上長官、士官若クハ同相當官ヲ以テ之ヲ任シ又ハ補ス (三十三年勅令第二十三號ヲ以テ改正)
 第七條 事務官ハ必要ノ場合ニ於テ他ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ文官任用令ノ規程ニ依ラス

(別表)

官名	官等	員數	任							
事務官	一級二千五百圓	二級二千二百圓	三級二千圓	四級千八百圓	五級千六百圓	六級千四百圓	七級千二百圓	八級千圓	九級九百圓	十級八百圓

●參謀本部條例 (明治三十二年一月)

第一條 參謀本部ハ國防及用兵ノ事ヲ掌ル所トス
 第二條 參謀總長ハ陸軍大臣若クハ陸軍中將ヲ以テ充テシム
 第三條 參謀總長ハ國防ノ計畫及用兵ニ關スル命令ヲ立案シ
 第四條 參謀總長ハ陸軍參謀將校ヲ統督シ其教育ヲ監視シ陸軍大學校、陸地測量部、陸軍文庫及在外國公使館附陸軍武官ヲ統轄ス
 第五條 參謀本部次長ハ陸軍中將若クハ陸軍少將ヲ以テ之ニ補シ參謀總長ヲ輔佐シ本部一切ノ事務ヲ整理ス
 第六條 參謀本部ノ編制ハ別ニ定ムル所ニ據ル

●陸軍參謀條例 (明治三十一年二月)

陸軍參謀條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 參謀將校ハ高等將帥ノ職務ヲ輔佐シ陸軍國防及用兵ニ關スル職務ヲ掌シ又軍隊練成ノ事務ヲ掌ル其ノ他特別ノ任務ハ各條規ノ定ムル所ニ依ル
 第二條 參謀將校ハ參謀總長之ヲ統轄シ編制ノ定ムル所ニ於テ服務セシム
 第三條 參謀ノ職ニ補スヘキ者ハ各兵科ノ大尉以上ニシテ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ選拔スヘキモノトス
 一 陸軍大學校卒業後一箇年以上陸軍勤務ニ服シタル將校ニシテ參謀總長ノ適任ト認ムル者
 二 學識才能卓越セル將校ニシテ參謀總長ノ適任ト認ムル者

第四條 參謀將校ハ進級スル毎ニ少クモ一箇年間陸軍勤務ニ服セシムルヲ例トス
 第五條 參謀將校ハ其ノ職務ニ熟達セシムル爲メ彼此交任セシムルモノトス
 第六條 參謀將校ハ毎年凡ソ二箇月間兵科ヲ選テ陸軍勤務ニ服セシムルコトヲ得
 第七條 本條例ハ明治三十一年二月十日ヨリ施行ス
 第八條 明治二十一年(五月)勅令第二十五號參謀職制ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●陸軍參謀及高等官衙副官補職ノ年限ニ關スル件

勅令 明治三十三年三月 陸軍參謀及高等官衙副官補職ノ年限ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 明治三十二年十二月陸軍大學校卒業シタル將校ハ陸軍參謀條例第三條第一項及陸軍高等官衙副官條例第三條ニ定ムル年限ニ拘ハラズ參謀若クハ高等官衙副官ノ職ニ補スルコトヲ得
 勅令 明治三十四年四月 陸軍參謀及高等官衙副官補職ノ年限ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 明治三十三年十二月陸軍大學校卒業シタル將校ハ陸軍參謀條例第三條第一項及陸軍高等官衙副官條例第三條ニ定ムル年限ニ拘ハラズ參謀若クハ高等官衙副官ノ職ニ補スルコトヲ得

●陸軍大學校條例 (明治三十四年十月)

陸軍大學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 陸軍大學校ハ才幹アル少壯士官ヲ選拔シテ高等用兵ニ關スル學術ヲ修メシメ併テ軍事研究ニ須要ナル諸科ノ學識ヲ増進セシムル所トス
 第二條 學生教育ノ實施ハ參謀總長ノ定ムル教育綱領ニ據ル
 第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク
 校長 少將
 幹事 大中佐 (高級教養ノ專任佐)
 副幹事 大尉 (官兵學教育兼勤)
 軍醫 大尉
 軍醫 大尉
 兵學教官 陸軍將官陸軍海軍佐官及陸軍軍醫
 馬術教官 少佐大尉
 教官 監督部衛生部、獸醫部上長官若ハ監督部一等軍醫一等獸醫
 陸軍教授
 下士、列任文官
 第四條 校長幹事及專任ノ兵學教官ハ參謀官トス
 第五條 校長ハ參謀總長ニ隷シテ職務ヲ總理シ幹事及諸教官ヲ統督シテ學生教育ノ實ニ任ス
 第六條 幹事ハ校長ヲ輔佐シ教育ノ實施及其ノ齊一ヲ規畫シ副官軍醫獸醫軍吏ヲ管シ校務ヲ整理シ且學生ヲ監督ス
 第七條 副官軍醫獸醫軍吏ハ校長ノ命ニ從ヒ各事務ヲ擔任ス
 第八條 兵學教官馬術教官及教官ハ校長ノ命ニ從ヒ學術ノ教授ニ任ス

少佐馬術教官ハ大尉馬術教官ヲ指揮シ校庭一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第九條 陸軍大學校學生ハ左ノ資格ヲ備フルモノニシテ選拔ス

各兵科ノ中少尉ニシテ二年以上入校當年七歳ヲ滿シテ山學校、騎兵實施學校、野戰及要塞トシテ計算ス身體強健勤務精勵學才ニ富ミ且操行高尚ニシテ將來大ニ發達ノ見込アルモノ

第十條 聯隊長 獨立隊ニ在リテハ其ノ隊長官階級ヲ前條ノ資格アルモノヲ選拔シ學生候補名簿ヲ製シ順序ヲ經テ所管長官ニ進達シ所管長官ハ之ニ意見ヲ附シ毎年一月滿日迄ニ參謀總長ニ進達ス

聯隊長ハ學生候補者選拔ニ關シテハ特ニ擔保ノ責ニ任ス

第十一條 學生候補者試驗課目並初審試驗開始ノ時日ハ參謀總長ノ移牒ニ由リ毎年十二月陸軍大臣ノヲ告達ス

第十二條 參謀總長ハ候補者ノ學力ヲ檢定スル爲ニ試驗委員ヲ設ケ校長ヲ委員長トシ以テ左ノ試驗ヲ行フ

其一 初審試驗

初審試驗ハ候補者ノ學識ヲ檢定スルモノニシテ各師管毎ニ當該師團長 近衛師團長 陸軍省各旅團長以下同シノ定ムル場所ニ所管ノ候補者ヲ集メ參謀總長若ハ參謀ノ監視下ニ在リテ各地同時ニ筆則ノ試驗ヲ行フ之ガ爲毎年三月試驗委員長ヲシテ試驗問題ニ受驗者名簿ヲ添ヘ當該師團長ニ送付セシム

初審試驗終レハ各師團長ハ解答書類ヲ綴メ直ニ試驗委員長ニ送付スルモノトス

試驗委員長ハ試驗委員ヲシテ其ノ成績ヲ調査セシメ順次名簿ヲ製シテ參謀總長ニ進達ス

其二 再審試驗

再審試驗ハ學力ノ活用ヲ檢定スルモノニシテ陸軍大學校ニ於テ之ヲ行フ

參謀總長ハ試驗委員長ノ進達セシ順次名簿ニ據リ受驗人名ヲ決定シ陸軍大臣ニ移ス陸軍大臣ハ各所管長官ヲシテ其ノ受驗者ヲ七月二十日迄ニ陸軍大學校ニ進達セシム

再審試驗終レハ各受驗者ヲ其ノ所管ニ復歸セシム

第十三條 參謀總長ハ前條ノ試驗書類及學生候補名簿ヲ參照シ入學者ヲ裁定シ之ヲ陸軍大臣ニ移シ陸軍大臣ハ之ニ入學ヲ命シ十一月盡日迄ニ陸軍大學校ニ届告セシム

第十四條 入學中學生ノ名簿ハ原所管ヲ離ルルコトナシト雖モ願屆其ノ他業務上ニ關シテハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十五條 學生ノ修學期限ハ三箇年トシ其ノ各學年ノ學期ハ十二月ニ始マリ翌年十一月ニ終ル

第十六條 校長ハ學生入學ノ後其ノ資格不適合ト認ムルコトアルトキハ參謀總長ニ具狀シ參謀總長ハ之ヲ在職シ陸軍大臣ニ移シ退學ヲ命シ原所管ニ復歸セシム

疾病ノ爲ニ缺課多キモ尙成業ノ見込アルモノニ在リテハ校長ノ上申ニ由リ參謀總長ハ之ニ留學ヲ命スルコトアルヘシ

第十七條 毎年八月ヨリ十月ニ亘リ學生ヲ各兵科ノ部隊ニ派遣シ陸軍省ヲ爲サシム陸軍省ハ通常秋季演習ヲ以テ終リト爲ス但シ陸軍大學校

ノ授業上必要ト認ムルトキハ校長ハ期ニ先テ學生ヲ召還スルコトヲ得

學生隊附勤務中ハ當該隊長ノ指揮命令ニ從フコト其ノ部下將校ニ異ルコトナシ又當該隊長ハ學生ニ對シ懲罰ヲ科スルノ權ヲ有ス

第十八條 學生隊附勤務ヲ終レハ當該隊長ハ其ノ成績ヲ校長ニ申報ス

第十九條 教育上適當ノ時機ニ於テ要塞砲兵射擊砲臺軍艦其ノ他製造所等ヲ實視セシム

第二十條 校長ハ各學期ノ終リニ於テ幹事及兵學教官ヲ會シ學生ノ修學結果及伎倆ヲ審査シ第一第二學年學生ノ爲ニハ其ノ修學結果報告ヲ第三學年學生ノ爲ニハ伎倆證明書並成績順次名簿ヲ製シ參謀總長ニ呈ス

第二十一條 學生ノ卒業者ニハ卒業證書及之ヲ表彰スヘキ徽章ヲ附與シ原所管ニ復歸セシム但シ成績不真ノモノニハ單ニ修學證書ノミヲ附與ストナラズ

第二十二條 修學ニ所要ノ圖書器具ハ貸與スルコトヲ得

第二十三條 武官教官ハ校務ニ差支ナキ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシメ若ハ機動演習ニ參與セシムルコトアルヘシ

第二十四條 校長ハ毎年學生ニ三週間以內ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

●陸地測量部條例 (明治二十七年八月七十五號)

陸地測量部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 陸地測量部ハ陸地測量ヲ施行シ兵要地圖及一般ノ用ニ充ツ可キ内國圖ヲ製造修正シ其

他最地ニ關スル事ヲ掌ル所トス

第二條 陸地測量部ニ三角科地形科及製圖科ヲ置キ各科ヲ數班ニ分チ又別ニ修技所ヲ置ク

第三條 陸地測量部ニ左ノ職員ヲ置ク(二十八年勅令第三十六號二十九年勅令第二百三號改正ニ依ル)

部長 少將或ハ各兵科大佐

事務官 各兵科少佐及尉官

材料主管 各兵科大尉

軍吏 各兵科佐官

科長 各兵科中尉或少尉

班長 各兵科少佐或少尉

班員 各兵科大中少尉或相當陸地測量師及陸地測量手

修技所幹事 各兵科大尉

修技所教官 各兵科大中少尉或相當陸地測量師

修技所助教 陸地測量手

第四條 部長ハ參謀總長ニ課シ部事ヲ整理シ及陸地測量官養成ノ責ニ任ス

第五條 事務官ハ部長ノ命ヲ受ケ部内ノ庶務ヲ掌ル其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第六條 材料主管ハ部長ノ命ヲ受ケ器具材料及圖籍ノ整理ニ任シ其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第七條 軍吏ハ部長ノ命ヲ受ケ會計一般ノ規定ニ據リ部内ノ會計物品ノ購買供給ヲ掌リ其下ニ書記或ハ陸軍屬ヲ置ク

第八條 三角科ハ量地ノ事ヲ管シ三角測量及水準測量ヲ施行シ陸測量ノ基點ヲ設ケ地形科ハ地形測量ヲ施行シテ原圖ヲ製造修正シ製圖科ハ諸

地圖ヲ製造シテ製版印刷スルヲ掌ル

第九條 修技所ハ陸地測量官ヲ養成スルノ所ニシテ測量手タル學生及生徒ヲ置ク其教授科目ハ陸地測量部長ノヲ定ム

第十條 科長ハ部長ノ指揮監督ヲ受ケ班長以下ニ職務ヲ課シ各科ノ整理ニ任ス

第十一條 科長ハ科長ノ命ヲ受ケ科内ノ庶務ヲ掌ル其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第十二條 班長ハ科長ノ命ヲ受ケ其班員以下ニ職務ヲ課シ各班ノ事務ヲ管理ス

第十三條 班員ハ上官ノ命ヲ受ケ各其業務ヲ分掌ス

第十四條 科長及班長ハ陸地測量官ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得(二十五年勅令第百號ヲ以テ本條中追加)

第十五條 修技所幹事ハ部長ノ命ヲ受ケ學生及生徒ノ養成ニ任シ所内ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士或ハ陸地測量手ヲ置ク

第十六條 修技所教官及助教ハ部長ノ命ヲ受ケ學術科ノ教授ヲ分掌ス

第十七條 修技所教官ハ定員ノ外他ニ本職アル者ヲ以テ兼勤セシメ若クハ學識アル者ヲ選ビテ之ニ囑托スルヲ得

附則(二十四年勅令第百八十九號ヲ以テ追加)

第十八條 (二十九年勅令第二百三號ヲ以テ削除)

第三款 教育總監部

●教育總監部條例 (明治三十三年四月五十七號)

勅令第百五十七號

陸軍省所管 第三款 教育總監部

陸軍省所管 第三款 教育總監部

陸地測量部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 教育總監部ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍全體教育ヲ一進歩ヲ規畫スル所トス

第二條 教育總監ハ陸軍大將若クハ陸軍中將ヲ以テ之ニ親補シ

天島ニ直轄ス

第三條 教育總監ハ各兵監ヲ統轄シ陸軍砲工學校陸軍士官學校陸軍中央幼年學校陸軍地方幼年學校陸軍戸山學校並ニ陸軍將校生徒試驗委員ヲ管轄ス

第四條 教育總監部ニ幕僚及砲工糧庫兵監部ヲ置ク

第五條 參謀長ハ教育總監ヲ輔佐シ幕僚ヲ統ヘ事務整理ノ責ニ任ス

第六條 幕僚將校及軍吏ハ參謀長ノ下ニ在リテ事務ニ服ス

第七條 騎兵監ハ各騎兵團隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍騎兵實施學校ヲ管轄ス

第八條 野戰砲兵監ハ各野戰砲兵團隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又野戰砲兵團隊ノ事ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍野戰砲兵射擊學校ヲ管轄ス

第九條 要塞砲兵監ハ各要塞砲兵隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又要塞砲兵團隊ノ事ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍要塞砲兵射擊學校ヲ管轄ス

第十條 工兵監ハ各工兵隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍

電信教導大隊ヲ管轄ス(三十五年勅令第二百七十三號ヲ以テ條中改正)

第十一條 輜重兵監ハ各輜重兵隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ資ニ任シ又本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌ル

第十二條 野戰砲兵監、要塞砲兵監及工兵監ハ砲工學校ヲ巡閱シ各本科學生ノ教育上ニ就キ意見アルトキハ之ヲ教育總監ニ具申スヘシ

第十三條 各兵監ハ主管ノ事項ニ就キ當該兵科ノ團隊ヲ檢閲シ之ニ關スル意見ヲ團隊長ニ副示シ檢閱終レハ其ノ實況ヲ教育總監ニ報告スヘシ(三十四年勅令第九十四號ヲ以テ改正)

第十四條 各兵監部員ハ各兵監ノ下ニ在リテ事務ヲ分擔ス

第十五條 教育總監部ノ編制ハ別ニ定ムル所ニ依ル

●陸軍將校生徒試驗委員條例

(明治三十一年十月)
(勅令第二百四十五號)

陸軍將校生徒試驗委員條例

陸軍將校生徒試驗委員條例ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 陸軍將校生徒試驗委員ハ將校生徒ノ召募試驗ニ任スルモノニシテ之ヲ分テ常置委員及臨時委員ニトス

第二條 常置委員ハ之ヲ教育總監部ニ置キ士官候補生、地方幼年學校生徒及一年志願兵志願者ノ召募試驗格或試驗問題其ノ他試驗ニ關スル事項ヲ調査立案シ士官候補生ノ志願書類ヲ審査シ且士官候補生及地方幼年學校生徒召募試驗ノ成績ヲ調査スルモノニシテ其ノ組織左ノ如ク(三十二年勅令第二百四十五號)

三年勅令第三百十五號ヲ以テ全條改正)

常置委員長

常置委員

第三條 常置委員長及委員ハ他ニ本職アル者ヲ以テ兼補シ主事ハ之ニ兼補ス但シ主事ニハ豫備後備役ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得(同上)

第四條 常置委員長ハ教育總監ニ對シ委員以下ヲ統督シ試驗ノ事ニ關シテハ教育總監ニ對シ責任ス

第五條 常置委員ハ試驗問題ノ起案或ニ試驗成績ノ調査ヲ分擔ス

第六條 常置委員主事ハ試驗ニ關スル一切ノ事務ヲ處理シ委員長ニ對シ事務整理ノ責任ス

第七條 常置委員主事ノ下ニ書記トシテ列任文官ヲ置ク(三十二年勅令第三百十五號ヲ以テ全條改正)

第八條 教育總監ハ常置委員長ノ具申ニ依リ常置委員ノ外所管ノ將校同相當官陸軍教授列任文官ヲシテ試驗事務ヲ補助セシムルコトヲ得

第九條 臨時委員ハ各檢査場ニ就キ試驗ヲ實施スルモノニシテ其都度各團隊長部下將校團長若クハ佐官中ヨリ所要ノ人員ヲ選ニテ之ヲ命ス

臨時委員ハ試驗實施ノ事ニ關シテハ團長ニ對シ責任ス但第一團團長ハ近衛師團長ニ協同シ近衛師團ノ將校團長若クハ佐官若干ヲ臨時委員ニ加フルコトヲ得(三十二年勅令第五十七號ヲ以テ條中追加)

第十條 團團長ハ前條臨時委員ノ外受驗者ノ數ニ應ジ部下大中尉ニ命シ試驗ノ事務ヲ補助セシムルコトヲ得但第一團團長ハ近衛師團長ニ協同シ近衛師團ノ大中尉若クハ補助員ニ加フルコトヲ得

●陸軍砲工學校條例

(明治三十一年十月)
(勅令第二百二十五號)

得(同上)

第十一條 臨時委員ハ書記トシテ准士官下士若干ヲ使用スルコトヲ得

第十二條 師團長ハ試驗實施ノ事ニ關シテハ教育總監ニ對シ責任ス(三十二年勅令第三百十五號ヲ以テ條中改正)

陸軍砲工學校條例

陸軍砲工學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 陸軍砲工學校ハ砲工兵科ノ少尉ヲ以テ學生トシ砲工兵各科ノ勤務ニ必要ナル學術ヲ教授スル所トス但少尉ニシテ入學シ得サル者ハ中尉又ハ大尉ニ進級ノ後ニ在テモ學生ト爲スコトヲ得

第二條 學生教育ノ綱領ハ教育總監之ヲ定ム(三十二年勅令第二百三十三號ヲ以テ條中刪除)

第三條 學生教育ノ實施ハ教則ニ依リ該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ得ク之ヲ定ム

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク(三十五年勅令第二百七十四號ヲ以テ條中刪除)

校長

副校長

副官

教官

軍醫

副監

下士、列任文官

第五條 校長ハ教育總監ニ對シ校務ヲ總理シ學生

●陸軍士官學校條例

(明治三十一年十月)
(勅令第二百二十六號)

教育ノ資ニ任ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 砲工兵科教官ハ軍事學各科ノ授業ヲ分擔シ高級校級ノ教官ヲ以テ各科ノ科長トス

第八條 馬術教官ハ學生ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校廠一切ノ事務ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第九條 文官教官ハ數學物理學化學圖學及外國語學ノ授業ヲ分擔ス

第十條 學生ノ修學期ハ概シ一箇年トシ之ヲ普通科ト稱ス

第十一條 前條修學ヲ終リタル學生中ヨリ各兵科毎ニ三分ノ一以內ヲ選拔シ更ニ一箇年在學セシメ尙須要ナル學術ヲ修メシム之ヲ高等科ト稱ス

第十二條 學生ノ人員及入校期日ハ其時々教育總監之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス(三十三年勅令第二百十三號ヲ以テ條中改正)

第十三條 (三十五年勅令第七十四號ヲ以テ刪除)

第十四條 學生ハ校外ニ居住セシメ修學ニ所要ノ馬匹、馬具、書籍、器具、消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトヲ得(三十四年勅令第三號ヲ以テ條中改正)

第十五條 學生中ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十六條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第十七條 學生中疾病及其他ノ事故ニ依リ修學ノ目的ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ退校セシム

第十八條 普通科學生中左ノ事項ニ該ル者ハ校長其事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ退校セシム

一 疾病及其他ノ事故ニ依リ修學期內ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者

二 卒業試驗ヲ受ケ得サル者

三 卒業試驗ニ落第セシ者

第十九條 高等科學生ニシテ前條第一項第二項ニ該ル者アルトキハ校長ハ教育總監ノ認可ヲ請ケ退學ヲ命スルコトヲ得

第二十條 校長ハ修學期末ニ於テ學生ノ卒業試驗ヲ施行シ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ修學ノ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス

第二十一條 高等科卒業者中若干名ヲ選ニテ員外學生トナシ更ニ必要ナル科學ヲ研究セシメ又ハ外國駐在員トシテ發遣スル事ヲ得其在學又ハ駐在期限等ハ教育總監陸軍大臣ト商議シテ之ヲ定ム(三十五年勅令第七十四號ヲ以テ改正)

第二十二條 卒業證書ヲ附與シタル者ノ中更ニ高等科若クハ員外學生トシテ在學スル者及野戰要塞各砲兵射擊學校乙種學生トシテ入校ヲ命セラレタル者ノ外ハ校長直ニ之ヲ歸隊セシム(同上)

第二十三條 普通科學生ニシテ退校ヲ命セラレタル者ハ隊長ノ上申ニ依リ教育上便宜ノ時期ニ於テ再ヒ入學ヲ命スルモノトス

第二十四條 滯學若クハ再入學ヲ命セラレタル學生修學ヲ終レハ第二十條ニ準シ卒業證書ヲ附與ス

第二十五條 普通科學生ニシテ前條卒業試驗ニ落第セシトキハ歸隊自習ノ上隊長ノ上申ニ依リ更ニ試驗ヲ受クシメ及第者ニハ卒業證書ヲ附與シ尙落第シタル者ハ特別ノ檢査ニ附ス

第二十六條 毎年學生ニ三週間以內ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

●陸軍士官學校條例

(明治三十一年十月)

第三款 教育總監部

陸軍士官學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 陸軍士官學校ハ陸軍各兵科士官候補生ヲ以テ生徒ト爲シ初級士官タルニ必要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其綱領ハ教育總監之ヲ定ム(三十三年勅令第二百十四號ヲ以テ條中刪除)

第三條 生徒教育ノ實施ハ教則ニ依リ該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ之ヲ定ム

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 少將大佐

副官 大中尉

教官 中少佐、大中尉、軍醫、獸醫、陸軍教授、陸軍助教

生徒隊長 中少佐

生徒隊中隊長 大尉

生徒隊附 中尉

軍醫 獸醫

准士官、下士、列任文官

第五條 校長ハ教育總監ニ對シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ資ニ任ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 軍事學教官ハ軍事學各科ノ授業ヲ分擔シ佐官教官ヲ以テ各科ノ科長トス

第八條 馬術教官ハ生徒ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校

第一條 一切ノ事務ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第九條 文官教官ハ外國醫學ノ授業ヲ分擔ス

第十條 生徒隊長ハ生徒隊ヲ統ヘ生徒ノ訓育ヲ監督シ各中隊長ヲシテ擔任ノ訓育ニ任セシメ校長ニ對シ齊一進歩ノ責ニ任ス

第十一條 中隊長ハ生徒隊附士官ヲ指揮シ中隊長徒ノ訓育ヲ擔任シ其成績ニ就テハ專ラ擔保ノ責ニ任ス

第十二條 生徒隊附士官生徒隊附ノ諸科目ヲ分擔シ日當生徒ノ躬行ヲ監視シ分擔ノ訓育ニ就テハ其責ニ任ス

第十三條 生徒ノ修學期ハ毎年十二月一日ヨリ翌年十一月下旬ニ至ル十二月月トス

第十四條 生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル

第十五條 生徒入校中ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十六條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第十七條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

一 學術ノ豫習全カラスシテ實際修學ノ識力ニ乏シク卒業ノ前途ナキ者

二 軍紀ヲ紊リ又ハ廢法則ヲ犯ス者

三 品行不正ニシテ改後ノ前途ナキ者

四 傷疾疾病ニ依リ修學ニ堪ヘサル者

五 卒業試驗ニ落第セシ者

第十八條 前條第一第四及第五項ニ該當シ退校セシメ士官候補生ニシテ尙望ミアル者ハ次ノ學期ニ於テ再ヒ入校セシムルコトヲ得

第十九條 生徒中疾病及其他ノ事故ニ依リ修學期內ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者又ハ卒業試驗ヲ受ケ得サル者ハ留學ヲ命スルコトヲ得

第二十條 本條例第十七條及第十九條ニ該ル者アルトキハ校長其事由ヲ具シ教育總監ニ上申シ教育總監之ヲ裁定ス

育總監之ヲ裁定處分ス

第二十一條 生徒修學期末ニ至レハ校長ハ卒業試驗規格ヲ撰シ教育總監ニ上申ス教育總監ハ之ヲ裁定シ校長ヲシテ卒業試驗ヲ行ハシム

第二十二條 卒業試驗ヲ終レハ校長ハ各教官生徒隊長及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス

第二十三條 卒業證書ヲ附與シタル者ニハ校長直ニ歸隊ヲ命ス

第二十四條 留學ヲ命セラレタル生徒修學ヲ終レハ前條ニ準シテ取扱フモノトス

第二十五條 生徒ニハ三週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

第二十六條 教官、中隊長及生徒隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ附屬勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

陸軍戸山學校條例 (明治三十一年十月二十七日)

陸軍戸山學校條例

第一條 陸軍戸山學校ハ學生ニ戰術、射擊、體操並劍術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進歩ヲ圖リ常ニ諸科學術ノ調査研究ヲ爲シ且攜帶火兵ノ研究及試驗ヲ行フ所トス

第二條 學生ヲ分テ左ノ三種トス

一 戰術科學生ハ歩兵大中尉ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ步兵少尉或ハ要塞砲兵及工兵士官ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

可テ請ケ士官ニ在テハ修業證明書ヲ作リ署名捺印シ下士ニ在テハ考科列序表ヲ製シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ又下士ニハ更ニ學術修業ノ證書ヲ附與シ學生ヲ歸隊セシム

第十七條 教導大隊ハ分遣ノ下士ハ現尙二箇年以上ノ期アル者兵卒ハ前年十二月入營ノ者中ヨリ撰拔スヘシ(三十三年勅令第三百四十五號ヲ以テ條中改正)

第十八條 教導大隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシメ分遣中ハ特別ノ徵率ヲ附セシム

第十九條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ附屬勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第二十條 演習上ノ必要ニ依リ砲工學校校尉ヲ使川スルコトヲ得

二 射擊科學生ハ歩、騎、砲、工、輜重兵士官ヲ以テ之ニ充ツ(三十三年勅令第三百四十五號ヲ以テ本號改正)

三 體操劍術科學生ハ歩、騎、砲、工、輜重兵士官及下士ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 戰術及射擊研究ノ爲メ時トシテ教官ヲ召集スルコトヲ得但修學期日ハ其時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告送ス(三十三年勅令第三百四十五號ヲ以テ條中改正)

第四條 學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導大隊ヲ置キ步兵隊ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク(三十五年勅令第三百七十五號ヲ以テ條中改正)

校長

副官

教導大隊長

教導大隊副官

教導大隊中隊長

軍醫

副監督

准士官、下士、列任文官

第六條 校長ハ教育總監ニ據シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任シ陸軍軍樂學校ヲ管轄ス(三十三年勅令第三百四十四號ヲ以テ但書削除)

第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第八條 教官ハ戰術、射擊並體操劍術科學術ノ授業ヲ分擔シ且其各科ニ於ケル學術ノ調査研究並攜帶火兵ノ研究及試驗ニ任シ各科中高級教授ノ教官ヲ以テ科長トス(三十三年勅令第三百四十四號ヲ以テ條中改正)

五號ヲ以テ條中改正)

第九條 教導大隊ノ大隊長以下ノ職務ハ軍隊內務ノ定期ヲ適用ス

第十條 學生ノ修學期左ノ如シ

戰術科學生ハ概テ四箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシム

射擊科學生ハ歩兵ニ在リテハ概テ四箇月其他ノ兵科ニ在リテハ概テ二箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシム

體操劍術科學生ハ概テ七箇月トシ毎年一回入校セシム(三十三年勅令第三百四十五號ヲ以テ全條改正)

第十一條 學生ノ人員及入校期日ハ其時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告送ス(同上ヲ以テ條中改正)

第十二條 學生分遣ノ告送アレハ師團長ハ隊長ヲシテ各科ノ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日前ニ其人名ヲ戸山學校長ニ通報セシムヘシ(三十五年勅令第七十五號ヲ以テ條中改正)

第十三條 學生士官ハ校外ニ同下士ハ校内ニ居住セシメ修學ニ必要ノ兵器、彈藥、書籍、器具、消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

但下士學生ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシム

第十四條 學生中ノ願願其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十五條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サスト雖モ疾病及其他ノ事故ニ依リ學術修得ノ前途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ退校セシム

第十六條 校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ教育總監ノ認可ヲ請ケ之ヲ裁定ス

陸軍中央幼年學校條例 (明治三十一年十月二十七日)

陸軍中央幼年學校條例

第一條 陸軍中央幼年學校ハ陸軍地方幼年學校卒業者ヲ以テ生徒ト爲シ地方幼年學校ノ教育ニ連繫シ士官候補生タルニ必要ナル普通學科及軍人ノ豫備教育ヲ爲シ陸軍各兵科士官候補生ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其綱領ハ教育總監之ヲ定ム(三十三年勅令第二百十五號ヲ以テ條中刪除)

第三條 生徒教育ノ實施ハ教則ニ依リ該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ之ヲ定ム

可テ請ケ士官ニ在テハ修業證明書ヲ作リ署名捺印シ下士ニ在テハ考科列序表ヲ製シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ又下士ニハ更ニ學術修業ノ證書ヲ附與シ學生ヲ歸隊セシム

第十七條 教導大隊ハ分遣ノ下士ハ現尙二箇年以上ノ期アル者兵卒ハ前年十二月入營ノ者中ヨリ撰拔スヘシ(三十三年勅令第三百四十五號ヲ以テ條中改正)

第十八條 教導大隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシメ分遣中ハ特別ノ徵率ヲ附セシム

第十九條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ附屬勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第二十條 演習上ノ必要ニ依リ砲工學校校尉ヲ使川スルコトヲ得

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

教導大隊長

教導大隊副官

教導大隊中隊長

軍醫

副監督

准士官、下士、列任文官

第五條 校長ハ教育總監ニ據シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任シ東京陸軍地方幼年學校ヲ管轄ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 馬術教官ハ生徒ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校庭一切ノ事務ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第八條 文官教官ハ各學科ノ授業ヲ分擔ス

教官中適任者一名ヲ選テ教頭ト爲シ教授部全般ノ授業ヲ監視シ校長ニ對シ齊一進歩ノ責ニ任セシム

第九條 中隊長ハ中隊附士官ヲ指揮シ中隊生徒ノ訓育ヲ擔任シ軍人精神ヲ涵養シ生徒ヲシテ軍紀ニ慣熟セシメ其成績ニ就テハ專ラ擔保ノ責ニ任セシム

第十條 中隊附士官ハ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ日當生徒ノ躬行ヲ監視シ自ら模範ト爲リテ之ヲ指導シ分擔ノ訓育ニ就テハ其責ニ任ス

第十一條 生徒ノ修學期ハ九月一日ヨリ翌年五月下旬ニ至ル十一月月トシ之ヲ二年ニ分テ各學年ハ毎年九月一日ヨリ開始ス

第十二條 生徒ノ修學ニ必要ノ器具及圖書等ハ貸與又ハ支給スルコトヲ得(三十二年勅令第八

十八號ヲ以テ追加以下各條順次繰下)
 第十三條 陸軍地方幼年學校條例第十二條乃至第十八條ノ規定ハ本校生徒ノ爲メニモ亦之ヲ適用ス(同上勅令改正ニ依ル)
 第十四條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス
 第十五條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム
 一 學術ノ修得全カラスシテ卒業ノ日途ナキ者
 二 軍紀ヲ紊リ又ハ曠法則ヲ犯ス者
 三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者
 四 傷疾疾病ニ依リ修學ニ堪ヘサル者
 五 卒業試驗ニ落第セシ者
 第十六條 生徒中各學年ニ於テ所定ノ學術ヲ修メ得サル者或ハ疾病等ニ依リ卒業試驗ヲ受ケ得サル者又ハ卒業試驗ニ落第セシ者ト雖モ尙留シアル者ハ留學ヲ修メテ爲サシメタル後ト卒業セシメ又ハ一學年延期修學セシムルコトヲ得但留學日數ハ士官候補生教育ニ支障ナキ程度トシ又延期ハ全學期ヲ通シテ一回限リトス
 第十七條 生徒中卒業試驗ニ及第スルモ傷疾疾病等ニテ士官候補生ト爲スヲ得サル者ニハ單ニ卒業證書ヲ附與シテ退校セシム
 第十八條 前三條ニ該ル者アルトキハ校長其事由ヲ具シ教育總監ニ上申シ教育總監之ヲ裁定處分ス
 第十九條 生徒修學期末ニ至レハ校長ハ卒業試驗規格ヲ撰シ教育總監ニ上申ス教育總監ハ之ヲ裁定シ校長ヲシテ卒業試驗ヲ行ハシム
 第二十條 卒業試驗ヲ終レハ校長ハ各教官及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ成績ヲ調査シ考列順序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス
 第二十一條 教育總監ハ前條卒業者中士官候補生

トナスヘキ者ヲ定メ之ニ士官候補生ヲ命シ各隊ニ配賦ス(三十三年勅令第二百十五號ヲ以テ條中改正)
 前項士官候補生ヲ命セラレタル生徒ニハ入隊前ニ於テ一週間以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得
 第二十二條 留學ヲ命セラレタル生徒補修終レハ前條條ニ準シテ取扱フモノトス
 第二十三條 毎年生徒ニ五週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得
 第二十四條 教官、中隊長及中隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ
 附則
 第二十五條 明治三十二年前入學ノ本校生徒ハ其卒業ニ至ル迄本條例第十一條及第十三條ノ規定ハ左ノ各條ニ據リ取扱フ
 第二十六條 生徒修學期ハ概シ三箇年トシ各學年ハ每年九月ニ始メ而シテ第三年ニ在リテハ五月ニ終ル
 第二十七條 生徒ハ官費、半官費、自費ノ三種ニ分ツ
 官費生徒ハ一切ノ經費ヲ官給シ且手當金ヲ給ス半官費生徒ハ小被服、燃料ノ經費自費生徒ハ被服、糧食一切ノ經費ヲ納メシム其金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム
 第二十八條 戦死又ハ公務ノ爲メ死亡シタル高等官ノ孤兒ハ官費生徒トス
 第二十九條 前條ノ外官費、半官費、自費生徒ノ區分ハ教育總監之ヲ裁定ス

●陸軍地方幼年學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 陸軍地方幼年學校條例
 第一條 陸軍地方幼年學校ハ陸軍將校ニ出身志願ノ者ヲ選抜シテ生徒ト爲シ軍事上ノ必要ヲ顧慮シテ普通學科ヲ教授シ軍人精神ヲ涵養シ陸軍中央幼年學校生徒ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス
 第二條 陸軍地方幼年學校ハ左ノ六箇所ニ置ク
 東京 仙臺 名古屋 大阪
 熊本
 第三條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其綱領ハ教育總監之ヲ定ム(三十三年勅令第二百十六號ヲ以テ條中削除)
 第四條 生徒教育ノ實施ハ教則ニ依リ該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長ヲ具シ教育總監ニ上申シ(東京陸軍地方幼年學校長ニ在リテハ陸軍中央幼年學校長ヲ經由ス以下做之)教育總監之ヲ裁定ス
 第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク
 校長 少佐
 副官 中尉
 教官 陸軍教授、陸軍助教
 生徒監 大中尉
 軍醫
 軍吏
 下士、列任文官
 校長以下將校同相當官及下士ハ豫備後備役ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得其身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ
 第六條 校長ハ教育總監(東京陸軍地方幼年學校長ハ陸軍中央幼年學校長)ニ建議シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル
 第八條 教官ハ各學科ノ授業ヲ分擔ス
 教官中適任者一名ヲ選テ教頭ト爲シ教授部全體ノ授業ヲ監視シ校長ニ對シ齊一進歩ノ實ニ任セシム
 第九條 生徒監ハ生徒ノ訓育ヲ擔任シ軍人精神ヲ涵養シ日常其射行ヲ監視シ自ラ模範ト爲リテ之ヲ指導シ其成績ニ就テハ專ラ擔保ノ責ニ任ス
 第十條 生徒ノ修學期ハ九月一日ヨリ第四年ノ八月下旬ニ至ル三十六箇月トシ之ヲ三學年ニ分チ各學年ハ每年九月一日ヨリ開始ス
 第十一條 生徒ノ修學ニ所要ノ器具及圖書等ハ費典又ハ支給スルコトヲ得(三十二年勅令第二百十九號ヲ以テ追加以下順次繰下)
 第十二條 生徒ハ總テ校中ニ寄宿セシム
 生徒ハ入學中被服、糧食其他ノ費用トシテ若干ノ納金ヲ爲スモノトス之ヲ自費生ト稱ス
 第十三條 生徒中左ノ各項ニ該ル者ハ列記ノ順序ニ從ヒ資產ヲ願慮シ若干名ヲ限リテ特ニ納金ノ全額ヲ免除スルコトヲ得之ヲ特待生ト稱ス
 一 戦死及戦傷ニ依リ死没シ又ハ戦役中危難ヲ冒シタルニ起因シテ死没シタル陸軍將校及同相當官並ニ高等文官ノ孤兒
 二 現職中公務ノ爲メニ死没シタル陸軍將校及同相當官ノ孤兒
 三 増加恩給權ヲ得タル陸軍將校及同相當官ノ孤兒
 四 恩給權ヲ得タル陸軍將校及同相當官ノ孤兒
 五 特ニ國家ニ功勞アル高等官ノ孤兒
 第十四條 生徒中左ノ各項ニ該ル者ハ列記ノ順序ニ從ヒ資產ヲ願慮シ若干名ヲ限リテ特ニ納金ノ

内箱、日帳、被服(肩章共)、夏衣袴、外套及袴料ヲ免除スルコトヲ得之ヲ半特待生ト稱ス但前條ノ各項ニ該ル者ノ内特待生ト爲ササル者ハ之ヲ半特待生ト爲スコトヲ得(三十三年勅令第八號ヲ以テ條中改正)
 一 現職ニ在リ陸軍將校及同相當官ノ兒子
 二 恩給權ヲ得タル陸軍將校及同相當官ノ兒子
 三 陸軍少佐及同相當官ニ名譽進級ヲ爲シタル者ノ兒子
 第十五條 家督相續者タル養子ハ前二條中ノ孤兒或ハ兒子ニ準ス
 第十六條 特待生半特待生ト爲スヘキ人員及其區分ハ教育總監陸軍大臣ニ協議シテ之ヲ定ム(三十三年勅令第二百十六號ヲ以テ條中改正)
 第十七條 本條令中孤兒及兒子ハ地テ同戸籍内ニ現在スルモノニ限リ又一家ヨリ重複シテ特待ヲ受クルヲ得サルモノトス
 第十八條 特待生、半特待生及自費生ノ納金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム
 第十九條 生徒中止ムヲ得サル事故アリテ退校ナル者アルトキハ其事情ニ依リ之ヲ許スコトアルヘシ
 第二十條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム
 一 學術ノ修得全カラスシテ卒業ノ日途ナキ者
 二 曠法則ヲ犯シ又ハ品行不正ニシテ改悛ノ日途ナキ者
 三 傷疾疾病ニ依リ修學ニ堪ヘサル者
 四 卒業試驗ニ落第セシ者
 第二十一條 生徒中各學年ニ於テ所定ノ學科ヲ修メ得サル者或ハ疾病等ニ依リ卒業試驗ヲ受ケ得サル者又ハ卒業試驗ニ落第セシ者ト雖モ尙留シ

●陸軍騎兵實施學校條例
 (明治三十一年十月勅令第二百三十號)
 陸軍騎兵實施學校條例
 第一條 陸軍騎兵實施學校ハ學生ニ戰術及馬術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進歩ヲ圖リ常ニ諸科學術ノ調査研究ヲ爲シ且乘馬具及馬匹器具ノ研究並ニ試驗ヲ行フ所トス
 第二條 學生ヲ分チ左ノ二種トス
 一 戰術科學生ハ騎兵大中尉ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ少尉ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

二 馬術科學生ハ騎兵中少尉及下士ヲ以テ之ニ充テ但時トシテ野戰砲兵、要塞砲兵、輜重兵士官及下士ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ(三十五年勅令第二百六十六號ヲ以テ本號中道加)

第三條 戰術研究ノ爲メ時トシテ佐官ヲ召集スルコトヲ得但修學期日ハ其時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告送ス(三十三年勅令第三百四十六號ヲ以テ條中改正)

第四條 學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導中隊ヲ置キ騎兵隊ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク(三十五年勅令第三百七十六號ヲ以テ條中改正)

校長
副官
教官
教導中隊長
教導中隊附
廠長
調馬手長
軍醫
獸醫
副監督
准士官、下士、判任文官

第六條 校長ハ騎兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ實ニ任ス(三十三年勅令第三百四十六號ヲ以テ條中改正)

第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第八條 教官ハ戰術及馬術科學ノ授業ヲ分擔シ且其各科ニ於ケル學術ノ調査研究並馬具及馬匹器具ノ研究及試驗ニ任シ高級故參ノ教官ヲ以テ之ヲ充テシム

テ各科ノ科長トス

第九條 廠長ハ校庭一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ニ任ス

第十條 調馬手長ハ廠長ニ隸シ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第十一條 教導中隊ノ中隊長以下ノ服務ハ軍隊内務ノ定則ヲ適用ス

第十二條 學生ノ修學期ハ各科トモ概テ十一月トス但修學ヲ終リタル馬術科騎兵士官學生中ヨリ若干名ヲ選抜シテ更ニ概テ一箇年在學セシメ尙須要ナル學術ヲ習修セシムルコトヲ得(三十五年勅令第二百六十六號ヲ以テ但書追加)

第十三條 學生ノ人員及入校期日ハ其時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告送ス(三十三年勅令第三百四十六號ヲ以テ條中改正)

第十四條 學生分遣ノ告送アレハ師團長ハ隊長ヲシテ各科ノ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日目前ニ其人姓名ヲ騎兵實施學校長ニ通報セシムヘシ(三十五年勅令第三百七十六號ヲ以テ條中改正)

第十五條 學生士官ハ校外ニ同下士ハ校内ニ居住セシメ修學ニ必要ノ兵器、馬具、書籍、器具、消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ但下士學生ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシム

第十六條 學生中ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十七條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サスト雖モ疾病及其他ノ事故ニ因リ學術修得ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ野戰砲兵監ノ認可ヲ請ク退校セシム

第十八條 校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議シ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ野戰砲兵監ノ認可ヲ請ク修得證明書ヲ作り署名捺印シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ學生ヲ歸隊セシム

第十九條 校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議シ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ野戰砲兵監ノ認可ヲ請ク修得證明書ヲ作り署名捺印シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ學生ヲ歸隊セシム

シ下士ニ在テハ考科列序表ヲ製シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ又下士ニハ更ニ學術修業ノ證書ヲ附與シ學生ヲ歸隊セシム

第十九條 教導中隊ハ分遣ノ下士ハ現役尙二箇年以上ノ期アル者兵卒ハ前年十二月入營ノ者中ヨリ選抜スヘシ(三十三年勅令第三百四十六號ヲ以テ條中改正)

第二十條 教導中隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、馬具、被服、裝具ヲ携行セシメ分遣中ハ特別ノ徵章ヲ附セシム

第二十一條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

附則

第二十二條 當分ノ内必要ニ應ジ學生ノ修學期ヲ短縮シ及戰術科學生ヲ一箇年二回召集スルコトヲ得

第二十三條 陸軍乘馬學校條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●陸軍野戰砲兵射擊學校條例
(明治三十一年十月勅令第二百三十一號)

陸軍野戰砲兵射擊學校條例

第一條 陸軍野戰砲兵射擊學校ハ學生ニ野戰砲兵ノ射擊及戰術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進歩ヲ圖リ常ニ射擊及戰術ノ調査研究ヲ爲シ且野戰砲兵材料ノ研究及試驗ヲ行フ所トス

第二條 學生ヲ分テ左ノ二種トス(三十三年勅令第三百四十七號ヲ以テ全條改正)

甲種 各野戰砲兵隊ヨリ分遣スル大中尉學生
乙種 砲工學校卒業ノ上入校スル少尉學生

第三條 前條ノ外時トシテ佐官ヲ召集シ所要ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得但修學期日ハ其時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告送ス(三十三年勅令第三百四十七號ヲ以テ條中改正)

第四條 學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導大隊ヲ置キ野戰砲兵隊ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク(三十五年勅令第三百七十七號ヲ以テ條中改正)

校長
副官
教官
教導大隊長
教導大隊副官
教導大隊中隊長
軍醫
獸醫
副監督
准士官、下士、判任文官

第六條 校長ハ野戰砲兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ實ニ任ス(三十三年勅令第三百四十七號ヲ以テ但書削除)

第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第八條 教官ハ各學術科ノ授業ヲ分擔シ且野戰砲兵ニ關スル學術、材料ノ調査研究及試驗ニ任ス

第九條 教導大隊ノ大隊長以下ノ服務ハ軍隊内務ノ定則ヲ適用ス

第十條 學生ノ修學期左ノ如シ

甲種學生ハ概テ三箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシム

乙種學生ハ概テ二箇月トシ甲種學生ノ修學期中

ニ併セテ入校セシム(三十三年勅令第三百四十七號ヲ以テ全條改正)

第十一條 學生ノ人員及入校期日ハ其時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告送ス但シ砲工學校卒業ノ上直ニ入校スル學生ニ在リテハ教育總監之ヲ命ス(三十三年勅令第三百四十七號ヲ以テ條中改正)

第十二條 學生分遣ノ告送アレハ師團長ハ隊長ヲシテ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日目前ニ其人姓名ヲ野戰砲兵射擊學校長ニ通報セシムヘシ(三十五年勅令第三百七十七號ヲ以テ條中改正)

第十三條 學生ハ校外ニ居住セシメ修學所要ノ兵器、彈藥、馬具、書籍、器具ハ貸與スルコトヲ得

第十四條 學生中ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十五條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サスト雖モ疾病及其他ノ事故ニ因リ學術修得ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ野戰砲兵監ノ認可ヲ請ク退校セシム

第十六條 校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議シ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ野戰砲兵監ノ認可ヲ請ク修得證明書ヲ作り署名捺印シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ學生ヲ歸隊セシム

第十七條 教導大隊ハ分遣ノ下士ハ現役尙二箇年以上ノ期アル者兵卒ハ前年十二月入營ノ者中ヨリ選抜スヘシ(三十三年勅令第三百四十七號ヲ以テ條中改正)

第十八條 教導大隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシメ分遣中ハ特別ノ徵章ヲ附セシム

第十九條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

●陸軍要塞砲兵射擊學校條例
(明治三十一年十月勅令第二百三十二號)

陸軍要塞砲兵射擊學校條例

第一條 陸軍要塞砲兵射擊學校ハ學生ニ要塞砲兵ノ射擊及戰術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進歩ヲ圖リ且要塞電燈使用員ニ電燈使用術ヲ教育シ射擊及戰術ノ調査研究ヲ爲シ要塞砲兵材料ノ研究及試驗ヲ行フ所トス(三十三年勅令第三百九十五號三十五年勅令第二百三十五號ヲ以テ條中改正)

第二條 學生ヲ分テ左ノ三種トス(三十五年勅令第二百三十五號ヲ以テ全條改正)

甲種 各要塞砲兵隊ヨリ分遣スル大中尉
乙種 砲工學校卒業ノ上入校スル大中尉
丙種 要塞電燈使用員ニ充ツル爲メ各要塞砲兵隊ヨリ分遣スル下士兵卒

第三條 前條ノ外時トシテ佐官ヲ召集シ所要ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得但修學期日ハ其時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告送ス(三十三年勅令第三百四十八號ヲ以テ條中改正)

第四條 甲種及乙種學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導大隊ヲ置キ要塞砲兵隊ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス(三十二年勅令第三百九十五號ヲ以テ第四條、第五條、第十一條、第十二條及第二十一條乃至第二十九條ヲ削除シ第六條ヲ第四條ニ改メ以下順次繰上ク三十五年勅令第二百三十五號ヲ以テ第四條中改

第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク(三十三年勅令第三百四十八號ヲ以テ全條改正三十五年勅令第三百七十八號及第三百三十五號ヲ以テ條中改正)

- 校長
副官
教官
教導大隊長
教導大隊副官
教導大隊中隊長
教導大隊附

副監
准士官、下士、列任文官

第六條 校長ハ要塞砲兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス(三十三年勅令第三百四十八號ヲ以テ條中改正)

第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第八條 教官ハ學生學術科ノ授業ヲ分擔シ且要塞砲兵ニ關スル學術、材料ノ調査研究及試驗ニ任ス

第九條 教導大隊ノ大隊長以下ノ服務ハ軍隊內務ノ定期ヲ適用ス(三十三年勅令第三百四十八號ヲ以テ條中改正)

第十條 學生修業期左ノ如シ(三十三年勅令第三百四十八號ヲ以テ全條改正三十五年勅令第三百三十五號ヲ以テ第三項追加)

甲種學生ハ概テ三箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシム
乙種學生ハ概テ二箇月トシ毎年一回ニ入校セシム

丙種學生ハ概テ一箇年トシ毎年一回ニ入校セシム但修業期ハ場合ニ依リ陸軍大臣教育總監協議ノ上伸縮スルコトヲ得

第十一條 學生ノ人員及入校期日(丙種學生ニ在リテハ概テ四月)ハ其時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス但砲工學校卒業ノ上直ニ入校スル學生ニ在リテハ教育總監之ヲ命ス(同上ヲ以テ條中改正)

第十二條 學生分道ノ告達アレハ師團長ハ隊長ヲシテ修業ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日前ニ其人ノ名ヲ要塞砲兵射擊學校長ニ通報セシムヘシ但丙種學生中下士ハ現役尙二箇年以上ノ期アル者兵卒ハ前年十二月八日ヲ中ヨリ選拔スヘシ(三十五年勅令第三百七十八號及第三百三十五號ヲ以テ條中改正)

第十三條 甲種及乙種學生ハ校外ニ丙種學生ハ校内ニ居住セシム修業ニ要スル兵器、彈藥、馬匹、馬具、書籍、器具ハ貸與若ハ支給スルキトナリ得

丙種學生ノ武器、被服、裝具ハ所屬隊ヨリ之ヲ携行セシム(三十五年勅令第三百三十五號ヲ以テ全條改正)

第十四條 學生中ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十五條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サスト雖モ疾病及其他ノ事故ニ依リ學術修得ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ要塞砲兵監ノ認可ヲ請ケ退校セシム

第十六條 校長ハ學生ノ修業期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議シ開キ學生修業ノ成績ヲ調査シ要塞砲兵監ノ認可ヲ請ケ下士兵卒ニ在リテハ修得證明書ヲ作り署名捺印シ下士兵卒ニ在リテハ考科列序表ヲ製シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ又

下士兵卒ニハ更ニ學術修業ノ證書ヲ付與シ學生ヲ歸隊セシム(三十五年勅令第三百三十五號ヲ以テ全條改正)

第十七條 教導大隊(分道ノ下士ハ現役尙二箇年以上ノ期アル者兵卒ハ前年十二月八日ヲ中ヨリ選拔スヘシ(三十三年勅令第三百四十八號ヲ以テ改正)

第十八條 教導大隊(分道ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシム分道中ハ特別ノ徵章ヲ附セシム(同上ヲ以テ條中改正)

第十九條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ(三十三年勅令第三百九十五號ヲ以テ條中改正)

陸軍軍樂學校條例 (明治三十一年三月)

陸軍軍樂學校條例

第一條 陸軍軍樂學校ハ各軍樂隊ノ樂手補ヲ補充スル爲メ生徒ヲ養成シ又譜調學生ニ鼓譜喇叭譜ノ訓練ヲ爲シ且軍樂學術ノ進歩ヲ助ル所トス

第二條 生徒ハ華士族平民中軍樂部ニ出身志願ノ者ヲ選拔シテ採用ス

第三條 譜調學生ハ步兵隊ノ鼓手長及砲工糧重兵隊ノ喇叭長ヲ分道セシメテ之ニ充ツ

第四條 本校ニ生徒隊一隊ヲ置ク
第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク(三十二年勅令第四百二十二號ヲ以テ條中改正)

生徒隊長 樂長若クハ樂長補

第六條 校長ハ陸軍戸山學校長ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第七條 生徒隊長ハ學生ノ訓練及生徒ノ教育ヲ掌リ其成績ニ就キ責任ニ任ス

第八條 修業期ハ學生ニ在テハ概テ二箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシム生徒ニ在テハ概テ十二箇月トス

第九條 學生ノ人員及入校時日ハ其時々教育總監之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス(三十三年勅令第三百三十七號ヲ以テ條中改正)

第十條 學生分道ノ告達アレハ隊長ハ修業ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日前ニ其人ノ名ヲ戸山學校長ニ通報スヘシ(三十五年勅令第三百八十三號ヲ以テ條中改正)

第十一條 學生及生徒ハ校内ニ居住セシム修業ニ要スル兵器、彈藥、馬具ハ貸與又ハ支給シ學生ニ在テハ武器被服裝具ヲ携帶セシム

第十二條 學生ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ隊長ノ管理ニ屬ス

第十三條 學生及生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス

第十四條 生徒中左ノ事項ニ該ルモノハ退校セシム

其一 學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者

其二 軍紀ヲ紊リ又ハ廢法則ヲ犯ス者

其三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

其四 傷疾疾病ニ罹リ卒業ノ目途ナキ者

第十五條 校長ハ學生ノ修業期末ニ於テ修學ノ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ戸山學校長ニ具申シ

戸山學校長ハ師團長ヲ經テ之ヲ當該隊長ニ交付シ又修業ノ成績ヲ教育總監ニ報告ス

第十六條 校長ハ生徒ノ修業期末ニ於テ卒業試驗ヲ施行シ考科列序ヲ定メ戸山學校長ニ具申シ戸山學校長ハ其及第者ニハ卒業證書ヲ附與ス(三十二年勅令第四百二十二號ヲ以テ條中改正)

第十七條 生徒中疾病事故ニ依リ卒業試驗ヲ受ケサル者又ハ卒業試驗ニ落第タル者ハ尙未滿學セシメ更ニ前條ニ準シ卒業試驗ヲ施行スルコトヲ得

防務條例 (明治三十四年一月)

防務條例

第一條 本條例ハ永久ノ目的ヲ以テ海岸ニ建設シタル防禦地點ノ防禦ニ關シ陸海軍協同作戰ノ分擔任務及其計畫指揮ヲ規定ス

第二條 海岸防禦地點ノ防禦ハ陸海軍協同シテ之ニ任スルモノトス而シテ陸海兩軍ノ性質ニ因リ分擔スヘキモノトシテ左ノ如シ

陸軍ノ擔任

陸地警戒勤務

陸地防禦工事

陸地警戒勤務

陸地防禦工事

陸地警戒勤務

陸地防禦工事

陸地警戒勤務

陸軍軍樂學校條例

陸軍軍樂學校條例

陸軍軍樂學校條例

陸軍軍樂學校條例

陸軍軍樂學校條例

陸軍軍樂學校條例

陸軍軍樂學校條例

陸軍軍樂學校條例

陸軍軍樂學校條例

陸軍軍樂學校條例

陸軍軍樂學校條例

陸軍軍樂學校條例

陸軍軍樂學校條例

陸軍軍樂學校條例

陸軍軍樂學校條例

令部長ニ協議スルモノトス
四月一日ヨリ翌年三月末日迄ノ間ニ指揮官ニ變
更ヲ要スルトキハ同手續ニ依リ更ニ之ヲ定ム
第九條 戰時指揮官ノ幕僚ハ陸海兩軍ノ將校ヲ以
テ編成ス其任命ハ臨時ニ指揮官ノ選定ト同キ手
續ヲ經テ之ヲ行フモノトス但シ鎮守府司令長
官、要務司令官、要務部司令官、警備隊司令官ヲ
以テ前條ノ指揮官ヲ兼掌セシムルトキハ別ニ幕
僚ヲ編成セス指揮官タル各官ノ幕僚ニ所屬ノ人
員ヲ增加ス

第十條 舞臺軍港ニ鎮守府ヲ澎湖島ニ要港部ヲ置
カサル間ハ同港防禦上海軍ノ擔任ニ係ル事項ハ
海軍省所屬將校之ヲ司リ基隆及澎湖島ニ要港司令
部ヲ置カサル間ハ同港防禦上陸軍ノ擔任ニ係ル
事項ハ要務部長之ヲ司リ其防禦計畫ノ報告
移牒ハ第七條ニ準シ之ヲ行フモノトス

第五款 都督部

都督部條例 (明治三十三年四月)
勅令第三百五十六號
朕都督部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ
ム

第一條 都督部ハ之ヲ東京ニ置キ其所管區分左ノ
如シ
東部都督部 第一、第二、第七及第八師管
中部都督部 第三、第四、第九及第十師管
西部都督部 第五、第六、第十一及第十二師管
第二條 都督ハ陸軍大將若クハ陸軍中將ヲ以テ之
ニ親補シ
天皇ニ直隸シ所管ノ防禦計畫ニ任シ又國防ノ事
ニ參與ス但シ防禦計畫ニ關シ特ニ規定アルモノ

九十五號ヲ以テ改正)
第十條 師團長ハ陸軍軍醫檢閱條例ニ據リ檢閱ヲ
行フ
第十條ノ一 師團長ハ隨時部下ノ團隊及官衙ヲ檢
閲シ毎年概テ軍隊教育期ノ終リニ檢閲ノ實況及
意見ヲ奏上シ且陸軍大臣參謀總長及教育總監ニ
報告スヘシ(三十四年勅令第九十五號ヲ以テ
追加)

第十條ノ二 第一條第二條中師管内ニ關スル件及
第四條第六條ハ近衛師團長ニ適用セス(同上)
第十一條 師團司令部ハ左ノ各部ヨリ成ル(三十
五年勅令第十七號ヲ以テ條中改正)
一 參謀部
二 副官部
三 參謀部及副官部ヲ合シテ特ニ幕僚ト稱ス
四 法官部
五 經理部
六 師團經理部ノ組織權限ハ別ニ條例ヲ以テ之
ヲ定ム
七 軍醫部
八 獸醫部
九 近衛師團司令部ニ在リテハ法官部ヲ置カス
十 三十四年勅令第九十五號ヲ以テ本項追
加)

第十二條 參謀長ハ幕僚ノ事務ヲ統監シ師團長ニ
對シテ事務整理ノ責ニ任ス
第十三條 幕僚ノ各將校ハ參謀長ノ監視ヲ受ケ各
自擔任ノ事務ヲ掌リ其師團長ニ具申スヘキ事ニ
就テハ先ツ參謀長ノ承認ヲ得ヘキモノトス(三
十五年勅令第十七號ヲ以テ條中削除)
第十四條 法官部長軍醫部長及獸醫部長ハ各其主
任ノ事ニ就キ事務整理ノ責ニ任ス

各部長及兵器支廠長ヨリ師團長ニ具申スヘキ事
ニ就テハ先ツ參謀長ニ陳スヘシ(三十四年勅
令第九十五號三十五年勅令第十七號ヲ以テ本
項中改正)
附則(三十四年勅令第九十五號ヲ以テ削
除)
第十五條 (同上)
第十六條 (同上)
第十七條 (同上)
第十八條 (同上)

師團法官部及臺灣陸軍法官
部ニ陸軍警守ヲ置クノ件
(明治三十五年三月)
勅令第八十五號
朕師團法官部及臺灣陸軍法官部ニ陸軍警守ヲ置ク
ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 師團法官部及臺灣陸軍法官部ニ陸軍警守
ヲ置ク
陸軍警守ハ列任官待遇トス
第二條 陸軍警守ハ陸軍軍法會議法廷ノ警衛、審
判ノ送達並被管人ノ護送及看守ニ任ス
第三條 陸軍警守其ノ職務ニ服スルトキハ刀ヲ帶
ヒ制服ヲ著スヘシ
第四條 陸軍警守採用ニ關スル規程ハ陸軍大臣之
ヲ定ム

旅團司令部條例 (明治二十
九年三月)
勅令第五
十四號
朕旅團司令部條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ
シム

第八類 官制 第九章 陸軍省所管
第六款 師團司令部

ハ此限ニアラス
第三條 都督ハ勅ヲ奉シ團隊ノ檢閲ヲ行フ
第四條 都督ハ勅ヲ奉シ二師團以上ノ演習ヲ統監
シ又ハ特別大演習ノ一軍ヲ指揮ス
第五條 都督ハ主任ノ事ニ關シ所管內ノ各師團長
ニ訓令若クハ訓示ヲ與ヘ且必要ノ報告ヲ爲サシ
ムルヲ得
第六條 都督ハ軍政及人事ニ關シテハ陸軍大臣、
防禦計畫ニ關シテハ參謀總長ノ區處ヲ受ク
第七條 都督部ニ幕僚ヲ置キ之ヲ參謀部副官部ニ
分ツ
第八條 參謀長ハ都督ヲ輔佐シ幕僚ヲ統ヘ事務整
理ノ責ニ任ス
第九條 幕僚ノ各將校及軍吏ハ參謀長ノ區處ヲ受
ケ職務ヲ擔任ス

第六款 師團司令部

師團司令部條例 (明治二十
九年五月)
勅令第二百
五號
朕師團司令部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム

第一條 師團長ハ陸軍中將ヲ以テ之ニ親補シ
天皇ニ直隸シ部下軍隊ヲ統率シ又師管内ノ聯隊
區司令部ヲ管轄シ軍事ニ係ル諸件ヲ總理ス(三
十五年勅令第七十一號ヲ以テ條中改正)
第二條 師團長ハ其主管ニ係ル各部團隊ノ勳員計
畫ヲ掌リ又師管内徵兵事務並ニ召集事務ヲ統轄
ス
前項ノ外近衛師團長ハ宮閣守衛ノ事ニ任シ第七
師團長ハ屯田兵ヲ統率シ其團隊訓練ノ事ヲ掌ル

各部長及兵器支廠長ヨリ師團長ニ具申スヘキ事
ニ就テハ先ツ參謀長ニ陳スヘシ(三十四年勅
令第九十五號三十五年勅令第十七號ヲ以テ本
項中改正)
附則(三十四年勅令第九十五號ヲ以テ削
除)
第十五條 (同上)
第十六條 (同上)
第十七條 (同上)
第十八條 (同上)

師團法官部及臺灣陸軍法官
部ニ陸軍警守ヲ置クノ件
(明治三十五年三月)
勅令第八十五號
朕師團法官部及臺灣陸軍法官部ニ陸軍警守ヲ置ク
ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 師團法官部及臺灣陸軍法官部ニ陸軍警守
ヲ置ク
陸軍警守ハ列任官待遇トス
第二條 陸軍警守ハ陸軍軍法會議法廷ノ警衛、審
判ノ送達並被管人ノ護送及看守ニ任ス
第三條 陸軍警守其ノ職務ニ服スルトキハ刀ヲ帶
ヒ制服ヲ著スヘシ
第四條 陸軍警守採用ニ關スル規程ハ陸軍大臣之
ヲ定ム

旅團司令部條例 (明治二十
九年三月)
勅令第五
十四號
朕旅團司令部條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ
シム

第一條 旅團長ハ少將ヲ以テ之ニ補シ部下聯隊ヲ
統率ス(三十二年勅令第四百十二號ヲ以テ條中
削除)
第二條 聯隊內ノ訓練、風紀、軍紀、將校ノ教育、內
務整理又勳員計畫ノ事ハ聯隊長ノ責任ニシテ旅
團長之ヲ統監ス
第三條 旅團長ハ旅團ヲ以テスル訓練ニ任ス(三
十二年勅令第四百十二號ヲ以テ條中削除)
第四條 步兵旅團長ハ騷擾戰ノ事アルニ際シ地
方長官ヨリ兵力ヲ請求スルトキ事急ニシテ指揮
ヲ請フノ暇ナキトキハ直ニ之ニ應ジテ後師團長
ニ報告スヘシ(同上ヲ以テ條中追加)
第五條 副官ハ司令部一般ノ事務ニ服シ且ツ會計
ノ事ヲ管理ス
第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ記註計算ノ事ニ
從フ
附則
第七條 本條例ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行
ス

警備隊司令部條例 (明治三十
三年七月)
勅令第二百
三十九號
朕警備隊司令部條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム

第一條 警備隊司令官ハ師團長ニ職シ在島陸軍諸
隊ヲ統率シ警備隊區內ノ警備保護ニ任ス
隊中ノ軍紀、風紀訓練、教育、內務、經理及勳員
計畫ノ事ハ警備隊司令官ノ責任トス但對島ニ在
テハ當該隊長其ノ責ニ任シ警備隊司令官之ヲ統

第八類 官制 第九章 陸軍省所管
第六款 師團司令部

第七條 衛戍地ニ駐在スル軍隊ハ衛戍司令官ノ管轄ニ屬セサルモノト雖モ衛戍司令官ノ定メタル衛戍上ノ諸規則ニ對シテハ總テ遵守ノ義務アルモノトス

第八條 衛戍司令官ハ有事ノ日ニ方リ住民公共ノ保安ニ關スル處置ニ就テハ當該地方官ト協同スルモノトス

衛戍司令官ハ衛戍線内ニ懸置ノコトアルニ方リ地方官ヨリ請求アルトキハ兵力ヲ以テ便宜事ニ從フコトヲ得

第九條 憲兵隊ニ在テハ第五條第六條及第七條ヲ除クノ外衛戍勤務ニ干與セス(二十九年勅令第三百號改正ニ依ル)

附則 第十條(三十四年勅令第三十一號ヲ以テ本條削除)

●衛戍病院條例 (明治三十一年二月勅令第二十七號)

第一條 衛戍病院ハ衛戍地ニ置キ所在地陸軍部隊(官衛學校ヲ包含ス以下同シ)ノ患者ヲ收療シ且衛生材料ノ保管供給及衛生部下士以下ノ教育ヲ掌ル所トス(三十二年勅令第四百十七號ヲ以テ本項中改正)

衛戍病院ハ衛戍地ノ情況ニ依リ分院ヲ設ケルコトヲ得但シ其ノ設置及位置ハ陸軍大臣ノ決定ム

第二條 衛戍病院(養病ノ除ク)ハ衛戍地兵員ノ多小ニ依リ五等ニ區分ス

衛戍病院及其ノ分院ハ所在地名ヲ冠シ某衛戍病院又ハ某衛戍病院某分院ト稱ス

第三條 衛戍病院ニ左ノ職員ヲ置ク(三十三年勅令第二百九十三號ヲ以テ改正)

病院長 軍醫 藥劑官 軍吏 下士

前項職員中藥劑官ハ五等病院ニ軍吏ハ三等以下ノ病院ニ置カサルヲ例トス

第四條 前條職員ノ外所在地部隊附屬軍隊ハ病院ノ勤務ニ服スルモノトス

第五條 病院長ハ所在地高級團長(東京ニ在テハ第一師團長ヲ志野ニ在テハ騎兵第二旅團長、瀋陽ニ在テハ海軍守備混成旅團長、要港所在地ニ在テハ要港司令官)ニ隸シテ院務ヲ總理シ院内ノ衛生治療及教育ノ責任ニ任ス尙ホ其ノ勤務ニ關シテハ所管軍醫部長ノ監督ヲ受ク(三十三年勅令第四百五號ヲ以テ條中改正)

第六條 軍醫以下ノ職員ハ病院長ノ命ヲ受ケ院務ヲ分掌ス所在地部隊附屬軍隊ノ病院勤務ニ服スル者亦同シ

第七條 入院患者ノ治療ニ關スル諸費ハ病院ノ支辨トス但シ准士官以上及自費服役ノ一年志願兵並軍屬ニシテ其ノ傷病疾病公務ニ起因セサル者又ハ公務ノ爲傳染病ニ感染シ手當金ヲ受ケル者ハ其ノ定額ヲ納付セシム(三十二年勅令第四百十七號及三十三年勅令第二百九十三號ヲ以テ條中改正)

第八條 軍人軍屬旅行途上發病シタルトキ其ノ他止ムヲ得サル場合ニ在テハ第一條ノ規定ニ拘ラズ附近衛戍病院ニ收療スルコトヲ得現職者クハ現役ヲ離レ又ハ候補生衛生徒ヲ免セラレタル者ニシテ一時收療ヲ要スルトキ亦同シ

前項ノ他處島嶼衛戍病院ニ在テハ臺灣及海外駐劄

●陸軍監獄官官制 (明治二十年勅令第四百四十二號)

陸軍監獄官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 陸軍監獄ニ左ノ職員ヲ置ク

陸軍監獄長

陸軍監獄書記

陸軍監獄看守長

陸軍監獄看守

第二條 監獄長ハ委任トシ監獄書記及監獄看守長ハ列任トシ監獄看守ハ列任官待遇トス

第三條 監獄長ハ衛戍司令官若クハ屯田兵司令官ニ隸シ監獄ノ事務ヲ掌理ス

第四條 監獄長ハ陸軍懲罰令ニ定ムル所ニ從ヒ監獄所屬員ヲ懲戒ス

第五條 監獄書記ハ監獄長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條 監獄長事故アルトキハ上當監獄書記其ノ事務ヲ代理ス

第七條 監獄看守長ハ監獄長ノ命ヲ承ケ監獄ノ戒嚴ヲ掌シ監獄看守ヲ指揮監督ス

第八條 監獄看守ハ監獄看守長ノ命ヲ承ケ看守、護送及門衛等ノ事ニ服ス

第九條 監獄看守長及監獄看守職務ニ服スルトキハ刀ヲ帶ヒ制服ヲ著ス

第十條 監獄内ノ衛生事務ハ其ノ所在地ノ衛戍病院附屬醫及看護長ヲシテ之ヲ掌理セシム但シ札幌ニ在テハ屯田兵軍醫部附屬醫ヲシテ之ヲ掌理セシム

第十一條 本令施行前ヨリ陸軍監獄ニ職ヲ奉スル下士卒ハ本令施行ノ日ヲ以テ現役滿期トス

下士ニシテ服役年數七年未滿ノ者ハ豫備役ニ七年以上十二年未滿ノ者ハ後備役ニ服セシム但シ明治二十四年勅令第八十七號施行以前ニ任セリレタル軍吏部下士ニシテ服役九年未滿ノ者ハ豫備役ニ九年以上十二年未滿ノ者ハ後備役ニ服セシム

第十二條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

本令中監獄看守ニ係ル規程ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

●陸軍懲治隊條例 (明治三十一年勅令第二百二十一號)

陸軍懲治隊條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍懲治隊條例

第一條 陸軍懲治隊ハ陸軍兵卒ノ屢禁罰ノ刑ニ處

モフシ又ハ懲罰ノ處分ヲ受ケルモ容易ニ改悔ノ狀ヲ示セザル者ヲ懲治スル所トス

第二條 懲治隊ハ之ヲ編置シ第十師團長之ヲ管轄シ陸軍大臣ノ監督ニ屬ス

第三條 懲治隊ニ左ノ職員ヲ置ク

隊長

隊附士官

軍醫

准士官下士

下士ハ豫備役後備役ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得

第四條 懲治隊ニハ隊附士官所屬ノ兵卒ヲ置ク

第五條 隊附下士ノ約半數及兵卒ハ各師團ヨリ行狀方正勤務勤勳ニシテ能ク其ノ任ニ堪ユヘキ者ヲ選ビ派遣セシム其ノ任期ハ下士ニ在リテハ一年半以内兵卒ニ在リテハ一年以内トス

第六條 懲治隊ニ收容シテ懲治スル者ハ之ヲ懲治第七條 隊長ハ師團長ニ隸シ隊務ヲ掌理シ懲治隊ヲ悔悟改悔セシムルノ責ニ任ス

第八條 隊附士官及軍醫ハ隊長ノ命ヲ受ケ隊務ニ服ス

第九條 准士官下士ハ隊長及隊附士官ノ命ヲ受ケ隊務ニ服ス

第十條 懲治隊ハ適宜之ヲ數班ニ分チ各班ニハ隊附士官以下ヲ配屬シ懲治隊ノ懲治教育等ヲ分掌セシム

第十一條 懲治卒ハ總テ步兵ノ術科ヲ演習セシム

第十二條 懲治卒ハ衛兵ノ勤務ニ服セシム

第十三條 懲治卒ニ兵器ヲ攜帶セシムルハ演習中必要ノ場合ニ限ル

第十四條 懲治卒ノ衣ハ其ノ袖章ヲ除去ス

第十五條 懲治卒ハ演習時間外ニ於テ軍部ノ勞務

ニ就カシムルモノトス但シ時宜ニ依リ演習時間内ニ於テ之ヲ科スルコトヲ得

勞務ニ就カシメタルトキハ其ノ性質ニ因リ特ニ若干ノ金銀ヲ給スルコトヲ得其ノ金額ハ師團長ノ認可ヲ經テ隊長之ヲ定ム但シ其ノ日額ハ懲治卒日給額ノ半ヲ超過スルコトヲ得ス

第十六條 懲治卒ニ屬スル金錢ハ隊長之ヲ領置シ其ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十七條 懲治卒ハ外出ヲ許サス但シ特ニ隊長ニ於テ其ノ必要ヲ認ムルトキハ幹部ノ引率ヲ以テ外出セシムルコトヲ得

第十八條 懲治卒ニハ休暇ヲ與ヘス但シ父母ノ疾病危篤若ハ死亡等事情止ムヲ得サル者ニ限リ隊長ハ師團長ノ認可ヲ受ケテ短期ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

第十九條 隊長ハ部下兵卒中懲治隊ニ於テ懲治スル必要ヲ認メタル者アルトキハ其ノ事由書ヲ具シ順序ヲ經テ所屬師團長ニ上申スヘシ

第二十條 師團長ハ前條ノ上申ヲ審査シ至當ト認メタルトキハ一切ノ書類ニ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ稟申シ陸軍大臣ヨリ懲治隊ニ編入ノ命令ヲ受ケレハ隊長ニ命シ適宜ノ監視員ヲ附シテ當該兵卒ヲ懲治隊ニ送致セシム同時ニ陸軍大臣ニ稟申シタル書類ノ寫ヲ懲治隊長ニ送附スヘシ

第二十一條 隊長ハ懲治卒中改悔ノ狀顯著ニシテ懲治隊ニ置クノ必要ヲ認メサル者アルトキハ之ヲ原隊ニ復歸セシムル爲意見書ニ第二十四條ノ行狀録ノ寫ヲ添ヘ師團長ヲ經テ陸軍大臣ニ稟申シ陸軍大臣ヨリ復歸ノ命令ヲ受ケレハ之ヲ本人ノ所屬師團長ニ通報シ且本人ヲ原隊ニ復歸セシムヘシ

第二十二條 警治中現役滿期ニ達スル者アリタ
ルトキハ隊長ハ直ニ之ヲ歸郷セシメ師團長ヲ經
テ陸軍大臣ニ報告シ且本人ノ所屬師團長ニ通報
スヘシ

第二十三條 警治隊ハ分遣ノ下士兵卒ニ在リテハ
武器、被服ヲ警治卒ニ在リテハ被服ヲ各所屬隊
ヨリ携行セシム

第二十四條 警治隊ニハ各警治卒ノ行狀簿ヲ備ヘ
賞罰及其ノ他ノ狀況ヲ詳録スヘシ

第二十五條 警治卒ノ取締ニ關スル細則ハ師團長
ノ認可ヲ受ケ隊長之ヲ定ムヘシ

附則
本條例施行ノ期日ハ陸軍大臣之ヲ定ム

● 陸軍懲治隊條例施行期日
(明治三十五年十月)
(陸軍省令第三十二號)

● 陸軍電信教導大隊條例
(明治三十五年十月)
(勅令第二百三十四號)

陸軍電信教導大隊條例
第一條 陸軍電信教導大隊ハ學生ニ電信通信術ノ
教育訓練ヲ爲シ且軍事通信ニ關シ必要ナル事項
ヲ調査研究スル所トス

第二條 學生ハ騎兵、要塞砲兵及工兵士官並要塞
砲兵及工兵下士兵卒ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 陸軍電信教導大隊ニ左ノ職員ヲ置ク

- 隊長
- 副官
- 大隊附將校
- 中隊長
- 軍醫
- 副醫官
- 准士官下士
- 前項ノ外教官トシテ技師技手ヲ置クコトヲ得
- 第四條 大隊長ハ工兵監ニ隸シ隊務ヲ總理シ學術
進歩ノ責ニ任ス
- 第五條 副官ハ大隊長ノ命ヲ受ケ隊中一般ノ庶務
ヲ掌ル
- 第六條 大隊附將校以下ハ大隊長ノ命ヲ受ケ分擔
ノ職務ニ服ス
- 第七條 大隊長以下ノ職務ニ付テハ軍隊內務ノ規
定ヲ準用ス
- 第八條 學生ノ修學期ハ士官ハ一箇年下士兵卒ハ
一箇年トス但シ場合ニ依リ陸軍大臣教育總監
協議ノ上之ヲ伸縮スルコトヲ得
- 第九條 學生ノ入隊期ハ毎年概テ四月トス
- 第十條 學生ノ人員及入隊期日ハ時々教育總監ノ移標ニ
依リ陸軍大臣之ヲ告達ス
- 第十一條 前條ノ告達アリタルトキハ師團長ハ當該
隊長ヲシテ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入隊期二十
日前ニ其ノ人名ヲ電信教導大隊長ニ送付セシム
ヘシ
- 第十二條 學生下士ハ現役年限二箇年以上アル
者、兵卒ハ前年十二月入營ノ者ヨリ選拔スヘ
シ
- 第十三條 學生士官ハ隊外ニ居住セシメ修學ニ所
要ノ兵器、器具及書籍ヲ之ニ貸與若ハ支給スル
コトヲ得

第十三條 學生下士兵卒ハ之中隊ニ編入シ隊內
ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、器具、書籍及消
耗品ヲ之ニ貸與若ハ支給ス

第十四條 學生ノ武器、被服、裝具ハ所屬隊ヨリ之
ヲ携行セシム

第十五條 學生ノ願願其ノ他ノ賄件ハ總テ大隊長
ノ管理ニ屬ス

第十六條 學生ハ情願ヲ以テ歸隊スルコトヲ許サ
ス

第十七條 學生中疾病其ノ他ノ事故ニ依リ學術修得ノ日途
ナキ者アルトキハ隊長其ノ事由ヲ具シ工兵監ノ
認可ヲ受ケ之ヲ歸隊セシムヘシ

第十八條 隊長ハ修學期末ニ於テ部下將校ヲ集メ
會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ工兵監ノ認
可ヲ受ケ士官ニ在リテハ修得證明書ヲ、下士兵
卒ニ在リテハ考科列序表ヲ製シ師團長ヲ經テ本
人所屬ノ隊長ニ送付シ下士兵卒ニハ更ニ學術修
業證書ヲ付與シ學生ヲ歸隊セシム

第十九條 大隊附將校ハ學生教育上便宜ノ時期
ニ於テ之ヲ郵便電信學校ニ派遣シ學術ヲ修習セ
シムルコトアルヘシ

附則
本條例施行期日ハ陸軍大臣之ヲ定ム

● 陸軍電信教導大隊條例施行
期日 (明治三十五年十月)
(陸軍省令第三十四號)

明治三十五年勅令第二百三十四號陸軍電信教導大
隊條例ハ明治三十五年十月二十九日ヨリ之ヲ施行
ス

第十章 海軍省所管

第一款 海軍省

● 海軍省官制 (明治三十三年五月)
(勅令第九十四號)

海軍省官制
第一條 海軍大臣ハ海軍軍政ヲ管理シ海軍軍人軍
屬ヲ統轄シ所轄諸部ヲ監督ス

第二條 海軍省ニ副官ヲ置ク

第三條 海軍省ニ編修ヲ置ク

第四條 各省官制則第十條第二項第一號及第三
號ノ事務ハ總務局ニ於テ之ヲ掌掌ス

第五條 海軍省ニ軍務局人事局醫務局經理局及司
法局ヲ置ク

第六條 軍務局ニ第一課及第二課ヲ置キ左ノ事項
ヲ掌掌セシム

一 建制、編制及役務ニ關スル事項

二 軍紀風紀ニ關スル事項

三 戒嚴及徵發ニ關スル事項

四 儀式、禮式、服制及旗章ニ關スル事項

五 水路、望樓及測器ニ關スル事項

六 海上保安及運輸通信ニ關スル事項

七 艦政ニ關スル事項

八 教育、演習及檢閱ニ關スル事項

第九條 人事局ニ第一課及第二課ヲ置キ左ノ事項
ヲ掌掌セシム

一 高等武官、候補生、准士官及文官ノ補充、服
務、進退、任免、補職、命課、增俸ニ關スル事項

二 下士卒ノ任用、徵發、進級、補充、服役、召集、
簡閱點呼ニ關スル事項

三 軍人軍屬ノ地位、敘勳、記章、褒章、賞典、恩
給其ノ他身上ニ關スル事項

第八條 醫務局ニ第一課及第二課ヲ置キ左ノ事項
ヲ掌掌セシム

一 醫務、衛生、恩給診斷、軍人體格ニ關スル事
項

二 病院及治療品ニ關スル事項

三 軍醫官及藥劑官ノ教育ニ關スル事項

第九條 經理局ニ第一課第二課及第三課ヲ置キ左
ノ事項ヲ掌掌セシム

一 豫算、決算、出納、給與、被服、糧食、通常物
品、官有財產、建築及用度ニ關スル事項

二 金錢及物品會計ノ監督ニ關スル事項

第十條 司法局ニ於テハ左ノ事項ヲ掌掌ス

一 軍事司法、懲罰、監獄ニ關スル事項

二 主事、録事、監獄ノ人員ニ關スル事項

第十一條 各局ニ局長ヲ置ク

軍務局、人事局、醫務局及經理局ノ各課ニ課長及
課員ヲ置キ司法局ニ局長ヲ置ク

第十二條 各局長ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ各其ノ主
務ヲ掌理ス

第十三條 軍務局、人事局、醫務局、經理局ノ各課
長ハ局長ノ命ヲ受ケ各其ノ分掌ノ事務ヲ掌ル其
ノ課員ハ課長ノ命ヲ承ケ各其ノ事務ニ服ス

第十四條 司法局ノ局長ハ局長ノ命ヲ承ケ各其ノ
事務ニ服ス

第十五條 海軍省ニ技手及録事ヲ置キ各局ニ分屬
シ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服セシム

(別表) (三十五年勅令第八十八號ヲ以テ表中改正)

海軍省 定員表	
參事官	二
總務局	一
秘書官	中少佐
副官	中少佐
副官ヲ以テ兼補ス	一
局長	大 中少佐
副局長	中少佐

●水路部條例 (明治三十三年五月)

水路部條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
水路部條例
第一條 水路部ハ之ヲ東京ニ置ク
第二條 水路部ハ水路ノ測量、水路圖誌ノ調製、航
海ノ保安、測器、水路官ノ勤務及教育ニ關スル事
ヲ掌ル所トス
第三條 水路部ニ部長ヲ置キ海軍大臣ニ隸シ部務
ヲ總理セシム
第四條 水路部長ハ其ノ名ヲ以テ水路告示ヲ發シ
及外國水路部ト直接通信スルコトヲ得
第五條 水路部長ハ部下ノ職員缺員中若ハ事故アリ
テ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ部
下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得
第六條 水路部長缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務
ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下首席將校其ノ職
務ヲ代理ス
第七條 水路部ニ測量科、測器科、測器科及會計課ヲ
置ク
第八條 測量科ニ於テハ測量原圖、水路記事ノ調
製、水路官ノ勤務及教育ニ關スルコトヲ掌ル
第九條 測器科ニ於テハ測器ノ調製、配備及
保管ニ關スルコトヲ掌リ及庶務ヲ掌理ス
第十條 測器科ニ於テハ測器ノ準備檢査及供給ニ
關スルコトヲ掌ル
第十一條 會計課ニ於テハ會計給與ニ關スルコト
ヲ掌ル
第十二條 測量科、測器科及測器科ニ科長及科員ヲ
置キ會計課ニ課長ヲ置ク
第十三條 科長課長ハ水路部長ノ命ヲ承ケ其ノ科

●海軍艦政本部條例 (明治三十三年五月)

海軍艦政本部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
布セシム
海軍艦政本部條例
第一條 海軍艦政本部ハ之ヲ東京ニ置キ兵器、艦
營用品及艦船ノ船體機關ニ關スルコトヲ掌ル所
トス
第二條 海軍艦政本部ニ第一部、第二部、第三部及第
四部ヲ置ク
第三條 第一部ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス
一 兵器ニ關スルコト
二 造船廠、兵器廠及下瀨火藥製造所ニ關スル
コト
三 造船官以下ノ勤務及教育ニ關スルコト
(三十二年勅令第二百八十三號ヲ以テ本號中改
正)
第四條 第二部ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス
一 艦營用品ニ關スルコト
二 炭山及炭庫ニ關スルコト
第五條 第三部ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス
一 艦船ノ船體ニ關スルコト
二 造船廠ノ造船事業ニ關スルコト (三十三年
勅令第二百八十三號ヲ以テ改正)
三 造船ニ從事スル造船官以下ノ勤務及教育ニ
關スルコト (同上)

●海軍下瀨火藥製造所條例 (明治三十二年四月)

海軍下瀨火藥製造所條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム
海軍下瀨火藥製造所條例
第一條 海軍下瀨火藥製造所ハ之ヲ東京ニ置キ下
瀨火藥ヲ製造スル所トス
第二條 海軍下瀨火藥製造所ニ左ノ職員ヲ置ク
所長
主任
第三條 所長ハ海軍艦政本部長ニ隸シ所務ヲ總理
ス (三十三年勅令第二百三十六號ヲ以テ條中改
正)
第四條 主任ハ所長ヲ助ケ擔任ノ事務ヲ掌理ス
第五條 本所ノ醫務衛生ニ關スル事務ハ東京海軍
造兵廠軍醫長ヲシテ管掌セシメ之ニ該廠附屬醫
手及看護ヲ附ス
第六條 製造火藥ノ檢査ハ東京海軍造兵廠檢査科
員ヲシテ之ヲ行ハシム
第七條 第二條ニ掲グル職員ノ外書記及技手ヲ置
キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム
第八條 (三十三年勅令第二百三十六號ヲ以テ削
除)

●海軍探炭所官制 (明治三十三年八月)

海軍探炭所官制
第一條 海軍探炭所ハ之ヲ福岡縣糟屋郡ニ置ク
(二十五年勅令第三十六號ヲ以テ條中改正)
第二條 海軍探炭所ハ海軍炭山ヲ管轄シ石炭ノ採
掘ヲ掌ル所トス
第三條 海軍探炭所ニ左ノ職員ヲ置ク
所長
主任
第四條 前項ノ外技師ヲ置ク
第五條 所長ハ海軍艦政本部長ニ隸シ所務ヲ總理
ス
第六條 主任ハ所長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關ス
ル事務ヲ掌リ及庶務ヲ掌理ス
第七條 技師ハ所長ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事務
ヲ掌理ス
第八條 第三條ニ掲グル職員ノ外書記及技手ヲ置
キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム
第九條 海軍探炭所ノ定員ハ別表ニ依ル
附則
新原探炭所官制ハ之ヲ廢止ス
(別表)

●海軍教育本部條例 (明治三十三年五月)

海軍教育本部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
布セシム
海軍教育本部條例
第一條 海軍教育本部ハ之ヲ東京ニ置キ海軍軍事
教育ノ統一及其ノ進歩ヲ計ル所トス
第二條 海軍教育本部ニ第一部及第二部ヲ置キ各
其ノ所管ノ事務ヲ分掌セシム
第三條 海軍教育本部ニ左ノ職員ヲ置ク
本部長
副官
第一部長
第二部長
海軍編修
第四條 海軍教育本部長ハ海軍大臣ニ隸シ部務ヲ
總理シ海軍大學校、海軍兵學校、海軍機關學校、
海軍砲術練習所、海軍水雷術練習所及海軍機關
術練習所ヲ管轄ス
第五條 海軍教育本部長ハ部下ノ職員缺員中若ハ
事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ
他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコ
トヲ得
第六條 海軍教育本部長缺員中若ハ事故アリテ其
ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下首席將校
其ノ職務ヲ代理ス
第七條 副官ハ本部長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス
第八條 第一部長ハ本部長ノ命ヲ承ケ其ノ部務ヲ掌
理ス
第九條 部員及海軍編修ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス
第十條 第三條ニ掲グル職員ノ外書記、海軍編修
書記ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム
附則
本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

海軍探炭所定員表
所長 佐官若ハ 一 查 配 二
主計長 同相當官 一 查 配 二
主計少監 主計少監 一 技 手 三
技師 大主計 一 技 手 三
第八編 官制 第十章 海軍省所管 第一款 海軍省 九七

●海軍大學校條例 (明治三十一年九月)

勅令第三百二十六號

海軍大學校條例

第一條 海軍大學校ハ海軍將校及機關官ニ高等ノ學術ヲ教授スル所トス

第二條 海軍大學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

教頭

教官

主計長

第三條 校長ハ海軍教育本部長ニ就シ校務ヲ總理ス(卅三年勅令第二百二十六號ヲ以テ條中改正)

第四條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第五條 教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教務ヲ監督ス

第六條 教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第七條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 海軍大學校ニハ第二條ニ掲ケル職員ノ外列任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第九條 海軍大學校ニ於テ教授スル海軍將校及機關官ハ海軍大學校學生ト稱ス

第十條 海軍大學校學生ヲ左ノ五種ニ區別ス(三十二年勅令第八十五號ヲ以テ改正)

將校科甲種學生

將校科乙種學生

機關科長期學生

機關科短期學生

選科學生

第十一條 將校科甲種學生ニハ艦艇ノ職員若ハ高等指揮官ノ養成ヲナス爲メ高等ノ兵學及其ノ他ノ學術ヲ教授ス

第十二條 將校科乙種學生ニハ砲術水雷術若ハ航海術ノ學術ヲ教授ス

第十三條 機關科長期及短期學生ニハ機關ニ關スル高等ノ學術ヲ教授ス(同上)

第十四條 選科學生ニハ各自ノ選擇スル學術ヲ修メシム

第十五條 將校科甲種學生ハ左ノ資格ヲ有シ所管長官ノ推薦ヲ受ケタル海軍大尉ニシテ入學試驗ニ合格シタル者ニ就キ海軍大學校學生銜委員ノ檢定ヲ經テ海軍大臣ノ命ヲ受ケ(三十二年勅令第三百四十三號ヲ以テ改正)

身體強健實務ノ成績優等ニシテ氣節アリ且判斷力ニ富ミ後來充分發達スヘキ才學ト識量トヲ有スト認メタル者

第十六條 將校科乙種學生ハ海軍大尉ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ海軍大臣ノ命ヲ受ケ(同上)

一 砲術水雷術若ハ航海術ヲ專修セシムルニ適當ト認メタル者

二 入學試驗ニ合格シタル者但シ從前大學校ヲ卒業シタル者ニハ入學試驗ヲ省略スルコトヲ得

第十七條 機關科長期學生ハ海軍大機關士若ハ中機關士ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ海軍大臣ノ命ヲ受ケ(卅二年勅令第八十五號ヲ以テ改正)

一 實務ノ成績優等ニシテ後來充分發達スヘキ才能ヲ有スト認メタル者

二 機關科短期學生中優等ナル成績ヲ以テ卒業シタル者若ハ入學試驗ニ合格シタル者

機關科短期學生ハ海軍大機關士中機關士若ハ少機關士ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ海軍大臣ノ命ヲ受ケ(同上)

一 有要ノ者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

三 復讐ヲ得サル家貧分放者破產者若ハ其ノ相續人

四 身代限ノ處分ヲ受ケテ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若ハ其ノ相續人

第十七條 生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年海軍大臣ノ認可ヲ經テ海軍教育本部長之ヲ告示ス(三十二年勅令第二百二十七號ヲ以テ條中追加)

第十八條 生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵艦ニ編入ス

第十九條 生徒ノ學年ハ三箇年トス但シ戰時若ハ事變ニ際シテハ之ヲ短縮スルコトヲ得

第二十條 卒業試驗ニ及第シタル生徒ニハ卒業證書ヲ授與ス

第二十一條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得

第二十二條 生徒左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ退校セシム(卅一年勅令一九六號ヲ以テ改正)

一 將校タルヘキ器量ニ乏キ者

級指揮官ノ養成ヲナス爲メ高等ノ兵學及其ノ他ノ學術ヲ教授ス

第十二條 將校科乙種學生ニハ砲術水雷術若ハ航海術ノ學術ヲ教授ス

第十三條 機關科長期及短期學生ニハ機關ニ關スル高等ノ學術ヲ教授ス(同上)

第十四條 選科學生ニハ各自ノ選擇スル學術ヲ修メシム

第十五條 將校科甲種學生ハ左ノ資格ヲ有シ所管長官ノ推薦ヲ受ケタル海軍大尉ニシテ入學試驗ニ合格シタル者ニ就キ海軍大學校學生銜委員ノ檢定ヲ經テ海軍大臣ノ命ヲ受ケ(三十二年勅令第三百四十三號ヲ以テ改正)

身體強健實務ノ成績優等ニシテ氣節アリ且判斷力ニ富ミ後來充分發達スヘキ才學ト識量トヲ有スト認メタル者

第十六條 將校科乙種學生ハ海軍大尉ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ海軍大臣ノ命ヲ受ケ(同上)

一 砲術水雷術若ハ航海術ヲ專修セシムルニ適當ト認メタル者

二 入學試驗ニ合格シタル者但シ從前大學校ヲ卒業シタル者ニハ入學試驗ヲ省略スルコトヲ得

第十七條 機關科長期學生ハ海軍大機關士若ハ中機關士ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ海軍大臣ノ命ヲ受ケ(卅二年勅令第八十五號ヲ以テ改正)

一 實務ノ成績優等ニシテ後來充分發達スヘキ才能ヲ有スト認メタル者

二 機關科短期學生中優等ナル成績ヲ以テ卒業シタル者若ハ入學試驗ニ合格シタル者

機關科短期學生ハ海軍大機關士中機關士若ハ少機關士ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ海軍大臣ノ命ヲ受ケ(同上)

一 有要ノ者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

三 復讐ヲ得サル家貧分放者破產者若ハ其ノ相續人

四 身代限ノ處分ヲ受ケテ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若ハ其ノ相續人

第十七條 生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年海軍大臣ノ認可ヲ經テ海軍教育本部長之ヲ告示ス(三十二年勅令第二百二十七號ヲ以テ條中追加)

第十八條 生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵艦ニ編入ス

第十九條 生徒ノ學年ハ三箇年トス但シ戰時若ハ事變ニ際シテハ之ヲ短縮スルコトヲ得

第二十條 卒業試驗ニ及第シタル生徒ニハ卒業證書ヲ授與ス

第二十一條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得

第二十二條 生徒左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ退校セシム(卅一年勅令一九六號ヲ以テ改正)

一 將校タルヘキ器量ニ乏キ者

軍大臣ハ退學ノ手續ヲ行フコトアルヘシ但シ將校科甲種學生ニ於テハ海軍大學校學生銜委員ノ檢定ヲ經ルヲ要ス(三十二年勅令第二百二十六號ヲ以テ條中改正)

第二十五條 大學校學生在學中高級ノ官等ニ進級スル場合ニ在テハ卒業マテ滯學セシムルコトヲ得

第二十六條 海軍大臣ハ戰時若ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ海軍大學校學生ヲ免スルコトヲ得

前項ニ依リ海軍大學校學生ヲ免セラレタル者ニ對シテハ海軍大臣ニ於テ第十五條、第十六條及第十七條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得再ヒ海軍大學校學生ヲ命スルコトヲ得(三十二年勅令第四百六號ヲ以テ條中追加)

附則

第二十七條 現今在學ノ將校科學生ニハ第二十三條及第二十五條ヲ適用スルノ外凡テ從來ノ條例ヲ適用ス但シ同條例第三條將校科學生ノ學年一箇年中ヲ一箇年ニ短縮スルコトヲ得

第二十八條 軍醫科教官及學生ニ關シテハ明治三十一年三月三十一日マテ從來ノ條例ヲ適用ス

水雷術教官

砲術教官

航海術教官

機關術教官

普通學教官

監事

監事長

軍醫長

主計長

前項ノ外海軍軍醫官及大主計ヲ置ク(三十年勅令第四百三十一號ヲ以テ本項中改正)

第四條 校長ハ海軍教育本部長ニ就シ軍紀風紀ヲ維持シ校務ヲ總理ス(三十二年勅令第二百二十七號ヲ以テ條中改正)

第五條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第六條 教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教務ヲ監督ス

第七條 教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第八條 監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ヲ監督シ規律ヲ維持シ又體育ニ關スル事務ヲ掌ル

第九條 監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事務ヲ掌ル

第十一條 第三條第二項ニ掲ケル軍醫官ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス(同上)

第十二條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關

スル事務ヲ掌ル

第十三條 第三條第二項ニ掲ケル大主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條 海軍兵學校ニハ第三條ニ掲ケル職員ノ外海軍兵曹長同相官或准士官下士官及列任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム(同上)

第十五條 生徒ハ年齡滿十六年以上滿二十二年以下ニシテ海軍將校タラント志願スル者ニ就キ檢査ヲ行ヒ所要ノ人員ヲ採用ス(三十二年勅令第四百九十五號ヲ以テ改正)

第十六條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セ

●海軍兵學校條例 (明治三十一年九月)

勅令第三百二十七號

海軍兵學校條例

朕海軍兵學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 海軍兵學校ハ海軍將校ト爲スヘキ生徒ヲ教育スル所トス

第二條 海軍兵學校ニ於テ教授スヘキ學科ハ砲術

砲術教官

航海術教官

機關術教官

普通學教官

監事

監事長

軍醫長

主計長

前項ノ外海軍軍醫官及大主計ヲ置ク(三十年勅令第四百三十一號ヲ以テ本項中改正)

第四條 校長ハ海軍教育本部長ニ就シ軍紀風紀ヲ維持シ校務ヲ總理ス(三十二年勅令第二百二十七號ヲ以テ條中改正)

第五條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第六條 教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教務ヲ監督ス

第七條 教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第八條 監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ヲ監督シ規律ヲ維持シ又體育ニ關スル事務ヲ掌ル

第九條 監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事務ヲ掌ル

第十一條 第三條第二項ニ掲ケル軍醫官ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス(同上)

第十二條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關

スル事務ヲ掌ル

第十三條 第三條第二項ニ掲ケル大主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條 海軍兵學校ニハ第三條ニ掲ケル職員ノ外海軍兵曹長同相官或准士官下士官及列任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム(同上)

第十五條 生徒ハ年齡滿十六年以上滿二十二年以下ニシテ海軍將校タラント志願スル者ニ就キ檢査ヲ行ヒ所要ノ人員ヲ採用ス(三十二年勅令第四百九十五號ヲ以テ改正)

第十六條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セ

二 品行不其或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改
 俊セザル者
 三 試驗ノ成績不其ニシテ卒業ノ目的ナキ者
 四 傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ
 難シト認ムル者
 第二十三條 (廿三年勅令二二七號ヲ以テ削除)
 附則
 第二十四條 本令ハ明治卅年十月八日ヨリ施行ス
 第二十五條 本令施行ノ際三箇年以上在學ノ生徒
 ハ本令施行ノ日ヲ以テ卒業セシム

●海軍機關學校條例 (明治三十一年九月)

勅令第三百二十三號

朕海軍機關學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
 布セシム
 海軍機關學校條例
 第一條 海軍機關學校ハ海軍機關官ト爲スヘキ生
 徒ヲ教育スル所トス
 第二條 海軍機關學校ニ於テ教授スヘキ學科ハ機
 關術水雷術及普通學トス
 第三條 海軍機關學校ニ左ノ職員ヲ置ク
 校長
 副官
 教頭
 教官
 監事
 監事長
 軍醫長
 主計長
 前項ノ外海軍中少軍醫及中少主計ヲ置ク(三十
 一年勅令第四百三十二號ヲ以テ本項中改正)

第四條 校長ハ海軍教育本部長ニ隸シ軍紀風紀ヲ
 維持シ校務ヲ總理ス(三十三年勅令第二百二十
 八號ヲ以テ條中改正)
 第五條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス
 第六條 教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教務ヲ監督ス
 第七條 教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔
 任ス
 第八條 監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ヲ監督シ紀
 律ヲ維持シ又體育ニ關スル事ヲ掌ル
 第九條 監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス
 第十條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關ス
 ル事ヲ掌ル
 第十一條 第三條第二項ニ掲ケル中少軍醫ハ軍醫
 長ノ命ヲ承ケ服務ス(三十年勅令第四百三十二
 號ヲ以テ條中改正)
 第十二條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關
 スル事ヲ掌ル
 第十三條 第三條第二項ニ掲ケル中少主計ハ主計
 長ノ命ヲ承ケ服務ス(三十年勅令第四百三十二
 號ヲ以テ條中改正)
 第十四條 海軍機關學校ニハ第三條ニ掲ケル職員
 ノ外海軍機關兵曹長並准士官下士卒及列任文官
 ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム(同上)
 第十五條 生徒ハ年滿十六年以上二十一年以
 下ニシテ海軍機關官タラント志願スル者ニ
 就キ檢査ヲ行ヒ所要ノ人員ヲ採用ス(三十一年
 勅令第九十六號ヲ以テ改正)
 第十六條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セ
 ス
 一 有妻ノ者
 二 禁烟以上ノ利ニ處セラレタル者若ハ賭博犯
 ノ處分ヲ受ケタル者

三 復讐ヲ得サル家資分散者破産者若ハ其ノ相
 繼人
 四 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル
 者若ハ其相繼人
 第十七條 生徒ノ召集及檢査格例ハ毎年海軍大臣
 ノ認可ヲ經テ海軍教育本部長之ヲ告示ス(三十
 三年勅令第二百二十八號ヲ以テ條中追加)
 第十八條 生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス
 第十九條 生徒ノ學年ハ三年四箇月トス但シ戰時
 若ハ事變ニ際シテハ之ヲ短縮スルコトヲ得
 第二十條 卒業試驗ニ及第シタル生徒ニハ卒業證
 書ヲ授與ス
 第二十一條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得
 ス
 第二十二條 生徒左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ
 退校セシム(卅一年勅令第一九六號ヲ以テ改正)
 一 海軍機關官タルヘキ器量ニ乏キ者
 二 品行不其或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改
 俊セザル者
 三 試驗ノ成績不其ニシテ卒業ノ目的ナキ者
 四 傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ
 難シト認ムル者
 第二十三條 (卅三年勅令第二二八號ヲ以テ削除)
 附則
 第二十四條 本令ハ明治卅年十月八日ヨリ施行ス
 第二十五條 本令施行ノ際三箇年以上在學ノ
 生徒ハ本令施行ノ日ヲ以テ卒業セシム
 ●海軍軍醫學校條例 (明治三十一年五月
 勅令第二百二十九號)
 海軍軍醫學校條例
 第一條 海軍軍醫學校ハ海軍軍醫官ニ高等ノ學術

ヲ教授シ兼テ海軍中少軍醫候補生ニ軍醫官タルニ
 必要ナル學科ヲ教授スル所トス
 海軍軍醫學校ニ於テハ被服糧食等ノ衛生試驗ヲ
 行フ
 第二條 海軍軍醫學校ニ左ノ職員ヲ置ク
 校長
 副官
 監事
 監事長
 軍醫長
 主計長
 第三條 校長ハ海軍省醫務局長ニ隸シ校務ヲ總理
 ス
 第四條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス
 第五條 監事ハ校長ノ命ヲ承ケ學生ヲ監督シ紀律
 ヲ維持ス
 第六條 教官ハ校長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔
 任ス
 第七條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關ス
 ル事ヲ掌ル
 第八條 海軍軍醫學校ニハ第二條ニ掲ケル職員ノ
 外書記及技手ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム
 (二十三年勅令第三百六十八號ヲ以テ本條中改
 正)
 第九條 海軍軍醫學校ニ於テ教授スル海軍軍醫官
 及海軍少軍醫候補生ヲ海軍軍醫學校學生及海軍
 軍醫學校選科學生ト稱ス
 第十條 海軍軍醫學校學生ハ海軍軍醫及海軍少軍
 醫候補生ニ海軍大臣之ヲ命ス
 第十一條 海軍軍醫學校選科學生ハ海軍軍醫監若
 ハ實役停年三箇年以上ヲ經タル海軍大軍醫ニシ
 テ學生タラント志願スル者ニ海軍大臣之ヲ
 命ス

第十二條 海軍軍醫學校選科學生ニハ各自ノ選擇
 スル學科ヲ修メシム
 第十三條 校長ハ學生中不適合ト認ムル者アルト
 キハ海軍省醫務局長ニ稟申ス海軍省醫務局長至
 當ト認メタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申ス海軍
 大臣ハ退學ノ手續ヲ行フコトアルヘシ
 第十四條 海軍軍醫學校學生在學中高級ノ官等ニ
 進級スル場合ト雖卒業迄留學セシムルコトヲ得
 第十五條 海軍軍醫學校學生卒業試驗ニ及第シタ
 ルトキハ卒業證書ヲ授與ス
 ●海軍機關術練習所條例
 (明治三十年九月
 勅令第三百二十四號)
 朕海軍機關術練習所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ
 シム
 海軍機關術練習所條例
 第一條 海軍機關術練習所ハ之ヲ橫濱實業港ニ置
 ク
 第二條 海軍機關術練習所ハ機關術ノ教授ヲ掌リ
 且機關ニ關スル工業ノ改良進歩ヲ圖ル所トス
 (三十一年勅令第三百三十二號及三十三年同第
 二百三十二號改正ニ依ル)
 第三條 海軍機關術練習所ニ左ノ職員ヲ置ク
 所長
 教官
 分隊長
 軍醫長
 主計長
 前項ノ外海軍中少軍醫及中少主計ヲ置ク(三十
 一年勅令第四百三十五號改正ニ依ル)
 第四條 所長ハ海軍教育本部長ニ隸シ軍紀風紀ヲ
 維持シ所務ヲ總理ス(三十三年勅令第二百三十

二號改正ニ依ル)
 第五條 教官ハ所長ノ命ヲ承ケ教授ヲ擔任ス(三
 十二年勅令第三百三十二號改正ニ依ル)
 先任教官ハ前項ノ外所長ヲ輔佐シ所長ノ命令ヲ
 執行シ所内ノ定則ヲ維持ス
 第六條 分隊長ハ所長ノ命ヲ承ケ隊員ノ紀律ヲ維
 持シ之ヲ監督訓練ス
 第七條 軍醫長ハ所長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關ス
 ル事ヲ掌ル
 第八條 第三條第二項ニ掲ケル中少軍醫ハ軍醫長
 ノ命ヲ承ケ服務ス(三十年勅令第四百三十五號
 改正ニ依ル)
 第九條 主計長ハ所長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關ス
 ル事ヲ掌リ及庶務ヲ掌理ス
 第十條 第三條第二項ニ掲ケル中少主計ハ主計長
 ノ命ヲ承ケ服務ス(同上)
 第十一條 海軍機關術練習所ニハ第三條ニ掲ケル
 職員ノ外海軍機關兵曹長並准士官下士卒
 及列任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム
 (同上)
 第十二條 海軍機關術練習所ニ於テ教授スヘキ者
 ハ海軍上等機關兵曹、機關兵曹、機關兵、船匠師、
 船匠手、木工、鍛冶手及鍛冶トス
 第十三條 海軍機關術練習所ニ於テ教授スル下士
 卒ヲ左ノ四種ニ區別ス(三十二年勅令第三百三
 十二號改正ニ依ル)
 一 機關術教員ト爲スヘキ者
 二 機關工ト爲スヘキ者
 三 船匠工ト爲スヘキ者
 四 兵器工ト爲スヘキ者
 第十四條 海軍機關術練習所ニ於テ教授スル機關
 術教員ト爲スヘキ者ヲ機關術練習生ト稱シ機關

術教員ト爲スヘキ者ヲ機關術練習生ト稱シ機關
 術教員ト爲スヘキ者ヲ機關術練習生ト稱シ機關

工ト爲スヘキ者ヲ機關工練習生ト稱シ船匠工ト爲スヘキ者ヲ船匠工練習生ト稱シ兵器工ト爲スヘキ者ヲ兵器工練習生ト稱ス(同上)

第十五條 機關工練習生ト爲スヘキ者ハ一等機關工練習生ト爲スル海軍一等機關兵曹以下一等機關兵以上ニシテ卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者若ハ服スヘキコトヲ誓約スル者ノ中ヨリ所長之ヲ選拔ス(三十二年勅令第三百三十二號及第四百五十一號改正ニ依ル)

第十六條 機關工練習生ハ海軍一等機關兵曹以下二等機關兵以上及海軍一等船匠手以下二等船匠以上ノ者ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス(同上)

一 身體強健、品行方正ナル者

二 仕上工業、製鐵工業、銅鉛工業、鍛冶工業ノ中一業ヲ修得セシムルニ適當ト認ムヘキ技能學力アル者

三 機關工タラント志願シ卒業後一回以上再服役ヲ爲スヘキコトヲ誓約スル者

前項第三號ノ誓約ヲ爲シタル後卒ヨリ下士ニ進級シタル場合ニ於テハ再服役ヲ爲スコトヲ要セス

第十七條 船匠工練習生ハ海軍一等船匠手以下二等木工以上ノ者ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス(同上)

一 身體強健、品行方正ナル者

二 船匠工業ヲ修得セシムルニ適當ト認ムヘキ技能學力アル者

三 船匠工タラント志願シ卒業後一回以上再服役ヲ爲スヘキコトヲ誓約スル者

前項第三號ノ誓約ヲ爲シタル後卒ヨリ下士ニ進級シタル場合ニ於テハ再服役ヲ爲スコトヲ要セス

第十八條 兵器工練習生ハ海軍一等船匠手以下二等船匠以上ノ者ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス(同上)

一 身體強健、品行方正ナル者

二 銃砲工業ヲ修得セシムルニ適當ト認ムヘキ技能學力アル者

三 兵器工タラント志願シ卒業後一回以上再服役ヲ爲スヘキコトヲ誓約スル者

前項第三號ノ誓約ヲ爲シタル後卒ヨリ下士ニ進級シタル場合ニ於テハ再服役ヲ爲スコトヲ要セス

第十九條 海軍機關工練習所ニ於テ教授スル上等機關兵曹及船匠師ハ海軍大臣之ヲ命ス(三十二年勅令第三百三十二號改正ニ依ル)

第二十條 機關工練習生卒業シタルトキハ之ニ機關工練習生適任證書ヲ授與ス(同上)

第二十一條 機關工練習生卒業シタルトキハ機關工練習生適任證書ヲ授與スル者ハ船匠工練習生適任證書ヲ授與スル者トキハ兵器工練習生適任證書ヲ授與スル者トキハ兵器工練習生適任證書ヲ授與スル者トシ(同上)

第二十二條 機關工練習生有スル下士卒ヲ船匠工ト稱シ兵器工練習生有スル下士卒ヲ兵器工ト稱ス(同上)

第二十三條 機關工練習生適任證書ヲ授與シタル者ハ再服役ヲ爲スヘキコトヲ誓約スル者ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス(三十二年勅令第三百三十二號改正ニ依ル)

一 身體強健、視力完全、品行方正ナル者

二 掌砲兵タルヘキ技能學力ヲ有スト認メタル者

三 射擊及距離自測ニ長シ又ハ長スヘキ見込アル者

四 掌砲兵タラント志願シ卒業後一回以上再服役ヲ爲スヘキコトヲ誓約スル者

前項第四號ノ誓約ヲ爲シタル後卒ヨリ下士ニ進級シタル場合ニ於テハ再服役ヲ爲スコトヲ要セス(三十二年勅令第四百四十九號ヲ以テ本項追加)

第二十四條 砲術教員ト爲スヘキ者ハ一等掌砲兵ト爲スル以上現役ニ服スヘキ者若ハ服スヘキコトヲ誓約スル者ノ中ヨリ所長之ヲ選拔ス(三十二年勅令第三百三十號及第四百四十九號改正ニ依ル)

第二十五條 砲術ノ復習ヲ爲ス者ハ既ニ修得シタルモノヲ復習セシムルコトヲ志願シ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ選拔ス(シ)

一 身體強健、視力完全、品行方正ナル者

二 卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者若ハ服スヘキコトヲ誓約スル者(三十二年勅令第四百四十九號ヲ以テ本號追加)

第二十七條 上等機關兵曹卒業シタルトキハ機關工練習生適任證書ヲ授與シ船匠師卒業シタルトキハ船匠工練習生適任證書ヲ授與ス

第二十八條 所長ハ海軍機關工練習所ニ於テ教授スル者ノ中不適合ト認ムル者アルトキハ准士官ニ在テハ海軍教育本部長ニ稟申ス海軍教育本部長至當ト認メタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申ス海軍大臣ハ退學ノ手續ヲ行フコトアリ又下士卒ニ在テハ所長之ニ退學ヲ命スルコトヲ得(三十二年勅令第三百三十二號改正ニ依ル)

第二十九條 (同上ヲ以テ削除)

附則
第三十條 本令ハ明治三十年十月八日ヨリ施行ス附則(三十二年勅令第三百三十二號)
從來ノ掌機工及掌鐵工ハ本令施行ノ日ヨリ機關工トス

●海軍砲術練習所條例 (明治三十年九月二十八號)

海軍砲術練習所條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 海軍砲術練習所ハ之ヲ橫濱賀軍港ニ設ク

第二條 海軍砲術練習所ノ砲術ノ教授ヲ掌リ且砲術ノ改良進歩ヲ圖ル所トス(三十二年勅令第三百三十號ヲ以テ條中削除)

第三條 海軍砲術練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
分隊長
砲術長
砲術長

三 射擊及距離自測ノ成績優等ナル者(三十二年勅令第三百三十號ヲ以テ本號追加)

第二十條 海軍砲術練習所ニ於テ教授スル佐官及上等兵曹ハ海軍大臣之ヲ命ス

第二十一條 (三十二年勅令第三百三十號ヲ以テ削除)

第二十二條 商船學校學生卒業試驗ニ及第シタルトキハ之ニ砲術卒業證書ヲ授與ス(三十二年勅令第二十八號ヲ以テ條中削除)

第二十三條 掌砲兵ト爲スヘキ砲術練習生卒業シタルトキハ之ニ掌砲兵證書ヲ授與ス

第二十四條 砲術教員ト爲スヘキ砲術練習生卒業シタルトキハ其ノ成績ニ應ジ砲術教員適任證書及掌砲證書ヲ授與ス但シ砲術教員ノ資格ヲ有スルハ證書證書ヲ併授セシ者ニ限ル

第二十五條 復習ヲ爲ス砲術練習生卒業シタルトキハ砲術教員適任證書及掌砲證書ヲ授與ス

第二十六條 掌砲證書ハ卒業ノ成績ニ依リ二等ニ分ツ

第二十七條 掌砲證書ヲ有スル下士卒ヲ掌砲兵ト稱ス

第二十八條 掌砲證書ハ砲術教員適任證書ヲ授與シタル者ニハ臂章ヲ付與ス

第二十九條 掌砲證書ノ有效期限ハ五箇年トシ砲術教員適任證書ノ有效期限ハ三箇年トス其ノ期滿レハ臂章ヲ除去ス但シ戰時若ハ事變ニ際シテハ其ノ有效期限ヲ延スコトヲ得

第三十條 佐官及上等兵曹試驗ニ及第シタルトキハ砲術修業證書ヲ授與ス

第三十一條 所長ハ海軍砲術練習所ニ於テ教授スル者ノ中不適合ト認ムル者アルトキハ准士官以

主計長
前項ノ外海軍中少尉軍醫及中少主計ヲ置ク(三十二年勅令第四百三十三號改正ニ依ル)

第四條 所長ハ海軍教育本部長ニ隸シ軍紀風紀ヲ維持シ所務ヲ總理ス(三十二年勅令第二百三十號改正ニ依ル)

第五條 教官ハ所長ノ命ヲ承テ教授ヲ擔任シ又砲術ノ研究調査ニ關スル事ヲ掌ル

先任教官ハ前項ノ外所長ヲ輔佐シ所長ノ命令ヲ執行シ所内ノ定則ヲ維持ス

第六條 分隊長ハ所長ノ命ヲ承テ隊員ノ紀律ヲ維持シ之ヲ監督訓練ス

第七條 第三條第二項ニ掲グル中少尉ハ所長ノ指定ニ依リ教官若ハ分隊長ニ屬シ其ノ命ヲ承テ服務ス(三十二年勅令第四百三十三號改正ニ依ル)

第八條 軍醫長ハ所長ノ命ヲ承テ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル

第九條 第三條第二項ニ掲グル軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承テ服務ス(同上)

第十條 主計長ハ所長ノ命ヲ承テ會計給與ニ關スル事ヲ掌リ及庶務ヲ掌理ス

第十一條 第三條第二項ニ掲グル中少主計ハ主計長ノ命ヲ承テ服務ス(同上)

第十二條 海軍砲術練習所ニハ第三條ニ掲グル職員ノ外海軍兵曹長並准士官下士卒及列任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承テ服務セシム(同上)

第十三條 海軍砲術練習所ニ於テ教授スヘキ者ハ海軍佐官上等兵曹及下士卒並商船學校學生トス(三十二年勅令第二十八號ヲ以テ條中削除)

第十四條 海軍砲術練習所ニ於テ教授スル下士卒ヲ砲術練習生ト稱ス(同上)

第十五條 (同上ヲ以テ削除)

第十六條 砲術練習生ハ左ノ三種ニ區別ス

一 掌砲兵ト爲スヘキ者

二 砲術教員ト爲スヘキ者

三 砲術ノ復習ヲ爲スヘキ者

第十七條 掌砲兵ト爲スヘキ者ハ海軍一等兵曹以下二等兵曹以上ノ者ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス(三十二年勅令第三百三十號改正ニ依ル)

一 身體強健、視力完全、品行方正ナル者

二 掌砲兵タルヘキ技能學力ヲ有スト認メタル者

三 射擊及距離自測ニ長シ又ハ長スヘキ見込アル者

四 掌砲兵タラント志願シ卒業後一回以上再服役ヲ爲スヘキコトヲ誓約スル者

前項第四號ノ誓約ヲ爲シタル後卒ヨリ下士ニ進級シタル場合ニ於テハ再服役ヲ爲スコトヲ要セス(三十二年勅令第四百四十九號ヲ以テ本項追加)

第十八條 砲術教員ト爲スヘキ者ハ一等掌砲兵ト爲スル以上現役ニ服スヘキ者若ハ服スヘキコトヲ誓約スル者ノ中ヨリ所長之ヲ選拔ス(三十二年勅令第三百三十號及第四百四十九號改正ニ依ル)

第十九條 砲術ノ復習ヲ爲ス者ハ既ニ修得シタルモノヲ復習セシムルコトヲ志願シ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ選拔ス(シ)

一 身體強健、視力完全、品行方正ナル者

二 卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者若ハ服スヘキコトヲ誓約スル者(三十二年勅令第四百四十九號ヲ以テ本號追加)

第三十條 本令ハ明治三十年十月八日ヨリ施行ス附則(三十二年勅令第三百三十二號)
從來ノ掌機工及掌鐵工ハ本令施行ノ日ヨリ機關工トス

●海軍砲術練習所條例 (明治三十年九月二十八號)

海軍砲術練習所條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 海軍砲術練習所ハ之ヲ橫濱賀軍港ニ設ク

第二條 海軍砲術練習所ノ砲術ノ教授ヲ掌リ且砲術ノ改良進歩ヲ圖ル所トス(三十二年勅令第三百三十號ヲ以テ條中削除)

第三條 海軍砲術練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
分隊長
砲術長
砲術長

三 射擊及距離自測ノ成績優等ナル者(三十二年勅令第三百三十號ヲ以テ本號追加)

第二十條 海軍砲術練習所ニ於テ教授スル佐官及上等兵曹ハ海軍大臣之ヲ命ス

第二十一條 (三十二年勅令第三百三十號ヲ以テ削除)

第二十二條 商船學校學生卒業試驗ニ及第シタルトキハ之ニ砲術卒業證書ヲ授與ス(三十二年勅令第二十八號ヲ以テ條中削除)

第二十三條 掌砲兵ト爲スヘキ砲術練習生卒業シタルトキハ之ニ掌砲兵證書ヲ授與ス

第二十四條 砲術教員ト爲スヘキ砲術練習生卒業シタルトキハ其ノ成績ニ應ジ砲術教員適任證書及掌砲證書ヲ授與ス但シ砲術教員ノ資格ヲ有スルハ證書證書ヲ併授セシ者ニ限ル

第二十五條 復習ヲ爲ス砲術練習生卒業シタルトキハ砲術教員適任證書及掌砲證書ヲ授與ス

第二十六條 掌砲證書ハ卒業ノ成績ニ依リ二等ニ分ツ

第二十七條 掌砲證書ヲ有スル下士卒ヲ掌砲兵ト稱ス

第二十八條 掌砲證書ハ砲術教員適任證書ヲ授與シタル者ニハ臂章ヲ付與ス

第二十九條 掌砲證書ノ有效期限ハ五箇年トシ砲術教員適任證書ノ有效期限ハ三箇年トス其ノ期滿レハ臂章ヲ除去ス但シ戰時若ハ事變ニ際シテハ其ノ有效期限ヲ延スコトヲ得

第三十條 佐官及上等兵曹試驗ニ及第シタルトキハ砲術修業證書ヲ授與ス

第三十一條 所長ハ海軍砲術練習所ニ於テ教授スル者ノ中不適合ト認ムル者アルトキハ准士官以

上ニ在テハ海軍教育本部長ニ就申ス海軍教育本部長至當ト認メタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申ス海軍大臣ハ退學ノ手續ヲ行フコトアリ又下士卒尙商船學校學生ニ在テハ所長之ニ退學ヲ命スルコトヲ得(三十三年勅令第二百三十號ヲ以テ條中改正)

●海軍水雷術練習所條例
(明治三十年九月)
(勅令第三百二十九號)

朕海軍水雷術練習所條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍水雷術練習所條例

第一條 海軍水雷術練習所ハ之ヲ橫濱賀年港ニ置ク

第二條 海軍水雷術練習所ハ水雷術ノ教授ヲ掌リ且水雷術ノ改良進歩ヲ圖ル所トス(三十三年勅令第二百三十一號ヲ以テ條中削除)

第三條 海軍水雷術練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

教官

分隊長

軍醫長

主計長

前項ノ外海軍中少尉中少軍醫及中少主計ヲ置ク(三十年勅令第四百三十四號改正ニ依ル)

第四條 所長ハ海軍教育本部長ニ請シ軍紀風紀ヲ維持シ所務ヲ總理ス(三十三年勅令第二百三十一號改正ニ依ル)

第五條 教官ハ所長ノ命ヲ承ケ教授ヲ擔任シ又水雷術ノ研究調査ニ關スル事ヲ掌ル

先任教官ハ前項ノ外所長ヲ輔佐シ所長ノ命ヲ承

執行シ所内ノ定則ヲ維持ス

第六條 分隊長ハ所長ノ命ヲ承ケ隊員ノ紀律ヲ維持シ之ヲ監督訓練ス

第七條 第三條第二項ニ掲グル中少尉ハ所長ノ指定ニ依リ教官若ハ分隊長ニ屬シ其ノ命ヲ承ケ服務ス(三十年勅令第四百三十四號改正ニ依ル)

第八條 軍醫長ハ所長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル

第九條 第三條第二項ニ掲グル中少軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス(同上)

第十條 主計長ハ所長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スル事ヲ掌リ及庶務ヲ掌理ス

第十一條 第三條第二項ニ掲グル中少主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス(同上)

第十二條 海軍水雷術練習所ニハ第三條ニ掲グル職員ノ外海軍兵曹長同相當官尙准士官下士卒及判任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム(同上)

第十三條 海軍水雷術練習所ニ於テ教授スヘキ者ハ海軍佐官機關士上等兵曹上等機關兵曹及下士卒トス(三十年勅令第四百三十四號及三十三年勅令第二百二十九號改正ニ依ル)

第十四條 海軍水雷術練習所ニ於テ教授スル機關士ハ海軍水雷術練習所學生ト稱シ下士卒ハ水雷術練習生ト稱ス(三十年勅令第四百三十四號改正ニ依ル)

第十五條 (三十三年勅令第二百二十九號ヲ以テ削除)

第十六條 海軍水雷術練習所學生ハ海軍大臣之命ヲ(三十年勅令第四百三十四號及三十三年勅令第二百二十九號改正ニ依ル)

第十七條 水雷術練習生ハ左ノ四種ニ區別ス

一 掌水雷兵ト爲スヘキ者

二 水雷工ト爲スヘキ者

三 水雷術教員ト爲スヘキ者

四 水雷術ノ復習ヲ爲スヘキ者

第十八條 掌水雷兵ト爲スヘキ者ハ海軍一等兵曹以下二等水兵以上ノ者、水雷工ト爲スヘキ者ハ海軍一等機關兵曹以下二等機關兵以上ノ者ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選抜ス(卅二年勅令第三百三十一號ヲ以テ全條改正)

一 身體強健、品行方正ナル者

二 掌水雷兵若ハ水雷工タルヘキ技能學力ヲ有スト認メタル者

三 掌水雷兵若ハ水雷工タルコトヲ志願シ卒業後一回以上再服役ヲ爲スヘキコトヲ誓約スル者

前項第三號ノ誓約ヲ爲シタル後卒ヨリ下士ニ進級シタル場合ニ於テハ再服役ヲ爲スコトヲ要セス(三十三年勅令第四百五十號ヲ以テ本項追加)

第十九條 水雷術教員ト爲スヘキ者ハ一等兵水雷證狀ヲ有スル海軍一等兵曹以下一等水兵以上ニシテ卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者若ハ眼スヘキコトヲ誓約スル者ノ中ヨリ所長之ヲ選抜ス(三十三年勅令第三百三十一號及第四百五十號改正ニ依ル)

第二十條 水雷術復習ヲ爲ス者ハ既ニ修得シタルモノヲ復習センコトヲ志願シ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ選抜スヘシ

一 身體強健、品行方正ナル者

二 卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者若ハ眼スヘキコトヲ誓約スル者(三十三年勅令第四百五十號ヲ以テ本號中追加)

第二十一條 海軍水雷術練習所ニ於テ教授スル佐官上等兵曹及上等機關兵曹ハ海軍大臣之命ヲ承

本部長至當ト認メタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申ス海軍大臣ハ退學ノ手續ヲ行フコトアリ又下士卒ニ在テハ所長之ニ退學ヲ命スルコトヲ得(三十三年勅令第二百三十一號ヲ以テ條中改正)

第三十三條 (同上ヲ以テ削除)

●海軍主計官練習所條例
(明治三十年五月)
(勅令第三百九十三號)

朕海軍主計官練習所條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍主計官練習所條例

第一條 海軍主計官練習所ハ少主計候補生ヲシテ海軍主計官ニ必要ナル職務ヲ練習セシム兼テ簿記事務及二等主計官シテ實務ヲ練習セシムル所トス(三十四年勅令第六十一號ヲ以テ條中改正)

第二條 前條ニ依リ練習スル准士官以上及候補生ヲ學生ト稱シ下士卒ヲ練習生ト稱ス(同上ヲ以テ改正)

第三條 海軍主計官練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

監事

教官

第四條 所長ハ海軍省經理局長ニ請シ所務ヲ總理ス(三十三年勅令第二百三十三號ヲ以テ條中改正)

第五條 監事ハ所長ノ命ヲ受ケ學生及練習生ヲ監督ス

第六條 教官ハ所長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第七條 海軍主計官練習所ニ簿記ヲ置キ上官ノ命

ヲ承ケ服務セシム

第八條 練習生ハ簿記事務及主計ヨリ之ヲ選抜ス其ノ採用試驗ニ合格シタル者及乙種練習生修業證書ヲ有スル者ヲ甲種練習生トシ其ノ他ヲ乙種練習生トス(三十四年勅令第六十一號ヲ以テ追加)

第九條 練習生ノ採用試驗及選抜ニ關スル規定ハ海軍大臣之ヲ定ム(同上)

第十條 學生卒業シタルトキハ之ニ卒業證書ヲ授與ス(同上)

甲種練習生卒業シタルトキハ之ニ筆記證書ヲ授與ス

乙種練習生卒業シタルトキハ之ニ修業證書ヲ授與ス

第十一條 筆記證書ハ卒業ノ成績ニ依リ二等二分(同上)

第十二條 筆記證書ヲ授與シタル者ニハ臂章ヲ附與ス(同上)

第十三條 筆記證書ノ有效期限ハ五箇年トス其ノ期滿シレハ臂章ヲ除去ス但シ戰時若ハ事變ニ際シテハ其ノ有效期限ヲ延スコトヲ得(同上)

附則(三十四年勅令第六十一號)

本令施行前ニ卒業シタル練習生ニモ筆記證書ヲ授與スルコトヲ得

●臨時海軍建築部官制
(明治三十年七月)
(勅令第二百四十七號)

朕臨時海軍建築部官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時海軍建築部官制

第一條 臨時海軍建築部ヲ東京ニ置ク(三十四年勅令第七十七號ヲ以テ條中削除)

第二十二條 (三十二年勅令第三百三十一號ヲ以テ削除)

第二十三條 海軍水雷術練習所學生卒業試驗ニ及第シタルトキハ之ニ水雷術卒業證書ヲ授與ス

第二十四條 掌水雷兵ト爲スヘキ水雷術練習生卒業シタルトキハ之ニ掌水雷證狀ヲ授與シ水雷工ト爲スヘキ水雷術練習生卒業シタルトキハ之ニ水雷工證狀ヲ授與ス

第二十五條 水雷術教員ト爲スヘキ水雷術練習生卒業シタルトキハ其ノ成績ニ應ジ水雷術教員適任證書及掌水雷證狀若ハ掌水雷工證狀ヲ授與ス但シ水雷術教員ノ資格ヲ有スルハ證狀ヲ併授セシ者ニ限ル

第二十六條 復習ヲ爲ス水雷術練習生卒業シタルトキハ水雷術教員適任證書及掌水雷證狀若ハ掌水雷工證狀ヲ授與ス

第二十七條 掌水雷證狀及水雷工證狀ハ卒業ノ成績ニ依リ各二等二分

第二十八條 掌水雷證狀ヲ有スル下士卒ヲ掌水雷兵ト稱シ水雷工證狀ヲ有スル下士卒ヲ水雷工ト稱ス

第二十九條 掌水雷證狀水雷工證狀若ハ水雷術教員適任證書ヲ授與シタル者ニハ臂章ヲ付與ス

第三十條 掌水雷證狀ノ有效期限ハ五箇年トシ水雷術教員適任證書ノ有效期限ハ三箇年トス其ノ期滿シレハ臂章ヲ除去ス但シ戰時若ハ事變ニ際シテハ其ノ有效期限ヲ延スコトヲ得

第三十一條 佐官上等兵曹及上等機關兵曹試驗ニ及第シタルトキハ水雷術修業證書ヲ授與ス

第三十二條 所長ハ海軍水雷術練習所ニ於テ教授スル者ノ中不適合ト認ムル者アルトキハ准士官以上ニ在テハ海軍教育本部長ニ稟申ス海軍教育

本部長至當ト認メタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申ス海軍大臣ハ退學ノ手續ヲ行フコトアリ又下士卒ニ在テハ所長之ニ退學ヲ命スルコトヲ得(三十三年勅令第二百三十一號ヲ以テ條中改正)

第三十三條 (同上ヲ以テ削除)

●海軍主計官練習所條例
(明治三十年五月)
(勅令第三百九十三號)

朕海軍主計官練習所條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍主計官練習所條例

第一條 海軍主計官練習所ハ少主計候補生ヲシテ海軍主計官ニ必要ナル職務ヲ練習セシム兼テ簿記事務及二等主計官シテ實務ヲ練習セシムル所トス(三十四年勅令第六十一號ヲ以テ條中改正)

第二條 前條ニ依リ練習スル准士官以上及候補生ヲ學生ト稱シ下士卒ヲ練習生ト稱ス(同上ヲ以テ改正)

第三條 海軍主計官練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

監事

教官

第四條 所長ハ海軍省經理局長ニ請シ所務ヲ總理ス(三十三年勅令第二百三十三號ヲ以テ條中改正)

第五條 監事ハ所長ノ命ヲ受ケ學生及練習生ヲ監督ス

第六條 教官ハ所長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第七條 海軍主計官練習所ニ簿記ヲ置キ上官ノ命

ヲ承ケ服務セシム

第八條 練習生ハ簿記事務及主計ヨリ之ヲ選抜ス其ノ採用試驗ニ合格シタル者及乙種練習生修業證書ヲ有スル者ヲ甲種練習生トシ其ノ他ヲ乙種練習生トス(三十四年勅令第六十一號ヲ以テ追加)

第九條 練習生ノ採用試驗及選抜ニ關スル規定ハ海軍大臣之ヲ定ム(同上)

第十條 學生卒業シタルトキハ之ニ卒業證書ヲ授與ス(同上)

甲種練習生卒業シタルトキハ之ニ筆記證書ヲ授與ス

乙種練習生卒業シタルトキハ之ニ修業證書ヲ授與ス

第十一條 筆記證書ハ卒業ノ成績ニ依リ二等二分(同上)

第十二條 筆記證書ヲ授與シタル者ニハ臂章ヲ附與ス(同上)

第十三條 筆記證書ノ有效期限ハ五箇年トス其ノ期滿シレハ臂章ヲ除去ス但シ戰時若ハ事變ニ際シテハ其ノ有效期限ヲ延スコトヲ得(同上)

附則(三十四年勅令第六十一號)

本令施行前ニ卒業シタル練習生ニモ筆記證書ヲ授與スルコトヲ得

●臨時海軍建築部官制
(明治三十年七月)
(勅令第二百四十七號)

朕臨時海軍建築部官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時海軍建築部官制

第一條 臨時海軍建築部ヲ東京ニ置ク(三十四年勅令第七十七號ヲ以テ條中削除)

經理部ニ建築科ヲ置キ官有財産建築及土木ニ關スルコトヲ掌ルシム

第二十七條 司法部ニ於テハ平事司法、懲罰及監獄ニ關スルコトヲ掌ル

第二十八條 總務部、機關部、醫務部、經理部及司法部ニ左ノ職員ヲ置ク(三十三年勅令第二百八十四號ヲ以テ條中削除)

總務部 部長 部長ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

機關部 部長 部長ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

醫務部 部長 部長ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

經理部 部長 部長ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

第一課長 第一課長ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

第二課長 第二課長ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

衣糧科科長 衣糧科科長ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

建築科科長 建築科科長ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

建築科科員 建築科科員ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

司法部 部長 部長ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

第二十九條 各部長ハ司令長官ノ命ヲ承ケ其ノ部ノ事務ヲ掌理ス

經理部長ハ會計事務ノ監督及金貨物件帳簿ノ監督ニ就テハ海軍大臣ニ隸ス

第三十條 各部ノ部員ハ各其ノ部長ノ命ヲ承ケ服務ス

第三十一條 經理部課長ハ部長ノ命ヲ承ケ各其ノ課ノ事務ヲ掌ル

第三十二條 經理部科長ハ部長ノ命ヲ承ケ各其ノ科ノ事務ヲ掌ル

第三十三條 鎮守府ニ臨時編製委員ヲ置キ編製ニ關スル事務ニ服セシムルコトヲ得

第三十四條 前條ニ掲ケル職員ノ外海軍兵曹長同相當官並准士官下士卒及書記事務技手ヲ置キ各部ニ分屬シ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附則
本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍港務部條例 (明治三十三年五月)

勅令第(二百號)

朕海軍港務部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍港務部條例

第一條 各軍港ニ海軍港務部ヲ置ク

港務部ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條 港務部ハ軍港水域ノ警衛、艦船ノ留置、出入場、渡渡船ノ使用、海標、運輸、救難、防火等ノ事及司令長官ノ指定スル軍港防禦ノ一部ニ關スルコトヲ掌ル

第三條 港務部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長 部長ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

副官 副官ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

軍醫長 主計長 前項ノ外必要ニ應ジ海軍軍醫及主計ヲ置クコトヲ得

第四條 部長ハ鎮守府司令長官ニ隸シ部務ヲ掌理ス

第五條 部長ハ部下ノ職員ヲ所屬船舟ニ乘組マシムルコトヲ得

第六條 部長ハ部下ノ職員缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第七條 部長缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下首席將校其ノ職務ヲ代理ス

第八條 副官ハ部長ノ命ヲ承ケ人事及庶務ヲ掌ル

第九條 部員ハ部長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條 軍醫長ハ部長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌ル

第十一條 軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條 主計長ハ部長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十三條 主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條 前條ニ掲ケル職員ノ外海軍兵曹長同相當官並准士官下士卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附則
本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

●豫備艦部條例 (明治三十三年五月)

勅令第(二)百一號

朕豫備艦部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

豫備艦部條例

第一條 各軍港ニ豫備艦部ヲ置ク

豫備艦部ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條 豫備艦部ハ豫備艦ヲ統轄保管シ又其ノ就役準備ヲ掌ル

第三條 豫備艦部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長 部長ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

副官 副官ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

機關長 機關長ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

軍醫長 軍醫長ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

主計長 主計長ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

主計 主計ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

第四條 部長ハ鎮守府司令長官ニ隸シ部務ヲ掌理ス

第五條 部長ハ部下ノ職員ヲ所屬豫備艦ニ乘組マシムルコトヲ得

第六條 部長ハ部下ノ職員缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第七條 部長缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下首席將校其ノ職務ヲ代理ス

第八條 副官ハ部長ノ命ヲ承ケ人事及庶務ヲ掌ル

第九條 部員ハ部長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條 軍醫長ハ部長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌ル

第十一條 軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條 主計長ハ部長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十三條 主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條 前條ニ掲ケル職員ノ外海軍兵曹長同相當官並准士官下士卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附則
本令ハ明治三十年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

シム

豫備艦部條例

第一條 各軍港ニ豫備艦部ヲ置ク

豫備艦部ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條 豫備艦部ハ豫備艦ヲ統轄保管シ又其ノ就役準備ヲ掌ル

第三條 豫備艦部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長 部長ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

副官 副官ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

機關長 機關長ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

軍醫長 軍醫長ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

主計長 主計長ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

主計 主計ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

第四條 部長ハ鎮守府司令長官ニ隸シ部務ヲ掌理ス

第五條 部長ハ部下ノ職員ヲ所屬豫備艦ニ乘組マシムルコトヲ得

第六條 部長ハ部下ノ職員缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第七條 部長缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下首席將校其ノ職務ヲ代理ス

第八條 副官ハ部長ノ命ヲ承ケ人事及庶務ヲ掌ル

第九條 部員ハ部長ノ命ヲ承ケ服務ス

第九條之二 機關長ハ部長ノ命ヲ承ケ機關船體及兵器ニ關スル事及機關官以下ノ勤務ニ關スル事ヲ掌ル(三十三年勅令第二百八十五號ヲ以テ追加)

第十條 軍醫長ハ部長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル

ルコトヲ掌ル

第十一條 軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條 主計長ハ部長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十三條 主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條 前條ニ掲ケル職員ノ外海軍兵曹長同相當官並准士官下士卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附則
本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍造船廠條例 (明治三十三年九月)

勅令第(三)百二十號

朕海軍造船廠條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍造船廠條例

第一條 各軍港ニ海軍造船廠ヲ置ク

海軍造船廠ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條 海軍造船廠ハ鎮守府總務部ニ屬シ艦船ノ製造修理並其ノ他造船事業ニ關スル事ヲ掌ル所トス(三十三年勅令第二百四十號ヲ以テ條中追加)

第三條 海軍造船廠ニ廠長ヲ置キ鎮守府總務部長ニ隸シ廠務ヲ總理セシム(同上ヲ以テ條中改正)

第四條 海軍造船廠ニ造船科造船機科會計課及材料課ヲ置ク

第五條 造船科ニ於テハ船體ニ關スル事ヲ掌ル

第六條 造船機科ニ於テハ機關ニ關スル事ヲ掌ル

第七條 會計課ニ於テハ會計給與ニ關スル事ヲ掌ル

第八條 材料課ニ於テハ造船材料ノ購買賣却貯蔵出納ニ關スル事ヲ掌ル

第九條 造船科造船機科會計課及材料課ニ左ノ職員ヲ置ク

造船科 科長 科長ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

造船機科 科長 科長ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

會計課 課長 課長ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

材料課 課長 課長ノ下ニ職員ヲ置キ其ノ職務ヲ掌ル

第十條 科長課長及主管ハ廠長ノ命ヲ承ケ其ノ課課員ノ事務ヲ掌理ス

第十一條 主幹ハ所屬科長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條 海軍造船廠ニ軍醫長ヲ置キ廠長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル

前項ノ外必要ニ應ジ海軍造船廠ニ海軍軍醫ヲ置キ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務セシム(三十年勅令第四百二十八號改正ニ依ル)

第十三條 海軍造船廠ニ前條ニ掲ケル職員ノ外海軍兵曹長同相當官並准士官下士卒及判任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム(同上)

第十四條 (三十三年勅令第二百四十號ヲ以テ追加)

附則
本令ハ明治三十年十月八日ヨリ施行ス(別表)(三十三年勅令第二百四十號ヲ以テ追加)

●海軍造船工練習所條例 (明治三十年九月)

勅令第(三)百二十五號

海軍造船工練習所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 海軍造船工練習所ハ横須賀海軍造船廠ニ屬シ海軍造船職工ヲ教育スル所トス

第二條 海軍造船工練習所ニ左ノ職員ヲ置ク所長 教官

第三條 所長ハ造船廠長ニ就シ紀律ヲ維持シ所務ヲ總理ス

第四條 教官ハ所長ノ命ヲ承ケ教授ヲ擔任ス

第五條 海軍造船工練習所ニハ第二條ニ掲クル職員ノ外列任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第六條 海軍造船工練習所ニ於テ教授スル職工ヲ練習職工ト稱ス

第七條 練習職工ハ其ノ志願者ニ就キ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ選拔ス

一 年齢二十一年以上三十歳未滿ノ者

二 海軍造船職工トシテ引續キ滿三箇年以上現業ニ服シ居ル者

三 品行方正ニシテ將來技藝熟達業工ヲ御シ得ルノ見込アル者

四 身體検査及學術試驗ニ合格シタル者

五 卒業後十箇年以上海軍ノ業務ニ従事スヘキ者

第八條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ練習職工ニ採用セズ

一 禁網以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

二 復権ヲ得サル家資分散者破産者若ハ其ノ相續人

第九條 入學試驗ノ規格ハ海軍大臣之ヲ定ム

第十條 卒業試驗ニ及シタル練習職工ニハ卒業證書ヲ授與ス

第十一條 前條ノ卒業證書ヲ有スル者ハ海軍技手ト爲ルヘキ資格アルモノトス

第十二條 練習職工ハ情願ヲ以テ退學スルコトヲ得ス

第十三條 練習職工ハ左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ退學セシム

一 品行不真或ハ怠惰ナル者

二 試驗ノ成績不真ニシテ卒業ノ目的ナキ者

三 傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ目途ナキ者

第十四條 (三十三年勅令第二百三十四號ヲ以テ附則)

第十五條 本令ハ明治三十年十月八日ヨリ施行ス

海軍造船兵廠條例 (明治三十年五月)

海軍造船兵廠條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 吳淞港及東京ニ海軍造船兵廠ヲ置ク

第二條 海軍造船兵廠ハ兵器ノ製造修理購買其ノ他造船事業ニ關スル事務ヲ掌ル所トス

第三條 海軍造船兵廠ニ廠長ヲ置キ吳淞兵廠長ハ吳淞守府鎮守府長ニ就シ東京兵廠長ハ海軍省鎮守府長ニ就シ職務ヲ總理セシム(三十年勅令第四百二十五號)

第四條 廠長ハ鎮守府鎮守府長ニ就シ職務ヲ總理ス

第五條 廠長ハ部下ノ職員缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第六條 廠長缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下將校若ハ造船兵官中ノ首席者其ノ職務ヲ代理ス(三十三年勅令第二百八十六號ヲ以テ改正)

第七條 廠員ハ廠長ノ命ヲ承ケ服務ス又臨時命ヲ承ケ砲銃庫水雷庫及工場ノ事務ニ服ス

第八條 砲銃庫主管ハ廠長ノ命ヲ承ケ砲銃彈頭及其ノ器具ノ準備保存供給ニ關スル事務ヲ掌ル

第九條 水雷庫主管ハ廠長ノ命ヲ承ケ水雷及其ノ器具ノ準備保存供給ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 工場主管ハ廠長ノ命ヲ承ケ兵器ノ備裝製造及修理ニ關スル事務ヲ掌ル

第十一條 軍醫長ハ廠長ノ命ヲ承ケ醫務及衛生ニ關スルコトヲ掌ル

第十二條 軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十三條 主計長ハ廠長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十四條 主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十五條 前條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長同相當官並准士官下士卒及書記技手ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ施行ス

海軍需品庫條例 (明治三十三年五月)

海軍需品庫條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布

第八類 官制 第十章 海軍省所管 第三款 鎮守府

四百二十五號及三十三年同第二百三十五號ヲ以テ改正)

第四條 海軍造船兵廠ニ製造科検査科及會計課ヲ置ク

第五條 製造科ニ於テハ兵器ノ計畫製造及修理ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 検査科ニ於テハ兵器ノ検査試驗保管供給及輸送ニ關スル事務ヲ掌ル及庶務ヲ掌理ス

第七條 會計課ニ於テハ會計給與ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 製造科及検査科ニ科長及主幹、會計課ニ課長及課員ヲ置ク(三十年勅令第四百二十五號ヲ以テ改正)

第九條 科長課長ハ廠長ノ命ヲ承ケ其ノ科課ノ事務ヲ掌理ス

第十條 主幹及課員ハ所屬科課長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十一條 海軍造船兵廠ニ軍醫長ヲ置キ廠長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事務ヲ掌ル(三十年勅令第四百二十五號ヲ以テ改正)

第十二條 前條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長同相當官並准士官下士卒及列任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム(同上)

第十三條 (三十三年勅令第二百三十五號ヲ以テ附則)

第十四條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第十五條 明治二十六年勅令第四百四十四號海軍造船兵

廠條例及明治二十九年勅令第六十一號吳淞兵廠製造所條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

造船造兵監督官條例 (明治三十一年三月)

造船造兵監督官條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 海軍ニ於テ艦船兵器ノ製造ヲ外國ノ工場ニ委託シ及造船造兵用ノ材料物品其ノ他工場用器具機械ヲ外國ニテ購入スルトキハ左ノ職員ヲ置キ製造事業ノ監督及購入物品ノ検査ニ従事セシム又會計ノ事務ヲ整理セシム

造船監督官

造船監督官

造船監督官

造船監督官

造船監督官

造船監督官

造船監督官

七シム

海軍需品庫條例

- 第一條 各軍港ニ海軍需品庫ヲ置ク
- 第二條 需品庫ハ其ノ所在地名ヲ冠稱ス
- 第三條 需品庫ニ主管ヲ置キ鎮守府總務部長ニ隷シ其ノ庫ノ事務ヲ掌理セシム
- 第四條 需品庫ニ職員ヲ置キ主管ノ命ヲ承ケ服務セシム
- 第五條 第三條及第四條ニ掲ケル職員ノ外需品庫ニ海軍兵曹長同相當官准士官下士卒及書記ヲ置キ主管ノ命ヲ承ケ服務セシム
- 第六條 軍港ノ外所要ノ港灣ニ需品支庫ヲ置キ艦營需品ノ一部ヲ配布シ艦船臨時ノ需用ニ供セシム

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

海軍測器庫條例

(明治三十三年五月)

勅令第二

朕海軍測器庫條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 各軍港ニ海軍測器庫ヲ置ク
- 第二條 測器庫ハ其ノ所在地名ヲ冠稱ス
- 第三條 測器庫ニ主管ヲ置キ鎮守府總務部長ニ隷シ其ノ庫ノ事務ヲ掌理セシム
- 第四條 測器庫ニ書記ヲ置キ主管ノ命ヲ承ケ服務セシム

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

海軍望樓條例

(明治三十三年五月)

朕海軍望樓條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍望樓條例

- 第一條 沿岸ノ略要所ニ海軍望樓ヲ置ク
- 第二條 望樓ハ其ノ所在地名ヲ冠稱ス
- 第三條 望樓ニ望樓長ヲ置キ其ノ所在海軍區ヲ管スル鎮守府ノ望樓監督官ニ隷シ其ノ望樓ノ事務ヲ掌理セシム
- 第四條 望樓長ハ其ノ望樓ニ於ケル望樓長ハ又其ノ要港部警備ノ區處ヲ受ク
- 第五條 望樓ニ望樓長ヲ置キ望樓長ノ命ヲ承ケ服務セシム
- 第六條 望樓長事故アルトキハ上席ノ望樓長其ノ職務ヲ代理ス

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

海軍病院條例

(明治三十三年九月)

勅令第三

朕海軍病院條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 各軍港ニ海軍病院ヲ置ク
- 第二條 海軍病院ハ其ノ所在地名ヲ冠稱ス
- 第三條 海軍病院ニ鎮守府ニ屬シ治療並治療品ノ準備供給、被服糧食藥品等ノ衛生試驗及看護手看護ノ教育ヲ掌ル所トス

第三條 海軍病院ニ左ノ職員ヲ置ク

- 院長
- 副院長
- 前項ノ外必要ニ應ジ軍醫官藥劑官ヲ置ク(三十年勅令第四百二十九號改正ニ依ル)
- 第四條 院長ハ鎮守府司令長官ニ隷シ院務ヲ總理ス
- 第五條 副院長ハ院長ノ命ヲ承ケ院長ヲ輔佐シ院務ヲ整理ス
- 第六條 第三條第二項ニ掲ケル軍醫官藥劑官ハ院長ノ命ヲ承ケ服務ス(同上)
- 第七條 海軍病院ニ療品庫、試驗所及看護練習所ヲ置ク(三十三年勅令第二百四十一號ヲ以テ改正)
- 第八條 療品庫ニ於テハ治療品ノ準備供給ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第九條 試驗所ニ於テハ被服糧食藥品等ノ衛生試驗ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十條 看護練習所ニ於テハ高等看護術ノ教授ヲ掌ル(三十三年勅令第二百四十一號ヲ以テ本條以下改正)
- 第十一條 療品庫、試驗所及看護練習所ニ左ノ職員ヲ置ク
- 第十二條 療品庫主管ハ院長ノ命ヲ承ケ療品庫ニ

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

海軍測器庫條例

(明治三十三年五月)

勅令第二

朕海軍測器庫條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 各軍港ニ海軍測器庫ヲ置ク
- 第二條 測器庫ハ其ノ所在地名ヲ冠稱ス
- 第三條 測器庫ニ主管ヲ置キ鎮守府總務部長ニ隷シ其ノ庫ノ事務ヲ掌理セシム
- 第四條 測器庫ニ書記ヲ置キ主管ノ命ヲ承ケ服務セシム

七シム

海軍需品庫條例

- 第一條 各軍港ニ海軍需品庫ヲ置ク
- 第二條 需品庫ハ其ノ所在地名ヲ冠稱ス
- 第三條 需品庫ニ主管ヲ置キ鎮守府總務部長ニ隷シ其ノ庫ノ事務ヲ掌理セシム
- 第四條 需品庫ニ職員ヲ置キ主管ノ命ヲ承ケ服務セシム
- 第五條 第三條及第四條ニ掲ケル職員ノ外需品庫ニ海軍兵曹長同相當官准士官下士卒及書記ヲ置キ主管ノ命ヲ承ケ服務セシム
- 第六條 軍港ノ外所要ノ港灣ニ需品支庫ヲ置キ艦營需品ノ一部ヲ配布シ艦船臨時ノ需用ニ供セシム

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

海軍測器庫條例

(明治三十三年五月)

勅令第二

朕海軍測器庫條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 各軍港ニ海軍測器庫ヲ置ク
- 第二條 測器庫ハ其ノ所在地名ヲ冠稱ス
- 第三條 測器庫ニ主管ヲ置キ鎮守府總務部長ニ隷シ其ノ庫ノ事務ヲ掌理セシム
- 第四條 測器庫ニ書記ヲ置キ主管ノ命ヲ承ケ服務セシム

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

海軍望樓條例

(明治三十三年五月)

朕海軍望樓條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 沿岸ノ略要所ニ海軍望樓ヲ置ク
- 第二條 望樓ハ其ノ所在地名ヲ冠稱ス
- 第三條 望樓ニ望樓長ヲ置キ其ノ所在海軍區ヲ管スル鎮守府ノ望樓監督官ニ隷シ其ノ望樓ノ事務ヲ掌理セシム
- 第四條 望樓長ハ其ノ望樓ニ於ケル望樓長ハ又其ノ要港部警備ノ區處ヲ受ク
- 第五條 望樓ニ望樓長ヲ置キ望樓長ノ命ヲ承ケ服務セシム
- 第六條 望樓長事故アルトキハ上席ノ望樓長其ノ職務ヲ代理ス

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

海軍病院條例

(明治三十三年九月)

勅令第三

朕海軍病院條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 各軍港ニ海軍病院ヲ置ク
- 第二條 海軍病院ハ其ノ所在地名ヲ冠稱ス
- 第三條 海軍病院ニ鎮守府ニ屬シ治療並治療品ノ準備供給、被服糧食藥品等ノ衛生試驗及看護手看護ノ教育ヲ掌ル所トス

要港部條例

(明治三十三年五月)

朕要港部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 各要港ニ要港部ヲ置ク
- 第二條 要港部ハ其ノ所在地名ヲ冠稱ス
- 第三條 要港部ニ主管ヲ置キ鎮守府總務部長ニ隷シ其ノ部ノ事務ヲ掌理ス
- 第四條 要港部ニ職員ヲ置キ主管ノ命ヲ承ケ服務セシム
- 第五條 要港部ニ書記ヲ置キ主管ノ命ヲ承ケ服務セシム
- 第六條 要港部ニ看護手看護ヲ置キ主管ノ命ヲ承ケ服務セシム
- 第七條 要港部ニ治療品庫ヲ置キ主管ノ命ヲ承ケ服務セシム
- 第八條 要港部ニ試驗所ヲ置キ主管ノ命ヲ承ケ服務セシム
- 第九條 要港部ニ看護練習所ヲ置キ主管ノ命ヲ承ケ服務セシム

第八類 官制

第十章 海軍省所管

第三款 鎮守府

知港事
 機關長
 軍醫長
 主計長
 前項ノ外必要ニ應シ海軍機關士軍醫及主計ヲ置クコトヲ得
 參謀長參謀及副官ヲ幕僚ト稱ス

第四條 司令官ハ
 天島ニ直隸シ部下ノ諸隊ヲ統率シ部務ヲ總理ス

第五條 司令官ハ
 司令官ハ軍政人事ニ關シテハ海軍大臣ノ指揮ヲ受ケ防禦計畫ニ關シテハ海軍軍令部長ノ區處ヲ受ク

第六條 司令官ハ
 司令官ハ艦政、兵事、海軍海面ノ警備ノ任務ニ關シテハ其ノ所在海軍區ヲ管スル鎮守府司令官ノ區處ヲ受ク

第七條 要港部ニ要スル兵員ノ配付及需品器具材料其ノ他諸物品ノ供給ハ其ノ所在海軍區ヲ管スル鎮守府ノ所掌トス

第八條 司令官ハ要港内ニ在ル他管ノ艦船ヲ指揮スルコトヲ得但シ他ノ司令官現任在スルトキ其ノ艦下艦船ニ對シテハ此ノ限ニテアラス

第九條 司令官ハ地方長官ヨリ地方ノ安寧ヲ維持スル爲メ兵力ヲ請求スルトキ事急ナレハ直ニ之ニ應スルコトヲ得其ノ事地方長官ノ請求ヲ待ツノ遅ナキトキハ便宜兵力ヲ用フルコトヲ得此ノ場合ニ當リテハ事後速ニ海軍大臣ニ報告スヘシ

第九條ノ二 司令官ハ疾病其ノ他緊急ノ場合ニ於キ一時部下ノ兵員ヲ移轉セシムルハ必要トスル

トキハ之ヲ處分シテ後海軍大臣ニ報告スヘシ
 (三十五年勅令第九十三號ヲ以テ追加)

第九條ノ三 司令官ハ部下ノ雜役船員ニ乘員ヲ要スルトキハ部下人員ニ臨時乘組ヲ命スルコトヲ得(同上)

第九條ノ四 司令官ハ部下ノ准士官ヲ部下各部ニ轉乘轉勤セシムルコトヲ得(同上)

第十條 司令官ハ要港地帯法及軍港要港規則ノ施行ニ關シテハ其ノ所在艦兵ヲ指揮スルコトヲ得(三十二年勅令第二百八十七號ヲ以テ本條中改正)

第十一條 司令官ハ必要ニ應シ部下ノ機關官軍醫若ハ主計ヲ水雷敷設隊水雷艇隊ニ配置シ又ハ水雷艇ニ乘組シムルコトヲ得(三十五年勅令第九十三號ヲ以テ改正)

第十二條 司令官ハ部下ノ職員缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第十三條 司令官ハ部下ノ職員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ代理スルコト能ハサルトキハ其ノ所在部下ノ將校席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニテアラス(三十五年勅令第九十三號ヲ以テ改正)

第十四條 參謀長ハ司令官ノ佐々幕僚ノ事務ヲ統ヘ部務ヲ整理ス

第十五條 參謀長ハ司令官ノ事務ヲ承テ二服ス

第十六條 副官ハ參謀長ノ命ヲ承テ人事及庶務ヲ掌ル

第十七條 知港事ハ司令官ノ命ヲ承テ所屬艦船ヲ統轄シ要港ノ警備ヲ掌リ海運、海標、救難及防火等ニ關スル事ヲ掌ル

第十八條 機關長ハ司令官ノ命ヲ承テ機關船體及兵器ニ關スル事及機關官以下ノ勤務ニ關スル事ヲ掌ル

第十九條 (三十五年勅令第九十三號ヲ以テ削除)

第二十條 機關士ハ機關長ノ命ヲ承テ服務ス但シ水雷敷設隊水雷艇隊ニ屬スルトキハ其ノ司令官ノ命ヲ受ケ水雷艇ニ乘組ムトキハ其ノ艇長ノ命ヲ承テ服務ス(同上ヲ以テ改正)

第二十一條 軍醫長ハ司令官ノ命ヲ承テ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル

第二十二條 軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承テ服務ス但シ水雷敷設隊水雷艇隊ニ屬スルトキハ其ノ司令官ノ命ヲ承テ水雷艇ニ乘組ムトキハ其ノ艇長ノ命ヲ承テ服務ス(三十五年勅令第九十三號ヲ以テ改正)

第二十三條 主計長ハ司令官ノ命ヲ承テ會計給與及軍需品配給ニ關スル事ヲ掌ル

第二十四條 主計ハ主計長ノ命ヲ承テ服務ス但シ水雷敷設隊水雷艇隊ニ屬スルトキハ其ノ司令官ノ命ヲ承テ水雷艇ニ乘組ムトキハ其ノ艇長ノ命ヲ承テ服務ス(三十五年勅令第九十三號ヲ以テ改正)

第二十五條 要港部ニ水雷敷設隊及水雷艇隊ヲ置ク

第二十六條 水雷敷設隊及水雷艇隊ノ任務或職員及其ノ職務ニ關シテハ水雷敷設隊ノ規定ヲ適用ス(三十二年勅令第二百八十七號ヲ以テ但書削除)

第二十七條 要港部ニハ第三條及第二十六條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長及同相當官准士官以下士卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承テ服務セシム

第二十八條 軍港要港ニ非ラサル港灣ニシテ水雷敷設隊、水雷艇隊ヲ分置シ其ノ所在ノ地名

ナ冠稱セシム
 前項ノ水雷敷設隊、水雷艇隊ハ平時ニ在テハ之ヲ所屬要港部中ニ置クコトヲ得
 前二項ノ場合ニ於テ該港灣ノ防禦ハ要港部司令官ノ掌トス

附則
 馬公要港部司令官ハ要港ノ防禦及海岸海面ノ警備ニ關シテハ臺灣總督ノ區處ヲ受クルモノトス(三十四年勅令第四百一十一號ヲ以テ改正)

海軍修理工場條例 (明治三十年勅令第九十四號)
 朕海軍修理工場條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍修理工場條例
 第一條 各要港及陸奥國大湊ニ海軍修理工場ヲ置ク

海軍修理工場ノ地名ヲ冠稱ス
 第二條 海軍修理工場ハ要港ニ在ルモノハ當該要港部ニ大湊ニ在ルモノハ大湊水雷團ニ屬シ艦船兵器ノ小修理ヲ爲ス所トス

海軍修理工場ニ主管ヲ置ク
 第三條 海軍修理工場ニ主管ヲ置ク

主管ハ要港ニ在テハ當該要港部司令官大湊ニ在テハ大湊水雷團長ノ命ヲ承テ服務ス
 第四條 海軍修理工場ニ下士卒及書記技手ヲ置キ主管ノ命ヲ承テ服務セシム

艦隊條例 (明治三十年十月勅令第二百五十六號)
 朕艦隊條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

艦隊條例
 第一條 艦隊ハ軍艦二艘以上ヲ以テ編制ス
 艦隊ノ編制ノ目的ニ因リ又ハ差遣スル所ノ海洋

若ハ地方ノ名ヲ冠シ其艦隊ト稱ス(三十二年勅令第二百三十二號ヲ以テ本條追加)

第二條 艦隊ニハ必要ニ應シ水雷艇水雷敷設隊水雷敷設隊及運送船病院船工作船等ヲ附ス(同上勅令ヲ以テ本條改正)

第三條 艦隊平時ノ巡航區域ハ帝國周海トス

第四條 艦隊ニ司令官ヲ置ク(三十二年勅令第九十八號ヲ以テ改正)

司令官長官ノ親補トス
 第四條ノ三 司令官長官ハ天島ニ直隸シ部下ノ艦船ヲ統率シ隊務ヲ總理ス(同上ヲ以テ全條追加)

司令官長官ハ軍政人事ニ關シテハ海軍大臣ノ指揮ヲ受ク
 第五條 司令官長官ハ部下ノ軍紀風紀及教育訓練ヲ統監ス(三十二年勅令第九十八號ヲ以テ本條中改正)

第六條 司令官長官ハ部下ノ艦船ヲ其ノ巡航區域内ニ派遣スルコトヲ得

第七條 司令官長官ハ緊急ノ場合ニ於テ指令ヲ仰クノ暇ナキトキハ指令ヲ待タズシテ部下ノ艦隊若ハ其ノ一部ヲ巡航區域外ニ差遣スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ事後海軍大臣ニ報告スヘシ(三十二年勅令第二百三十二號ヲ以テ本條改正)

第八條 司令官長官ハ部下ノ艦船ヲ分遣スルトキハ司令官若ハ分遣スル艦船ノ先任艦長ヲシテ其ノ指揮ヲ掌ルシメ自己ノ職權内ノ事ヲ之ニ委任スルコトヲ得

第八條ノ二 司令官長官ハ本邦ニ於ケル島嶼等隔絶シタル地方ニ在ルトキハ急劇ノ事態アリ領定ノ爲メ兵力ヲ用フル必要ト認ムル場合ニ於テハ地方官ト合議シ便宜事ニ從フコトヲ得此ノ場合ニ

於テハ事後速ニ海軍大臣ニ報告スヘシ(三十二年勅令第九十八號ヲ以テ本條追加)

第九條 司令官長官艦船ヲ引率シテ航行スルトキハ航路ヲ指定シ其ノ安全ニ對シテ自ラ責任ヲ負フ

司令官若ハ先任艦長艦船ヲ引率スルトキ亦同シ
 第十條 司令官長官軍港要港ニアラサル港灣ニ在テ所在海軍先任將校タルトキハ同港内ニ在ル他管ノ艦船ヲ指揮スルノ權ヲ有ス但シ他ノ司令官長官ノ命令現在スルトキ其ノ艦下艦船ニ對シテハ此ノ限ニテアラス(三十二年勅令第九十八號ヲ以テ本條中改正)

前項ノ司令官ニ適用ス
 第十一條 司令官長官ハ疾病其ノ他緊急ノ場合ニ於キ一時部下ノ兵員ヲ移轉セシムルハ必要トスルトキハ之ヲ處分シテ後海軍大臣ニ報告スヘシ

第十二條 司令官長官ハ部下ノ候補生及准士官以下ヲ部下各艦船隊ノ間ニ轉勤セシムルコトヲ得

第十三條 司令官長官ハ部下ノ職員事故アルトキ若ハ缺員中ハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第十三條ノ二 司令官長官缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下首席將校其ノ職務ヲ代理ス(三十二年勅令第二百三十二號ヲ以テ追加)

第十四條 艦隊ニ司令官ヲ置キ司令官長官ノ命ヲ承テ艦隊ノ一部ヲ指揮セシム

第十五條 司令官長官若ハ司令官ノ乗ル所ノ軍艦ヲ旗艦ト稱ス

第十六條 艦隊ニ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク
 參謀長

副官(三十二年勅令第二百三十二號ヲ以テ追加) 航海長 艦長 軍醫長 主計長 前項ノ外必要ニ應ジ主理及海軍通譯官ヲ置ク 本條ノ職員ハ艦隊ノ編制上其ノ一部ヲ置カサルコトヲ得

第十七條 參謀長ハ司令官ノ命ヲ承ケ機務ニ參シ機務ヲ整理ス

第十八條 司令官ノ幕僚タル參謀ハ參謀長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十九條 司令官ノ幕僚タル參謀ハ司令官ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十條 航海長ハ司令官ノ命ヲ承ケ艦隊ノ航海事務ヲ掌理シ各艦航海長ノ職務ヲ監視ス

第二十一條 機關長ハ司令官ノ命ヲ承ケ艦隊ノ機關船體及兵器ニ關スル事務ヲ掌理シ各艦船及諸機關長ノ職務ヲ監視ス

第二十二條 軍醫長ハ司令官ノ命ヲ承ケ艦隊ノ醫務衛生ニ關スル事務ヲ掌理シ各艦船及諸隊軍醫長ノ職務ヲ監視ス

第二十三條 主計長ハ司令官ノ命ヲ承ケ艦隊ニ關スル會計給與ニ關スル事務ヲ掌理シ又常ニ各艦船諸隊ノ會計給與ノ齊一ヲ規畫シ及各種船諸隊主計長ノ職務ヲ監視ス(三十二年勅令第二百三十二號ヲ以テ條中刪除)

第二十四條 副官ハ參謀長ノ命ヲ承ケ人事及庶務ヲ掌理ス(同上勅令ヲ以テ改正)

第二十五條 (同上勅令ヲ以テ刪除)

第二十六條 司令官ノ幕僚ニ航海長機關長軍醫長主計長ヲ置ク

長主計長ヲ置カサルトキハ其ノ旗艦ノ航海長機關長軍醫長主計長ハ司令官ノ命ヲ承ケ其ノ機務ニ參與ス

第二十七條 司令官旗艦若ハ分遣艦隊先任艦長艦長ノ命ヲ承ケ其ノ機務ニ參與ス

第二十八條 主理ハ司令官ノ命ヲ承ケ軍事司法及懲罰ニ關スル事務ヲ掌理ス

第二十九條 海軍通譯官ハ司令官ノ命ヲ承ケ服務ス

第三十條 二隻以上ノ驅逐艦ヲ艦隊ニ編入スル場合ニ在テハ之ヲ以テ特ニ驅逐艦ヲ編制シ驅逐艦司令官ヲ置クコトヲ得(三十三年勅令第二百七十五號ヲ以テ全條追加)

前項ノ驅逐艦二隻以上ナルトキハ相互ノ區別ヲナス爲メ第一第二三等ノ字ヲ冠シテ之ヲ區別ス

第三十一條 驅逐艦司令官ハ司令官ノ命ヲ承ケ驅逐艦ヲ指揮シ部下ヲ監督訓練シ兵備ヲ管理シ隊務ヲ掌理ス(同上ヲ以テ本條追加)

勅令第二百三十一號

鎮守府艦隊條例(明治三十一年六月)

鎮守府艦隊條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 鎮守府艦隊ニ艦隊ヲ置クコトヲ得

鎮守府艦隊ハ軍艦二隻以上ヲ以テ編制シ必要ニ應ジ水雷艇又ハ水雷艇隊等ヲ附ス

第二條 鎮守府艦隊ハ管區ノ警備及練習ノ任務ニ任ズ

鎮守府艦隊ハ鎮守府所在ノ地名ヲ冠稱ス

第三條 鎮守府艦隊ニ司令官ヲ置ク

司令官ハ鎮守府司令官ノ命ヲ承ケ麾下ノ艦船ヲ指揮ス

第四條 司令官艦船ヲ引率シテ航行スルトキハ航路ヲ指定シ其ノ安全ニ對シテハ自ラ責任ヲ負フ

第五條 司令官ハ其ノ幕僚中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ艦下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第六條 司令官中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ艦下首席將校其ノ職務ヲ代理ス

第七條 司令官ノ乗ル所ノ軍艦ヲ旗艦ト稱ス

第八條 鎮守府艦隊ニ幕僚トシテ參謀ヲ置ク

第九條 參謀ハ司令官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條 旗艦ノ航海長、機關長、軍醫長、主計長ハ司令官ノ命ヲ承ケ其ノ機務ニ參與ス

第十一條 二隻以上ノ驅逐艦ヲ鎮守府艦隊ニ編入スル場合ニ在テハ之ヲ以テ特ニ驅逐艦ヲ編制シ驅逐艦司令官ヲ置クコトヲ得(三十三年勅令第二百七十六號ヲ以テ全條追加)

前項ノ驅逐艦二隻以上ナルトキハ相互ノ區別ヲナス爲メ第一第二三等ノ字ヲ冠シテ之ヲ區別ス

第十二條 驅逐艦司令官ハ司令官ノ命ヲ承ケ驅逐艦ヲ指揮シ部下ヲ監督訓練シ兵備ヲ管理シ隊務ヲ掌理ス(同上)

附則

本令ハ明治三十一年六月十二日ヨリ施行ス

海軍艦船條例(明治二十九年三月)

勅令第七十二號

海軍艦船條例

第一條 艦船ハ鎮守府ヲ本籍トス

第二條 艦船艦隊ニ編入セラルベシハ他ニ附屬スルトキハ各其ノ長官ニ屬スルコトヲモテ艦船ニ解隊者クハ所屬ヲ免セラルトキハ別ニ命令ヲクシテ本籍ニ復歸ス

第三條 艦船ヲ左ノ四種ニ別ツ

第一種軍艦

第二種軍艦

水雷艦

雜役船

第一種軍艦トハ戰艦ノ役務ニ堪フル軍艦ヲ指シ第二種軍艦トハ戰艦ノ役務ニ堪ヘサル軍艦ヲ指シ航行シ得ル軍艦ヲ指シ

水雷艇トハ魚形水雷艇ノ主官ニ從ヒ特種ノ構造ヲ有シ戰艦ノ役務ニ堪フル艦ヲ指シ

雜役船トハ軍艦水雷艇及之ニ裝置セル小汽船、端舟ヲ除ク外他ノ船舶ヲ指シ

第四條 軍艦艦隊ニ編入セラルベシハ其ノ特別ノ役務ニ服スルトキハ之ヲ在艦ト稱シ其ノ他ノ之ヲ豫備艦ト稱シ但製造中ノモノハ未成艦ト稱ス

第五條 在艦ニ左ノ職員ヲ置ク(三十年勅令第四百二號ヲ以テ改正)

艦長

副長

航海長

砲術長

水雷長

機關長

分隊長

軍醫長

主計長

前項ノ外海軍中尉、少尉、中機關士、少機關士、軍

司令官及主計長ノ職

本條ノ職員ハ軍艦ノ構造及兵備ニ應ジ其ノ一部ヲ置カサルコトヲ得

練習測量員ノ他特別ノ役務ニ服スル軍艦ニ在テハ本條ニ掲ケル職員ノ外役務ニ必要ノ職員ヲ置クコトヲ得

第六條 艦長ハ所管長官ニ隷下部下ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ管理シ艦ノ保安ニ任ズ

第七條 艦長ハ部下ノ職員事故アルトキ若クハ缺員中ノ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第八條 艦長ハ所屬艦隊ノ司令官ヨリ上席ニシテ所在諸艦ノ艦長中ノ首席者ナルトキハ其ノ驅逐艦諸艦ヲ指揮スルノ權ヲ有ス但司令官長官司令官現在スルトキハ其ノ限ニ在ラス(三十三年勅令第三百八十四號ヲ以テ改正)

第九條 艦長ハ砲術長、水雷長若クハ其ノ一ヲ置カサル艦ニ在テハ將校分隊長若クハ水雷長或ハ砲術長ヲシテ該職務ヲ執ラシムルコトヲ得(三十年勅令第四百二號改正ニ依ル)

第十條 艦長ハ第三十一條ニ掲ケル諸員ニ臨時職務ヲ命スルコトヲ得

第十一條 副長ハ艦長ヲ輔佐シ艦長ノ命令ヲ執行シ艦内ノ定則ヲ維持ス

第十二條 航海長ハ艦長ノ命ヲ承ケ航路及水路標識ニ關スル事務ヲ掌理シ主官ノ器具物品ヲ管理シ艦内貯積ノ方法ヲ監督ス

第十三條 砲術長ハ艦長ノ命ヲ承ケ主官ノ兵備ヲ整頓シ砲術ノ教授ヲ監督ス

第十四條 水雷長ハ艦長ノ命ヲ承ケ主官ノ兵備ヲ整頓シ水雷艇ノ教授ヲ監督ス

第十五條 將校分隊長ハ艦長ノ命ヲ承ケ各部署ノ長トシテ隊員ノ規律ヲ維持シ分隊ノ兵器及器具ヲ管理シ又教育訓練ニ關スル事務ヲ掌理ス(同上)

第十六條 航海長、砲術長、水雷長及將校分隊長ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此ノ場合ニ於テハ當直將校ト稱シ當直將校ノ命ヲ承ケ服務ス但時宜ニ依リ艦長ハ之ニ當直將校ノ勤務ヲササシムルコトヲ得(三十年勅令第四百二號改正ニ依ル)

第十七條 中尉及少尉ハ艦長ノ指定ニ依リ副長、航海長、砲術長、水雷長若クハ將校分隊長ニ屬シ其ノ命ヲ承ケ服務ス(三十年勅令第四百二號改正ニ依ル)

第十八條 中尉及少尉ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此ノ場合ニ於テハ副直將校ト稱シ當直將校ノ命ヲ承ケ服務ス但時宜ニ依リ艦長ハ之ニ當直將校ノ勤務ヲササシムルコトヲ得(三十年勅令第四百二號改正ニ依ル)

第十九條 機關長ハ艦長ノ命ヲ承ケ部下ノ規律ヲ維持シ又教育訓練ニ任ズ機關船體及兵器ニ關スル事務ヲ掌理ス(三十年勅令第四百二號改正ニ依ル)

第二十條 機關官分隊長ハ艦長ノ指定ニ依リ機關長ノ命ヲ承ケ各部署ノ長トシテ隊員ノ規律ヲ維持シ分隊ノ諸機材ヲ整頓シ又教育訓練ニ關スル事務ヲ掌理ス(同上)

第二十一條 機關官分隊長ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此ノ場合ニ於テハ當直機關官ト稱シ機關長ノ命ヲ承ケ服務ス但時宜ニ依リ艦長ハ機關長ヲシテ當直ノ勤務ニ服セシムルコトヲ得(三十年勅令第四百二號改正ニ依ル)

第二十二條 中機關士及少機關士ハ艦長ノ指定ニ

依リ機關長若クハ機關官分隊長ニ屬シ其ノ命ヲ承ケ服務ス(三十年勅令第四百二號改正ニ依ル)

第二十三條 中機關士及少機關士ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此ノ場合ニ於テハ副直機關官ト稱シ當直機關官ノ命ヲ承ケ服務ス但時宜ニ依リ艦長ハ之ニ當直機關官ノ勤務ヲササシムルコトヲ得(三十年勅令第四百二號三十二年同第三百三十五號改正ニ依ル)

第二十四條 軍醫長ハ艦長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル

第二十五條 第五條第二項ニ掲グル軍醫官ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス(三十年勅令第四百二號改正ニ依ル)

第二十六條 主計長ハ艦長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スル事ヲ掌リ及庶務ヲ掌理ス

第二十七條 第五條第二項ニ掲グル主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス(同上)

第二十八條 艦長缺員中又ハ事故アルトキハ副長其ノ職務ヲ代理ス(三十年勅令第三百八十四號ヲ以テ全條追加)

前項ノ場合ニ於テ副長缺員中若ハ其ノ定員ヲ置カサルトキ又ハ事故アルトキハ他ノ將校席次ノ順序ニ從ヒ艦長ノ職務ヲ代理ス

前二項ノ規定ハ特ニ代理者ヲ置キタル場合ニハ之ヲ適用ス

第二十九條 副長缺員中又ハ事故アルトキハ艦長ニ非サル他ノ將校席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス(同上)

副長ヲ置カサル艦ニ在リテハ艦長ニ非サル他ノ將校席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ執行ス

第三十條 在役艦ニハ第五條ニ掲グル職員ノ外海軍兵曹長及同相當官准士官下士官卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム(三十年勅令第四百二號改正ニ依ル)

第三十一條 在役艦ニハ前諸條ニ掲グル職員ノ外練習若クハ實地研究ノ爲メ海軍士官准士官下士官卒ヲ乘組マシムルコトヲ得

第三十二條 前條ノ諸員ハ第十條ニ依リ命セララル職務ニ付テハ其ノ責任ニ任スヘシ

第三十三條 豫備艦ハ通常軍港ニ繫留シ第五條第三十條及第三十一條ニ掲グル諸員ヲ適宜ニ置クコトヲ得

未成艦ニハ必要ニ應ジ第五條及第三十條ニ掲グル諸員ヲ適宜ニ置クコトヲ得(三十一年勅令第三百三十五號ヲ以テ本項追加)

前二項ノ場合ニ於テ艦長ヲ置カサル艦ニ在リテハ第二十八條ノ規定ニ準シ副長又ハ其ノ他ノ將校其ノ職務ヲ執行ス(三十三年勅令第三百八十四號ヲ以テ本項追加)

第三十三條ノ二 軍醫官ヲ置カサル軍艦ニハ直屬府部隊等ノ長官部下相當職員ヲ指定シテ其ノ職務ヲ行ハシムヘシ又必要ト認ムルトキハ部下相當職員ヲ之ニ乘組マシムルコトヲ得(三十三年勅令第二百七十四號ヲ以テ追加)

第三十四條 水雷艇勤務ニ服スルトキハ之ヲ在役艦ト稱シ其ノ他ハ之ヲ豫備艦ト稱ス但製造中ノモノハ未成艦ト稱ス

第三十五條 在役艦ニハ水雷團水雷艇隊ノ職員中艦長以下ヲ置ク其ノ職務ニ關シテハ水雷團條例ヲ適用ス但水雷艇隊ニ編入セザル水雷艇ニ在テハ水雷艇隊司令ノ職權ハ直屬長官之ヲ行フ

第三十六條 豫備艦ハ通常軍港若クハ要港ニ繫留

シ水雷團若クハ要港部ニ屬セシメ第三十五條ニ掲グル諸員ヲ適宜ニ置クコトヲ得

未成艦ニハ必要ニ應ジ第三十五條ニ掲グル諸員ヲ適宜ニ置クコトヲ得(三十一年勅令第三百三十五號ヲ以テ本項追加)

第三十七條 艦團部等ニ附屬スル艦船ニ在テハ乘組先任將校艦船一切ノ命令ヲ掌リ其ノ保安ニ任シ其ノ他ノ乘員ハ先任將校ノ命ヲ承ケ服務ス

附則

第三十八條 本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第三十九條 明治二十二年勅令第九十九號軍艦條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●海兵團條例 (明治二十九年三月勅令第六十號)

●海兵團條例

第一條 各軍港ニ海兵團ヲ置ク

海兵團ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條 海兵團ハ鎮守府ニ屬シ海軍下士官ノ教育訓練及軍港ノ守衛ヲ掌リ補缺員ヲ統轄スル所トス(三十三年勅令第二百三十九號ヲ以テ改正)

第三條 艦船團其ノ他各部ノ勤務若クハ練習等ヲ免シタル海軍下士官ハ海兵團ニ入團セシメ艦船團其ノ他各部定員ノ補缺ニ充ツ之ヲ補缺員ト稱ス

補缺員ハ臨時ノ業務ニ服セシムルコトヲ得

第四條 海兵團ニ左ノ職員ヲ置ク(三十年勅令第四百五號三十二年同第二百三十九號ヲ以テ改正)

團長

副官

機關長

軍醫長

主計長

前項ノ外必要ニ應ジ海軍機關士、軍醫及主計ヲ置ク

第四條ノ一 團長ハ鎮守府司令長官ニ隸シ部下ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ監理シ團務ヲ掌理ス

第四條ノ二 團長ハ必要ニ應ジ第三條ノ機關官軍醫若ハ主計ヲ水雷艇隊水雷艇隊ニ配置シ又ハ水雷艇ニ乘組マシムルコトヲ得(三十五年勅令第四百九十二號ヲ以テ追加)

第五條ノ一 團長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得(同上ヲ以テ改正)

第五條ノ二 團長缺員中又ハ事故アルトキハ所在部下ノ將校席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニアラス(同上ヲ以テ追加)

第六條 副官ハ團長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス(同上ヲ以テ條中改正)

第七條 機關長ハ團長ノ命ヲ承ケ機關船體及兵器ニ關スル事ヲ掌ル(三十年勅令第四百三號改正ニ依ル)

機關長

分隊長

軍醫長

主計長

前項ノ外必要ニ應ジ海軍中尉、少尉、中機關士、少機關士、軍醫及主計ヲ置ク

第五條 團長ハ鎮守府司令長官ニ隸シ部下ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ團務ヲ掌理ス

第六條 團長ハ部下ノ職員事故アルトキハ他ノ職員ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第七條 團長ハ團長ヲ輔佐シ團長ノ命令ヲ執行シ團内ノ定則ヲ維持シ團長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第七條ノ二 副長事故アルトキハ先任將校其職務ヲ代理ス(三十年勅令第四百二號ヲ以テ追加)

第八條 (三十三年勅令第二百三十九號ヲ以テ削除)

第九條 將校分隊長ハ團長ノ命ヲ承ケ各部署ノ長ト爲リ隊員ノ紀律ヲ維持シ分擔ノ兵器及要具ヲ整頓シ及教育訓練ニ關スル事ヲ掌ル(三十年勅令第四百五、三十二年同第四百二號ヲ以テ條中改正)

第十條 將校分隊長ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此ノ場合ニ於テハ當直將校ト稱シ團長ノ命ヲ承ケ團務ヲ掌理ス(三十年勅令第四百五號三十二年同第二百三十九號ヲ以テ條中改正)

第十一條 中尉及少尉ハ團長ノ指定ニ依リ將校分隊長ニ屬シ其命ヲ承ケ服務ス(三十年勅令第四百五號ヲ以テ條中改正)

第十二條 中尉及少尉ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此ノ場合ニ於テハ副直將校ト稱シ當直將校ノ命ヲ承ケ服務ス(同上及三十三年勅令第二百三十九

號ヲ以テ條中改正)

第十三條 機關長ハ團長ノ命ヲ承ケ部下ノ紀律ヲ維持シ又教育訓練ニ任シ及機關ニ關スル事ヲ掌ル

第十四條 機關官分隊長ハ團長ノ指定ニ依リ機關長ノ命ヲ承ケ各部署ノ長ト爲リ隊員ノ紀律ヲ維持シ分擔ノ諸機械ヲ整頓シ及教育訓練ニ關スル事ヲ掌ル(三十年勅令第四百五號ヲ以テ條中改正)

第十五條 中機關士及少機關士ハ團長ノ指定ニ依リ機關長若クハ機關官分隊長ニ屬シ其命ヲ承ケ服務ス(同上)

第十六條 軍醫長ハ團長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル

第十七條 軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス(同上)

第十八條 主計長ハ團長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スル事ヲ掌リ及庶務ヲ掌理ス

第十九條 主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス(同上)

第二十條 第四條ニ掲グル職員ノ外海軍兵曹長及同相當官准士官下士官卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム(同上)

附則

第二十一條 本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

●水雷團條例 (明治二十九年一月勅令第二號)

水雷團條例

第一條 各軍港及陸奥國大湊ニ水雷團ヲ置ク(三十五年勅令第九十二號ヲ以テ條中改正)

水雷團ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條 水雷團ハ軍港ニ在ルモノハ當該鎮守府ニ、大湊ニ在ルモノハ橫須賀鎮守府ニ屬シ水雷防禦ノ事ヲ掌ル(同上)

第三條 水雷團ニ左ノ職員ヲ置ク(三十年勅令第四百三號三十五年同第四百九十二號ヲ以テ改正)

團長

副官

機關長

軍醫長

主計長

前項ノ外必要ニ應ジ海軍機關士、軍醫及主計ヲ置ク

第四條ノ一 團長ハ鎮守府司令長官ニ隸シ部下ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ監理シ團務ヲ掌理ス

第四條ノ二 團長ハ必要ニ應ジ第三條ノ機關官軍醫若ハ主計ヲ水雷艇隊水雷艇隊ニ配置シ又ハ水雷艇ニ乘組マシムルコトヲ得(三十五年勅令第四百九十二號ヲ以テ追加)

第五條ノ一 團長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得(同上ヲ以テ改正)

第五條ノ二 團長缺員中又ハ事故アルトキハ所在部下ノ將校席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニアラス(同上ヲ以テ追加)

第六條 副官ハ團長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス(同上ヲ以テ條中改正)

第七條 機關長ハ團長ノ命ヲ承ケ機關船體及兵器ニ關スル事ヲ掌ル(三十年勅令第四百三號改正ニ依ル)

第八條 第三條第二項ニ掲グル機關士ハ機關長ノ命ヲ承ケ服務ス但シ水雷敷設隊水雷艇隊ニ屬スルトキハ其ノ司令ノ命ヲ承ケ水雷艇ニ乗組ムトキハ其ノ艇長ノ命ヲ承ケ服務ス(三十五年勅令第九十二號ヲ以テ改正)

第九條 軍醫長ハ團長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 第三條第二項ニ掲グル軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス但シ水雷敷設隊水雷艇隊ニ屬スルトキハ其ノ司令ノ命ヲ承ケ水雷艇ニ乗組ムトキハ其ノ艇長ノ命ヲ承ケ服務ス(三十五年勅令第九十二號ヲ以テ改正)

第十一條 主計長ハ團長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スル事務ヲ掌ル

第十二條 第三條第二項ニ掲グル主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス但シ水雷敷設隊水雷艇隊ニ屬スルトキハ其ノ司令ノ命ヲ承ケ水雷艇ニ乗組ムトキハ其ノ艇長ノ命ヲ承ケ服務ス(三十五年勅令第九十二號ヲ以テ改正)

第十三條 水雷團ニ水雷敷設隊及水雷艇隊ヲ置ク

第十四條 水雷敷設隊ハ水雷固定防禦ノ事務ヲ掌ル

第十五條 水雷艇隊ハ水雷移動防禦ノ事務ヲ掌ル

第十六條 水雷敷設隊及水雷艇隊ニ左ノ職員ヲ置ク(三十年勅令第四百三號ヲ以テ全條改正)

水雷敷設隊
司令
分隊長
水雷艇隊
司令
艇長

前項ノ外水雷艇隊ニハ海軍尉官ヲ置ク(三十一年勅令第四百二十六號三十五年勅令第九十二號ヲ以テ本項中改正)

第十七條 一 水雷敷設隊司令ハ團長ノ命ヲ承ケ水雷敷設隊ヲ指揮シ部下ヲ監督訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ整理シ及隊務ヲ掌理ス

第十八條 水雷艇隊司令ハ團長ノ命ヲ承ケ水雷艇隊ヲ指揮シ部下ヲ監督訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ整理シ近海水路ノ狀況ヲ熟知シ及隊務ヲ掌理ス

第十九條 一 水雷艇隊司令ハ團長ノ命ヲ承ケ水雷艇隊ヲ指揮シ部下ヲ監督訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ整理シ近海水路ノ狀況ヲ熟知シ及隊務ヲ掌理ス

第二十條 艇長ハ司令ノ命ヲ承ケ乗員ノ紀律ヲ維持シ之ヲ訓練シ兵備ヲ整理シ艇ノ保安ニ任シ隊務ヲ掌理ス(同上ヲ以テ條中削除)

第二十一條 第十六條第二項ニ掲グル尉官ハ司令ノ指定ニ依リ艇長ノ命ヲ承ケ服務シ艇長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス(三十一年勅令第四百二十六號ヲ以テ條中改正)

第二十二條 (三十五年勅令第四百九十二號ヲ以テ削除)

第二十三條 水雷團ニハ第三條及第十六條ニ掲グル職員ノ外海軍兵曹長及同相當官准士官下士卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム(三十年勅令第四百三號ヲ以テ條中改正)

第二十四條 軍港要港ニアラサル港灣ニシテ水雷敷設隊、水雷艇隊ヲ分置シ其ノ所在地名ヲ冠稱セシム

前項ノ水雷敷設隊、水雷艇隊ハ平時ニ在テ之ヲ其ノ所轄水雷團中ニ置クコトヲ得

第二十五條 前條ノ水雷敷設隊、水雷艇隊ニハ第十六條ニ掲グル職員ノ外必要ニ應ジ機關士軍醫主計ヲ置キ司令ノ命ヲ承ケ服務セシム

第二十六條 艇隊其ノ他ニ水雷敷設隊、水雷艇隊ヲ附屬セシムルトキハ其ノ隊ノ任務並ニ職員及職權ハ直屬長官之ヲ行フ

附則
第二十七條 本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十八條 明治二十二年勅令第四十七號水雷隊條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●舞鶴水雷團ノ所屬ニ關スル件
(明治三十三年一月)
(勅令第十六號)

舞鶴水雷團ノ所屬ニ關スル條件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

舞鶴領守府ヲ設置スル迄ノ間舞鶴水雷團ハ之ヲ兼領守府ニ屬セシム

第十一章 司法省所管

司法省官制 (明治二十六年十月)
(勅令第四百三號)

司法省官制
第一條 司法大臣ハ裁判所及検事局ヲ監督シ檢察事務ヲ指揮シ民事、刑事、非訟事件、戶籍、監獄及出獄人保護ニ關スル事項其ノ他諸般ノ司法行政事務ヲ管理ス(三十三年勅令第六十七號ヲ以テ改正)

第二條 總務局ニ於テハ通則ニ掲グルモノノ外左ノ事務ヲ掌ル(三十三年勅令第二百七號ヲ以テ條中改正)
一 裁判所ノ設立廢止及管轄區域並其ノ變更ニ關スル事項
二 裁判所附屬吏員及辯護士ノ身分ニ關スル事項

第三條 司法省專任事務官ハ三人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス(三十三年勅令第六十七號同第二百七號ヲ以テ改正)

第四條 司法省ニ左ノ二局ヲ置ク(三十三年勅令第六十七號ヲ以テ改正)
民刑局
監獄局

第五條 民刑局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(同上)
一 民事、刑事及非訟事件ニ關スル事項
二 裁判及檢察ノ事務ニ關スル事項
三 戶籍ニ關スル事項

第六條 監獄局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(同上)
一 監獄ニ關スル事項
二 恩赦復権、假出獄、免刑、監視假免、出獄

●大審院東京控訴院東京地方裁判所同區裁判所ノ書記司法屬兼任ノ件
(明治二十九年十二月)
(勅令第四百號)

大審院東京控訴院及東京地方裁判所並其ノ管内區裁判所ノ書記司法屬ニ兼任ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大審院東京控訴院及東京地方裁判所並其ノ管内區裁判所ノ書記ヨリ司法屬ニ兼任スル場合ニ於テ其ノ兼任者ハ同省屬定員外トス

●集治監假留監官制
(明治二十八年七月)
(勅令第九十八號)

朕集治監假留監官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

集治監假留監官制
第一條 東京府下、宮城縣下、福岡縣下及北海道ニ集治監ヲ置キ北海道ニハ分監ヲ置ク其ノ名稱及位置ハ内務大臣之ヲ定ム

第二條 各集治監ニ左ノ職員ヲ置ク

典獄
書記
看守長
監獄醫
北海邊ノ集治監ニハ前項職員ノ外分監長ヲ置ク

第三條 典獄ハ一人兼任トス内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ監獄ノ事務ヲ掌理ス

第四條 典獄ハ部下ノ官吏ヲ監督シ列任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

第五條 典獄ハ部下ノ列任官ノ懲戒ヲ内務大臣ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

第六條 典獄事故アルトキハ上席書記其ノ職務ヲ代理ス但シ北海道ノ集治監ニ於テハ上席分監長其ノ職務ヲ代理ス

第七條 分監長二人兼任トス典獄ノ指揮監督ヲ承ケ分監ノ事務ヲ掌理ス(三十一年勅令第二百六十四號三十四年同第八十號ヲ以テ人員改正)

第八條 書記ハ列任トス本監若クハ分監ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ニ係ル職務ニ從事ス

第九條 看守長ハ列任トス本監若クハ分監ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス

第十條 監獄醫ハ列任トス本監若クハ分監ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ニ係ル職務ニ從事ス

第十一條 書記、看守長及監獄醫ノ定員ハ各集治監ヲ通シテ一人トシ其ノ各官ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム(三十一年勅令第二百六十四號三十四年同第八十號三十五年同第三百三十一號ヲ以テ人員改正)

第十二條 看守ニ係ル規程ハ別ニ定ムル所ニ依リ

第十三條 事務ノ分課並ニ處務ノ規程ハ内務大臣

第十四條 假留監ハ集治監ニ附設ス但北海道ノ集治監ニハ別ニ其ノ職員ヲ置カス集治監ノ職員ヲ以テ之ニ充ツ

附則
本令ハ明治二十八年七月十日ヨリ施行ス
現在ノ北海道集治監ハ本令施行ノ日ヨリ本令第一條ニ依リ北海道ニ設置スヘキ集治監トシ明治二十四年勅令第八號北海道集治監官制ハ同日ヨリ廢止ス

●東京、宮城、三池、集治監、假留監設置場所、名稱
(明治二十六年十一月)
(內務省告示第五十一號)

集治監ハ東京府南葛飾郡南綾瀨村、宮城縣仙臺市宇古城、福岡縣三池郡下里村ニ置ク其東京府下ニ置クモノヲ東京集治監、宮城縣下ニ置クモノヲ宮城集治監、福岡縣下ニ置クモノヲ三池集治監ト稱ス又東京集治監ニ附設スル假留監ヲ東京假留監、宮城集治監ニ附設スル假留監ヲ宮城假留監、三池集治監ニ附設スル假留監ヲ三池假留監ト稱ス

●北海道集治監及分監設置
(明治二十六年七月)
(內務省告示第五十一號)

○內務省告示 明治二十四年七月 北海道集治監官制第七條ニ據リ本監ヲ釧路ニ置キ分監ヲ「空知」「網走」ニ設置ス

○內務省告示 明治二十八年三月 明治二十八年四月一日ヨリ北海道十勝國河野郡下帶廣村ニ北海道集治監分監ヲ設置シ十勝分監ト稱ス

○司法省告示 明治三十四年七月 北海道集治監

空知分監北海道集治監釧路分監ハ本年九月三十日限り廢止シ同十月一日ヨリ北海道北見國網走郡最寄村ニ北海道集治監網走分監ヲ置ク

●集治監假留監並廳府縣看守守定員
(明治二十九年十一月)
(勅令第三百六十二號)

朕集治監假留監並廳府縣看守守定員改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 集治監假留監並廳府縣看守守定員ハ拘禁男子五百人ニ付キ七十五人トシ拘禁男子五百人以上ハ五十人ヲ加フル毎ニ看守五人ヲ加ヘ拘禁男子五百人未満ハ五十人ヲ減スル毎ニ看守五人ヲ減シ每年前年度ヨリ起算シ既往三年間ノ拘禁男子平均數ニ依リ之ヲ定ム但集治監ニ於テ拘禁男子ノ定員アルトキハ之ニ依リ看守守定員ヲ定ム

第二條 監獄支署アル廳府縣ニ於テハ前條定員ノ外各支署ニ三人以下ノ看守ヲ増置スルコトヲ得

第三條 監獄ノ構造役業ノ種類其ノ他特別ノ事情ニ依リ必要アル場合ニ於テハ第一條定員ノ外更ニ五十人以下ノ看守ヲ増置スルコトヲ得

第四條 拘禁男子ノ現在數第一條ノ平均數ニ比シ百人以上ノ減少ヲ生シタルトキハ百人ニ付キ看守五人ノ割合ヲ以テ其ノ年度内ニ於テ臨時看守ヲ減員スルコトヲ得

第五條 教育中ノ看守守定員以外トス

第六條 本令ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第七條 明治二十三年勅令第二百二十八號中第一號乃至第三號並明治二十七年勅令第四號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二章 文部省所管

第一款 文部省

●文部省官制 (明治三十一年十月)
(勅令第二百七十九號)

朕文部省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省官制

第一條 文部大臣ハ教育學藝ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條 總務局ニ於テハ通則ニ揭クルモノノ外左ノ事務ヲ掌ル(三十三年勅令第六號同第二八號ヲ以テ改正)

一 官吏進退身分ニ關スル事項
二 公立學校職員ニ關スル事項
三 教員免許ニ關スル事項
四 圖書ニ關スル事項
五 建築營繕ニ關スル事項
六 高等教育會議ニ關スル事項
七 學校衛生ニ關スル事項
八 博覽會ニ關スル事項
九 褒賞ニ關スル事項

第三條 文部省專任事務官ハ四人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス(三十三年勅令第二百八號ヲ以テ改正)

第四條 文部省ニ左ノ三局ヲ置ク(三十三年勅令第六號ヲ以テ條中改正)

一 專門學務局
二 普通學務局
三 實業學務局

第五條 專門學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(同上ヲ以テ改正)

一 帝國大學及高等學校ニ關スル事項

一 專門學校ニ關スル事項
二 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項

三 海外留學生及教員ノ海外派遣ニ關スル事項
四 圖書館及博物館ニ關スル事項
五 天文氣象臺及測候所ニ關スル事項
六 學術技藝ノ獎勵及調査ニ關スル事項
七 測地學委員會及震災豫防調査會ニ關スル事項

九 學士會院ニ關スル事項
十 學術會ニ關スル事項
十一 學位及之ニ關スル稱號ニ關スル事項

第六條 普通學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 師範教育ニ關スル事項
二 中學校ニ關スル事項(同上ヲ以テ本條追加)
三 小學校及幼稚園ニ關スル事項
四 高等女學校ニ關スル事項
五 盲啞學校ニ關スル事項
六 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項

七 教育博物館ニ關スル事項
八 通俗教育及教育會ニ關スル事項
九 學齡兒童ノ就學ニ關スル事項

第六條ノ二 實業學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(同上ヲ以テ追加)

一 工業學校ニ關スル事項
二 農業學校ニ關スル事項
三 商業學校ニ關スル事項
四 公立及私立商船學校ニ關スル事項
五 徒弟學校及實業補習學校ニ關スル事項
六 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項

七 實業教育發展補助ニ關スル事項
八 實業學校教員ノ養成ニ關スル事項

第七條 文部省ニ專任視察官五人ヲ置ク其任トス

第八條 文部省ニ專任圖書查査官三人ヲ置ク其任トス圖書ノ審查ヲ掌ル

第九條 文部省ニ專任技師四人ヲ置ク建築ニ關スル事務ヲ掌ル(三十二年勅令第四百一十一號三十五年同第九十五號ヲ以テ人員改正)

第十條 文部省ニ專任技師八人ヲ置ク技師ノ事務ヲ助ク

第十一條 文部省ニ專任衛生主事一人ヲ置ク其任トス學校衛生ニ關スル事務ヲ掌ル(三十三年勅令第六號ヲ以テ條中刪除)

第十二條 文部省屬ハ五十二人ヲ以テ定員トス(三十五年勅令第九十五號ヲ以テ人員改正)

●文部省ニ學校衛生顧問及學校衛生顧問會議幹事ヲ置ク

(明治二十九年五月)
(勅令第八十五號)

朕文部省ニ學校衛生顧問及學校衛生主事ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 文部省ニ學校衛生顧問九人以内及學校衛生顧問會議幹事一人ヲ置ク(三十一年勅令第六十五號ヲ以テ「學校衛生主事」ヲ「學校衛生顧問會議幹事」ト改ム以下做之)

第二條 學校衛生顧問ハ文部大臣ノ諮詢ニ應ジテ學校衛生ニ關スル事項ヲ審議ス

第三條 學校衛生顧問會議幹事ハ議長ノ指揮ヲ承

ク學校衛生顧問會議ニ關スル應得ノ整理(三十一年勅令第六十五號ヲ以テ改正)

第十四條 學校衛生顧問及學校衛生顧問會議幹事ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ任命ス

第十五條 學校衛生顧問會議幹事ハ學校衛生顧問ト同一ノ資格ヲ以テ會議ニ選列ス

第十六條 文部大臣ハ部下ノ官吏ヲシテ學校衛生顧問ノ會議ニ選列セシムルコトヲ得但可否ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第十七條 學校衛生顧問ノ會議ニ必要ナル規程ハ文部大臣ノ之ヲ定ム

第十八條 學校衛生顧問ニハ一箇年三百圓以内學校衛生顧問會議幹事ニハ一箇年二百圓以内ノ手当ヲ給ス

●理學文書目錄委員會官制

(明治三十三年十二月)
(勅令第四百十三號)

朕理學文書目錄委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

理學文書目錄委員會官制

第一條 理學文書目錄委員會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ萬國理學文書目錄委員會ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 理學文書目錄委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 會長 一人
一 幹事 一人
一 委員 一人

第三條 會長幹事及委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ任命ス

第四條 臨時必要アルトキハ理學文書目錄委員會

臨時委員ヲ置クコトヲ得
臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
第五條 會長ハ一切ノ會務ヲ總理シ萬國理學文書目録委員會ニ對シホ會ヲ代表ス
第六條 幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス
第七條 委員及臨時委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ理學文書目録ニ關スル事ヲ掌ル
第八條 會長幹事及委員ニハ一箇年二百圓以内臨時委員ニハ事ノ輕重ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得
第九條 理學文書目録委員會ニ書記二人ヲ置キ文部省列任官ヲ以テ之ニ充ツ
書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス書記ニハ一箇年五十圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附則

本令ハ明治三十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二款 帝國大學

●東京帝國大學官制 (明治三十年六月)

勅令第二

百十號

朕東京帝國大學官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京帝國大學官制

第一條 東京帝國大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

總長

書記官

會監

第二條 總長ハ一人勅任トス文部大臣ノ監督ヲ承ケ帝國大學令ノ規定ニ依リ東京帝國大學一般ノ

事務ヲ掌ル
總長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ列任官ニ關シテハ之ヲ專行ス
第三條 書記官ハ專任二人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス(三十四年勅令第四百十四號ヲ以テ人員改正)
第四條 會監ハ專任二人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ學生ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル
第五條 書記ハ列任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス
東京帝國大學及分科大學書記ハ通計專任五十四人ヲ以テ定員トス(三十一年勅令第四百七十二號三十五年同第九十六號ヲ以テ人員改正)
第六條 各分科大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

助教授

助手

書記

第七條 教授ハ專任百十八人奏任又ハ勅任トス各分科大學ニ置ク所ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス(三十二年勅令第四百二十三號三十五年同第九十六號ヲ以テ人員改正)

教授ハ分科大學長及醫科大學附屬醫院長ニ補セラレタル者ハ講座ヲ擔任セサルコトアルヘシ

第八條 助教授ハ專任五十五人奏任トス教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス(同上)

講座ヲ擔任スル助教授ハ前項ノ定員外ニ置クモノトス但講座ヲ分擔スル助教授ハ此限ニテラス(三十一年勅令第四百五十一號ヲ以テ本項追加)

第九條 助手ハ專任二百二十二人列任トス教授助教授ノ指揮ヲ承ケ學術技術ニ關スル職務ニ服ス

(三十二年勅令第四百二十三號三十五年同第九十六號ヲ以テ人員改正)
第十條 第六條職員ノ外各分科大學ニ學長一人ヲ置キ其ノ分科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス分科大學長ハ帝國大學令ノ規定ニ依リ總長監督ノ下ニ於テ各其ノ分科大學ノ事務ヲ掌ル
第十一條 醫科大學附屬醫院ニ醫院長ヲ置キ醫科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス
醫院長ハ總長監督ノ下ニ於テ醫院ノ事務ヲ掌理ス(三十一年勅令第四百七十一號ヲ以テ改正)
第十二條 理科大學附屬東京天文臺ニ天文臺長ヲ置キ理科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス天文臺長ハ總長監督ノ下ニ於テ東京天文臺ノ事務ヲ掌理ス(同上勅令改正ニ依ル)
第十三條 理科大學附屬海軍實驗所ニ海軍實驗所長ヲ置キ理科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス(同上勅令ヲ以テ第十三條第十四條ヲ削除シ本條乃至第十六條ヲ追加シ第十五條第十七條ヲ改ム)
第十四條 理科大學附屬植物園ニ植物園長ヲ置キ理科大學教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス植物園長ハ總長監督ノ下ニ於テ植物園ノ事務ヲ掌理ス
第十五條 農科大學附屬演習林ニ演習林長ヲ置キ農科大學教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス演習林長ハ總長監督ノ下ニ於テ演習林ノ事務ヲ掌理ス
第十五條ノ二 農科大學附屬農藝教員養成所ニ農藝教員養成所主任ヲ置キ農科大學教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

農藝教員養成所主任ハ農科大學長監督ノ下ニ於テ農藝教員養成所ノ事務ヲ掌理ス(三十五年勅令第九十六號ヲ以テ全條追加)

第十六條 東京帝國大學附屬圖書館ニ圖書館長ヲ置キ教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス圖書館長ハ總長監督ノ下ニ於テ圖書館ノ事務ヲ掌理ス

附則

第十七條 明治二十六年勅令第八十三號帝國大學官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●京都帝國大學官制 (明治三十年六月)

勅令第二

百十一號

朕京都帝國大學官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

京都帝國大學官制

第一條 京都帝國大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

總長

書記官

會監

第二條 總長ハ一人勅任トス文部大臣ノ監督ヲ承ケ帝國大學令ノ規定ニ依リ京都帝國大學一般ノ事務ヲ掌ル
總長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ列任官ニ關シテハ之ヲ專行ス
第三條 書記官ハ專任一人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス
第四條 會監ハ專任一人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ學生ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル
第五條 書記ハ列任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

京都帝國大學及分科大學書記ハ通計專任二十七人ヲ以テ定員トス
第六條 分科大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

教授

助教授

助手

書記

第七條 教授ハ專任五十九人奏任又ハ勅任トス各分科大學ニ置ク所ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス(三十五年勅令第九十七號ヲ以テ人員改正)

教授ハ分科大學長及醫科大學附屬醫院長ニ補セラレタル者ハ講座ヲ擔任セサルコトアルヘシ

第八條 助教授ハ專任二十九人奏任トス教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス(三十二年勅令第四百二十三號三十五年同第九十七號ヲ以テ人員改正)

講座ヲ擔任スル助教授ハ前項ノ定員外ニ置クモノトス但講座ヲ分擔スル助教授ハ此ノ限ニテラス(三十四年勅令第四百三十三號ヲ以テ本項追加)

第九條 助手ハ專任五十八人列任トス教授助教授ノ指揮ヲ承ケ學術技術ニ關スル職務ニ服ス(三十五年勅令第四百七十七號ヲ以テ人員改正)

第十條 第六條職員ノ外各分科大學ニ學長一人ヲ置キ其ノ分科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス分科大學長ハ帝國大學令ノ規定ニ依リ總長監督ノ下ニ於テ各其ノ分科大學ノ事務ヲ掌ル

第十一條 醫科大學附屬醫院ニ醫院長ヲ置キ醫科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス醫院長ハ總長監督ノ下ニ於テ醫院ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第十二條 京都帝國大學附屬圖書館ニ館長ヲ置キ教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス館長ハ總長監督ノ下ニ於テ圖書館ノ事務ヲ掌理ス

第三款 文部省直轄諸學校

●文部省直轄諸學校官制 (明治二十六年八月勅令第八十六號)

朕文部省直轄諸學校官制ヲ改定シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省直轄諸學校官制
第一條 文部省直轄諸學校ハ左ノ如シ(三十五年勅令第九十八號ヲ以テ全條改正)

東京高等師範學校

廣島高等師範學校

女子高等師範學校

札幌農學校

盛岡高等農林學校

東京高等商業學校

神戶高等商業學校

第一高等學校

第二高等學校

第三高等學校

第四高等學校

第五高等學校

第六高等學校

第七高等學校

山口高等學校

千葉醫學專門學校

仙臺醫學專門學校

岡山醫學專門學校

金澤醫學專門學校

長崎醫學專門學校
東京高等工業學校
大阪高等工業學校
京都高等工業學校
東京外國語學校
東京美術學校
東京音樂學校
東京盲啞學校

第二條 高等師範學校ニ附屬尋常中學校及附屬小學校ヲ置キ東京高等師範學校ニ東京教育博物館ヲ附設ス(三十二年勅令第十七號三十五年同第九十八號ヲ以テ條中改正)

第三條 女子高等師範學校ニ附屬高等女學校附屬小學校及附屬幼稚園ヲ置ク

第四條 東京高等商業學校ニ商業教員養成所ヲ附設ス(三十五年勅令第九十八號ヲ以テ改正)

第五條 東京高等工業學校ニ附屬職工徒弟學校ヲ置キ工業教員養成所ヲ附設ス

工業教員養成所ニ附屬工業補習學校ヲ置ク(同上ヲ以テ全條改正)

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
助教授
教授
書記

第七條 校長ハ勅任又ハ委任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス(三十二年勅令第十七號ヲ以テ條中改正)

第八條 教授ハ勅任又ハ委任トス生徒ノ教授ヲ掌ル(同上)

助教授ハ勅任トス職務ヲ助ク

第九條 書記ハ勅任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計

ニ從事ス

第十條 高等師範學校及女子高等師範學校ニ會監ヲ置ク他ノ學校ニ於テ會監ヲ置クノ必要アルトキハ教官ヨリ兼任セシム

會監ハ委任トス校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第十一條 高等師範學校及女子高等師範學校ニ第五條及第九條職員ノ外左ノ職員ヲ置ク

助教授
助教授
助教授

第十二條 教諭ハ委任トス附屬尋常中學校及附屬高等女學校ノ生徒ヲ教授シ兼テ師範生徒ノ實地授業ヲ監督ス

助教授ハ勅任トス職務ヲ助ク

第十三條 訓導ハ勅任トス附屬小學校生徒ノ授業ヲ掌リ兼テ師範生徒ノ實地授業ヲ監督ス

第十四條 高等師範學校ニ助手ヲ置ク列任トス教授ノ指揮ヲ承ケ授業及實驗ノ補助ニ從事ス(三十二年勅令第十七號ヲ以テ追加以下順次條下ク)

第十五條 女子高等師範學校ニ保姆ヲ置ク列任トス附屬幼稚園幼兒ノ保育ヲ掌ル

第十六條 東京盲啞學校ニ教授助教授ヲ置カス教諭及訓導ヲ置ク教諭ハ委任トシ訓導ハ勅任トス教諭ハ盲啞教員志望者ノ授業ヲ掌リ訓導ハ生徒ノ授業ヲ掌ル(三十四年勅令第二十四號ヲ以テ全條改正)

第十七條 專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セ

シムルコトヲ得

第十八條 文部大臣ハ高等師範學校女子高等師範學校東京高等商業學校高等中學校及東京工業學校教官ノ中ヨリ各其ノ附屬學校主事教員養成所主事東京教育博物館主事附屬幼稚園主事專門學部主事ヲ命シ其ノ事務ヲ掌ラシムルコトヲ得(三十二年勅令第十七號三十五年同第九十八號ヲ以テ條中改正)

第十九條 文部大臣ハ校務上ノ重要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設ケルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

附則

第二十條 本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

○勅令明治三十二年四月 高等師範學校附屬音樂學校及高等商業學校附屬外國語學校改稱ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○勅令明治三十四年五月 東京工業學校及大阪工業學校改稱ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京工業學校ヲ東京高等工業學校ト改稱シ大阪工業學校ヲ大阪高等工業學校ト改稱ス

他ノ法令中東京工業學校トアルハ東京高等工業學校トシ大阪工業學校トアルハ大阪高等工業學校ト改稱ス

文部省直轄諸學校職員定員令
(明治三十五年三月)
(勅令第九十九號)

朕文部省直轄諸學校職員定員令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省直轄諸學校職員定員令

文部省直轄諸學校專任教員ノ定員左ノ如シ

學校名稱	校長	教授	會監	助教授	助教授	訓導	保母	助手	書記
東京高等師範學校	一人	五十人	三人	九人	十一人	十九人	二人	十二人	一人
廣島高等師範學校	一人	八人	一人	二人	三人	八人	一人	五人	一人
女子高等師範學校	一人	二十六人	二人	八人	十三人	十八人	一人	八人	一人
札幌農學校	一人	十四人	一人	十八人	一人	八人	一人	八人	一人
盛岡高等農林學校	一人	三人	一人	三人	一人	四人	一人	四人	一人
東京高等商業學校	一人	三十人	一人	十四人	一人	十一人	一人	十一人	一人
神戸高等商業學校	一人	三人	一人	二人	一人	三人	一人	三人	一人
第一高等學校	一人	三十七人	一人	九人	一人	八人	一人	八人	一人
第二高等學校	一人	二十四人	一人	五人	一人	六人	一人	六人	一人
第三高等學校	一人	二十四人	一人	七人	一人	七人	一人	六人	一人
第四高等學校	一人	二十四人	一人	七人	一人	六人	一人	六人	一人
第五高等學校	一人	三十三人	一人	十二人	一人	八人	一人	八人	一人
第六高等學校	一人	二十二二人	一人	五人	一人	六人	一人	六人	一人
第七高等學校遺士館	一人	十三人	一人	五人	一人	六人	一人	六人	一人
山口高等學校	一人	二十人	一人	三人	一人	六人	一人	六人	一人
千葉醫學專門學校	一人	十三人	一人	七人	一人	五人	一人	五人	一人

仙臺醫學專門學校	一	人十二	人	六	人	五	人
岡山醫學專門學校	一	人十二	人	七	人	五	人
金澤醫學專門學校	一	人十三	人	五	人	五	人
長崎醫學專門學校	一	人十三	人	七	人	五	人
東京高等工業學校	一	人二十四	人	三十九	人	八	人
大阪高等工業學校	一	人十五	人	二十五	人	六	人
京都高等工藝學校	一	人六	人	六	人	五	人
東京外國語學校	一	人十九	人	十一	人	五	人
東京美術學校	一	人二十三	人	十一	人	五	人
東京音樂學校	一	人九	人	十一	人	四	人
東京盲啞學校	一	人	人	十二	人	四	人

附則
本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治二十六年勅令第八十七號ハ之ヲ廢止ス

●尋常師範學校官制
(明治二十四年十一月)
(勅令第二百七十七號)

朕尋常師範學校官制ヲ改正シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 尋常師範學校ニ左ノ職員ヲ置ク
校長
教諭

助教諭
會監
副專
書記
第二條 教諭助教諭會監副專及書記ハ列任文官ト
同一ノ待遇ヲ受ク但教諭三名以内ハ特ニ發任文
官ト同一ノ待遇ヲ受ケシムルコトアルヘシ(三
十一年勅令第三十一號改正ニ依ル)
第三條 學校長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理
シ所屬職員ヲ統督シ兼テ其府縣内ニ於ケル小學
教育ニ關スル學事ヲ視察ス(二十六年勅令第八
十五號ヲ以テ改正)
第四條 教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル
第五條 助教諭ハ教諭ノ職務ヲ助ク

第六條 會監ハ教諭助教諭ノ中ヨリ之ニ兼任ス
會監ハ學校長ノ命ヲ承ケ寄宿舎ニ關スル事ヲ掌
ル
第七條 副專ハ附屬小學校兒童ノ教育ヲ掌ル
第八條 書記ハ學校長ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事
ス
第九條 教諭助教諭會監副專及書記ノ人員及俸額
ハ文部大臣之ヲ定ム
第十條 府縣知事ハ教諭ノ中ヨリ附屬小學校主事
ヲ命シ校務ヲ掌ルシム
附則
第十一條 本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行
ス

第五款 帝國圖書館

●帝國圖書館官制(勅令第三十號)
朕帝國圖書館官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
帝國圖書館官制
第一條 帝國圖書館ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ内外
古今ノ圖書記録ヲ蒐集保存シ及衆庶ノ閱覽參考
ノ用ニ供スル所トス
第二條 帝國圖書館ニ左ノ職員ヲ置ク(三十一年
勅令第二百八十號三十三年勅令第三百二十五號
三十四年勅令第二百六號ヲ以テ改正)
館長 一人 奏任
司書官 一人 奏任
司書 九人 列任
書記 三人 列任
第三條 館長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ館務ヲ掌理シ
所屬職員ヲ監督ス
第四條 司書官ハ館長ノ命ヲ承ケ圖書記録及閱覽
ニ關スル事務ヲ掌ル(三十三年勅令第三百二十
五號ヲ以テ追加)
第五條 司書ハ上官ノ命ヲ承ケ圖書記録ノ整理保
存及閱覽ニ關スル事務ニ從事ス
第六條 書記ハ館長ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス
第七條 圖書記録ノ選定者ハ分類等ニ關シ必要ア
ルトキハ館長ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ囑
託員ヲ置クコトヲ得
第八條 文部大臣ハ館務上ノ重要ニ依リ帝國圖書
館ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員
ハ文部大臣之ヲ命ス
附則
第九條 明治二十四年勅令第三百三十八號東京圖書
館官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第六款 中央氣象臺

●中央氣象臺官制(明治三十
勅令第四百
四十八號)
朕中央氣象臺官制ヲ改正シ茲ニ之ヲ公布セ
シム
中央氣象臺官制
第一條 中央氣象臺ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ氣象
ニ關スル事項ヲ研究シ氣象事業ヲ統轄ス
第二條 中央氣象臺ハ左ノ事務ヲ掌ル
一 全國氣象ノ調査及報告
二 暴風警報
三 天氣豫報
四 氣象通報
五 氣象器械檢定
六 氣象、地磁氣、空中電氣、地震等ノ觀測
第三條 中央氣象臺ニ左ノ職員ヲ置ク
臺長
技師
技手
書記
第四條 臺長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ文部大臣ノ指
揮監督ヲ承ケ事務ヲ管理シ所屬職員ヲ統轄ス
第五條 技師ハ專任四人奏任トス臺長ノ指揮ヲ承
ケ事務ヲ分掌ス(三十三年勅令第三百十一號ヲ
以テ人員改正)
第六條 技手ハ專任十五人列任トス上官ノ指揮ヲ
承ケ中央氣象臺又ハ附屬測候所ノ事務ニ從事ス
(三十二年勅令第四百三十三號勅令第三百十
一號ヲ以テ人員改正)
第七條 書記ハ專任四人列任トス上官ノ指揮ヲ承

ケ庶務ニ從事ス(同上)
第八條 事務ノ分課ハ文部大臣之ヲ定ム
第九條 中央氣象臺ニ附屬測候所ヲ置ク其ノ位置
ハ鹿児島縣下大島沖繩縣下石垣島トス
第十條 附屬測候所ニ所長ヲ置キ中央氣象臺技手
ヲ以テ之ニ充ツ
所長ハ臺長監督ノ下ニ於テ測候所ノ事務ヲ掌理
ス
第七款 臨時緯度觀測所
●臨時緯度觀測所官制(明治三十
勅令第三百
八十九號)
朕臨時緯度觀測所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ
ム
臨時緯度觀測所官制
第一條 臨時緯度觀測所ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ
帝國政府ト萬國測地學協會トノ條約ニ依リ緯度
變化ノ觀測ニ關スル事務ヲ掌ル
第二條 臨時緯度觀測所ハ之ヲ臺長手懸薩摩郡水澤
町ニ置ク
第三條 臨時緯度觀測所ニ左ノ職員ヲ置ク
所長 一人 奏任
技師 二人 專任
技手 二人 專任
書記 一人 專任
第四條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ文部大臣ノ指
揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス
所長ハ觀測ニ關シテハ測地學委員會委員長ノ指
揮ヲ承ク
第五條 技師ハ所長ノ指揮ヲ承ケ觀測ヲ掌ル
第六條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ觀測ニ從事ス

第八類 官制 第十二章 文部省所管

第八款 臨時教員養成所

第七條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承テ庶務ニ従事ス

第一條 臨時教員養成所ニハ國語漢文科、英語科、數學科、博物科、物理化學科ノ一學科若ハ數學科ヲ置ク

第二條 前條各學科ノ修業年限ハ二箇年トス

第三條 國語漢文科ノ學科目ハ倫理、教育、國語、漢文、英語、歴史トス

第四條 英語科ノ學科目ハ倫理、教育、英語、國語及漢文トス

第五條 數學科ノ學科目ハ倫理、教育、數學、英語、物理、簿記トス

第六條 博物科ノ學科目ハ倫理、教育、動物、生理、植物、礦物、英語、地文、地質、人類、天文トス

第七條 物理化學科ノ學科目ハ倫理、教育、物理、化學、英語、數學トス

第八條 各學科ノ各學年ニ於ケル每週教授時數ハ第一號表乃至第五號表ニ依ルヘシ

第九條 特別ノ事情アルトキハ管理者ハ文部大臣ノ認可ヲ受テ學科目ヲ加減シ教授時數ヲ増減スルコトヲ得

第十條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル學年ハ分テ三學期トシ第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日マテトシ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日マテトシ第三學期ハ翌年一月一日ヨリ三月三十一日マテトス

第十一條 入學試驗ハ中學校卒業ノ程度ニ依リテ之ヲ行フ但シ中學校及師範學校ノ卒業者ニ限リ時宜ニ因リ試驗ヲ行ハサルコトヲ得

第十二條 各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平常ノ學業及試驗ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ムヘシ但シ管理者ノ見込ニ因リ某學年

目ノ試驗ヲ行ハサルコトヲ得

第十三條 管理者ハ全學科ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第十四條 管理者ハ卒業ノ見込ナシト認メタル者及性行不具ナル者ニハ退學ヲ命スヘシ

第十五條 生徒ハ自己ノ便宜ニ因リ退學スルコトヲ得ス但シ已ムテ得サル事由ニ因リ管理者ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

第十六條 管理者ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第十七條 臨時教員養成所ニ於テハ授業料ヲ徴收セス

第十八條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第十九條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第二十條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第二十一條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第二十二條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第二十三條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第二十四條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第二十五條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第二十六條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第二十七條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第二十八條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第二十九條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第三十條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第三十一條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第三十二條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第三十三條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第三十四條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第三十五條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第三十六條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第三十七條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第三十八條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第三十九條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第四十條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第四十一條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第四十二條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第四十三條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第四十四條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第四十五條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第四十六條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第四十七條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第四十八條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第四十九條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第五十條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第五十一條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第五十二條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第五十三條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第五十四條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第五十五條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第五十六條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第五十七條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第五十八條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第五十九條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第六十條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第六十一條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第六十二條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第六十三條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

第六十四條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徴收スルコトヲ得

臨時教員養成所規程 (明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス) (明治三十五年三月)

臨時教員養成所規程 (明治三十五年三月)

Table with columns for 學科目 (Subject), 第一學年 (1st Year), 第二學年 (2nd Year), 第三學年 (3rd Year). Rows include 國語漢文科, 英語, 數學, 物理, 化學, 生物, 動物, 植物, 地質, 地文, 人類, 天文, 倫理, 教育, 英語, 國語, 漢文, 英語, 數學, 物理, 化學, 生物, 動物, 植物, 地質, 地文, 人類, 天文, 倫理, 教育.

Table with columns for 學科目 (Subject), 第一學年 (1st Year), 第二學年 (2nd Year), 第三學年 (3rd Year). Rows include 國語及漢文, 英語, 數學, 倫理, 教育, 英語, 國語, 漢文, 英語, 數學, 倫理, 教育, 英語, 國語, 漢文, 英語, 數學, 倫理, 教育.

Table with columns for 學科目 (Subject), 第一學年 (1st Year), 第二學年 (2nd Year), 第三學年 (3rd Year). Rows include 國語漢文科, 英語, 數學, 物理, 化學, 生物, 動物, 植物, 地質, 地文, 人類, 天文, 倫理, 教育, 英語, 國語, 漢文, 英語, 數學, 物理, 化學, 生物, 動物, 植物, 地質, 地文, 人類, 天文, 倫理, 教育.

臨時教員養成所設置 (明治三十五年三月) 文部省告示 第五十八號

國語調查委員會官制 (明治三十五年三月) 勅令第四十九號

國語ニ關スル事項ヲ調査ス
 第二條 國語調査委員會ハ委員長一人委員十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
 臨時必要ノ場合ニ於テハ前項委員ノ外臨時委員ヲ附クコトヲ得
 第三條 委員長、委員及臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
 第四條 委員長ハ會務ヲ處理シ委員會ノ議長ト爲リ調査ノ結果ヲ文部大臣ニ具申スヘシ
 委員長事務放アルトキハ文部大臣ノ指命シタル委員其ノ事務ヲ代理ス
 第五條 國語調査委員會ニ主任委員若千人ヲ置キ委員ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス
 第六條 國語調査委員會ニ主任一人ヲ置キ委員ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス
 第七條 國語調査委員會ニ書記若千人ヲ置キ委員長之ヲ命ス
 書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
 附則
 本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十款 教員檢定委員會

勅令第百三十五號

教員檢定委員會官制
 第一條 教員檢定委員會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ教員檢定ニ關スル事務ヲ掌ス
 第二條 教員檢定委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 會長 一人
 一 主任委員 一人
 一 臨時委員 一人
 第三條 會長、主任委員、主任及臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
 主事ハ文部省高等官ヲ以テ之ニ充ツ
 臨時委員ハ試驗施行ノ際之ヲ命ス
 第四條 會長ハ一切ノ會務ヲ總理シ檢定ノ成績ヲ文部大臣ニ報告ス
 會長事務放アルトキハ文部大臣ノ指命シタル委員其ノ事務ヲ代理ス
 第五條 主任委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ教員檢定ニ關スル事務ヲ掌ル
 第六條 主任委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ試驗檢定ノ事務ヲ掌ル
 第七條 臨時委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ試驗檢定ノ事務ヲ掌ル
 第八條 會長、主任委員、主任及臨時委員ニハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得
 第九條 教員檢定委員會ニ書記三人ヲ置キ文部省列任官ヲ以テ之ニ充ツ
 書記ハ會長及主任委員ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
 書記ニハ一箇年五十圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得
 附則
 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一款 高等教育會議

勅令第百五十五號

高等教育會議規則
 第一條 高等教育會議ハ規則ニ依リ高等教育會議ノ決議ヲ文部大臣ニ開申ス
 第二條 高等教育會議ハ會務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
 第三條 高等教育會議ハ毎年一回之ヲ開ク但シ必要ニ依リ臨時會議ヲ開クコトヲ得
 第四條 高等教育會議ハ開會及閉會ハ文部大臣之ヲ定ム
 第五條 議員ニハ一箇年五百圓以内臨時議員ニハ事項ニ應ジ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得但シ第四條第一項第一乃至第十五條當スル者ニハ之ヲ給セス(三十四年勅令第八十一號ヲ以テ條中改正)

高等教育會議規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 高等教育會議ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス
 第二條 高等教育會議ハ文部大臣ノ諮詢ニ應ジテ左ノ事項ノ要領ヲ審議ス
 一 帝國大學及文部省直轄諸學校圖書館ノ設置廢止ニ關スル事項
 二 文部省直轄諸學校公立私立學校ノ教育ノ目的並ニ其ノ學科課程設備及管理ニ關スル事項
 三 學齡兒童ノ就學義務及小學校授業料ニ關スル事項
 四 學事監督ニ關スル事項
 五 教科用圖書ニ關スル事項
 六 文部省直轄諸學校公立私立學校職員ノ資格ニ關スル事項
 七 文部大臣ニ於テ必要ト認ムル事項
 第三條 高等教育會議ハ教育ニ關スル事項ニ就キ各省大臣ニ建議スルコトヲ得
 第四條 高等教育會議ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス(三十四年勅令第八十一號ヲ以テ本項改正)
 一 學習院長、華族女學校長、帝國博物館總長
 二 內務省地方局長
 三 陸軍及海軍教育主任將校各一人
 四 文部省各局長及視學官二人
 五 農商務省農務局長及商工局長
 六 帝國大學總長、法科大學長一人、醫科大學長一人、工科大學長、文科大學長、理科大學長、農科大學長、女子高等師範學校長、札幌高等師範學校長、女子高等師範學校長、札幌農學校長、高等商業學校長、高等工業學校長一人、高等學校長一人、醫學專門學校長一人、東京外國語學校長、東京美術學校長、東京音樂學校長
 第七條 高等教育會議議員互選規則
 第一條 師範學校長公立尋常中學校長及公立高等女學校長ハ此規則ニ依リ高等教育會議規則第四條第三項但書ノ互選ヲ行フヘシ
 第二條 選舉ノ期日ハ文部大臣之ヲ定ム少クトモ三十日以前ニ告示ス
 第三條 選舉ハ文部大臣ノ命シタル文部省高等官之ヲ管理ス
 第四條 選舉ハ投票ニ依ル
 第五條 投票用紙及封皮ハ第二條ノ告示後五日以内ニ當該各學校長ニ配付ス
 第六條 投票書式ヲ定ムルコト左ノ如シ

高等教育會議議員投票用紙
 被選舉者官職氏名
 右高等教育會議議員ニ選舉ス
 年 月 日
 選舉者官職氏名

京音樂學校長
 帝國圖書館長
 八 高等師範學校附屬中學校主事、女子高等師範學校附屬高等女學校主事
 九 商船學校長
 十 道廳府縣視學官二人
 十一 師範學校長二人
 十二 公立中學校長二人
 十三 公立高等女學校長一人
 十四 公立實業學校長三人
 十五 私立學校長四人
 十六 東京學士會會長
 十七 文部省學校衛生顧問會議議長
 十八 學識アル者又ハ教育事業ニ關係アル者七人以内
 此ノ他臨時ノ必要ニ應ジ臨時議員若千人ヲ置クコトヲ得
 職務上當然議員タル者ヲ除ク外議員及臨時議員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス但シ第一項第十二乃至第十四ノ議員ハ當該各學校長ニ於テ二倍ノ數ヲ互選セシメ其中ニ就キ文部大臣奏請シ内閣ニ於テ之ヲ命ス(同上ヲ以テ本項中改正)

間在任ス(三十四年勅令第八十一號ヲ以テ本項追加)
 第八條 議員ハ規則ニ依リ職務ヲ整理シ會議ノ決議ヲ文部大臣ニ開申ス
 第九條 高等教育會議ハ會務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
 第十條 高等教育會議ハ毎年一回之ヲ開ク但シ必要ニ依リ臨時會議ヲ開クコトヲ得
 第十一條 議員ニハ一箇年五百圓以内臨時議員ニハ事項ニ應ジ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得但シ第四條第一項第一乃至第十五條當スル者ニハ之ヲ給セス(三十四年勅令第八十一號ヲ以テ條中改正)
 第十二條 高等教育會議ニ幹事一人ヲ置キ文部省高等官ヲ以テ之ニ充ツ書記二人ヲ置キ文部省高等官ヲ以テ之ニ充ツ
 幹事ハ議員ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理シ書記ハ職員及幹事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス
 幹事ニハ一箇年二百圓以内書記ニハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得
 第十三條 職務上當然議員タル者及第四條第一項第十二乃至第十四ノ議員ヲ除ク外現任議員ハ本令施行ノ日ヨリ其任ヲ解カラルモノトス
 (三十四年勅令第八十一號ヲ以テ本條改正)
 第十四條 第一項第十二ノ現任議員ハ同條同項第十三及第十四ノ現任議員ノ任期満了ノ日マテ在任スルモノトス

高等教育會議議員互選規則
 (明治三十一年六月 文部省令第十一號)
 高等教育會議議員互選規則ヲ定ムルコト左ノ如シ
 第七條 投票ノ開票點檢ハ選舉期日ノ午前十時ヨリ高等教育會議事務立會ノ上選舉管理者之ヲ行フ
 第十條 投票ノ開票點檢ハ選舉期日ノ午前十時ヨリ高等教育會議事務立會ノ上選舉管理者之ヲ行フ
 第十一條 左ニ掲ケル投票ハ無効トス

一 成規ノ投票用紙ヲ用ヒサルモノ
 二 投票方式ニ反シタルモノ
 三 汚染塗抹毀損等ニ依リ記載スル所ノ選舉者若クハ被選者ノ氏名ヲ認知スヘカラサルモノ
 第十二條 投票ニ記載シタル被選者ノ氏名ニシテ定員ヨリ多キトキハ定員ニ超エタル氏名ヲ末尾ヨリ除却スヘク又定員ヨリ少キトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ
 第十三條 投票總數ノ多數ヲ得タル者ハ之ヲ當選者トス
 投票同數ナルトキハ當該官職任命ノ日ノ早キ者ヲ當選者ト定ム其日同一ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
 第十四條 高等教育會議規則第四條第一項第十乃至第十二ノ職員ニ缺員ヲ生シタル場合ニハ此規則ニ依リ補缺選舉ヲ行フ

● 震災豫防調査會官制 (明治二十五年六月十五號)

震災豫防調査會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 震災豫防調査會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ震災豫防ニ關スル事項ヲ究明シ其施行方法ヲ審議ス
 第二條 震災豫防調査會ハ事務ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得
 第三條 震災豫防調査會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス
 一 會長 一人

二 幹事 一人
 三 委員 二十五人
 第四條 會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ委員ハ理學及工學專門ノ者ヨリ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
 幹事ハ委員ノ内ヨリ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
 第五條 調査上必要アルトキハ震災豫防調査會ニ臨時委員ヲ置クコトヲ得
 臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
 第六條 會長ハ震災豫防調査ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス
 第七條 幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス
 第八條 震災豫防調査會ノ職員ニハ一箇年三百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得
 但特別ノ調査ヲ擔任シ勳勞著シキ者アルトキハ本條制限以外ノ手當ヲ給スルコトヲ得
 第九條 震災豫防調査會ニ書記ヲ置ク上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ノ筆記及庶務ニ從事ス
 書記ハ定員三人トシ文部大臣ヲ以テ之ニ充ツ
 第十條 調査上必要アルトキハ會長ハ臨時職員ヲ使用スルコトヲ得

● 測地學委員會官制 (明治三十四號)

測地學委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 測地學委員會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ萬國測地學協會ニ關スル事務ヲ掌理シ及測地學ニ關スル事項ヲ究明ス
 第二條 測地學委員會ハ事務ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得
 第三條 測地學委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス
 一 會長 一人
 二 幹事 一人
 三 委員 二十五人
 第四條 會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ委員ハ理學及工學專門ノ者ヨリ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
 幹事ハ委員ノ内ヨリ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
 第五條 調査上必要アルトキハ測地學ニ關係アル官廳ノ高等官中ヨリ幹事ハ委員中ヨリ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
 第六條 臨時必要アルトキハ測地學委員會ニ臨時委員ヲ置クコトヲ得
 臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
 第七條 委員長ハ測地學委員會一切ノ事務ヲ總理シ萬國測地學協會ニ對シテ帝國委員ヲ代表ス
 第八條 幹事ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス
 第九條 委員ニハ一箇年三百圓以内臨時委員ニハ事項ノ輕重ニ應ジ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得
 第十條 測地學委員會ニ書記ヲ置ク上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ筆記シ及庶務ニ從事ス
 書記ハ定員二人トシ文部大臣ヲ以テ之ニ充ツ
 第十一條 書記ニハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得
 第十二條 臨時必要ノ場合ニ於テハ委員長ハ職員ヲ使用スルコトヲ得

● 東京學士會院規程 (明治二十年十月十四號)

東京學士會院規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 東京學士會院ハ學藝ノ品位ヲ高クシ以テ教化ノ裨補ヲ謀ラシムルニシテ文部大臣ノ管轄ニ屬ス
 第二條 東京學士會院ハ各學科ノ中ヨリ選出セラルル職員ヲ以テ組織ス其選出ノ方法及人員左ノ如シ
 一 帝室ノ特選ニ依ル職員十五名
 一 會員ノ推選ニ依ル職員二十五名
 會員ノ推選ニ依ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經ルヲ要ス
 第三條 東京學士會院會員ハ各自專攻ノ學科ニ就キ論說ヲ述ヘ又學藝及教化ニ關スル事項ニ就キ報告スルモノトス
 第四條 東京學士會院ハ學藝及教化ニ關スル事項ニ就キ文部大臣ヨリ諮問アルトキハ審議復申スルモノトス又會員各自意見アルトキハ會院ニ於テ審議シ文部大臣ニ開陳スルコトヲ得
 第五條 東京學士會院會員滿六十歳以上ノ者十名以内ヲ限リ特ニ各年金三百圓ヲ賜フコトアルヘシ
 第六條 東京學士會院ニ會長一人幹事二人ヲ置ク
 會長幹事ハ會員ノ互選ヲ以テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム其任期ハ各一年トス但再選セラルルコトヲ得
 第七條 會長ハ文部大臣ノ監督ヲ受ケ院務ヲ統理シ幹事アルトキハ職員ノ任ニ當ルモノトス會長事故アルトキハ幹事ノ内一人ヲ指定シテ其職務ヲ代理セシム

● 東京學士會院規程補則 (明治二十八年三月)

東京學士會院規程補則
 第八條 (二十六號勅令第五十六號ヲ以テ削除)
 第九條 東京學士會院ニ書記二人ヲ置キ文部大臣ヲ以テ之ニ兼補ス書記ハ會長及幹事ニ屬シテ庶務ニ從事ス
 第十條 東京學士會院ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ會則ヲ設ケルコトヲ得
 東京學士會院規程補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 外國ノ善徳顯學ニシテ特ニ帝國ニ對シ功勞アル者ハ會員ノ推選ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ客員ト爲スコトヲ得

● 博士會規則 (明治三十一年十二月)

博士會規則
 第一條 博士會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ明治三十一年勅令第三百四十四號學位令第二條第一項第一號及第三條ニ規定セル學位ノ授與觀察ニ關スル事項ヲ審査ス
 第二條 博士會ハ法學博士會醫學博士會農學博士會工學博士會文學博士會理學博士會農學博士會林學博士會及獸醫學博士會ノ九種トシ當該博士ヲ以テ組織ス
 第三條 博士會ハ文部大臣ニ於テ必要アリト認メタルトキハ會長ヨリ具申アリタルトキ文部大臣ニ之ヲ召集ス

● 學校職員恩給審査規程 (明治二十九年七月)

學校職員恩給審査規程
 第十條 同種ノ博士七名ニ充タサル間當該博士會ノ職務ハ東京帝國大學評議會ニ於テ之ヲ行フ
 第十一條 同種ノ博士七名ニ充タサル間當該博士會ノ職務ハ東京帝國大學評議會ニ於テ之ヲ行フ
 第十二條 同種ノ博士七名ニ充タサル間當該博士會ノ職務ハ東京帝國大學評議會ニ於テ之ヲ行フ
 第十三條 同種ノ博士七名ニ充タサル間當該博士會ノ職務ハ東京帝國大學評議會ニ於テ之ヲ行フ
 第十四條 同種ノ博士七名ニ充タサル間當該博士會ノ職務ハ東京帝國大學評議會ニ於テ之ヲ行フ
 第十五條 同種ノ博士七名ニ充タサル間當該博士會ノ職務ハ東京帝國大學評議會ニ於テ之ヲ行フ
 第十六條 同種ノ博士七名ニ充タサル間當該博士會ノ職務ハ東京帝國大學評議會ニ於テ之ヲ行フ
 第十七條 同種ノ博士七名ニ充タサル間當該博士會ノ職務ハ東京帝國大學評議會ニ於テ之ヲ行フ
 第十八條 同種ノ博士七名ニ充タサル間當該博士會ノ職務ハ東京帝國大學評議會ニ於テ之ヲ行フ
 第十九條 同種ノ博士七名ニ充タサル間當該博士會ノ職務ハ東京帝國大學評議會ニ於テ之ヲ行フ
 第二十條 同種ノ博士七名ニ充タサル間當該博士會ノ職務ハ東京帝國大學評議會ニ於テ之ヲ行フ

第一章 公立學校職員恩給審査委員
 第一條 文部省ニ公立學校職員恩給審査委員ヲ置キ委員長一人及委員四人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
 公立學校職員恩給審査委員ハ市町村立小學校及公立實業補習學校ニアラサル公立學校ノ校長及教員ノ退職料及遺族扶助料ヲ受クヘキ資格及權利ヲ審査ス(三十二年勅令第二百九號ヲ以テ本項中改正)
 第二條 公立學校職員恩給審査委員長ハ審査ニ關スル事務ヲ管理シ審査ノ結果ヲ文部大臣ニ具申ス
 第三條 公立學校職員恩給審査委員長及委員ハ文部省高等官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス
 第四條 文部省ニ恩給顧問三人ヲ置キ内一人ヲ常務顧問トス
 恩給顧問ハ公立學校職員恩給審査委員長ノ諮詢ニ應ジ退職料及遺族扶助料ニ關スル醫術上ノ事項ヲ審査ス但委員長ニ於テ顧問ノ意見ヲ聞クコトヲ必要ト認メサルモハ常務顧問之ヲ審査ス
 第五條 審査上特殊ノ專門家ニ要スル場合ニ於テハ臨時顧問ヲ加フルコトヲ得
 第六條 恩給顧問ハ文部大臣之ヲ命ス
 第七條 常務顧問ニハ一箇年五百圓以内其ノ他ノ顧問ニハ事件ノ輕重難易ヲ斟酌シ每件三圓以上十圓以下ノ手當ヲ給ス
 第八條 公立學校職員恩給審査委員ノ事務ニ關シ書記ヲ置キ文部省ニ以テ之ニ充テ
 第二章 市町村立小學校教員恩給審査委員
 第九條 北海道府縣ニ市町村立小學校教員恩給審査委員ヲ置キ委員長一人及委員四人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

市町村立小學校教員恩給審査委員ハ市町村立小學校教員並ニ公立實業補習學校ノ校長及教員ノ退職料及遺族扶助料ヲ受クヘキ資格及權利ヲ審査ス(三十二年勅令第二百九號ヲ以テ本項中改正)
 第十條 市町村立小學校教員恩給審査委員長ハ審査ニ關スル事務ヲ管理シ審査ノ結果ヲ北海道廳長官府縣知事ニ具申ス
 第十一條 市町村立小學校教員恩給審査委員長ハ其ノ廳高等官委員ハ其ノ廳官更ノ中ヨリ北海道廳長官府縣知事之ヲ命ス
 第十二條 北海道府縣ニ恩給顧問三人以内ヲ置ク
 恩給顧問ハ市町村立小學校教員恩給審査委員長ノ諮詢ニ應ジ退職料及遺族扶助料ニ關スル醫術上ノ事項ヲ審査ス
 第十三條 審査上特殊ノ專門家ニ要スル場合ニ於テハ臨時顧問ヲ加フルコトヲ得
 第十四條 恩給顧問ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ命ス
 第十五條 顧問ニハ相當ノ手當ヲ給ス其ノ費用ハ北海道廳及府縣ニ在テハ地方經費ニ屬スル費用ノ負擔トシ其ノ他ノ府縣ニ在テハ府縣ノ負擔トス
 第十六條 市町村立小學校教員恩給審査委員ノ事務ニ關シ書記ヲ置キ北海道府縣ニ以テ之ニ充テ

第十三章 農商務省 所管

第一款 農商務省

●農商務省官制(明治三十一年十月勅令第二百八十二號)
 農商務省官制
 第一條 農商務大臣ハ農、商、工、水産、林野、礦山、發明、意匠、商標及地質ニ關スル事務ヲ管理ス
 第二條 總務局ニ於テハ通則ニ據クルモノノ外内務省ニ關スル事務ヲ掌ル(三十三年勅令第二百九號ヲ以テ改正)
 第三條 農商務省專任事務官ハ四人專任書記官ハ五人ヲ以テ定員トス(三十三年勅令第二百九號三十五年勅令第六十七號ヲ以テ改正)
 第四條 農商務省ニ左ノ局所ヲ置ク
 農務局
 商工局
 山林局
 礦山局
 特許局
 水産局
 地質調査所
 第五條 農務局ニ於テハ農事、蠶、茶、畜産、家畜衛生及狩獵ニ關スル事務ヲ掌ル
 第六條 商工局ニ於テハ商事、工業及度量衡ニ關スル事務ヲ掌ル
 商工局ニ商品陳列館ヲ置キ内外ノ商品見本ヲ陳列シ庶業ノ觀覽ヲ供セシム
 第七條 山林局ニ於テハ森林原野ニ關スル事務ヲ掌ル
 第八條 礦山局ニ於テハ鑛業ニ關スル事務ヲ掌ル
 第九條 特許局ニ於テハ發明、意匠及商標ニ關スル事務ヲ掌ル
 特許局ニ圖書館ヲ置キ審判及審査ニ關スル圖書、見本及標形ヲ保管セシム
 第十條 水産局ニ於テハ水産ニ關スル事務ヲ掌ル

第十一條 地質調査所ニ於テハ地質、土性、地形及分析ニ關スル事務ヲ掌ル
 所長ハ農商務省高等官ヲシテ之ヲ兼テシム
 第十一條ノ二 商工局ニ保險事務官一人ヲ置ク
 保險事務官ハ委任トス保險ニ關スル事務ヲ掌ル(三十三年勅令第十八號ヲ以テ全條追加)
 第十二條 特許局ニ專任審判官五人專任審査官十五人專任審査官補二十人ヲ置ク(三十二年勅令第二百三十六號ヲ以テ改正)
 審判官ハ委任トス但シ兼任ノ者ノ本官勅任ナルトキハ勅任下爲スコトヲ得
 審判官ハ特許、意匠及商標ニ關スル審判ヲ掌ル
 審査官ハ委任トス特許、意匠及商標ニ關スル審査ヲ掌ル
 審査官補ハ勅任トス審査官ヲ助テ審査ニ從事ス
 第十三條 商品陳列館ニ技師一人ヲ置ク(三十五年勅令第二百二號ヲ以テ條中削除)
 第十四條 農商務省ニ專任技師三十一人專任技師補四十人ヲ置ク(三十二年勅令第二百三十六號三十五年勅令第六十七號ヲ以テ條中改正)
 第十五條 農商務局ハ九十六人ヲ以テ定員トス(同上)
 附則
 第十六條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

●臨時工場調査ニ關スル職員ノ件
 明治三十三年四月勅令第四百九號
 朕臨時工場調査ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 工場及職工ニ關スル事項ノ調査ヲ掌理セシムル爲メ農商務省ニ臨時左ノ職員ヲ置ク
 第二條 山林局事務官ハ專任七人山林局鑑定官ハ專任二人山林局屬及技師ハ通シテ專任九十五人ヲ置ク
 山林局事務官 專任
 山林局鑑定官 專任
 山林局屬 列任
 山林局技師 專任
 ●臨時油田調査ニ關スル職員ノ件
 明治三十三年六月勅令第二百八十一號
 朕臨時油田調査ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 油田ノ調査ヲ爲サシムル爲メ農商務省ニ臨時左ノ職員ヲ置キ地質調査所ニ屬セシム(三十四年勅令第四十四號三十五年勅令第十號ヲ以テ定員改正)
 技師 專任十四人
 技師 專任十四人
 屬 專任二人
 本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臨時林野下戻處分調査ニ關スル職員ノ件
 明治三十二年四月勅令第五百一號
 朕臨時林野下戻處分調査ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 臨時林野下戻處分調査ヲ爲サシムル爲メ農商務省ニ左ノ職員ヲ置キ山林局ニ屬セシム(三十四年勅令第六十六號ヲ以テ「山林局技師」ヲ削ル)
 山林局事務官 專任
 山林局鑑定官 專任
 山林局屬 列任
 山林局技師 專任
 第二條 山林局事務官ハ專任七人山林局鑑定官ハ專任二人山林局屬及技師ハ通シテ專任九十五人ヲ置ク
 ●馬匹去勢法施行準備ニ關スル臨時職員ノ件
 明治三十五年三月勅令第三百三號
 本令ハ明治三十三年十月十日ヨリ之ヲ施行ス
 林野整理局官制ハ之ヲ廢止ス
 山林局事務官 專任二人
 山林局鑑定官 專任四人
 山林局屬 專任十六人
 山林局技師 專任六十四人
 山林局書記 專任八十六人 列任
 附則
 本令ハ明治三十三年十月十日ヨリ之ヲ施行ス
 林野整理局官制ハ之ヲ廢止ス

農務局事務官 專任一人 奏任
農務局技師 專任四人
農務局技師 專任四人
農務局技師 專任四人
農務局技師 專任四人
農務局技師 專任四人
農務局技師 專任四人
農務局技師 專任四人
農務局技師 專任四人
農務局技師 專任四人

●林區署官制 (明治三十年六月)
(勅令第百八十六號)
朕林區署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
朕林區署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第二款 林區署

●林區署官制 (明治三十年六月)
(勅令第百八十六號)
朕林區署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
朕林區署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

●林區署官制 (明治三十年六月)
(勅令第百八十六號)
朕林區署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
朕林區署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

●林區署官制 (明治三十年六月)
(勅令第百八十六號)
朕林區署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
朕林區署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

Table with columns: 名 (Name), 位 (Rank), 管轄區域 (Jurisdictional Area). Lists various forest districts and their administrative details.

Table listing forest districts (林區署) such as 大阪大林區署, 岡山小林區署, 愛媛大林區署, etc., with their respective locations and administrative details.

●林區署事務章程 (明治三十三年十月)
(農商務省訓令第三十六號)
林區署事務章程左ノ通定ム
林區署事務章程

●林區署事務章程 (明治三十三年十月)
(農商務省訓令第三十六號)
林區署事務章程左ノ通定ム
林區署事務章程

第七 邦場、汚穢物埋却場及糞牛馬捨場ノ新設又ハ取壊ノ爲國有原野面積一町歩以下ノ賣拂ハ此ノ限ニアラス

第八 土地、森林、原野又ハ立木竹質上ノコト

第九 社寺保管林又ハ市町村委託林ノ設定及解除ノコト

第十 賣拂ノ豫約アル國有林野ノ繼年期及事業方法變更ノコト

第十一 國有林野ノ設定及解除ノコト

第十二 國有林野無料貸渡ノコト

第十三 但シ繼年期及官廳又ハ公共用ニ供スル場合ニシテ面積五町歩ヲ超エサルモノハ此ノ限ニアラス

第十四 國有林野ノ面積十町歩ヲ超ユルモノ、年期貸渡若ハ十箇年ヲ超ユル年期貸渡ノコト

第十五 但シ繼年期ノ場合及面積十町歩ヲ超エサル公用又ハ公益事業用若ハ植樹、家屋敷地ハ此ノ限ニアラス

第十六 主産物年期賣拂ノコト

第十七 但シ立竹ニシテ年期五箇年ヲ超エサルトキハ此ノ限ニアラス

第十八 小林區署及保護區ノ廢置變更並立小林區署ノ位置變更ノコト

第十九 但シ同一市町村内ニ於ケル位置變更ハ此ノ限ニアラス

第二十 決定セシ國有林野ノ境界改定ノコト

第二十一 訴訟提起ノコト

第二十二 但シ公訴附帶ノ私訴又ハ公訴ノ判決確定ニ起因スル民事及未納金ニ關スル訴訟其ノ他緊急ノ場合ニ於ケル訴訟ハ此ノ限ニアラス

第二十三 一廉金額五百圓以上ノ支出ヲ要スル隨意

契約締結ノコト

第十七 謝金二百圓ヲ超ユル締結士雇入ノコト

第十八 一箇金額百圓ヲ超ユル不用物件賣拂ノコト

第十九 金額五十圓ヲ超ユル手當又ハ謝金ヲ要スル事務囑託ノコト

第二十 賞典、療治料及死傷手當給與ノコト

第二十一 經何ノ上締結シタル契約ノ變更及解除ノコト

但シ契約ノ目的及金額ニ異動ナキ變更ハ此ノ限ニアラス

第二十二 大林區署長ハ左記ノ場合ニ於テ前條第四號ノ例ニ依リテ之ヲ處分スルコトヲ得

第二十三 但シ第二號以下產物ノ特賣又ハ讓與ニシテ金額五百圓ヲ超ユルモノハ此ノ限ニアラス

第二十四 一見積價格金百圓ヲ超エサル主産物

第二十五 竹及部分木

第二十六 燒木、枯木、損木、倒木、危險木、障礙木、盜伐木、誤伐木、根株、未木、枝條、林產物品及棄損木

第二十七 造林事業施行上研伐ヲ要スル立木

第二十八 試驗又ハ林況調査ノ爲研伐ヲ要スル立木

第二十九 檢査ノ爲研伐ヲ要スル立木

第三十 境界調査又ハ測量ノ爲研伐ヲ要スル立木

第三十一 林野ヲ他ノ官有地ニ組換ニ付研伐ヲ要スル立木

第三十二 林業付帶ノ爲研伐ヲ要スル立木

第三十三 水火災ノ防禦又ハ軍用ノ爲研伐ヲ要スル立木

第三十四 受託者又ハ保管者ニ委託又ハ保管ニ係ル林野ノ主産物ヲ採收セシムルコト

第三十五 大林區署長ハ第七條第四號第五號ノ課長

及小林區署長ノ命第八條第十三號但書ノ位置變更、處務ニ關スル規程ヲ制定シ若ハ改正ヲナシタルトキ及重大ナル林野ノ被害事項ハ其ノ部度報告スヘシ

第二章 小林區署

第十一條 小林區署長ハ左ノ事務ヲ掌ル

一 林野ノ研伐造林及利用ニ關スル事項

二 林野ノ保護ニ關スル事項

三 林野ノ調査ニ關スル事項

第十二條 小林區署長ハ臨時緊急ノ場合ニ於テ大林區署長ニ報告ノ上管外ニ出張シ又ハ署員ヲ出張セシムルコトヲ得

第十三條 但シ大林區署管外ニ出張シ又ハ出張セシメタルトキハ大林區署長ノ道認ヲ受クヘシ

第十四條 小林區署長ハ署員ノ勤惰及其身上ニ關シ大林區署長ニ報告スヘシ

第十五條 小林區署長ハ大林區署長ノ指揮ヲ受ケ事業豫定案ヲ編製シ及之ヲ執行スヘシ

第十六條 小林區署長ハ事業内ノ產物ノ公賣セんとスルトキハ之ヲ廣告スヘシ

第十七條 但シ季節アル測産物ニ係ルモノノ外公賣廣告十日前其旨ヲ大林區署長ニ報告スヘシ

第十八條 第十六條 左ノ各號ニ該當スルモノハ小林區署長限リ處分スルコトヲ得

一 水火災ノ防禦又ハ軍用ノ爲木竹研伐ノコト

二 境界調査、森林測量、陸地測量部測量及道路鐵道新設測量ノ支障並其敷地上ノ木竹研伐ノコト

三 電線電柱ノ支障木竹研伐ノコト

四 檢査ノ爲木竹研伐ノコト

五 障害木竹危險木竹研伐ノコト

六 物件搬出延期ノコト

七 林產物買受人又ハ其雇人ニシテ契約ニ違背シタル場合ニ於テ入林若ハ物件搬出ヲ停止スルコト

八 但シ經何ノ暇ナキトキニ限ル

九 公賣物件ノ轉賣讓與ヲ認可スルコト

十 拂受人借地人名義換領可ノコト

十一 一時賣地ノコト

十二 豫算内林野地五箇年以内繼年期貸渡ノコト

十三 部分林手入ノコト

第十四 豫算内ノ副産物特賣ノコト

第十五 金額十圓ヲ超エサル豫算外副産物特賣ノコト

第十六 特別ノ規定アル場合ヲ除キ凡テ願書屆等ハ小林區署ニ受理スヘシ

第十七條 書式ノ例規ニ違背シタルモノ及管轄邊ニ係ルモノハ小林區署長限リ却下スルコトヲ得

第十八條 附則

第十九條 本令ハ明治三十三年十月十日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 林區署長職務章程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

● 大林區署長森林監督事務取扱心得

(明治三十一年六月)

農商務省訓令第十號

大林區署長森林監督事務取扱心得

第一條 大林區署長ハ森林法第三條第七條第二十一條乃至第二十三條第五十五條ノ施行ヲ要スル

● 小林區監督規程

(明治三十一年六月)

農商務省訓令第十一號

大林區署

小林區監督規程左ノ通定ム

第一條 小林區監督規程

第二條 大林區署長ハ此規程ニ依リ管轄内小林區署事務ヲ監督スヘシ

第三條 大林區署長ハ林務官、林務官補ヲ監督員トシ業務ヲ分掌セシムヘシ

第四條 但シ林主事又ハ書記ヲ以テ監督員心得トナスコトヲ得

第五條 大林區署長ハ監督事務施行ノ爲メ管轄内ヲ區分シ監督區ヲ設クヘシ

第六條 大林區署長ハ監督事務上必要ト認ムルトキハ其細則ヲ定ムルコトヲ得

第七條 小林區監督規程ヲ分テ事務檢閲、林野實査

● 鑛山監督官制

鑛山監督署

及職員服務ノ三トス

第六條 大林區署長ハ毎年度一回以上監督員ヲ派遣シテ事務檢閲及林野實査ヲ施行セシムヘシ

第七條 事務檢閲ニ於テハ小林區署備付ノ簡便書類、官舎、極印、器具、機械ヲ檢閲スヘシ

第八條 林野實査ニ於テハ伐採跡地、遊林地、苗圃、伐木又ハ林產物製造事業場、林產物貯藏場、事業豫定案編成ノ場所、被害ノ場所及豫約拂下地、社寺土地委託林等ヲ實地ニ就キ踏査スヘシ

第九條 監督員ハ檢閲又ハ實査ノ後左ノ各號ニ就テハ大林區署長ニ復命書ヲ差出スヘシ

一 成規定期ニ違背セシ事項

二 事務上ノ不成就ニ係ル事項

三 事務上ノ不整理ニ係ル事項

四 官舎物品類ノ不取締ニ係ル事項

五 大林區署長ノ特ニ復命ヲ命ジタル事項

第十條 監督員ハ必要ト認ムルトキハ主任官吏ヨリ始末書ヲ徴シ之ヲ復命書ニ添付スヘシ

第十一條 監督員ハ常ニ職員ノ服務ニ注意シ且隨時森林手簿ヲ檢閲スヘシ

第十二條 但シ森林手簿ノ檢閲ヲ了シタルトキハ檢印ヲ捺スヘシ

第十三條 大林區署長ハ小林區署長交代事務引繼及林產物公賣、造林事業實行ノ際ニハ可成監督員ヲシテ立會セシムヘシ

第十四條 第二條第三條第四條ノ場合ニ於テハ其部度報告スヘシ

(明治二十九年八月) 勅令第二百八十三號 朕鐵山監督官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 鐵山監督署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鐵山監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 鐵山監督署ニ左ノ職員ヲ置ク 鐵山監督官 鐵山監督官補 書記

第三條 鐵山監督署長ハ每署一人監督官ヲ以テ之ニ充テ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 鐵山監督官ハ委任トシ各鐵山監督署ヲ通シテ專任二十四人ヲ以テ定員トス鐵山監督署ニ分屬シテ事務ニ從事ス(三十三年勅令第二十六號三十四年同第四十號ヲ以テ人員改正)

第五條 鐵山監督官補ハ委任トシ各鐵山監督署ヲ通シテ專任百十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ受ケ事務ニ從事ス(三十三年勅令第二十六號三十四年同第四十號三十五年同第四十號ヲ以テ人員改正)

第六條 書記ハ委任トシ各鐵山監督署ヲ通シテ專任十六人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス(同上)

第七條 鐵山監督署ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

(別表)(三十一年勅令第二十九號三十四年同第四十號ヲ以テ表中改正)

鐵山監督署名稱位置管轄區域表

名 稱	位 置	管 轄 區 域
東京鐵山監督署	武藏國東京	東京府 神奈川縣 埼玉縣 群馬縣 茨城縣 栃木縣 山梨縣 長野縣 新潟縣 富山縣 石川縣 福井縣 岐阜縣 愛知縣 靜岡縣 千代田縣 青森縣 岩手縣 宮城縣 秋田縣 山形縣 福島縣 茨城縣 栃木縣 山梨縣 長野縣 新潟縣 富山縣 石川縣 福井縣 岐阜縣 愛知縣 靜岡縣 千代田縣 青森縣 岩手縣 宮城縣 秋田縣 山形縣 福島縣
仙臺鐵山監督署	陸前國仙臺	宮城縣 秋田縣 山形縣 福島縣
大板鐵山監督署	攝津國大阪	京都府 大阪府 兵庫縣 神戶市 西宮市 三田市 川崎市 津市 奈良縣 和歌山縣 德島縣 香川縣 愛媛縣 高知縣 島根縣 岡山縣 廣島縣 山口縣 長門縣 山口縣 徳島縣 香川縣 愛媛縣 高知縣 島根縣 岡山縣 廣島縣 山口縣 長門縣
福岡鐵山監督署	筑前國福岡	福岡縣 佐賀縣 熊本縣 鹿兒島縣 宮崎縣 大分縣 長崎縣 熊本縣 鹿兒島縣 宮崎縣 大分縣 長崎縣
札幌鐵山監督署	石狩國札幌	北海道 青森縣 岩手縣 宮城縣 秋田縣 山形縣 福島縣 茨城縣 栃木縣 山梨縣 長野縣 新潟縣 富山縣 石川縣 福井縣 岐阜縣 愛知縣 靜岡縣 千代田縣 青森縣 岩手縣 宮城縣 秋田縣 山形縣 福島縣

廣島鐵山官制 (明治二十五年四月) 農商務省訓令第八號

鐵山監督署長權限左ノ通相定ム 第一條 鐵山監督署長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ法律命令ノ執行及主管事務ノ整理ニ付凡テ其責任ス

第二條 鐵山監督署長ハ管内ヲ巡視シ及部下ノ官吏ニ管内ノ巡回出頭ヲ命スルコトヲ得(三十五年勅令第五十七號ヲ於テ條文中改正)

第四條ノ二 事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ關スル事務ヲ掌ル(同上ヲ以テ追加)

第五條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

第八條 製鐵所ニ左ノ諸部ヲ置ク 工務部 製鐵部 製鋼部 製品部 經理部

各部ニ於ケル事務ノ分掌ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九條 農商務大臣ハ所中ニ課ヲ置クコトヲ得

第十條 製鐵所ニ技術長ヲ置キ勅任技師ヲ以テ之ニ充ツ

技術長ハ長官ノ命ヲ承ケ技術官ヲ指揮監督シ技術ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十一條 各部ニ部長ヲ置キ工務部製鐵部製鋼部製品部ニ在テハ技師經理部ニ在テハ書記官ヲ以テ之ニ充ツ(三十四年勅令第五十七號ヲ以テ條文中改正)

第十二條 農商務大臣ハ製鐵所採算定額内ニ於テ製鐵所出張所ヲ設置スルコトヲ得 出張所所管ノ事務ハ農商務大臣之ヲ定ム

第六款 肥料礦物調査所官制

農商務省訓令第五號ヲ以テ改正) 第三條 鐵山監督署長ハ部下官吏ノ籍省看護警察轉地療養願ヲ許可シ及ヒ除服出仕ヲ命スルコトヲ得(三十一年農商務省訓令第二十二號ヲ以テ條文中改正)

第四條 鐵山監督署長ハ月俸十五圓又ハ日給五十錢以下ノ職員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得(同上)

第五條 鐵山監督署長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得

廣島鐵山官制 (明治二十六年十月) 勅令第四百十號

廣島鐵山官制 廣島鐵山ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ廣島鐵山ノ事業經營ニ關スル事務ヲ掌ル(三十一年勅令第二百九十四號ヲ以テ大藏大臣ヲ農商務大臣ト改ム以下同シ)

第二條 廣島鐵山ニ左ノ職員ヲ置ク 管理長 技師 技師補 技師

第三條 管理長ハ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ廣島鐵山一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 管理長ハ管理長ノ指揮監督ヲ承ケ文書會計ノ事務ヲ掌ル

第五條 技師ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ肥料用礦物ニ關スル調査及試驗ノ事務ヲ掌ル

第六條 肥料礦物調査所ニ左ノ職員ヲ置ク 所長 技師 技師補 技師

第七條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第八條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

第九條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條 肥料礦物調査所ニ左ノ職員ヲ置ク 所長 技師 技師補 技師

第十一條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第十二條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

第十三條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十四條 肥料礦物調査所ニ左ノ職員ヲ置ク 所長 技師 技師補 技師

第五款 製鐵所 (明治三十二年六月) 勅令第三百七號

朕製鐵所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 製鐵所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鋼鐵製造ノ事務ヲ掌ル

第二條 製鐵所ニ左ノ職員ヲ置ク(三十三年勅令第七十八號三十四年同第五十七號ヲ以テ條文中改正)

第三條 長官ハ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第四條 書記官ハ長官ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌ル(三十二年勅令第三百七號)

第五條 管理長ハ廣島縣知事、理事ハ廣島縣書記官ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 技師ハ一人ヲ以テ定員トス管理長ノ指揮監督ヲ承ケ工務ヲ掌理ス

第七條 技師ハ一人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス(三十一年勅令第二百九十四號ヲ以テ定員改正)

第八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

第五條 所長ハ列任官以下ノ階層者ヲ選任シ其職務地境ヲ兼顧シ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得

第六條 所長ハ事務處理ノ爲メ輕便ノ上處務細則ヲ設ケルコトヲ得

第七條 事業上至急所員ノ出張ヲ要シ輕便ノ暇ナキ場合ニ限リ所長ニ於テ臨時出張ヲ命シ同時ニ其事由ヲ記シ農商務大臣ニ報告スヘシ

第八條 肥料礦物ニ關スル調査試驗等ノ爲メ旅費ヲ負擔シ所員ノ出張ヲ申出ツル者アルトキ日數十日以内ナルトキハ所長之ヲ許シ農商務大臣ニ報告シ日數十日ヲ超ユルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 所長ハ其主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得

第十條 農商務大臣ニ輕便又ハ報告ヲ要スル事項ハ總テ農務局長ヲ經由スヘシ

第十一條 所長ハ肥料礦物調査及試驗ノ順序方法ヲ定メ豫メ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十二條 所長ハ調査及試驗ノ要領ヲ每年少ナクモ二回以上農務大臣ニ報告スヘシ

第十三條 調査及試驗ハ各擔任者ニ於テ終了ノ上直チニ其成績ヲ所長ニ提出スヘシ

第十四條 肥料礦物ニ關スル質問及分析鑑定ハ所長ニ於テ必要ト認ムルモノニ限リ應答スヘシ

第一條 工業試驗所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ工業ニ關スル試驗ノ分析及鑑定ノ事務ヲ掌ル

第二條 工業試驗所ニ左ノ職員ヲ置ク(三十五年勅令第九號ヲ以テ人員改正)

所長 一人

技師 專任四人

技手 專任七人

書記 專任二人 列任

第三條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌ス

第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八款 農事試驗場

農事試驗場官制

(明治二十六年四月勅令第十八號)

農事試驗場官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 農事試驗場ハ農務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 農産ノ増殖改良ニ關スル試驗

二 蠶同試驗

三 之類、肥料、農産物、農産製造品其ノ他農産上ニ關係アル物料ノ分析鑑定(二十九年勅令第五十二號ヲ以テ改正)

第二條 農事試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク

技師 一人

技手 一人

書記 一人

農事試驗場處務規程

(明治三十五年七月農商務省訓令第十四號)

農事試驗場處務規程左ノ通改正ス

農事試驗場處務規程

第一條 農事試驗場ニ種畜部、農藝化學部、昆蟲部、病理部、煙草部、園藝部、報告部、庶務部ヲ置ク

第二條 種畜部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 農作物及牧草ノ種類選擇、耕種、肥培ニ關スル事項

二 種畜ノ鑑定ニ關スル事項

三 收穫及貯藏ニ關スル事項

四 農産製造ニ關スル事項

工業試驗所官制

(明治三十三年六月勅令第二百五十八號)

工業試驗所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

工業試驗所官制

五 農具ノ改良ニ關スル事項

六 耕地ノ改良ニ關スル事項

七 灌溉、排水ニ關スル事項

八 家畜、家禽ノ飼育肥膩ニ關スル事項

九 氣候、土壤、肥料ト農作物トノ關係事項

十 種畜配布ニ關スル事項

第三條 農藝化學部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 農産ニ關係アル物料ノ分析ニ關スル事項

二 依賴ニ係ル分析鑑定ニ關スル事項

三 土壤、肥料、飼料、農作物ノ化學的研究ニ關スル事項

四 植物生理、農藝細菌ノ化學的研究ニ關スル事項

五 有害物ト植物トノ關係事項

六 農産製造法ニ關スル事項

第四條 昆蟲部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 害蟲、益蟲、有害動物ノ發生經過及分類ニ關スル事項

二 害蟲及有害動物ノ豫防驅除ニ關スル事項

三 驅除用藥品機械等ノ研究鑑定並ニ設計ニ關スル事項

四 益蟲ノ應用ニ關スル事項

五 害蟲、益蟲、有害動物ノ氣候トノ關係事項

六 害蟲、益蟲、有害動物ノ地理上分布ニ關スル事項

第五條 病理部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 農作物病害ノ原因研究ニ關スル事項

二 農作物病害ノ豫防治療ニ關スル事項

三 殺菌用藥品、機械等ノ研究、鑑定並ニ設計ニ關スル事項

四 有益菌類ノ應用ニ關スル事項

五 農作物病害ト氣候、土壤、肥料トノ關係事項

第六條 煙草部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 内外煙草ノ種類選擇、耕種、肥培ニ關スル事項

二 煙草ノ品質ト氣候、土壤、肥料トノ關係事項

三 收穫、乾燥、貯藏ニ關スル事項

四 摺削及調製ニ關スル事項

五 醱酵ニ關スル事項

六 葉煙草、紙捲煙草ノ試製ニ關スル事項

七 傳習ニ關スル事項

第七條 園藝部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 内外果樹、蔬菜ノ種類選擇、繁殖栽培ニ關スル事項

二 種畜ノ鑑定ニ關スル事項

三 收穫、貯藏、製造ニ關スル事項

四 促成栽培ニ關スル事項

五 種畜ノ配布ニ關スル事項

第八條 以上ノ事項ノ外左ニ掲グル事項ハ各其ノ主務部ニ於テ之ヲ處理ス

一 質問應答ニ關スル事項

二 依託試驗ニ關スル事項

三 講習ニ關スル事項

四 調査ニ關スル事項

第九條 報告部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 試驗成績、報告ノ編纂、刊行ニ關スル事項

二 試驗成績、報告等ノ保管ニ關スル事項

第十條 庶務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 揚子ノ進退身分ニ關スル事項

二 公文書類ノ接受及發送ニ關スル事項

三 會計事務ニ關スル事項

四 守衛、給仕、小使、定夫等ノ採辦、取締ニ關スル事項

關スル事項

五 他部ノ主掌ニ屬セザル事項

第十一條 農事試驗場場長ハ官制ノ定ムル所ニ隨ヒ主管事務ノ整理ニ付其ノ責任ス

第十二條 支場長ハ場長ノ指揮監督ヲ受ケ支場全般ノ事務ヲ處理スヘシ

第十三條 場長又ハ支場長事務アルトキハ所部ノ官更ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處理セシムルコトヲ得

第十四條 場長又ハ支場長ハ所部官更ノ階層、看護、其等、轉地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得

第十五條 場長ハ月俸二十圓又ハ日給五十錢ヲ超エサル俸給ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得

第十六條 場長ハ事務整理ノ爲メ輕便ノ上場中處務細則ヲ設ケルコトヲ得

第十七條 場長ハ試驗成績ヲ審查覆査シ農務大臣ニ報告スヘシ但シ臨時緊要ト認ムル試驗成績ハ時々報告スヘシ

第十八條 場長又ハ支場長ハ其ノ主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得

第十九條 農談會、講習會、品評會、共進會等ノ爲メ旅費ヲ支拂シ場員ノ出張巡回ヲ申出ツルモノアルトキハ本場ニ於テハ場長之ヲ許シ支場ニ於テハ其ノ出張ノ日數十日ヲ超ユルモノハ場長ノ指揮ヲ受ケ其ノ他ハ支場長之ヲ許シ其ノ旨ヲ場長ニ報告スヘシ場長又ハ支場長ノ出張ヲ要スル場合ニ於テ日數十日以内ナルトキハ其ノ旨ヲ農務大臣ニ報告シ十日ヲ超ユルトキハ農務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第二十條 場長ハ揚子ノ爲メ場員ノ出張巡回ヲ命スルトキハ農務大臣ノ認可ヲ請フヘシ但シ至

急ヲ要シ經何ノ暇ナキ場合ニ於テハ場長之ヲ命
シ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ
第二十一條 分析鑑定ノ求ニ應ジ其ノ結果ヲ依
者ニ通知スルトキハ場長又ハ支場長ハ各其ノ擔
任者ト共ニ通知書ニ署名スヘシ
第二十二條 本場及支場ニ於テハ見習生ヲ入場セ
シムルコトヲ得
見習生ノ費用ハ自辨タルヘシ
見習生ノ入場ニ關スル規定及其ノ人員ハ場長之
ヲ定ムヘシ
第二十三條 農商務大臣ニ經何又ハ報告ヲ要スル
事項ハ總テ農務局長ヲ經由スヘシ

●肥料ノ分析鑑定ニ關スル職
員ノ件 (明治三十四年四月)
(勅令第四十五號)
朕肥料ノ分析鑑定ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム
肥料ノ分析鑑定ヲ爲サシムル爲農事試驗場ニ專任
技手二十人ヲ置ク

●種馬牧場及種馬所
(明治二十九年四月)
(勅令第三十九號)
朕種馬牧場及種馬所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ
シム
種馬牧場及種馬所官制
第一條 種馬牧場ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ
事務ヲ掌ル
一 馬匹ノ改良、蕃殖、育成及其ノ試驗ニ關ス
ル事項
二 種馬ノ補充及配布ニ關スル事項

第二條 各種馬牧場ニ左ノ職員ヲ置ク
場長
技師
技手
書記
第三條 場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ
指揮監督ヲ承ケ場中全般ノ事務ヲ掌理ス
第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ヲ掌ル
第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ニ從事ス
第六條 書記ハ列任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ
從事ス
第七條 種馬所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事
務ヲ掌ル
一 種馬ノ飼養管理ニ關スル事項
二 牝牡馬配合ニ關スル事項
三 牝馬ノ配種ニ關スル事項
四 種付牝馬ノ產駒成績ニ關スル事項
第八條 各種馬所ニ左ノ職員ヲ置ク
所長
技師
技手
書記
第九條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ
指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス
第十條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル
第十一條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第十二條 書記ハ列任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務
ニ從事ス
第十三條 各種馬牧場及各種馬所ヲ通シテ專任技
師一人專任技手二十八人專任書記十二人ヲ以
テ定ムル(三十二年勅令第八十七號三十二年同
第七十三號三十四年同第四十一號三十五年同

第一百八號ヲ以テ定員改正)
第十四條 種馬牧場ハ二箇所以内トシ種馬所ハ十
六箇所以内トス
第十五條 種馬牧場及種馬所ノ名稱位置置種馬所
ノ管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル
●種馬牧場及種馬所處務規程
(明治二十九年六月)
(農商務省訓令第十七號)
農務局長 種馬牧場 種馬所
種馬牧場及種馬所處務規程左ノ通相定ム
種馬牧場及種馬所官制ノ定ムル所
第一條 種馬牧場長及種馬所長ハ官制ノ定ムル所
ニ從ヒ主管事務ノ整理ニ付其責ニ任ス
第二條 種馬牧場長及種馬所長事務放アルトキハ部
下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委
任シ自己ノ名稱ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ
得
第三條 種馬牧場長及種馬所長ハ事務整理ノ爲メ
經何ノ上處務細則ヲ設クルコトヲ得
第四條 種馬牧場長及種馬所長ハ列任官以下ノ歸
省看護養老轉地養養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命
スルコトヲ得
第五條 種馬牧場長及種馬所長ハ其主管業務ノ順
序方法及其分任擔當ヲ定メ農務局長ノ承認ヲ受
ケルコトヲ得
第六條 種馬牧場長及種馬所長ハ月俸十五圓又ハ
日給五十錢ヲ超ヘサル職員ノ採用解免ハ之ヲ專
行スルコトヲ得(三十三年農商務省訓令第二十
六號ヲ以テ條中改正)
第七條 種馬牧場長及種馬所長ハ其主管事務ニ付
各官制ニ照會往復スルコトヲ得
第八條 馬匹共進會品評會等ノ爲メ旅費ヲ支辨シ

種馬牧場員又ハ種馬所員ノ出張巡迴ヲ申出ツル
者アルトキハ種馬牧場長又ハ種馬所長ハ之ヲ許
否スルコトヲ得
種馬牧場長又ハ種馬所長ノ出張ヲ要スル場合ニ
於テ日數十日以内ナルトキハ農務局長ノ承認ヲ
經テ任ノ後其旨ヲ農務大臣ニ報告シ十日ヲ超
ユルトキハ農務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第九條 前條ニ於ケル場合ヲ除クノ外種馬牧場又
ハ種馬所業務ノ爲メ職員又ハ所員ノ出張巡迴ヲ
要スルトキハ種馬牧場長及種馬所長ハ農務大
臣ノ認可ヲ受クヘシ
第十條 種馬牧場長及種馬所長ハ毎年四月中前年
四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ニ係ル場員及
所員ノ出張巡迴ノ日數度數場所及理由ヲ農務
大臣ニ報告スヘシ
第十一條 種馬牧場長及種馬所長ハ毎年二月中前
年一月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ係ル主管業
務ノ成績ヲ彙集編纂シ農務大臣ニ報告スヘシ
(三十三年農商務省訓令第二十六號ヲ以テ改正)
第十二條 農務大臣ニ經何又ハ報告ヲ要スル事
項ハ總テ農務局長ヲ經由スヘシ

●種牛牧場官制
(明治三十三年三月)
(勅令第八十八號)
朕種牛牧場官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
種牛牧場官制
第一條 種牛牧場ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ
事務ヲ掌ル
一 牛種ノ改良、蕃殖、育成及其ノ試驗ニ關スル
事項

二 種牛ノ配付及普及ニ關スル事項
三 配付種牛ノ監督ニ關スル事項
四 種付種牛ノ產犢成績ニ關スル事項
第五條 種牛牧場ニ左ノ職員ヲ置ク
場長
技師
技手
書記
第六條 場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農務大臣ノ
指揮監督ヲ承ケ場中全般ノ事務ヲ掌理ス
第七條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ヲ掌ル
第八條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ニ從事ス
第九條 書記ハ列任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ
從事ス
第十條 種牛牧場ノ名稱位置ハ農務大臣ノ定
ム
附則
本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●種牛牧場處務規程
(明治三十三年六月)
(農商務省訓令第二十三號)
農務局長 種牛牧場
種牛牧場處務規程左ノ通相定ム
第一條 種牛牧場長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ主管
事務ノ整理ニ付其責ニ任ス
第二條 種牛牧場長事務放アルトキハ部下ノ官吏ニ
代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ
名稱ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得
第三條 種牛牧場長ハ事務整理ノ爲メ經何ノ上處
務細則ヲ設クルコトヲ得

第四條 種牛牧場長ハ列任官以下ノ歸省看護養老
轉地養養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ
得
第五條 種牛牧場長ハ其主管業務ノ順序方法及其
分任擔當ヲ定メ農務局長ノ承認ヲ受クヘシ
第六條 種牛牧場長ハ月俸十五圓又ハ日給五十錢
ヲ超ヘサル職員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコト
ヲ得
第七條 種牛牧場長ハ其主管事務ニ付各官制ニ照
會往復スルコトヲ得
第八條 畜産共進會品評會等ノ爲メ旅費ヲ支辨シ
種牛牧場員ノ出張巡迴ヲ申出ツル者アルトキハ
種牛牧場長ハ之ヲ許否スルコトヲ得
種牛牧場長ノ出張ヲ要スル場合ニ於テ日數十日
以内ナルトキハ農務局長ノ承認ヲ經テ任ノ後其
旨ヲ農務大臣ニ報告シ十日ヲ超ユルトキハ農
務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第九條 種牛牧場長ハ毎年四月中前年四月一日ヨ
リ翌年三月三十一日迄ニ係ル場員ノ出張巡迴ノ
日數度數場所及理由ヲ農務大臣ニ報告スヘシ
第十條 種牛牧場長ハ其主管業務ノ成績ヲ彙集編
纂シ毎年一回農務大臣ニ報告スヘシ
第十一條 農務大臣ニ經何又ハ報告ヲ要スル事
項ハ總テ農務局長ヲ經由スヘシ

●生絲検査所官制
(明治二十八年七月)
(勅令第九十三號)
朕生絲検査所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
生絲検査所官制
第一條 生絲検査所ニ左ノ職員ヲ置ク(三十四年

勅令第二十八號三十五年勅令第七號ヲ以テ改
正)
所長 專任六人
技師 專任十七人
技手 專任六人
書記 專任六人
第二條 所長ハ一人委任トス技師ヲシテ之ヲ兼テ
シム農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事
務ヲ掌理ス
第三條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル
第四條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス
第五條 書記ハ列任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ
從事ス
第六條 (三十四年勅令第二十八號ヲ以テ削除)

●生絲検査所處務規程

(明治二十九年二月)

農商務省訓令第三號
生絲検査所處務規程左ノ通相定ム
第一條 各生絲検査所長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ
法律命令ノ執行及主管事務ノ整理ニ付其責任
ス
第二條 各生絲検査所長事務放アルトキハ部下ノ官
吏ニ代理ヲ命ジ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自
己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得
第三條 各生絲検査所長ハ事務整理ノ爲メ經手ノ
上中處務細則ヲ設クルコトヲ得
第四條 各生絲検査所長ハ列任官以下ノ節省看護
事務轉地檢査願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコ
トヲ得
第五條 生絲検査所長ハ月俸二十四又ハ日給八十
錢ヲ得ハサル職員ノ採用解免ハ之ヲ執行スルコ
トヲ得

トヲ得(三十五年農商務省訓令第二十一號ヲ以
テ改正)
第六條 各生絲検査所長ハ其主管事務ニ付各官廳
ニ照會往復スルコトヲ得
第七條 各生絲検査所長ハ檢査請求者ニ交付スヘ
キ生絲檢定証ニ署名スヘシ
第八條 各生絲検査所長ハ毎年十二月檢査成績ヲ
農商務大臣ニ報告スヘシ(三十年農商務省訓令
第二十九號三十二年同第二十八號ヲ以テ條中改
正)
第九條 農商務大臣ニ經手又ハ報告ヲ要スル事項
ハ總務局長ヲ經由スヘシ

●蠶業講習所官制
勅令第二十九年一月
農商務省訓令第一號
朕生絲検査所臨時商議員規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
布セシム
生絲検査所臨時商議員規程
第一條 生絲検査所ニ臨時商議員十名以内ヲ置ク
コトヲ得
臨時商議員ハ横濱若クハ神戸ニ於テ現ニ生絲ノ
貿易ニ從事シ經驗アル者ノ中ヨリ農商務大臣ノ
奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
第二條 臨時商議員ハ農商務大臣ノ諮詢ニ應ジ生
絲ノ檢査及之カ施行ニ必要ナル事項ヲ審議スル
モノトス

●蠶業講習所官制

(明治三十二年三月)

農商務省訓令第九號
蠶業講習所官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
ス

●蠶業講習所官制
勅令第三十二年三月
農商務省訓令第九號
蠶業講習所官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム
第一條 蠶業講習所ハ二箇所トス農商務大臣ノ管
理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル
一 蠶絲業ニ關スル講習(三十五年勅令第六百
六號ヲ以テ本號中追加)
二 蠶絲業ニ關スル試驗及調査(同上)
三 巡回講話
四 蠶種配布
五 質問應答
第二條 蠶業講習所ニ左ノ職員ヲ置ク
所長
技師
技手
書記
第三條 所長ハ一人技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大
臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス
第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル
第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス
上官ノ命ヲ承ケ講習生ノ取締ヲ掌ル(三十五年
勅令第六百六號ヲ以テ條中改正)
第六條 技手ハ上官ノ命ヲ承ケ所務ニ從事ス
第七條 書記ハ列任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從
事ス
第八條 蠶業講習所ヲ通シテ專任技師十一人專任
技手十七人專任書記七人ヲ以テ定員トス(三十
五年勅令第六百六號ヲ以テ人員改正)
第九條 蠶業講習所ノ位置及名稱ハ農商務大臣之
ヲ定ム
附則
本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

●蠶業講習所處務規程

(明治三十二年四月)

農商務省訓令第十七號
蠶業講習所
蠶業講習所處務規程左ノ通改定ス
第一條 蠶業講習所ハ左ノ項目ニ據リ蠶業ノ改良
増進ヲ圖ルヘシ
一 蠶業ニ關スル講習
一 蠶業ニ關スル學理
一 蠶業ニ關スル實地
一 蠶業ニ關スル試驗及調査
一 蠶種ノ種類、栽培及病蟲害
一 蠶種、養蠶及蠶病
一 殺蠶、貯藏及練絲
一 蠶具及製絲器械
一 蠶業ニ關スル巡回講話
一 蠶種ノ配布
一 蠶業ニ關スル質問應答
第二條 蠶業講習所長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ主
管事務ノ處理ニ付其責任ス
第三條 蠶業講習所長事務放アルトキハ部下ノ官吏
ニ代理ヲ命ジ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ
名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得
第四條 蠶業講習所長ハ部下ノ官吏ノ節省看護、
事務轉地檢査願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコ
トヲ得
第五條 蠶業講習所長ハ月俸十五圓又ハ日給五十
錢ヲ得ニサル職員ノ採用解免ハ之ヲ執行スルコ
トヲ得
第六條 蠶業講習所長ハ事務處理ノ爲メ經手ノ上
所中處務細則及講習規程ヲ設クルコトヲ得

●蠶業講習所官制

(明治三十二年三月)

農商務省訓令第九號
蠶業講習所官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム
第七條 蠶業講習所長ハ投票擔任者ヲ定メ農商務
大臣ニ報告スヘシ
第八條 蠶業講習所長ハ講習生ノ募集人員ヲ定メ
農商務大臣ノ承認ヲ請フヘシ
第九條 蠶業講習所長ハ試驗項目及ヒ其擔任者ヲ
定メ農商務大臣ニ報告スヘシ
第十條 試驗成績ハ各擔任者ニ於テ試驗終了ノ日
ヨリ二箇月以内ニ蠶業講習所長ニ報告スヘシ
第十一條 蠶業講習所長ハ試驗成績ヲ審查編纂シ
毎年一回農商務大臣ニ報告スヘシ
但臨時緊要ト認ムル試驗成績ハ時々報告スヘ
シ
第十二條 蠶業講習所長ハ毎年配布蠶種ノ枚數ヲ
定メ配布ノ手續ヲナスヘシ
第十三條 蠶業講習所長ハ卒業シタル生徒ニ交付
スヘキ證書ニ署名スヘシ
第十四條 蠶業講習所長ハ其主管事務ニ付各官廳
ニ照會往復スルコトヲ得
第十五條 巡回講話若クハ講習會品評會等ノ爲メ
旅費ヲ支辨シ所員ノ出張巡回申出ル者アルト
キハ所長ニ於テ許否シ所員出張巡回申出ル者アルト
合ニ於テハ日數十日以内ナルトキハ其旨ヲ農商
務大臣ニ報告シ十日ヲ超ユルトキハ認可ヲ請フ
ヘシ
第十六條 蠶業講習所長ハ所務ノ爲メ所員ノ出張
巡回ヲ命スルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘ
シ
但至急ヲ要シ經手ノ暇ナキ場合ニ於テハ所長
之ヲ命シ其旨農商務大臣ニ報告スヘシ
第十七條 農商務大臣ニ經手又ハ報告ヲ要スル事
項ハ總務局長ヲ經由スヘシ

●水産講習所官制

(明治三十年三月)

農商務省訓令第四十七號
水産講習所官制
水産講習所官制
第一條 水産講習所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ水
産ノ傳習及試驗ニ關スル事務ヲ掌ル(三十二年
勅令第二十八號ヲ以テ條中改正)
第二條 水産講習所ニ左ノ職員ヲ置ク(三十四年
勅令第四十二號ヲ以テ人員改正)
所長 一人
監督 一人
技師 專任一人
技師 專任四人
教授 專任三人
技手 專任九人
助教 專任四人
書記 專任五人
第三條 所長ハ水産局長ヲ以テ之ニ充ツ農商務大
臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス
(三十二年勅令第二十八號ヲ以テ條中改正)
第四條 監督ハ委任トス所長ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ
處理ス
第五條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌ス
第六條 教授ハ委任トス上官ノ指揮ヲ承ケ教授ヲ
掌ル
第七條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス
第八條 助教ハ列任トス上官ノ指揮ヲ承ケ教授ノ
職務ヲ助ク
第九條 書記ハ列任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ
從事ス

第十條 農商務大臣ハ講習上ノ須要ニ依リ水産講習所ニ商議委員ヲ設ケルコトヲ得

●水産講習所處務規程(明治三十一年十一月)

農商務省訓令第四十號

水産講習所

- 水産講習所處務規程左ノ通定ス
第一條 水産講習所ニ傳習試驗ノ二部及庶務掛ヲ置ク
第二條 傳習部ニ於テハ漁撈製造及養殖ニ關スル學理及技術ヲ傳習ス
第三條 試驗部ニ於テハ漁撈製造及養殖ニ關スル試驗ヲ爲ス
第四條 庶務掛ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 公文書類及成案文書ノ接受發送ノコト
二 所員進退出張巡迴等ニ關スルコト
三 傳習生ノ募集及取締ニ關スル事項
四 傳習及試驗成績簿籍印刷ニ關スルコト
五 其他傳習試驗ノ二部ニ屬セザル事項
第五條 所長事務アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命ジ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シテ之ヲ處辨セシムルコトヲ得
第六條 水産講習所長ハ月薪二十圓又ハ日給五十錢ヲ超エザル備員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得
第七條 水産講習所長ハ農商務大臣ノ經伺ノ上傳習科規程及傳習生ニ關スル規程ヲ定ムヘシ
第八條 水産講習所長ハ傳習及試驗ノ成績ヲ審査四半毎ニ同農商務大臣ニ報告スヘシ但臨時時

必要ト認ムルモノハ其都度報告スヘシ
第九條 水産講習所長ハ卒業シタル生徒ニ交付スヘキ證書ニ署名スヘシ
第十條 水産講習所長ハ其主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得

●水産講習所商議委員規程

明治三十年四月 農商務省訓令第十一號

水産講習所

- 水産講習所商議委員規程左ノ通定ム
第一條 水産講習所商議委員規程
ニ商議委員ヲ置ク
第二條 商議委員ハ左ノ人員ヲ以テ之ニ充ツ
農商務省高等官 一名
海軍省、文部省、逓信省又ハ其所属高等官 四名以内
水産ノ經歷アル者 五名以内
第三條 商議委員ハ會議ニ附スヘキモノハ講習科目及講習ニ關スル重要ノ諸規則其他所長ニ於テ必要ト認ムル事項トス
第四條 商議委員ハ農商務大臣ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ
第五條 商議委員ハ所長之ヲ開キ其議案ヲ提出スルモノトス
但商議委員ノ意見アルトキハ之ヲ議案トナスコトヲ得
第六條 商議委員ハ會議ニ關スル規程ハ委員會ニ於テ之ヲ議定スルコトヲ得
第七條 商議委員會ハ所長ヨリ農商務大臣ニ報告スヘシ
●水産講習所傳習規則(明治三十一年一月)

農商務省訓令第七號
水産講習所傳習規則左ノ通定ム
第一條 本所ハ水産ニ關スル學理及技術ノ傳習ヲ爲ス
第二條 本所ニ本科及現業科ヲ置ク
第三條 本科ノ修業年限ハ三箇年トシ學理及技術ヲ併習セシメ現業科ノ修業年限ハ一箇年以内トシ專ラ技術ヲ習得セシム
第四條 本科ノ卒業生ニシテ尙深ク學理及技術ヲ攻究セント欲スル者ノ爲メニ研究科ヲ置キ其修業年限ヲ三箇年以内トス
第五條 本科ハ漁撈製造養殖ノ三科ニ分チ其一科ヲ專修セシム
第六條 本科ノ學科課程ハ左ノ如シ
一、漁撈科 漁具ノ構成漁船ノ構造漁撈ノ方法其他漁撈ニ必要ナル學科ヲ授ケ尙製造及養殖ノ大要ヲ授ク
二、製造科 水産物ノ製造及製鹽法其他製造ニ必要ナル學科ヲ授ケ尙漁撈及養殖ノ大要ヲ授ク
三、養殖科 淡水水産物ノ養殖及其蕃殖保護法其他養殖ニ必要ナル學科ヲ授ケ尙漁撈及製造ノ大要ヲ授ク

●鹽業調査所

農商務省訓令第三十二號

鹽業調査所

- 鹽業調査所官制(明治三十一年三月)
第一條 鹽業調査所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鹽業改良ニ關スル調査及試驗ノ事務ヲ掌ル
第二條 鹽業調査所ニ左ノ職員ヲ置ク
所長 一人
技師 專任四人
助手 專任八人
附則
第一條 本規則ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行シ明治三十一年(一月)告示第三號水産講習所傳習生規程ハ本規則施行ノ日ヨリ廢止ス
第十四款 鹽業調査所
鹽業調査所官制(明治三十一年三月)
第一條 鹽業調査所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
鹽業調査所官制
第一條 鹽業調査所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鹽業改良ニ關スル調査及試驗ノ事務ヲ掌ル
第二條 鹽業調査所ニ左ノ職員ヲ置ク
所長 一人
技師 專任四人
助手 專任八人
附則
第一條 本規則ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス
第二條 鹽業調査所ニ顧問一人ヲ置クコトヲ得
第三條 顧問ハ所長ニ關シ意見ヲ開陳ス
第四條 顧問ハ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
第五條 顧問ハ勅任官ノ待遇ヲ受ク
第六條 顧問ニハ俸給豫算定額内ニ於テ年俸三千圓ヲ給ス
●鹽業調査所處務規程(明治三十一年六月)
農商務省訓令第三十二號
鹽業調査所
其所處務規程左ノ通り相定ム
第一條 鹽業調査所ニ試驗部分析部及庶務部ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム(三十二年農商務省訓令第四十號ヲ以テ條中改正)

第七條 現業科ノ課程ハ漁撈製造養殖ノ三科ニ分チ各其範圍内ニ於テ種目ヲ限リ之ヲ授ク但其他種目ハ水産講習所長之ヲ定ム

第七條ノ二 遠洋漁業講習科ノ學科課程ハ航海學其他遠洋漁業ニ必要ナル學科ヲ授ケ尙水産講習所ノ大要ヲ授ク(三十三年農商務省告示第九十五號ヲ以テ追加)

第八條 本所ハ授業料ヲ徴收セズ
第九條 學年ハ九月十一日ニ始マリ翌年七月十日ニ終ル
第十條 休業日左ノ如シ
一日 曜日
一 大祭祝日
一 冬季休業 自十二月二十五日 至一月七日
一 夏季休業 自七月十一日 至九月十日

但實習ハ休業中ト雖モ時宜ニヨリ施行スルコトアルヘシ
第十一條 生徒ノ募集ハ本科ハ毎年六月研究科ハ九月現業科ハ四月十月ノ二期トス
第十二條 本科及現業科生ハ學年人員ハ募集ノ際ニ於テ研究科生ハ教授上ノ都合ニ依リ之ヲ許サス
第十三條 入學志願者ハ左ノ資格ヲ有スルモノトス

一 本科ニ於テハ年齢十七年以上ニシテ中學校卒業者ハ之ニ相當スル學力ヲ有シ品行方正身體強健ニシテ在學中家事ノ係累ナキモノ
二 現業科ニ於テハ年齢二十年以上三十五年以下ニシテ二箇年以上水産ノ業ニ從事シタル者若クハ其ノ子弟ニシテ品行方正身體強健在學中家事ノ係累ナキ者

第十四條 本科及現業科生ノ進級及卒業ハ學科及技術ノ試驗ヲ施シテ之ヲ決シ本科ニハ卒業證書ヲ現業科ニハ修業證書ヲ授與ス研究科生ハ研究ヲ完了シタルトキハ其專攻ニ係リ證明書ヲ授與ス
第十五條 本科ノ生徒中學術優等品行方正ニシテ生徒ノ模範トナルヘキモノハ特待生トシ學費ヲ補助スルコトアルヘシ
第十六條 本所ノ規則告示其他命令ニ違反シ若ハ風紀ヲ紊ス等ノ行爲アル者ハ其情狀ニヨリ戒飭ヲ加ヘ又ハ停學或ハ放所ヲ命ス
第十七條 學業不進若ハ品行不其ニシテ卒業ノ見込ナキ者ハ除名ス
第十八條 本規則施行ニ關スル規程ハ水産講習所長之ヲ定ム

第十九條 本規則ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行シ明治三十一年(一月)告示第三號水産講習所傳習生規程ハ本規則施行ノ日ヨリ廢止ス

●鹽業調査所官制(明治三十一年三月)
鹽業調査所官制
第一條 鹽業調査所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鹽業改良ニ關スル調査及試驗ノ事務ヲ掌ル
第二條 鹽業調査所ニ左ノ職員ヲ置ク
所長 一人
技師 專任四人
助手 專任八人

附則
第一條 本規則ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス
第二條 鹽業調査所ニ顧問一人ヲ置クコトヲ得
第三條 顧問ハ所長ニ關シ意見ヲ開陳ス
第四條 顧問ハ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
第五條 顧問ハ勅任官ノ待遇ヲ受ク
第六條 顧問ニハ俸給豫算定額内ニ於テ年俸三千圓ヲ給ス

●鹽業調査所處務規程(明治三十一年六月)
農商務省訓令第三十二號
鹽業調査所
其所處務規程左ノ通り相定ム
第一條 鹽業調査所ニ試驗部分析部及庶務部ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム(三十二年農商務省訓令第四十號ヲ以テ條中改正)

第二條 試驗部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(同上)

一 採礦ニ關スル事項
二 煎煉ニ關スル事項
三 氣象ニ關スル事項
四 其他鹽業ノ調査ニ關スル事項

第三條 分析部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(三十二年農商務省訓令第四十號ヲ以テ追加以下順次繰下ク)

一 鹽田及副産物ノ分析鑑定ニ關スル事項
二 鹽田土壤及鹹水等ノ分析鑑定ニ關スル事項
三 鹽務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 生産製造品ノ賣拂ニ關スル事項
二 地所建物並ニ物品ノ購買及保管ニ關スル事項
三 會計ニ關スル事項
四 報告ノ編纂印刷及配布ニ關スル事項
五 所長ノ進退身分ニ關スル事項
六 所長ノ官印及所印ノ保管ニ關スル事項
七 公文書類及成案文書ノ接受發遣ニ關スル事項
八 他部ノ主宰ニ關セサル事項

第六條 鹽業調査所長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ主管事務ノ整理ニ付其責ニ任ス

第五條 所長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ處辨セシムルコトヲ得

第七條 所長ハ事務整理ノ爲メ經何ノ上處務細則ヲ設ケルコトヲ得

第八條 所長ハ判任官以下ノ階級者若シテ該地鹽業ノ發展ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得

第九條 所長ハ其主管業務ノ順序方法及分任擔當ヲ定メ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十條 所長ハ月俸十五圓又ハ日給五十錢ヲ超ヘサル雇員及鹽業氣象報告員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得

第十一條 事業上至急所員ノ出張ヲ要シ經何ノ暇ナキ場合ニ限リ臨時出張ヲ命シ同時ニ其事由ヲ記シ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十二條 所長ハ主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得

第十三條 試驗及調査ニ關スル成績ハ各擔任者ニ於テ其結了ノ日ヨリ三十日以内ニ所長ニ報告スヘシ

但本項ノ報告アリタルトキハ其都度農商務大臣ニ其要領ヲ具申スヘシ

第十四條 所長ハ試驗及調査ニ關スル成績ヲ編纂シ毎年一回農商務大臣ニ報告スヘシ

第十五條 農商務大臣ニ經何又ハ報告ヲ要スヘキ事項ハ總務局長ヲ經山スヘシ

第十六條 鹽業ニ關スル質問及分析鑑定ハ所長ニ於テ必要ト認ムルモノニ限リ應答スヘシ

第十五款 第五回内國勸業博覽會事務局

第五回内國勸業博覽會事務局官制

第一條 第五回内國勸業博覽會事務局ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ第五回内國勸業博覽會ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

第二條 第五回内國勸業博覽會事務局ニ總裁一人ヲ置キ第五回内國勸業博覽會ニ關スル事項ヲ總裁セシム

第三條 第五回内國勸業博覽會事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

副總裁 一人
事務官長 一人
事務官 一人
審査部長 一人
審査官 一人

第四條 副總裁ハ農商務大臣ヲ以テ之ニ充テ審査部長ハ勸任官ノ中ヨリ之ヲ命シ事務官長ハ農商務總務局長官ヲ以テ之ニ充テ事務官ハ高等官ノ中ヨリ之ヲ命ス

副總裁 審査部長、事務官長及事務官ハ各其ノ本官ノ待遇ヲ受ク

審査部長及審査官ハ學識又ハ經驗アル者ノ中ヨリ之ヲ命ス

審査部長ハ勸任官ノ待遇ヲ受ケ審査官ハ委任官ノ待遇ヲ受ケ但シ勸任官又ハ勸任官ノ待遇ヲ受ケル者ニシテ審査官タル者ハ勸任官ノ待遇ヲ受ケ(三十四年勸令第二百二十二號ヲ以テ本項改正)

書記ハ判任官又ハ官吏ニ非サル者ノ中ヨリ之ヲ命ス

書記ハ判任官ノ待遇ヲ受ク

第五條 重要ノ事項ヲ審議調査セシムル爲メ學識又ハ經驗アル者ノ中ヨリ選定シテ評議員若干人ヲ置クコトヲ得

第六條 審査部長、審査部長、事務官、審査官及評

農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命シ書記ハ副總裁之ヲ命ス

第七條 副總裁ハ所部ノ職員ヲ統督シ局務ヲ總列ス

第八條 事務官長ハ副總裁ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌理ス

第九條 事務官ハ副總裁又ハ事務官長ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第十條 審査部長ハ副總裁ノ命ヲ承ケ出品ノ審査及之ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十一條 審査部長ハ副總裁又ハ審査部長ノ命ヲ承ケ出品ノ審査及之ニ關スル事務ヲ分掌ス

第十二條 審査官ハ副總裁、審査部長及審査部長ノ命ヲ承ケ出品ノ審査及之ニ關スル事務ヲ掌ル

第十三條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十六款 農商工高等會議

農商工高等會議規則(明治三十八年六月)

農商工高等會議規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 農商工高等會議ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ農商工業ニ關スル重要ノ事項ニ付農商務大臣ノ諮問ニ應ジ意見ヲ開中ス

第二條 農商工高等會議ハ農商工業ニ關スル重要ノ事項ニ付關係各省大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條 農商工高等會議ハ合務整理ノ爲メ規則ヲ制定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 農商工高等會議ハ議長副議長各一人及職員三十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條 特別ノ事件ヲ審議スル爲メ臨時必要ノ場合ニ於テ前條定員ノ外臨時職員ヲ命スルコトヲ得

第六條 議長副議長職員及臨時職員ハ官吏又ハ農商工ニ關スル學識若ハ經驗アル者ノ中ニ就キ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第七條 議長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ農商務大臣ニ具申ス

第八條 議長事故アルトキハ副議長ヲシテ事務ヲ代理セシム

第九條 農商工高等會議ニ幹事二人ヲ置キ農商務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十條 議長副議長職員及幹事ニハ一箇年三百圓以内臨時職員ニハ事件ノ輕重ニ應ジ其ノ都度相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十一條 農商工高等會議ニ書記ヲ置ク議長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

書記ハ農商務省判任官又ハ其ノ他ノ者ニ就キ之ヲ命ス

第十二條 書記ニハ事務ノ繁閑ニ應ジ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十三條 農商務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ議員又ハ其ノ他ノ者ヲシテ農商工業ニ關スル諮問ニ關シ之ヲ命スルコトヲ得

第十四條 從前ノ議長副議長職員臨時職員及幹事ハ別ニ辭令ヲ用ヒテ令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモノトス

第十七款 林野整理審査會

林野整理審査會規則(明治三十七年四月)

勸令第百七十九號

林野整理審査會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農商工高等會議 第十七款 林野整理審査會 第一款 遞信省

林野整理審査會規則

第一條 林野整理審査會ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ國有林野ノ特別經營ニ關スル重要ノ事項ニ就キ農商務大臣ノ諮問ニ應ジ意見ヲ開中ス

第二條 林野整理審査會ハ會長一人委員十一人ヲ以テ組織ス

委員ハ農商務省高等官四人、内務省高等官二人、陸軍省、海軍省、大藏省、文部省及遞信省高等官各一人ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 臨時必要ノ場合ニ於テハ前條定員ノ外五人以内ノ臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第四條 會長ハ勸任官ヲ以テ之ニ充ツ

會長委員及臨時委員ハ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條 會長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ農商務大臣ニ具申ス

第六條 會長事故アルトキハ委員中上席ノ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第七條 林野整理審査會ニ幹事二人ヲ置キ農商務省高等官ヲ以テ之ヲ充ツ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第八條 林野整理審査會ニ書記ヲ置ク會長及幹事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

書記ハ林野整理局判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第九條 林野整理審査會ノ議事及會務整理ニ關スル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十四款 遞信省官制

遞信省官制(明治三十一年十月)

勸令第百九十五號

朕選信省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第八類 官制 第十四章 逓信省所管

第三條 局長ハ逓信技師又ハ逓信技手ヲ以テ之ニ充ツ逓信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス...

第六款 航路標識管理所

第一條 航路標識管理所ハ逓信大臣ノ管理ニ屬シ航路標識ノ工事及其ノ保守ニ關スル事務ヲ掌ル...

第六款 航路標識管理所 第七款 海事局

第十二號ヲ以テ改正 第四條 技師ハ六人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ所中ノ事務ヲ分掌ス...

第七款 海事局

第一條 海事局ハ逓信大臣ノ管理ニ屬シ船舶職員及水先人ノ試験船舶ノ測度検査其ノ他法令ノ定ムル所ニ從ヒ管海官廳ノ事務ヲ掌ル...

第十條 本令ハ明治三十二年六月十六日ヨリ施行ス...

Table with columns: 名稱, 位置, 管轄區域. Lists various maritime bureaus and their jurisdictions.

海務署名稱位置管轄區域 (明治三十二年六月 逓信省) (告示第七十六號)

Table with columns: 名稱, 位置, 管轄區域. Lists maritime bureaus and their jurisdictions.

船船司檢所職員ニ在清國帝國領事館附ヲ命スル件 (明治三十一年九月) (勅令第二百六號)

海員審判所職員定員及任用令 (明治三十年四月) (勅令第七十八號)

書記

四八
第二條 地方海員審判所職員定員ハ各所ヲ通シテ左ノ如シ(三十年勅令第四百四十九號三十二年同第四百六十號ヲ以テ條中改正)

審判官

二十八人
專任四人
書記 十六人

第三條 高等海員審判所長ハ勅任トシ選信省高等

官ヲ以テ之ヲ兼テシム(三十年勅令第四百四十九號三十二年同第四百六十號三十二年同第四百八十二號三十四年同第四百十二號ヲ以テ條中改正)

高等海員審判所審判官ハ委任トシ中十名ハ選信部内ノ高等官ヲシテ之ヲ兼テシム

高等海員審判所理事官ハ委任トシ中一名ハ選信部内ノ高等官ヲシテ之ヲ兼テシム

高等海員審判所書記ハ委任トシ中三名ハ選信部又ハ船舶司檢所書記ヲシテ之ヲ兼テシム

第四條 地方海員審判所長ハ委任トシ船舶司檢所司檢官ヲシテ之ヲ兼テシム(三十年勅令第四百四十九號三十二年同第四百六十號三十二年同第四百八十七號三十四年同第四百十二號ヲ以テ條中改正)

地方海員審判所審判官ハ委任トシ中二十二名ハ選信部内ノ高等官ヲシテ之ヲ兼テシム

地方海員審判所理事官ハ委任トス

地方海員審判所書記ハ委任トシ中十二名ハ船舶司檢所書記ヲシテ之ヲ兼テシム

第五條 高等海員審判所審判官理事官及地方海員審判所審判官理事官ハ委任用令第二條ニ該當スル者又ハ海軍高等武官主理判事檢事ノ職ニ在

ル者及在リタル者又ハ選信部内ノ高等官ヨリ任川ス(三十年勅令第四百四十九號三十二年同第四百六十號三十二年同第四百八十二號ヲ以テ條中改正)

海員審判所事務章程

(明治三十年六月勅令第四百八十九號)

海員審判所事務章程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 審判所長ハ海員審判所ノ事務ヲ總理ス

審判所長故隙アルトキハ審判官中官等最モ高キ者ヲ代理ス官等同シトキハ任官ノ順序ニ依リ其ノ先ナル者ヲ代理ス

第二條 審判所長ハ自ら審判長ト爲リ若ハ審判官ニ審判長ヲ命スルコトヲ得

第三條 各審判事件ノ掛審判官ハ審判所長ノ指定ニ依ル

第四條 四日以上引續クヘキ見込アル審判ニ於テ審判所長ハ補充審判官一人ヲ命シ之ニ立合ハシムルコトヲ得此ノ補充審判官ハ其ノ審判中或ル審判官ノ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

第五條 審判官若ハ理事官差支アリテ同一審判所ノ審判官若ハ理事官中其ノ職務ヲ行ヘキ者ナキ場合ニ選信大臣ニ於テ其ノ事件緊急ヲ要スト認ムルトキハ他ノ審判官若ハ審判官若ハ理事官ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第六條 審判官ノ公限ヲ停止スルノ決定ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ

第七條 審判ハ定數ノ審判官之ヲ評議シ及之ヲ官評議ハ其ノ審判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ結果各審判官ノ意見及多少ノ數ニ付テハ最モ低キ者ヲ始トシ審判長ヲ終トス官等同シトキハ任官ノ順序ニ依リ其ノ後ナル者ヲ始トシ受命ノ事件ニ付テハ受命審判官ヲ始トス

第八條 審判官ハ審判スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 裁決及決定ハ過半數ノ意見ニ依ル其ノ意見三説以上ニ分レ各過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ル迄被列人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第十條 裁決ヲ言渡シタルトキハ審判所長ハ直ニ選信大臣ニ裁決ノ際本ヲ差出スヘシ

第十一條 事理官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シ取調ヲ爲シタル後審判ヲ要セスト思料スルトキハ理由ヲ具シ審判所長ヲ經由シテ選信大臣ニ報告スヘシ

第十二條 審判所ニ於テ或ル事件ニ付審判ヲ開始セス若ハ續續セスト決定シタルトキハ審判所長ハ之ヲ選信大臣ニ報告スヘシ

第十三條 審判所長ハ選信大臣ノ認可ヲ受ケ事務取扱ニ關スル規定ヲ設ケルコトヲ得

第十四條 事務ノ執行ニ關シ選信大臣ハ各審判所長ヲ監督シ高等海員審判所長ハ各地方海員審判所長ヲ監督ス

第十五條 審判ノ執行ニ關シ高等海員審判所理事官ハ選信

大臣ノ命令ニ從ヒ地方海員審判所理事官ハ選信大臣及高等海員審判所理事官ノ命令ニ從フ

地方海員審判所管轄區域

(明治三十二年六月勅令第二百六十四號)

地方海員審判所管轄區域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方海員審判所管轄區域ハ海軍局管轄區域ニ同シ

附則
本令ハ明治三十二年六月十六日ヨリ施行ス
明治三十年勅令第九十九號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第九款 商船學校

商船學校官制 (明治二十九年三月勅令第八十一號)

商船學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 商船學校ハ選信大臣ノ管理ニ屬シ航海、運用、機關ニ關スル學術及技藝ヲ教授スル所トス

第二條 商船學校ニ左ノ職員ヲ置ク(三十四年勅令第五百五號ヲ以テ分枝長削除)

校長
幹事
教授
學生監
助教
助教
書記

第三條 校長ハ勅任又ハ委任トス選信大臣ノ命ヲ

第八類 官制 第十四章 選信省所管

第九款 商船學校 第十款 東京郵便電信學校

承ケ校務ヲ管理シ所屬職員ヲ統督ス(三十二年勅令第二百六十六號ヲ以テ條中改正)

第四條 幹事ハ一人教授之ヲ兼任ス庶務會計ヲ掌理シ校長事務故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス

第五條 教授ハ委任トシ專任十三人ヲ以テ定員トス學生ノ教授ヲ掌ル(三十二年勅令第五百五十四號三十四年勅令第五百五號ヲ以テ定員改正)

第六條 學生監ハ委任トシ專任一人ヲ以テ定員トス學生ノ取締ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 教授ハ委任トシ專任十一人ヲ以テ定員トス技藝ヲ教授シ又ハ實地練習ヲ監督ス(三十年勅令第二百七十五號三十二年勅令第五百五十四號三十四年勅令第五百五號ヲ以テ改正)

第八條 助教ハ委任トシ專任十人ヲ以テ定員トス教授及教職ノ職掌ヲ佐ク(三十四年勅令第五百五號ヲ以テ改正)

第九條 書記ハ委任トシ專任八人ヲ以テ定員トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス(三十四年勅令第五百五號三十五年勅令第二十號ヲ以テ定員改正)

第十款 東京郵便電信學校

東京郵便電信學校官制

第九款 商船學校 第十款 東京郵便電信學校

承ケ校務ヲ管理シ所屬職員ヲ統督ス(三十二年勅令第二百六十六號ヲ以テ條中改正)

第四條 幹事ハ一人教授之ヲ兼任ス庶務會計ヲ掌理シ校長事務故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス

第五條 教授ハ委任トシ專任十三人ヲ以テ定員トス學生ノ教授ヲ掌ル(三十二年勅令第五百五十四號三十四年勅令第五百五號ヲ以テ定員改正)

第六條 學生監ハ委任トシ專任一人ヲ以テ定員トス學生ノ取締ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 教授ハ委任トシ專任十一人ヲ以テ定員トス技藝ヲ教授シ又ハ實地練習ヲ監督ス(三十年勅令第二百七十五號三十二年勅令第五百五十四號三十四年勅令第五百五號ヲ以テ改正)

第八條 助教ハ委任トシ專任十人ヲ以テ定員トス教授及教職ノ職掌ヲ佐ク(三十四年勅令第五百五號ヲ以テ改正)

第九條 書記ハ委任トシ專任八人ヲ以テ定員トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス(三十四年勅令第五百五號三十五年勅令第二十號ヲ以テ定員改正)

第十條 校長ハ勅任又ハ委任トス選信大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ管理シ所屬職員ヲ統督ス(三十二年勅令第二百六十六號ヲ以テ條中改正)

第十一條 選信大臣ハ校務上ノ重要ニ依リ商議委員會ヲ設ケルコトアルヘシ其ノ委員ハ選信大臣之ヲ命ス

第十二條 本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行

附則

附則

●鐵道會議規則 (明治二十七年八月) (勅令第百五十三號)

第一條 鐵道會議ハ逓信大臣ノ監督ニ屬シ鐵道敷設法第十五條ニ掲グル事項ヲ審議シ及鐵道ニ關スル事項ニ就キ逓信大臣ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ開申スルモノトス

第二條 鐵道會議ハ鐵道ニ關スル事項ニ就キ主任各省大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條 鐵道會議ハ事務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ逓信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 鐵道會議ハ議長一人議員二十一人以内ヲ以テ之ヲ組織ス(二十九年勅令第百五十七號ヲ以テ全條改正)

第五條 特別ノ事件ヲ審議スル爲メ臨時必要ノ場合ニ於テ前條定員ノ外臨時議員ヲ命スルコトヲ得

第六條 議長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ高等官ノ内ヨリ命スヘキ議員ハ所屬大臣ノ奏請ニ依リ其ノ他ノ議員及臨時議員ハ逓信大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第七條 議長ハ職務規則ニ依リ職務ヲ整理シ會議ノ決議ヲ逓信大臣及主任各省大臣ニ具申ス

第八條 議長事務放アルトキハ其ノ指名シタル議員

●會計検査院法 (明治二十二年五月) (法律第十五號)

第一條 會計検査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有ス

第二條 會計検査院ハ院長一員部長三員検査官十員ヲ置キ之ヲ會計検査官トシ別ニ書記官二員検査官補二十員及屬若干員ヲ置ク(二十九年法律第九十號三十二年法律第八十一號ヲ以テ検査官補ノ定員ヲ改ム)

第三條 院長ハ勅任トシ部長ハ勅任又ハ奏任トシ

第九條 鐵道會議ニ幹事一人ヲ置キ逓信省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

第十條 議長、議員及幹事ニハ一箇年五百圓以内、臨時議員ニハ事件ノ輕重ニ應ジ其ノ都度相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十一條 鐵道會議ニ書記ヲ置ク議長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十二條 書記ニハ一箇年二百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十三條 從前ノ議長、議員及臨時議員ハ別ニ辭令ヲ用テ本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレムルモノトス

●會計検査院事務章程 (明治三十二年十二月) (勅令第百五十七號)

第一條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 會計検査院ハ凡テ會議ニ於テス其ノ總會ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ會計検査院長ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 會計検査院ハ官金ノ收支官物及國債ニ關シ計算ヲ確定シテ會計監督ス

第十三條 會計検査院ノ検査ヲ要スルモノ左ノ如シ

一 總決算

二 各官廳及官立諸營造ノ收支及官物ニ關ル決算

三 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算

四 法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬セラルル決算

第十四條 會計検査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ検査確定スルト同時ニ左ノ諸項ニ付報告書ヲ作ルヘシ

一 總決算及各官廳報告書ノ金額ト各出納官吏ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ

二 歳入ノ賦課徴收繰出ノ使用官物ノ得有否及實業興及利用ハ各々其ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ

三 豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ

第十五條 會計検査院ハ各年度ノ會計検査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條 會計検査院ハ各官廳中二部ニ關スル計

算ノ検査及責任解除ヲ其ノ總ニ委託スルコトヲ得但シ其ノ検査ノ成績ハ該總ニシテ之ヲ會計検査院ニ報告セシムヘシ

前項ノ委託ニ拘ラス會計検査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ之カ検査ヲ行フコトアルヘシ

第十三條 第三項團體及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ亦本條ヲ適用スルコトヲ得

第十七條 金庫ノ出納及簿記上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計検査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

會計検査院ハ收入及支出ニ關ル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ發布ノ前通知ヲ受ク

第十八條 會計検査院ハ計算書及計算證明ノ格式並ニ其ノ提出及推問ニ對スル答辭ノ期限ヲ定ム

第十九條 會計検査院ハ各官廳ヲシテ検査上必要ナル簿書及報告書ヲ提出セシメ及主任官吏ノ聲明書ヲ求ムルコトヲ得

會計検査院長ハ検査上必要ト認ムルトキハ主任官吏ヲ派遣シ實地検査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ本廳長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ検査ニ立會テ爲サシムルコトヲ得

第二十條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算書及證據書類ヲ検査シ正當ナリト判決シタルトキハ該官吏ニ對シ認可狀ヲ付シ其ノ責任ヲ解除ス若必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ聲明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ本廳長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム

第二十一條 會計検査院ノ判決ニ據リ罰償ノ貨ヲ買フ者ハ天皇ノ恩赦ニ由ルノ外本廳長官之ヲ減免スルコトヲ得ス

第二十二條 出納官吏計算書及證據書ノ提出ノ時リ又ハ格式ヲ守ラサルトキハ會計検査院ハ本廳長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ要求スルコトヲ得

第二十三條 政府ノ機密或ニ關ル計算ハ會計検査院ニ於テ検査ヲ行フ限ニ在ラス

第二十四條 會計検査院ハ認可狀ヲ付スルノ後ト雖モ其ノ付シタル日ヨリ五箇年以内ニ於テハ出納官吏ヨリ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脱漏ニ重記載アルコトヲ發見シタルトキハ再審査ヲ爲スコトヲ得但シ再審査ヲ爲スルモノハ再審査ノ後ト雖モ再審査ヲ爲スコトヲ得

出納官吏ハ會計検査院再審査ノ判決ニ對シテ再ヒ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三章 附則

第二十五條 會計検査院ノ事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●會計検査院事務章程 (明治三十二年十二月) (勅令第百五十七號)

第一條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 會計検査院事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

職ニ於テハ三名部會議ニ於テハ一名ヲ限リ検査官補ヲ以テ補充スルコトヲ得

第五條 總會議及部會議ハ會計検査官、委員又ハ検査官補ノ提出シタル文書ヲ以テ議案トス

第六條 會計検査官總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要スル事件ニ付議案ヲ提出セムトスルトキハ其ノ案ヲ具ヘ理由ヲ附シ總會議ノ議決ヲ要スルモノハ院長ニ部會議ノ議決ヲ要スルモノハ部長ニ之ヲ提出スヘシ

委員ヲ附ケタル場合ニ於テ其ノ委員ヨリ提出スル議案ニ付テ亦同シ

第七條 會計検査官ハ父子兄弟ノ提出シタル計算書ヲ検査シ又ハ其ノ檢定若ハ判決ニ與ルコトヲ得ス

第八條 院長ハ所部ノ職員ヲ統制シ委任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ列任官以下ハ自ラ之ヲ行フ

第九條 院長ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部職員ノ叙位叙勳ヲ上奏シ又ハ増俸賞與ヲ行フ

第十條 院長ハ會計検査院全體ニ關スル事務又ハ臨時ノ事務ヲ處理セシムル爲メ會計検査院高等官中ヨリ委員ヲ設ケルコトヲ得

第十一條 左ノ事項ハ院長ノ職權ニ屬ス

一 各部ノ分課ヲ定ムルコト

二 各部課主管ノ事務及職員ノ配置ヲ定ムルコト

三 各部ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノヲ處分スルコト

四 検査官補ニ總會議出席ヲ命スルコト

五 所部ノ職員ニ出張ヲ命スルコト

六 議事ニ關シ細則ヲ定ムルコト

七 部會議ノ議決スヘキ事項ヲ定ムルコト

入 行務監督規程及其ノ他ノ行政事務ニ關スル諸規程ヲ定ムルコト

第十二條 院長ハ各部ヨリ提出スル文書ニ付主任部長及検査官ノ同意ヲ得テ其ノ主意ヲ變更スルコトヲ得若キハ同意ヲ得サルトキハ之ヲ總會議ニ付スヘシ

總會議又ハ部會議ノ議決ヲ經テ文書ト雖其ノ主意ヲ變更セサル限リ院長ハ文章ノ訂正ヲ爲スコトヲ得

第十三條 院長ハ總會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止シ議決ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ再議ニ付スヘシ

再議ノ議決ニ對シテハ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

院長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止シ其ノ議決書ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ再議ニ付スヘシ

第十四條 院長ハ各部ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十五條 左ノ事項ハ部長ノ職權ニ屬ス

一 其ノ名ヲ以テ審理書ヲ發スルコト

二 検査官補ニ部會議出席ヲ命スルコト

三 部員ヲシテ其ノ部主管ノ事務ニ付一時相互ニ補助セシムルコト

四 部員ノ行務ヲ監督シ院長ニ報告スルコト

第十六條 部長ハ各課ヨリ提出スル文書ヲ審查シ其ノ總會議若ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノ又ハ院長ニ提出スルヲ要セサルモノハ直ニ之ヲ處分スヘシ

其ノ部會議ニ付シタルモノハ總テ之ヲ院長ニ提出スヘシ

第十七條 部長ハ各課ヨリ提出スル文書ニ付主任検査官ノ同意ヲ得テ其ノ主意ヲ變更スルコトヲ得若キハ同意ヲ得サルトキハ之ヲ部會議ニ付シ又ハ之ヲ總會議ニ提出スヘシ

部會議ノ議決ヲ經テ文書ト雖其ノ主意ヲ變更セサル限リ部長ハ文章ヲ訂正スルコトヲ得

第十八條 部長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止シ議決ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ總會議ニ提出スヘシ

第十九條 部長ハ各課ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十條 検査官ハ各課ノ長トナリ課務ヲ掌理ス

第二十一條 検査官ハ検査ノ執行ニ因リ檢定、判決、審理等ニ關スル文書ヲ關製シ之ヲ部長ニ提出ス

第二十二條 検査官補ハ各課ニ分屬シ課長ヲ助ケ又ハ院長官房若ハ各部ニ分屬シ審議立案ヲ掌ル

第二十三條 検査官補ハ検査ノ事項ニ關シ意見アル場合ニ於テ總會議又ハ部會議ニ議案ヲ提出セムトスルトキハ院長又ハ當該部長ノ承認ヲ經ヘシ

第二十四條 書記官ハ院長官房ニ屬シ庶務ヲ掌ル

第二十五條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ検査ノ事務又ハ庶務ニ從事ス

速記技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ速記ノ事務ニ從事ス

第二十六條 會計検査院ハ行務年度ヲ定メ検査ノ事務ヲ執行ス

第二十七條 會計検査院ハ検査ノ事項ニ付當該官吏ニ對シテハ審理書ヲ發シ國務大臣ニ對シテハ質問書又ハ注意書ヲ發スルコトヲ得

第二十八條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算正當ナリト判決シタルトキハ本局長官ヲ經由シテ認可狀ヲ交付シ正當ナラスト判決シタルトキハ本局長官ニ對シ處分要求書ヲ發スヘシ

會計検査院ハ出納官吏ノ負擔スヘキ缺損金ノ辨償ヲ終ヘタルトキハ本局長官ヲ經由シテ認可狀ヲ交付スヘシ

第二十九條 會計検査院ハ國ノ代表者ニ於テ出納官吏ニ對スル公訴附帶ノ私訴ヲ提起シタル事項ニ關シテハ之ニ對スル通常又ハ特別裁判所ノ判決執行ノ結果ニ依リ其ノ検査判決ヲ行フヘシ

第三十條 會計検査院ハ第二十八條ノ處分要求書ニ對スル本局長官ノ處分ヲ以テ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ事由ヲ検査成績書ニ載セテ上奏スヘシ

第三十一條 會計検査院ハ出納官吏ニ對シ再審査行フ場合ニ於テハ前ニ該件ノ検査ヲ擔當セザリシ他ノ部ニ移シテ審査セシムヘシ

第三十二條 會計検査院ハ出納官吏ノ請求ニ因リ再審査行フ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ本局長官ニ通知スヘシ

會計検査院ハ職權ヲ以テ再審査行フ場合ニ於テハ本局長官ヲ經由シテ其ノ旨ヲ當該出納官吏ニ通知スヘシ

第三十三條 會計検査院ハ左ノ場合ニ於テ本局長官ヲ直ニ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

一 出納官吏其ノ保管スル現金ヲ失シタルトキ

二 各省大臣出納官吏ニ對シ辨償ヲ命シタルトキ

三 出納官吏ニ對スル公訴ニ附帶シテ國ノ代表者私訴ヲ提起シタルトキ

第三十四條 會計検査院ハ各地方官廳ヲシテ其ノ地ノ物價ヲ定期又ハ臨時ニ報告セシムルコトヲ得

●會計検査院屬定員ニ關スル件 (明治三十三年三月勅令第三百三十七號)

朕明治三十一年勅令第三百一號改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十一年勅令第三百一號ヲ左ノ通改正ス

會計検査院屬員六百六十八人ヲ以テ定員トス (三十五年勅令第二百二十二號ヲ以テ定員改正)

●會計検査院ニ速記技手ヲ置ケノ件 (明治三十年十月勅令第三百五十九號)

朕會計検査院ニ速記技手ヲ置ケノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計検査院ニ屬定員以内ニ於テ速記技手二人ヲ置ケ

第十六章 行政裁判所

行政裁判所處務規程

(明治二十三年八月勅令第九十二號)

朕行政裁判所處務規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政裁判所處務規程

第一條 行政裁判所部長故障アルトキハ其部ノ評定官行政裁判法第七條第二項ノ順序ニ從ヒ之ヲ代理ス (三十四年勅令第七十三號ヲ以テ全條改正)

行政裁判所評定官故障アルトキハ代理順序ハ行政裁判所評定官故障アルトキハ其部ノ評定官ニ從ヒ之ヲ代理ス

第二條 部長ハ一事件毎ニ審判準備ノ爲メ其部ノ評定官中ノ一名若ハ二名ニ專理員ヲ任命スルコトヲ得 (同上)

第三條 判決ハ審問終結シタル期日又ハ其期日ヨリ十四日以内ニ之ヲ宣讀スヘシ (同上)

第四條 裁判長行政裁判法第三十八條第二項ノ場合ニ於テ科罰官宣讀シタルトキハ書記ヲシテ訴訟ノ記録ニ之ヲ記入セシム

第五條 毎年七月十一日ヨリ九月十日マテノ間ハ行政裁判所ニ於テ緊急ノ事項ト認ムルモノノ外既ニ着手シタル訴訟ヲ中止シ並ニ新ナル訴訟ニ着手セス

第六條 行政裁判所ノ總會議ハ評定官總員三分ノ二以上出席スルニ非サレバ議決ヲ爲スコトヲ得

第七條 總會議ノ議事ハ長官之ヲ整理ス若シ長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス

第七條ノ二 法規ノ解釋ニ付判例ヲ變更セムトスルトキ又ハ法規ノ解釋ヲ一定スルノ必要アルトキハ長官ハ之ヲ總會議ニ提出ス (三十四年勅令第七十三號ヲ以テ追加)

第八條 行政裁判所ハ訴訟ノ呼出狀及其他ノ書類ヲ使丁若ハ郵便ヲ以テ送達シ又ハ通常裁判所ニ屬託シテ送達セシムルコトヲ得

第九條 行政裁判所ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ其職權ニ關スル事件ニ付告示ヲ發スルコトヲ得

第十條 行政裁判所長官ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ事務取扱ノ順序方法ニ關スル規定ヲ設ケルコト

トナ得
書記ノ職務ニ關スル規程ハ行政裁判所之ヲ定ム
●行政裁判所評定官員數並書
記ノ員數職務ノ件
(明治二十三年六月)
(勅令第十一號)

行政裁判所評定官員數並書
件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 行政裁判所評定官員ノ定員ハ專任十一人ト
ス(二十二年勅令第三五五號ヲ以テ本項中追加)
第二條 行政裁判所書記ハ行政裁判法其他法律勅
令ニ於テ特定シタル事務ヲ取扱フ
第三條 行政裁判所書記ハ往復會計記録其他庶務
ニ從事ス
第四條 行政裁判所書記ハ行政裁判所長官ノ命令
ニ從フ
審判ニ關シテハ裁判長ノ命令ニ從フ

第十七章 貴族院事務

務局

●貴族院事務局官制
(明治二十三年七月)
(勅令第二百二十一號)
朕貴族院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
貴族院事務局官制
第一條 貴族院事務局ノ職員ハ左ノ如シ(二十四
年勅令第九十九號ヲ以テ改正)
書記官長 一人
書記官 專任五人(二十六年勅令第百
六十五號三十一年勅令第三百七號ヲ以テ定員

改正)
十二人(三十一年勅令第三
百七號ヲ以テ定員改正)
速記技手 二十五人(三十年勅令第三百
四十九號ヲ以テ追加)
守衛長 一人(二十四年勅令第二
百六號ヲ以テ追加)
守衛番長 三人(同上)
第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ
事務ヲ監督ス
第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ職務
記録筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス
第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ
職務ヲ代理ス
第五條 局及速記技手ハ列任トス書記官長ノ定ム
ル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ(三十年勅令第三
百四十九號ヲ以テ追加)
第六條 守衛長ハ列任トス守衛番長以下ヲ部署シ
院中ノ取締ニ任ス(二十四年勅令第二百六號ヲ
以テ追加)
第七條 守衛番長ハ列任トス守衛長ヲ助ケ守衛ヲ
指揮シ守衛長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス
(同上)
●貴族院事務局ニ技手ヲ置ク
(明治三十年十一月)
(勅令第四百十三號)
朕貴族院事務局ニ技手ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之
ヲ公布セシム
貴族院事務局ニ屬定員以內ニ於テ技手二人ヲ置ク

第十八章 衆議院事務

務局

●衆議院事務局官制
(明治二十三年七月)
(勅令第二百二十二號)
朕衆議院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
衆議院事務局官制
第一條 衆議院事務局ノ職員ハ左ノ如シ(二十四
年勅令第百號ヲ以テ改正)
書記官長 一人
書記官 專任五人(二十六年勅令第百
六十六號三十一年勅令第三百八號ヲ以テ定員
改正)
十二人(三十一年勅令第三
百八號ヲ以テ定員改正)
速記技手 二十五人(三十年勅令第三百
五十號ヲ以テ追加)
守衛長 一人(二十四年勅令第二
百七號ヲ以テ追加)
守衛番長 三人(同上)
第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ
事務ヲ監督ス
第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ職務
記録筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス
第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ
職務ヲ代理ス
第五條 局及速記技手ハ列任トス書記官長ノ定ム
ル所ニ依リ各其事務ニ從フ(三十年勅令第三百
五十號ヲ以テ追加)
第六條 守衛長ハ列任トス守衛番長以下ヲ部署シ

院中ノ取締ニ任ス(二十四年勅令第二百七號ヲ
以テ追加)
第七條 守衛番長ハ列任トス守衛長ヲ助ケ守衛ヲ
指揮シ守衛長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス
(同上)
●衆議院事務局ニ技手ヲ置ク
(明治三十年十一月)
(勅令第四百十四號)
朕衆議院事務局ニ技手ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之
ヲ公布セシム
衆議院事務局ニ屬定員以內ニ於テ技手二人ヲ置ク
コトヲ得

第十九章 臺灣總督府

臺灣總督府官制

(明治三十年十月)
(勅令第三百六十二號)
朕臺灣總督府官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
臺灣總督府官制
第一條 臺灣總督府ニ臺灣總督ヲ置ク
總督ハ臺灣及澎湖列島ヲ管轄ス
第二條 總督ハ親任トス陸海軍大將若ハ中將ヲ以
テ之ニ充ツ
第三條 總督ハ委任ノ範圍内ニ於テ陸海軍ヲ統率
シ内務大臣ノ監督ヲ承ケ附屬ノ職務ヲ統理ス
(三十一年勅令第二十三號ヲ以テ條中改正)
第四條 總督ハ軍政及陸海軍軍人軍屬ノ人事ニ關
シテハ陸軍大臣若ハ海軍大臣、防務作戰並動員
計畫ニ關シテハ參謀總長若ハ海軍軍令部長、陸
軍軍醫教育ニ關シテハ教育總監ノ區處ヲ承ケ

(三十一年勅令第二十三號三十三年勅令第二百
五十四號ヲ以テ條中改正)
第五條 總督ハ其ノ職權若ハ特別ノ委任ニ依リ總
督府令ヲ發シ之ニ禁錮一年以下又ハ罰金二百圓
以內ノ罰則ヲ附スルコトヲ得
第六條 總督ハ其ノ管轄區域内ノ防備ノ事ヲ掌ル
第七條 總督ハ其ノ管轄區域内ノ安寧秩序ヲ保持
スル爲ニ必要ト認ムルトキハ兵力ヲ使用スルコ
トヲ得
前項ノ場合ニ於テハ直ニ内務大臣陸軍大臣海軍
大臣參謀總長及海軍軍令部長ニ之ヲ報告スヘシ
(三十一年勅令第二十三號ヲ以テ改正)
第八條 明治二十九年法律第六十三號第二條又ハ
第四條ノ勅令ヲ廢止スルハ内務大臣ヲ經由スヘ
シ(同上)
第九條 總督ハ必要ト認ムル地域内ニ於テ其ノ地
ノ守備隊長若ハ駐在武官ヲシテ民政事務ヲ兼掌
セシムルコトヲ得
第十條 總督ハ廳長ノ命令又ハ處分ニシテ成規ニ
違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ム
ルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消ス
コトヲ得(三十四年勅令第二百一號ヲ以テ條中
改正)
第十一條 總督ハ所部ノ官吏ヲ統率シ委任文官ノ
進退ハ内務大臣ニ由リ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ
上奏シ列任官以下ハ之ヲ專行ス(三十一年勅令
第二百三號ヲ以テ條中改正)
第十二條 總督ハ内務大臣ニ由リ内閣總理大臣ヲ
經テ所部文官ノ叙位叙勳ヲ上奏ス(同上)
第十三條 總督ハ所部文官ヲ懲戒ス其ノ勅任官ニ
係ルモノ並ニ委任官ノ免官ハ内務大臣ニ由リ内
閣總理大臣ヲ經テ上奏シ其ノ他ハ之ヲ專行ス

第十四條 總督府ニ總督官房ヲ置ク(三十一年勅
令第百六號ヲ以テ本條以下第二十三條マテ改
正)
總督官房ニ副官二人及專任秘書官二人ヲ置ク
密ニ關スル事務ヲ掌ル
副官ハ陸海軍左尉官ノ内各一人ヲ以テ之ニ充ツ
秘書官ハ委任トス
第十五條 總督府ニ民政部、陸軍軍醫、海軍軍醫
ヲ置ク
陸海軍軍醫條例ハ別ニ之ヲ定ム
第十六條 民政部ハ行政司法ニ關スル一切ノ事務
ヲ掌ル
第十七條 民政部ニ警察本署及左ノ五局ヲ置ク
(三十四年勅令第二百一號ヲ以テ改正)
總務局
財務局
通信局
殖産局
土木局
通信局ニ測候所及燈臺ヲ附屬セシム(三十五
年勅令第二百五十七號ヲ以テ追加)
第十八條 總督官房警察本署及各局ノ事務ノ分掌
及其ノ分課ハ總督之ヲ定ム(三十四年勅令第二
百一號ヲ以テ改正)
第十九條 總督府ニ左ノ職員ヲ置ク(三十四年勅
令第二百一號三十五年勅令第二百五十七號ヲ以
テ改正)
民政長官 一人 勅任
參事官長 一人 勅任
警視總長 一人 勅任又ハ委任
局長 四人 勅任又ハ委任

參事官 專任四人 奏任
 事務官 專任十五人 奏任
 警視 專任三人 奏任
 技師 專任十六人 奏任 (内二人ヲ勅任トナスコトヲ得)
 翻譯官 專任五人 奏任
 海軍官 專任四人 奏任
 警部 專任三百二十人 判任
 技師 專任三百二十人 判任
 通譯 專任三百二十人 判任
 各測候所ヲ通シテ技師一人技師二十二人ヲ置キ各燈臺ヲ通シテ看守三十七人ヲ置ク測候所技師ハ奏任測候所技師及燈臺看守ハ判任トス
 第二十條 民政長官ハ總督ヲ佐ケ事務ヲ總理シ各局署ノ事務ヲ監督ス (三十四年勅令第二百一號ヲ以テ改正)
 第二十一條 參事官長ハ總督及民政長官ヲ佐ケ總務局長ト爲リ及審議立案ニ關スル事務ヲ管理ス (同上)
 第二十二條 警視總長ハ警察本署ノ長トナリ總督及民政長官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ管理シ事務急ナル場合ニ在テハ其ノ主管事務ニ付總長以下ヲ指揮スルコトヲ得 (同上)
 第二十三條 局長ハ總督及民政長官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ管理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス (同上勅令ヲ以テ改正)
 第二十四條 參事官ハ上官ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌ル (同上)
 參事官ハ上官ノ命ヲ承ケ總督官房又ハ各局署ノ事務ヲ助ク

第二十五條 事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ總督官房又ハ各局署ノ事務ヲ掌ル (同上)
 第二十六條 警視ハ警察本署ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ其ノ事務ヲ掌ル (同上)
 第二十七條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル (同上)
 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ各局ノ事務ヲ助ク
 第二十七條ノ二 海軍官ハ通信局ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ海軍ニ關スル事務ヲ掌ル (三十五年勅令第二百五十七號ヲ以テ追加)
 第二十七條ノ三 測候所技師ハ上官ノ命ヲ承ケ氣象ニ關スル事務ヲ掌リ測候所技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ氣象ニ關スル事務ニ從事シ燈臺看守ハ上官ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ看守ニ從事ス (同上)
 第二十八條 翻譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ通譯ヲ掌ル (三十四年勅令第二百一號ヲ以テ改正)
 第二十九條 總督官房及局署中各課ニ課長一人ヲ置キ奏任官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ (同上)
 第三十條 屬、技師及通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務技術通譯ニ從事ス (同上)
 第三十一條 警部ハ警察本署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ事務ニ從事ス (同上)
 第三十一條ノ二 測候所及燈臺ノ名稱及位置ハ總督之ヲ定ム (三十五年勅令第二百五十七號ヲ以テ追加)

臺灣總督府陸軍幕僚條例
 第一條 臺灣總督府陸軍幕僚ハ臺灣總督ノ所轄内ニ於ケル陸軍ニ關スル事務ヲ掌ル
 第二條 幕僚ヲ分テ參謀副官トス
 第三條 參謀長ハ總督ヲ輔佐シ幕僚ヲ統ヘ事務整理ノ實ニ任ス
 第四條 幕僚ノ各將校及同相當官ハ參謀長ノ區處ヲ受ケ部務ヲ擔任ス
 第五條 陸軍幕僚ノ編制ハ別ニ之ヲ定ム
 第六條 本條例ハ明治三十年十一月一日ヨリ施行ス
 附則
 臺灣總督府海軍幕僚條例
 (明治三十年十月勅令第三百六十四號)
 臺灣總督府海軍幕僚條例
 第一條 臺灣總督府海軍幕僚ハ臺灣總督ノ所轄内ニ於ケル海軍ニ關スルコトヲ掌ル
 第二條 臺灣總督府海軍幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク (三十四年勅令第四百二十二號ヲ以テ全條改正)
 參謀長
 參謀
 副官
 主計長
 前項ノ外海軍通譯官ヲ置ク
 第三條 參謀長ハ臺灣總督ノ統轄ニ屬スル海軍軍政及軍令ニ關シ總督ヲ輔佐シ又幕僚ノ事務ヲ整理ス
 第四條 參謀ハ參謀長ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス (三十二年勅令第四百二十二號ヲ以テ改正)
 第五條 支廠及出張所並ニ停車場ノ所在ノ地名ヲ附シ臺灣陸軍補給廠某地支廠若クハ某地出張所又ハ某地停車場ト稱ス
 第六條 補給廠ニ左ノ職員ヲ置ク (三十五年勅令第二十二號ヲ以テ改正)
 本廠
 廠長
 支廠
 支廠長
 廠長
 右ノ外准士官下士並判任文官技師ヲ置ク
 第七條 廠長ハ陸軍大臣ニ隸シ廠務ヲ總理シ營掌ノ事務ニ於テハ其實ニ任ス
 第八條 廠長ハ臺灣總督ト連絡ヲ保チ相互ノ計畫ニ就キ齟齬ナカラシムルヲ要ス但基隆及臺中支廠長ハ戰時事務ノ際及臺灣陸軍補給廠ノ動員計畫ニ關シテハ同總督ノ命ヲ受ケルモノトス (三十五年勅令第二十二號ヲ以テ改正)
 第九條 支廠長ハ廠長ノ命ヲ受ケ各其廠務ヲ掌理ス
 第十條 廠員ハ各其長ノ命ヲ承ケ分擔ノ事務ニ服ス
 第十一條 (三十五年勅令第二十二號ヲ以テ削除)
 附則
 第十二條 當分ノ内外陸軍諸部隊ニ於ケル人員軍用品ノ海上輸送ハ臺灣陸軍補給廠ニ於テ之ヲ掌ル (同上ヲ以テ改正)
 第十三條 本條例ハ本年十一月一日ヨリ施行ス

十四年勅令第四百二十二號ヲ以テ改正)
 第五條 副官ハ參謀長ノ命ヲ承ケ人事及庶務ヲ掌理ス
 第六條 (三十四年勅令第四百二十二號ヲ以テ削除)
 第七條 (同上)
 第八條 主計長ハ參謀長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スルコトヲ掌理シ又副官ノ事務ヲ助ク
 第九條 通譯官ハ參謀長ノ命ヲ承ケ服務ス (三十四年勅令第四百二十二號ヲ以テ改正)
 第十條 臺灣總督府海軍幕僚附トシテ海軍書記ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム (同上)
 附則
 第十一條 本令ハ明治三十年十一月一日ヨリ施行ス
 ●臺灣陸軍補給廠條例
 (明治三十年十月勅令第三百六十四號)
 臺灣陸軍補給廠條例
 第一條 臺灣陸軍補給廠ハ臺灣ニ於ケル陸軍各部隊所要糧秣ノ調度支及出戰用糧秣供給ノ事務ヲ掌ル
 第二條 補給廠ハ臺灣守備混成旅團司令部所在地ニ之ヲ置ク但必要ニ依リ旅團司令部所在地ノ外ニ其支廠ヲ置クコトヲ得
 第三條 補給廠ハ其所在ノ地名ヲ冠シ某地陸軍補給廠ト稱ス但支廠ヲ置クトキハ某地陸軍補給廠某地支廠ト稱ス
 第四條 補給廠ノ管理區域ハ混成旅團ノ守備管區ニ依ル
 第五條 補給廠ニ左ノ職員ヲ置ク

主管 一等軍吏
 二等軍吏
 三等軍吏
 補給官 二、三等軍吏
 糧官 一、二、三等軍吏
 第一條 臺灣陸軍補給廠ハ陸軍大臣ノ監督ニ屬シ在臺灣守備混成旅團並ニ關スル人員物件ノ海上輸送及輕便鐵道ノ事務ヲ掌リ兼テ戰時若ハ事變ニ際シ一般軍隊ノ輸送ニ要スル補助物件ヲ整備スル所トス (三十二年勅令第四百九號三十五年勅令第二十二號ヲ以テ改正)
 第二條 臺灣陸軍補給廠ハ本廠及支廠ヨリ成ル補給廠ノ本廠ハ之ヲ字品ニ置キ支廠ヲ神戶、門司、基隆、臺中ニ置ク (三十五年勅令第二十二號ヲ以テ改正)
 第三條 廠長ハ必要ノ地ニ出張所及停車場ヲ置クコトヲ得
 第四條 患者收容ノ爲本廠ノ下ニ患者集合所ヲ置ク又必要ニ應ジ病院船ヲ置ク (三十五年勅令第四

●臺灣陸軍經理部條例
 (明治三十年十一月一日ヨリ施行ス)
 臺灣陸軍經理部條例
 第一條 臺灣陸軍經理部ハ臺灣總督ノ所轄内ニ於ケル陸軍ニ關スル事務ヲ掌ル
 第二條 經理部ヲ分テ參謀副官トス
 第三條 參謀長ハ總督ヲ輔佐シ經理部ヲ統ヘ事務整理ノ實ニ任ス
 第四條 經理部ノ各將校及同相當官ハ參謀長ノ區處ヲ受ケ部務ヲ擔任ス
 第五條 陸軍經理部ノ編制ハ別ニ之ヲ定ム
 第六條 本條例ハ明治三十年十一月一日ヨリ施行ス
 附則
 第七條 當分ノ内外陸軍諸部隊ニ於ケル人員軍用品ノ海上輸送ハ臺灣陸軍經理部ニ於テ之ヲ掌ル (同上ヲ以テ改正)
 第八條 本條例ハ本年十一月一日ヨリ施行ス

(明治三十五年一月)
勅令第二十號

朕臺灣陸軍經理部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣陸軍經理部條例

第一條 臺灣陸軍經理部ハ之ヲ臺北ニ置キ臺灣陸軍ニ係ル會計經理一切ノ事項ヲ管掌シ臺灣陸軍各部團隊ノ會計事務ヲ監督ス
臺灣陸軍經理部ハ必要ニ際シ其ノ派出所ヲ置クコトヲ得

第二條 臺灣陸軍經理部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

准士官下士並列任文官技手

第三條 部長ハ臺灣總督ニ隷シテ部務整理ノ責任シ會計經理上ノ行務ニ關シテハ陸軍省經理局長ノ區域ヲ受ク

第四條 部長ハ臺灣陸軍各部團隊ノ會計經理ノ檢査ヲ行フヘシ

第五條 部長ハ臺灣陸軍各部團隊ノ廢品處分ヲ承認ス但シ當該長官ニ之ヲ分任スルコトヲ得

第六條 部長ハ會計上ニ關シ必要アルトキハ當該長官若ハ主任官吏ニ質問シ聲明ヲ求ルコトヲ得

第七條 部長ハ臺灣總督ノ許可ヲ得テ臺灣陸軍各部團隊ノ經理委員ヲ集メ經理會ヲ開クコトヲ得

第八條 部長ハ其ノ管掌ノ事務ニ關シ各部隊諸官廳ニ直接照會スルコトヲ得

第九條 部長ハ部員ノ命ヲ受ケ部務ヲ分掌ス

第十條 准士官以下ノ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

附則
本令ハ明治三十五年二月一日ヨリ施行ス

明治三十一年勅令第二百三十五號及同年同第二百三十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

臺灣陸軍軍醫部條例

(明治三十一年十月)
勅令第二百三十七號

朕臺灣陸軍軍醫部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣陸軍軍醫部條例

第一條 臺灣陸軍軍醫部ハ臺北ニ置キ臺灣總督ノ所轄内ニ於ケル軍隊官衙ノ衛生事務ヲ統轄スル所トス

第二條 軍醫部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

部員 一、二等軍醫正

前項ノ外下士並列任文官ヲ置ク

第三條 部長ハ臺灣總督ニ隷シテ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ就テハ其ノ責任ス

第四條 部長ヨリ臺灣總督ニ具申スヘキ事項ニ就テハ先ツ臺灣總督府陸軍幕僚參謀長ニ開陳スヘシ

第五條 部長ハ部員ノ命ヲ承ケ部務ニ服ス

第六條 部長ハ其ノ管掌ノ事務ニ關シ各部隊諸官廳ニ直接照會スルコトヲ得

第七條 部長ハ部員ノ命ヲ受ケ部務ヲ分掌ス

第八條 准士官以下ノ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

附則
本令ハ明治三十一年十月一日ヨリ施行ス

部員 獸醫監

前項ノ外下士並列任文官ヲ置ク

第三條 部長ハ臺灣總督ニ隷シテ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ就テハ其ノ責任ス

第四條 部長ヨリ臺灣總督ニ具申スヘキ事項ニ就テハ先ツ臺灣總督府陸軍幕僚參謀長ニ開陳スヘシ

第五條 部長ハ部員ノ命ヲ承ケ部務ニ服ス

臺灣守備混成旅團司令部條例

(明治二十九年四月)
勅令第二百一十一號

朕臺灣守備混成旅團司令部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣守備混成旅團司令部條例

第一條 混成旅團長ハ陸軍少將ヲ以テ之ニ補シ臺灣總督ニ隷シテ下部隊ヲ統率シ所轄守備管區内ノ警備及匪徒鎮壓ノ事ニ任ス

第二條 混成旅團長ハ下部隊ノ出戰準備ヲ整理シ又下部隊ノ練成ニ就キ其責任ス

第三條 混成旅團長ハ守備管區内ニ在ル陸軍各部各隊ノ軍紀風紀ヲ統監ス(三十一年勅令第二百三十四號改正ニ依ル)

第四條 混成旅團長ハ守備管區内ノ靜謐ヲ維持シ陸軍諸官廳諸建築物ヲ保護スル事ニ任ス

第五條 守備管區内ノ靜謐ヲ維持スルカ爲メ兵力ヲ要スル時專断シテ之ニ應ジテ後臺灣總督ニ報告スヘシ但其事所轄管區外ニ涉ル時時電報ニ依リ地方官ニシテ當該管區ノ團長若クハ民政官ヨリ援助ヲ請求スルトキ若クハ預備セハ危害ニ陷ルヘキコトヲ察スルトキ亦同シ

(明治三十二年一月)
勅令第十六號

朕臺灣陸軍法官部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣陸軍法官部條例

第一條 臺灣陸軍法官部ハ之ヲ臺北ニ置ク

第二條 法官部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

部員 理事 前項ノ外下士並列任文官ヲ置ク

第三條 部長ハ臺灣總督ニ隷シテ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ就テハ其ノ責任ス

第四條 部長ヨリ臺灣總督ニ具申スヘキ事項ニ就テハ先ツ臺灣總督府陸軍幕僚參謀長ニ開陳スヘシ

第五條 部長ハ部員ノ命ヲ承ケ部務ニ服ス

第六條 部長ハ其ノ管掌ノ事務ニ關シ各部隊諸官廳ニ直接照會スルコトヲ得

第七條 部長ハ部員ノ命ヲ受ケ部務ヲ分掌ス

第八條 准士官以下ノ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

附則
本令ハ明治三十二年一月一日ヨリ施行ス

(明治三十一年十月)
勅令第二百三十八號

朕臺灣陸軍軍醫部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣陸軍軍醫部條例

第一條 臺灣陸軍軍醫部ハ之ヲ臺北ニ置キ臺灣總督ノ所轄内ニ於ケル軍隊官衙ノ衛生事務ヲ統轄スル所トス

第二條 軍醫部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

部員 理事 前項ノ外下士並列任文官ヲ置ク

第三條 部長ハ臺灣總督ニ隷シテ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ就テハ其ノ責任ス

第四條 部長ヨリ臺灣總督ニ具申スヘキ事項ニ就テハ先ツ臺灣總督府陸軍幕僚參謀長ニ開陳スヘシ

第五條 部長ハ部員ノ命ヲ承ケ部務ニ服ス

第六條 部長ハ其ノ管掌ノ事務ニ關シ各部隊諸官廳ニ直接照會スルコトヲ得

第七條 部長ハ部員ノ命ヲ受ケ部務ヲ分掌ス

附則
本令ハ明治三十一年十月一日ヨリ施行ス

(明治三十二年二月)
勅令第十八號

朕臺北ニ設置スル陸軍監獄ノ管理及其監獄長所屬ノ件

第一條 臺北ニ設置スル陸軍監獄ノ管理及其監獄長所屬ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第二條 臺北ニ設置スル陸軍監獄ハ臺灣總督府陸軍幕僚參謀長ニ開陳スヘシ

臺灣總督府評議會章程

(明治二十九年三月)
勅令第八十九號

朕臺灣總督府評議會章程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣陸軍法官部條例

(同上)

第八類 官制 第十九章 臺灣總督府

第一條 臺灣陸軍法官部ハ之ヲ臺北ニ置ク

第二條 法官部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

部員 大中尉 二等軍醫正、軍吏 書記 下士

第五條 評議會ノ會議ハ總員半數以上ノ出席アルニテ...

第六條 評議會ノ會議ハ出席員ノ多數ニ依リテ之ヲ決ス...

第七條 總督ハ何時タリトモ既ニ發シタル議案ヲ修正シ...

第八條 總督ニ於テ評議會ノ議決ニ同意スヘカラスト...

第九條 評議會ニ幹事一人及書記若干人ヲ置ク...

第十條 幹事ハ總長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ書記ハ...

臺灣總督府圖書編修職員官制

制 (明治三十四年五月)

第一條 臺灣總督府圖書編修職員官制ニテ之ヲ公布セシム...

第二條 編修官ハ上官ノ命ヲ承ケ圖書ノ編修及檢定ニ...

第三條 編修書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ圖書ノ編修及檢定ニ...

臨時臺灣舊慣調査會規則

(明治三十四年十月)

第一條 臨時臺灣舊慣調査會ハ臺灣總督ノ監督ニ...

第二條 臨時臺灣舊慣調査會ハ會長一人委員十五人以...

第三條 會長ハ臺灣總督府民政長官ヲ以テ之ニ充ツ...

第四條 委員ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス...

第五條 臨時臺灣舊慣調査會ノ調査ニ關スル規則ハ臺灣總督...

第六條 會長ハ調査事務ヲ整理シ其ノ事項ヲ臺灣總督...

第七條 臨時臺灣舊慣調査會ニ部長二人ヲ置キ委員中...

第八條 委員ニハ一箇年二千五百圓以内ノ手當ヲ給ス...

第九條 臨時臺灣舊慣調査會ニ補助委員二十人以内ヲ...

第十條 臨時臺灣舊慣調査會ニ書記通譯若干人ヲ置キ...

第十一條 補助委員ニハ一箇年千五百圓以内ノ手當ヲ給ス...

臺灣總督府製藥所官制

(明治三十一年六月)

第一條 臺灣總督府製藥所ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ製藥ニ...

第二條 臺灣總督府製藥所ニ左ノ職員ヲ置ク 所長 技師...

第三條 所長ハ一人ヲ任ストシ臺灣總督ノ命ヲ承ケ所内...

第四條 技師ハ專任二人ヲ任ストシ所長ノ指揮ヲ承ケ...

第五條 技師ハ專任五人ヲ任ストシ上官ノ指揮ヲ承ケ...

第六條 通譯ハ四人ヲ任ストシ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ...

第七條 監更ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事シ又ハ監獄...

第八條 通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ從事ス...

第九條 監更ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス...

第十條 監更ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス...

第十一條 監更ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス...

第十二條 監更ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス...

第十三條 監更ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス...

第十四條 監更ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス...

第十五條 監更ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス...

第十六條 監更ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス...

第十七條 監更ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス...

臺灣總督府警察官及司獄官

制 (明治三十一年六月)

第一條 臺灣總督府警察官及司獄官練習所ニテ之ヲ公布セシム...

第二條 臺灣總督府警察官及司獄官練習所ニテ之ヲ公布セシム...

第三條 臺灣總督府警察官及司獄官練習所ニテ之ヲ公布セシム...

第四條 臺灣總督府警察官及司獄官練習所ニテ之ヲ公布セシム...

臺灣總督府監獄官制

(明治三十三年九月)

第一條 臺灣總督府監獄官及司獄官練習所ニテ之ヲ公布セシム...

第二條 臺灣總督府監獄官及司獄官練習所ニテ之ヲ公布セシム...

第三條 臺灣總督府監獄官及司獄官練習所ニテ之ヲ公布セシム...

第四條 臺灣總督府監獄官及司獄官練習所ニテ之ヲ公布セシム...

臺灣總督府監獄官制

(明治三十三年九月)

第一條 臺灣總督府監獄官及司獄官練習所ニテ之ヲ公布セシム...

第二條 臺灣總督府監獄官及司獄官練習所ニテ之ヲ公布セシム...

第三條 臺灣總督府監獄官及司獄官練習所ニテ之ヲ公布セシム...

第四條 臺灣總督府監獄官及司獄官練習所ニテ之ヲ公布セシム...

俸給定額内ニ於テ各監獄ニ技手ヲ置クコトヲ得

第八條 技手ハ列任トス上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ

第九條 典獄ハ列任官ノ進退ハ臺灣總督ニ具狀シ

第十條 典獄ハ所部ノ列任官ノ懲戒ハ臺灣總督ニ

第十一條 典獄事故アルトキハ上官監吏其ノ職務

第十二條 臺灣總督府地方檢察官長ハ臺灣總

第十三條 臺灣總督ハ監獄ノ支監ヲ置クコトヲ

第十四條 看守ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督府海港檢疫所官制

(明治三十三年三月)

臺灣總督府海港檢疫所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公

布セシム

第一條 臺灣總督府海港檢疫所ハ臺灣總督ノ管理

第二條 臺北基隆二海港檢疫所ヲ設キ基隆海港

前項ノ外臺北基隆二基隆海港檢疫所ノ支所ヲ

第三條 海港檢疫所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人 奏任

海港檢疫官 一人 奏任

海港檢疫官補 一人 列任

海港檢疫所書記 一人 列任

海港檢疫所書記 一人 列任

海港檢疫所書記 一人 列任

海港檢疫所書記 一人 列任

海港檢疫所書記 一人 列任

海港檢疫所書記 一人 列任

海港檢疫所書記 一人 列任

海港檢疫所書記 一人 列任

海港檢疫所書記 一人 列任

海港檢疫所書記 一人 列任

海港檢疫所書記 一人 列任

海港檢疫所書記 一人 列任

第九條 海港檢疫所調劑手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ調

第十條 海港檢疫所書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務

第十一條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第十二條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第十三條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第十四條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第十五條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第十六條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第十七條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第十八條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第十九條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第二十條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第二十一條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第二十二條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第二十三條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第二十四條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第二十五條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第二十六條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第二十七條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第二十八條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第二十九條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第三十條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第三十一條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第三十二條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第三十三條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第三十四條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第三十五條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第三十六條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第三十七條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第三十八條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第三十九條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第四十條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第四十一條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第四十二條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第四十三條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第四十四條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第四十五條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第四十六條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第四十七條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第四十八條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第四十九條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

第五十條 臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキ

臨時臺灣基隆築港局官制

(明治三十三年八月)

臨時臺灣基隆築港局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布

第一條 臨時臺灣基隆築港局ハ臺灣總督ノ管理ニ

第二條 臨時臺灣基隆築港局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長 一人 奏任

臨時臺灣土地調查局官制

(明治三十三年八月)

臨時臺灣土地調查局官制ヲ裁可シ茲ニ之

第一條 臨時臺灣土地調查局ハ臺灣總督ノ管理ニ

第二條 臨時臺灣土地調查局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長 一人 奏任

技師 一人 奏任

臨時臺灣專賣局官制

(明治三十四年十月)

臨時臺灣專賣局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ

第一條 臺灣總督府專賣局ハ臺灣總督ノ管理ニ屬

第二條 臺灣總督府專賣局ニ左ノ事務ヲ掌理ス

一 樟腦、樟腦油、阿片及食鹽ノ收納、購買、

賣渡、保管、製造及検査ニ關スル事項

二 操備ノ製造修及取捨ニ關スル事項
 三 鹽田ニ關スル事項
 臺灣總督府專賣局ハ當分ノ内衛生及殖産上試驗ニ關スル事項ヲ兼掌ス
 第二條 臺灣總督府專賣局ハ之ヲ臺北ニ置ク
 第三條 臺灣總督府專賣局ニ左ノ職員ヲ置ク(三十五年勅令第二百五十八號ヲ以テ條中改正)
 局長 一人 勅任又ハ奏任
 事務官 專任九人 奏任
 技師 專任六人 奏任
 翻譯官 專任三人 奏任
 書記 專任百人 列任
 技手 專任四十人 列任
 通譯 專任四人 列任
 第四條 前條定員ノ外必要ニ應シ俸給定額内ニ於テ技師及技手ヲ置クコトヲ得
 第五條 局長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス(三十五年勅令第二百五十八號ヲ以テ條中削除)
 局長ハ奏任官ノ進退ハ之ヲ臺灣總督ニ具狀シ列任官以下ノ進退ハ自ラ之ヲ行フ
 第六條 (三十五年勅令第二百五十八號ヲ以テ削除)
 第七條 事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ分掌ス
 第八條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ分掌ス
 第九條 翻譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ翻譯及通譯ノ事務ヲ分掌ス
 第十條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス
 第十一條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

第十二條 通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ從事ス
 第十三條 臺灣總督府ハ必要ニ應ジテ左ノ支局ヲ置クコトヲ得
 第十四條 支局長ハ事務官技師又ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ
 第十五條 支局長ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ支局一切ノ事務ヲ掌理ス
 第十六條 本令ハ明治三十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第十七條 臺灣總督府製鹽所官制、臺灣鹽務局官制及臺灣樟腦局官制ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
 ●臺灣總督府稅關官制
 (明治三十四年四月勅令第四十九號)
 朕臺灣總督府稅關官制ヲ改正シ茲ニ之ヲ公布セシム
 臺灣總督府稅關官制
 第一條 臺灣總督府稅關ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル
 一 關稅、出港稅、噸稅及稅關諸收入ニ關スル事項
 二 保稅倉庫其ノ他ノ倉庫ニ關スル事項
 三 船舶及貨物ノ取締ニ關スル事項
 四 臺灣稅關規則、臺灣輸出稅及出港稅規則、臺灣噸稅規則及稅關事務ニ關スル事項
 五 關稅道路ノ取締ニ關スル事項
 第二條 左ノ二港ニ稅關ヲ置ク(三十五年勅令第二百五十四號ヲ以テ條中改正)
 臺北關管下 淡水
 臺南關管下 安平

第三條 稅關ニ稅關長一人ヲ置ク奏任トス
 淡水稅關長ハ安平稅關長ヲ兼ス
 第四條 稅關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク(三十五年勅令第二百十四號ヲ以テ改正)
 事務官 專任一人 奏任
 監視官 專任二人 奏任
 鑑定官 專任二人 奏任
 關 專任六十五人 列任
 監視 專任二十六人 列任
 鑑定官補 專任二十七人 列任
 技手 專任三人 列任
 監吏 專任二百人 列任
 第五條 稅關長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ稅關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス
 第六條 事務官ハ稅關長ノ事務ヲ助ク
 第六條ノ二 監視官ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則者ノ處分ニ關スル事務ヲ掌理ス(三十五年勅令第二百五十四號ヲ以テ追加)
 第七條 鑑定官ハ稅關長ノ命ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ニ關スル事務ヲ掌理ス
 第八條 關ハ稅關支署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
 第九條 監視ハ稅關監視部長若ハ稅關監視署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則者ノ處分ニ關スル事務ニ從事ス
 第十條 鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ニ從事ス
 第十一條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス(三十五年勅令第二百五十四號ヲ以テ追加)
 第十二條 監吏ハ稅關監視署長タル者ノ外上官ノ

指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則者ノ處分ニ關スル事務ニ從事ス
 第十二條 稅關ニ稅關監視部ヲ置ク(三十五年勅令第二百十四號ヲ以テ條中追加)
 稅關監視部ニ部長一人ヲ置キ監視官又ハ監視ヲ以テ之ニ充ツ
 稅關監視部長ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則者ノ處分ニ關スル事務ヲ掌理ス
 第十三條 稅關管轄區域内必要ナル場所ニ稅關支署及稅關監視署ヲ置クコトヲ得
 稅關支署ノ名稱位置及管轄區域並稅關監視署ノ名稱位置ハ臺灣總督ノ決定ス
 第十四條 稅關支署ニ支署長一人ヲ置キ屬下以テ之ニ充ツ
 稅關支署長ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ其ノ管轄内ノ稅關事務ヲ掌理ス
 第十五條 稅關監視署ニ署長一人ヲ置キ監視官ハ監視ヲ以テ之ニ充ツ
 稅關監視署長ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則者ノ處分ニ關スル事務ヲ掌理ス
 附則
 本令ハ明治三十四年四月十五日ヨリ之ヲ施行ス
 ●臺灣總督府稅關管轄區域
 (明治三十四年四月勅令第五十二號)
 朕臺灣總督府稅關管轄區域ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 臺灣總督府稅關管轄區域左ノ通之ヲ定ム
 淡水稅關管轄區域
 四線溪ヨリ北方富基嶼ヲ回リ南方花蓮港ニ至ル沿岸
 安平稅關管轄區域

花港港ヨリ南方富基嶼ヲ回リ北方四線溪ニ至ル沿岸及澎湖列島、小琉球島、紅頭嶼、火燒島ノ沿岸
 附則
 本令ハ明治三十四年四月十五日ヨリ之ヲ施行ス
 ●臺灣關稅及出港稅訴願審查委員會規則
 (明治三十二年九月勅令第三百八十七號)
 朕臺灣關稅及出港稅訴願審查委員會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 臺灣關稅及出港稅訴願審查委員會規則
 第一條 關稅法第六十九條ニ依ル委員ハ臺灣關稅及出港稅訴願審查委員會ト稱シ會長一人委員五人ヲ以テ組織ス
 第二條 會長ハ臺灣總督府民政長官委員ハ臺灣總督府高等官三人臺灣總督府法院判官二人ヲ以テ之ニ充ツ
 第三條 特別ノ必要アル場合ニ於テハ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得
 第四條 委員ハ臺灣總督府ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
 第五條 會長事故アルトキハ其ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム
 第六條 關稅及出港稅訴願審查委員會ニ幹事一人ヲ置キ臺灣總督府高等官ヲ以テ之ニ充ツ
 第七條 關稅及出港稅訴願審查委員會ニ書記二人ヲ置キ臺灣總督府屬下以テ之ニ充ツ
 第八條 書記ハ幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
 第九條 書記ハ事務ノ繁閑ニ應ジ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得
 ●臺灣總督府師範學校官制

(明治三十二年三月勅令第九十七號)
 朕臺灣總督府師範學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 臺灣總督府師範學校官制
 第一條 臺灣總督府師範學校ハ臺灣總督府ノ管理ニ屬シ國語傳習所公學校及書房藝藝ノ教員トナルヘキ者ヲ養成スル所トス(三十四年勅令第二百三號ヲ以テ條中改正)
 第二條 臺灣總督府師範學校ニ附屬學校ヲ附設ス
 第三條 臺灣總督府師範學校ニ左ノ職員ヲ置ク
 校長
 教授
 助教授
 教諭
 會監
 書記
 第四條 學校長ハ各校一人奏任トス臺灣總督府ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス(三十四年勅令第二百三號ヲ以テ條中改正)
 第五條 教授ハ各校專任二人奏任トス師範學校生徒ノ教授ヲ掌ル(三十二年勅令第四百三十一號ヲ以テ條中改正)
 第六條 助教授ハ各校四人列任トス教授ノ職務ヲ助ク
 第七條 教諭ハ各校專任二人列任トス附屬學校生徒ノ教授ヲ掌ル(同上)
 第八條 會監ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ取締ニ關スル事務ヲ掌ル
 第九條 書記ハ助教授ヨリ之ヲ兼テシム
 第十條 書記ハ各校專任二人列任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス(三十二年勅令第四百三

十一號ヲ以テ條中改正)

第九條 臺灣總督ハ教授若ハ助教ノ内ヨリ附屬學校主事ヲ命シ同校ニ關スル事務ヲ掌ラシムルコトヲ得(三十四年勅令第二百三號ヲ以テ條中改正)

第十條 師範學校設置ノ場所ハ臺灣總督ノ指定スル所ニ依ル

第十一條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

●臺灣總督府國語學校官制

(明治三十年七月)
(勅令第二百四十二號)

(三十年勅令第三百六十五號三十二年同第十一號三十四年同第三百七號第三百九十七號三十四年同第八十五號三十五年同第七號九十五號ヲ以テ本令中改正)

朕臺灣總督府國語學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 臺灣總督府國語學校ニ附屬學校ヲ附設ス

第二條 臺灣總督府國語學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

教授

助教

助教授

教諭

會監

書記

第三條 校長ハ一人委任トス臺灣總督ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條 教授ハ專任十人委任トス國語學校生徒ノ教授ヲ掌ル

第五條 臺灣總督ハ前二條定員ノ外必要ニ應シ條給定額内ニ於テ臺灣總督府ニ技師及技手ヲ置クコトヲ得

第六條 技師ハ委任トス局長ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 技手ハ列任トス上官ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從フ

第八條 臺灣總督府ノ名稱位置及其ノ管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●臺灣樟腦局官制

(明治三十三年七月)
(勅令第三百二二號)

朕臺灣樟腦局官制ヲ改正シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 臺灣樟腦局ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ樟腦及樟腦油ノ收納製煉検査及製造ニ關スル事務ヲ掌理ス

第二條 臺灣樟腦局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長 一人

事務官 專任三人

技師 專任二人

書記 專任六十九人

技手 專任三十五人

第三條 局長ハ臺灣總督府勅任官ヲ以テ之ニ充ツ

局長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

局長ハ委任官ノ進退ハ之ヲ臺灣總督ニ具狀シ列任官以下ハ之ヲ行フ

第四條 事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ關スル事務ヲ分掌ス

第五條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ分掌ス

第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第八條 臺灣總督ハ第二條定員ノ外必要ニ應シ條給定額内ニ於テ技師及技手ヲ置クコトヲ得

第九條 臺灣總督ハ必要ニ應シ地方ニ支局ヲ置キ局中ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第十條 支局長ハ事務官技師又ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ

支局長ハ局長ノ指揮ヲ承ケ支局ノ事務ヲ掌理ス

第十一條 支局ノ名稱位置及其ノ管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

●臨時臺灣糖務局官制

(明治三十年六月)
(勅令第三百六十三號)

朕臨時臺灣糖務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 臨時臺灣糖務局ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ甘蔗耕作及砂糖製造ノ改良及獎勵ニ關スル事務ヲ掌理ス

第二條 臨時臺灣糖務局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長 一人

事務官 專任一人

技師 專任四人

技手 專任三十人

第三條 前條定員ノ外必要ニ應シ條給定額内ニ於テ技師及技手ヲ置クコトヲ得

第五條 局長ハ臺灣總督府高等官ヲ以テ之ニ充ツ局長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス

第六條 事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第七條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第八條 局長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十條 通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第十一條 臺灣總督ハ必要ニ應シ地方ニ支局ヲ置キ局中ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第十二條 支局長ハ事務官技師又ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ

支局長ハ局長ノ指揮ヲ承ケ支局ノ事務ヲ掌理ス

第十三條 支局ノ名稱位置及其ノ管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

第十四條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第十五條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十六條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十七條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十八條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第十九條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第二十一條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第二十二條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十三條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第二十四條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第二十五條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十六條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第二十七條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第二十八條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十九條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第三十條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第三十一條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十二條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第三十三條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第三十四條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十五條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第三十六條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第三十七條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十八條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第三十九條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第四十條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十一條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第四十二條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第四十三條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十四條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第四十五條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第四十六條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十七條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第四十八條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第四十九條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五十條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第五十一條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第五十二條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五十三條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第五十四條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第五十五條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五十六條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第五十七條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第五十八條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五十九條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第六十條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第六十一條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六十二條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第六十三條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第六十四條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六十五條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第六十六條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第六十七條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六十八條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第六十九條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第七十條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七十一條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第七十二條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第七十三條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七十四條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第七十五條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第七十六條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七十七條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第七十八條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第七十九條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八十條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第八十一條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第八十二條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八十三條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第八十四條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第八十五條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八十六條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第八十七條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第八十八條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八十九條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第九十條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第九十一條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九十二條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第九十三條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第九十四條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九十五條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第九十六條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第九十七條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九十八條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第九十九條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第一百條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

助教授ハ專任二十五人列任トス教授ノ職務ヲ助ケ

第五條 教授ハ專任十人列任トス附屬學校生徒ノ教授ヲ掌ル

第六條 會監ハ委任又ハ列任トス學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ取締ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 書記ハ專任六人列任トス學校長ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第八條 臺灣總督ハ國語學校教官ノ中ヨリ附屬學校ノ主事ヲ命シ同校ニ關スル事務ヲ掌ラシムルコトヲ得

●臺灣總督府醫學學校官制

(明治三十二年三月)
(勅令第九十五號)

朕臺灣總督府醫學學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 臺灣總督府醫學學校ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ醫師ヲ養成スル所トス

第二條 臺灣總督府醫學學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

教授

助教

助教授

會監

書記

第三條 校長ハ一人委任トス臺灣總督ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條 教授ハ專任五人委任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

第五條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ分掌ス

第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第八條 臺灣總督ハ第二條定員ノ外必要ニ應シ條給定額内ニ於テ技師及技手ヲ置クコトヲ得

第九條 臺灣總督ハ必要ニ應シ地方ニ支局ヲ置キ局中ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第十條 支局長ハ事務官技師又ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ

支局長ハ局長ノ指揮ヲ承ケ支局ノ事務ヲ掌理ス

第十一條 支局ノ名稱位置及其ノ管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

助教授ハ專任五人委任又ハ列任トス教授ノ職務ヲ助ケ

第五條 會監ハ專任一人委任又ハ列任トス校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ取締ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 書記ハ專任五人列任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

附則

本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

●臺灣鹽務局官制

(明治三十二年三月十三日)
(勅令第五十一號)

朕臺灣鹽務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣鹽務局官制

第一條 臺灣鹽務局ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ食鹽ノ收納製煉検査及其ノ他食鹽販賣ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第二條 臺灣鹽務局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長

事務官

第三條 局長ハ各局一人事務官ヲ以テ之ニ充ツ事務官ヲ置カサル局ニ於テハ屬ヲ以テ之ニ充ツ

局長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

事務官ハ委任トス各局ヲ通シテ專任二人ヲ以テ定員トス

第四條 屬ハ列任トス各局ヲ通シテ專任八十四人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第四條 局長ハ臺灣總督府高等官ヲ以テ之ニ充ツ局長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス

第五條 事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第六條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第七條 局長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第九條 通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第十條 臺灣總督ハ必要ニ應シ地方ニ支局ヲ置キ局中ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第十一條 支局長ハ事務官技師又ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ

支局長ハ局長ノ指揮ヲ承ケ支局ノ事務ヲ掌理ス

第十二條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第十三條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十四條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十五條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十六條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第十七條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十八條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十九條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第二十條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十一條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第二十二條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第二十三條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十四條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第二十五條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第二十六條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十七條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第二十八條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第二十九條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第三十一條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第三十二條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十三條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第三十四條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第三十五條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十六條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第三十七條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第三十八條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十九條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第四十條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第四十一條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十二條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第四十三條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第四十四條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十五條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第四十六條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第四十七條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十八條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第四十九條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第五十條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五十一條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第五十二條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第五十三條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五十四條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第五十五條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第五十六條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五十七條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第五十八條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第五十九條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六十條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第六十一條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第六十二條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六十三條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第六十四條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第六十五條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六十六條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第六十七條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第六十八條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六十九條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第七十條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第七十一條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七十二條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第七十三條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第七十四條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七十五條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第七十六條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第七十七條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七十八條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第七十九條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第八十條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八十一條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第八十二條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第八十三條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八十四條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第八十五條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第八十六條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八十七條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第八十八條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第八十九條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九十條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第九十一條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第九十二條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九十三條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第九十四條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第九十五條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九十六條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第九十七條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第九十八條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九十九條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第一百條 支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ通譯ニ從事ス

臺灣總督府鐵道部官制

(明治三十二年十一月)
(勅令第四百二十六號)

朕臺灣總督府鐵道部官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 臺灣總督府鐵道部ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ鐵道ノ建設、保存、運輸及私設鐵道ニ關スルコトヲ掌ル

第三條 臺灣總督府監獄ノ構造役業ノ種類其ノ他特別ノ事情アリト認ムルトキハ第一條定員ノ外更ニ五十人以下ノ看守ヲ増置スルコトヲ得

第四條 禁男子百人未滿ノ監獄看守定員ハ第一條看守定員最少數以內ニ於テ臺灣總督ノ定ムル所ニ依ル(三十三年勅令第三百六十一號ヲ以テ條中改正)

第五條 在監人ノ減少ニ由リ看守ニ過員ナ生シタルトキハ之ニ休職ヲ命シ俸給ノ半額ヲ支給スルコトヲ得但シ休職ハ一箇年ヲ期トシ期滿ツレハ其ノ職ヲ免セラレタルモノトス

休職看守ハ職ヲ執ラサルノ外總テ在職者ニ同シ

休職看守ハ警約期限内ト雖モ自己ノ都合ニ依リ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得

附則

本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

●臺灣總督府管内街、庄、社ニ長ヲ置ク (明治三十年五月) (勅令第三百五十七號)

第一條 臺灣總督府管内各街、庄、社若ハ數街、庄、社ニ長ヲ置ク

第二條 街、庄、社長ハ廳長又ハ支廳長ノ指揮命令ヲ承ケ部内ノ行政事務ヲ補助執行ス(三十四年勅令第二百十五號ヲ以テ條中改正)

第三條 街、庄、社長股置ニ關シ必要ナル規程ハ臺灣總督之ヲ定ム

第四條 街、庄、社長ニハ事務費トシテ一箇月十五圓以內ヲ給スルコトヲ得

●臺灣公學校官制 (明治三十一年七月) (勅令第三百七十九號)

第一條 臺灣公學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

教諭

第二條 學校長ハ各校一人列任トス廳長又ハ支廳長ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス(三十四年勅令第二百六號ヲ以テ條中改正)

第三條 教諭ハ列任トス生徒ノ教授ヲ擔任シ校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四條 訓導ハ列任官ノ待遇トス教諭ノ職務ヲ助ク

附則

本令ハ明治三十一年十月一日ヨリ施行ス

●臺灣小學校官制 (明治三十五年五月) (勅令第五百二十二號)

第一條 臺灣小學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

教諭

第二條 學校長ハ各校一人列任トス廳長ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

學校長ハ教諭ヲシテ之ヲ兼テシム

●臺灣總督府國語傳習所官制 (明治三十年七月) (勅令第二百四十三號)

第一條 臺灣總督府國語傳習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

教諭

第二條 所長ハ各所一人列任トス高等官又ハ教諭ヲシテ之ヲ兼テシム

所長ハ知事、廳長ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第三條 教諭ハ十八人列任トス生徒ノ教授ヲ掌ル(三十四年勅令第八十六號三十五年同第九十六號ヲ以テ條中改正)

第四條 書記ハ三人列任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス(同之)

●警視廳官制 (明治二十六年十月) (勅令第五百十九號)

第一條 警視廳ニ左ノ職員ヲ置ク

警視總監

警視

技師

警察廳長

典獄

警部

警視廳

技師

技手

消防士

警察醫

監獄書記

看守長

消防機關士

通譯

第二條 警視總監ハ一人列任トス

第三條 警視ハ二十七人、警察廳長ハ一人、典獄ハ三人列任トス

第四條 警部、警視廳、消防士、警察醫、監獄書記、看守長及消防機關士ハ列任トス

警部、警視廳、消防士、警察醫、監獄書記、看守長及消防機關士ノ定員ハ通シテ二百九十九人トシ其ノ各官ノ定員ハ主務大臣ノ認可ヲ經テ警視總監之ヲ定ム

第五條 技師技手及通譯ハ警視廳ノ須要ニ依リ俸給豫算定額內ニ於テ之ヲ置クコトヲ得

第六條 警視總監ハ主務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ東京府下ノ警視消防及監獄ノ事務ヲ掌理ス

第七條 警視總監ハ各省ノ主務ニ關スル警察事務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ高等警察事務ニ就テハ内閣總理大臣及內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ

第八條 警視總監ハ東京府下ノ警察事務ニ付其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其ノ一部ニ關シテ發スルコトヲ得

第九條 警視總監ハ其ノ主務ニ就テハ東京府下ノ島司、郡市區長及町村長ヲ指揮監督ス

第十條 警視總監ハ所部ノ官吏ヲ監督シ委任官ノ進退ハ主務大臣ニ具狀シ列任官以下ハ之ヲ專行ス

第十一條 警視總監ハ所部ノ委任官ノ懲戒ヲ主務大臣ニ具狀シ列任官以下ハ之ヲ專行ス

第十二條 警視總監ハ廳中庶務ノ細則ヲ設ケルコトヲ得

第十三條 警視總監事故アルトキハ上府警視其ノ職務ヲ代理ス

第十四條 警視總監ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十五條 警視總監ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ島司ニ委任スルコトヲ得

第十六條 警視總監ハ島司ノ處分若クハ命令ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ職權ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分若クハ命令ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第十七條 警視總監ニ總監官房ヲ置ク

第十八條 警視廳ニ三課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一 各部製成案ノ審査及制規ニ關スル事項

二 官吏ノ進退及身分ニ關スル事項

三 公文ノ編纂、保存、統計並書籍ノ管理ニ關スル事項

四 文書ノ往復及官印印用ノ管理ニ關スル事項

五 他課及各部署ノ主務ニ屬セサル事項

第二課

一 高等警察ニ關スル事項

二 外國人ニ關スル事項

第三課

一 經費豫算、決算及金錢出納ニ關スル事項

二 金錢物品出納ノ検査ニ關スル事項

三 需用物品ノ調度及地所建物ニ關スル事項

四 官沒並保管ノ金錢物品及不用品ニ關スル事項

第十五條 總監官房ニ主事一人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ補ス

主事ハ警視總監ノ命ヲ承ケ官房ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

官房第二課長ハ主事ヲ以テ之ニ充テ第一課長及第三課長ハ警部警視廳ヲ以テ之ニ充ツ

官房各課員ハ警部警視廳通譯ヲ以テ之ニ充ツ

課長ハ上官ノ命ヲ承ケ其ノ課ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス課員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其課ノ庶務ニ從事ス

第十六條 警視廳ニ左ノ部署ヲ置ク

第一部 第二部 第三部

第四部 消防署

第十七條 第一部ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一課
一 犯罪ノ捜査、刑餘人、無賴徒、變死傷者其ノ他公安ニ關スル事項
二 失踪者、遺棄者、不其子弟、棄兒、迷兒及尸口民等ニ關スル事項
三 遺失物埋藏物等ニ關スル事項

第二課
一 警衛ニ關スル事項
二 警署警察分署派出所等ノ廢置及其ノ職員ノ配置ニ關スル事項
三 巡查召集及其ノ教習ニ關スル事項

第十八條 第二課ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ
第一課 營業及風俗警察並銃砲火藥刀劍等ニ關スル事項
第二課 交通警察並田野森林河海堤防取締及水火災預防等ニ關スル事項

第十九條 (削除)

第二十條 第三課ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ
第一課 衛生警察ニ關スル事項
第二課 警察監獄ニ關スル職務及分析等ニ關スル事項

第二十一條 第一部長、第二部長ハ警視、第三部長ハ警署長、第四部長ハ典獄ヲ以テ之ニ充ツ
部長事故アルトキハ警視總監ニ於テ警視廳官吏

ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム
第一部長及第二部長ノ課長ハ警部又ハ警視廳、課員ハ警部、警視廳ヲ以テ之ニ充ツ
第三部長ノ課長ハ警視廳又ハ警署長、課員ハ警視廳、警署長ヲ以テ之ニ充ツ
第四部長ハ監獄書記官守長ヲ以テ之ニ充テ監獄署員ノ内ヲシテ之ヲ兼テシム
第二十二條 部長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ其ノ部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
第一部長ハ警署事務ニ付警署長以下第四部長ハ監獄事務ニ付監獄署長以下ヲ指揮スルコトヲ得
課長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課務ヲ處理シ課員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課ノ庶務ニ從事ス
第二十三條 消防署ニ於テハ水火消防ニ關スル事項ヲ掌ル
第二十四條 警視總監ハ東京市内ニ消防分署ヲ配置ス
第二十五條 消防署長ハ第一部長又ハ第二部長タル警視ヲ以テ兼補シ、警員ハ消防士、消防機關士ヲ以テ之ニ充ツ
消防署長事故アルトキハ警視總監ニ於テ警視廳官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム
消防分署長ハ消防士、分署員ハ消防士、消防機關士ヲ以テ之ニ充ツ
第二十六條 消防署長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ其ノ署ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
警署長ハ水火災ニ際シ消防署長出動前ニ於テ消防分署長以下ヲ指揮スルコトヲ得
消防分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ分署ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
消防士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ消防組ヲ指揮監督ス

消防機關士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ消防機關ノ運用ヲ掌ル
第二十七條 東京府下ニ三監獄署ヲ置ク在監人ノ分配ハ警視總監之ヲ定ム
監獄署ニ分課ヲ設ケルコトヲ要スルトキハ警視總監之ヲ定メ司法大臣ニ報告スヘシ
第二十八條 警視總監ハ司法大臣ノ認可ヲ經テ東京府下ニ監獄支署ヲ置クコトヲ得
第二十九條 監獄署長ハ典獄ヲ以テ之ニ充ス但シ監獄署長ノ内一人ハ第四部長ヲシテ之ヲ兼テシム
監獄署長事故アルトキハ警視總監ニ於テ警視廳官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム
監獄支署長ハ監獄書記官ヲ以テ之ニ充ツ
第三十條 監獄署長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ監獄ニ關スル事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
監獄支署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ニ關スル事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
監獄署員監獄支署員ハ監獄書記官守長ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ事務ニ從事ス
看守長ハ前項職務ノ外看守ヲ指揮監督ス
第三十一條 東京府下ニ二十三警署ヲ置ク其ノ管轄區域ハ別表ノ定ムル所ニ依ル
東京府下ニ一水上警察署ヲ置ク
警視總監ハ警察署ノ下ニ便宜分署ヲ置クコトヲ得
第三十二條 警察署長ハ警視署員ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ
警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ
必要ノ場合ニ於テハ警部ヲ以テ分署員ニ充ツルコトヲ得
第三十三條 警察署長、警察分署長ハ上官ノ指揮

ナ承ケ其ノ署ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
署員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署ノ事務ニ從事シ
巡查ヲ指揮監督ス
第三十四條 警視廳職員ノ外監獄署ヲ置ク列任官ノ待遇トス
第三十五條 巡查及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル
第三十六條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス
(別表)

警察署管轄區域表	署名	管轄區域
麹町警察署	麹町區	
神田警察署	神田區	
日本橋警察署	日本橋區	
京橋警察署	京橋區	
芝警察署	芝區	
麻布警察署	麻布區	
赤坂警察署	赤坂區	
四谷警察署	四谷區	
牛込警察署	牛込區	
小石川警察署	小石川區	

本郡警察署	本郡區	
下谷警察署	下谷區	
淺草警察署	淺草區	
本所警察署	本所區	
深川警察署	深川區	
品川警察署	荏原郡	
新宿警察署	南豐島郡 東多摩郡	
板橋警察署	北豐島郡 東多摩郡	
千住警察署	南葛飾郡 南足立郡 南荒川郡 南葛飾郡 南足立郡 南荒川郡	
小松川警察署	南葛飾郡 南足立郡 南荒川郡	
八王子警察署	南多摩郡	
府中警察署	北多摩郡	
青梅警察署	西多摩郡	

第一條 北海道官制
長官
事務官
警部長
支署長
警署官
警視官
技師
典獄
視學
技手
翻譯生
監獄書記
看守長
監獄署
第二條 長官ハ一人勅任トス

● 北海道廳官制(明治三十年十月(勅令第三百九十二號)
(三十一年勅令第三百五號三十二年同第
二百五十二號三十三年同第二百六十一號
三十四年同第四十七號第九十七號三十五
年同第六十九號第六十八號ヲ以テ本令
中改正)

朕北海道廳官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第三條 事務官ハ專任三人委任トシ内務部長、殖
民部長及土木部長ニ充ツ但シ内務部長ニ充ツル
事務官ハ勅任トナスコトヲ得

第四條 警部長ハ一人委任トシ警務部長ニ充ツ
事務官ハ各支廳一人委任トス

第五條 支廳長ハ各支廳一人委任トス

第六條 警事官二人視學官一人警視九人及典獄一
人委任トス

第七條 技師ハ專任十六人ヲ以テ定員トス

第八條 屬、視學、警部、翻譯生、監獄書記、看守長、監
獄醫ハ列任トス屬、警部、監獄書記、看守長、監
獄醫ヲ通シテ四百五十九人ヲ以テ定員トス

第九條 視學ノ定員ハ内務大臣及文部大臣之ヲ定
ム

第十條 技師ハ四百七十七人ヲ以テ定員トス

第十一條 前各條ノ定員ノ外農事試驗ニ關スル
職員ヲ置キ其ノ定員ハ專任技師三人、技手二人
トス

第十二條 長官ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ各省ノ主務
ニ就テハ各省大臣ノ監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行
シ北海道ノ拓殖民部内ノ行政事務ヲ總理ス

第十三條 長官ハ屯田兵ノ開墾授産ノ事務ヲ監督ス

第十四條 長官ハ北海道ノ事務ニ付其ノ職權若ハ
特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其ノ一部ニ應令
ヲ發スルコトヲ得

第十五條 長官ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要
シ又ハ警備ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ師團長ニ
移駐シ出兵ヲ請フコトヲ得

第十六條 長官ハ支廳長ノ處分若ハ命令ノ成規ニ
違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ム
ルトキハ其ノ處分若ハ命令ヲ取消シ又ハ停止ス
ルコトヲ得

第十七條 長官ハ所部ノ官吏ヲ統督シ高等官ノ進
退ハ内務大臣若ハ主務大臣ニ具狀シ列任官以下
ハ之ヲ專行ス

第十八條 長官ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部
ノ官吏ヲ懲戒ス其ノ高等官ニ係ルモノハ之ヲ内
務大臣若ハ主務大臣ニ具狀シ其ノ他ハ之ヲ專行
ス

第十九條 長官ハ廳中及所轄官廳ノ分課並處務細
則ヲ定ムルコトヲ得

第二十條 長官事務故アルトキハ内務部長タル事務
官其ノ職務ヲ代理ス

第二十一條 長官及内務部長タル事務官共ニ事故アルトキハ
内務大臣ニ於テ道廳高等官ノ内一名ヲシテ其ノ
職務ヲ代理セシム

第二十二條 長官ハ道廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時
代理セシムルコトヲ得

第二十三條 長官ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ支廳長ニ
委任スルコトヲ得

第二十四條 北海道廳ニ長官官房ヲ置キ左ノ事務ヲ
掌ラシム

一 官吏ノ進退身分及褒賞ニ關スル事項

二 文書ノ往復及記録編纂ニ關スル事項

三 官印及印章ノ管理ニ關スル事項

第二十五條 道廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲メ左ノ四
部及一署ヲ置ク

内務部

殖民部

土木部

警務部

監獄署

第二十六條 内務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 支廳、戶長役場、郡町村總代人及區町村其ノ
他公共組合ニ關スル事項

課務ヲ掌理セシム

課長ハ屬警部監獄書記又ハ看守長ヲ以テ之ニ充
ツ但シ警事官視學官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツル
コトアルヘシ

第二十七條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十八條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ノ
視察其ノ他學事ニ關スル庶務ニ從事ス

第二十九條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事
ス

第三十條 警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警務事務ヲ分
掌シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第三十一條 翻譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ翻譯通譯
ニ從事ス

第三十二條 監獄書記ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ
從事ス

第三十三條 看守長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒
護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス

第三十四條 監獄醫ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ監獄ニ係
ル醫務ニ從事ス

第三十五條 管内須要ノ地ニ道廳支廳ヲ置ク

第三十六條 支廳ノ位置名稱及管轄區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定
ム

第三十七條 每郡區若ハ數郡區ニ警察署ヲ置キ各
警察署部内ニ警察分署ヲ配置ス但シ郡區ノ區域
ニ依ラズシテ警察署ヲ置クコトヲ得

第三十八條 警察署及警察分署ノ位置名稱及管轄區域ハ長官
之ヲ定ム

第三十九條 警察署長ハ警視又ハ警部ヲ以テ之ニ
充ツ分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

第四十條 警察署長及警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ

二 職員選舉、北海道會及北海道地方費ニ關ス
ル事項

三 賑恤救濟ニ關スル事項

四 兵事、社寺及教育ニ關スル事項

五 外國人ニ關スル事項

六 豫算、決算、會計、官有財產及物品ニ關スル
事項

七 所轄官廳ノ會計監督ニ關スル事項

八 出納官吏ノ身元保證ニ關スル事項

九 (削除)

十 (削除)

十一 統計報告ニ關スル事項

十二 廳中他部署ノ主掌ニ屬セサル事項

第十三條 殖民部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 殖民地ノ選定經營其ノ他殖民ニ關スル事項

二 土地ノ處分及開墾ニ關スル事項

三 地籍ニ關スル事項

四 官有地管理ニ關スル事項

五 土地收用ニ關スル事項

六 農商工務ニ關スル事項

七 水陸運輸ニ關スル事項

八 水産及漁獵ニ關スル事項

九 山林ニ關スル事項

第二十條 土木部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 土木ニ關スル事項

二 水面埋立ニ關スル事項

第二十一條 警務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 行政警察ニ關スル事項

二 高等警察ニ關スル事項

三 圖書出版及版權ニ關スル事項

四 衛生ニ關スル事項

第二十二條 (削除)

第二十五條 (削除)

第二十六條 監獄署ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 道廳監獄ニ關スル事項

第二十七條 部長ハ長官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌
理シ及部中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

第二十八條 支廳長ハ長官ノ指揮監督ヲ承ケ法律
命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理ス

第二十九條 支廳長ハ行政事務ニ就テ其ノ部内ノ
局長ヲ指揮監督ス

第三十條 支廳長ハ法律命令ニ依リ若ハ長官ヨリ
委任セラレタル事件ニ付支廳令ヲ發スルコトヲ
得

第三十一條 支廳長事務故アルトキハ其ノ廳勤務ノ
上席屬其ノ職務ヲ代理ス

第三十二條 支廳長ハ其ノ廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ
臨時代理セシムルコトヲ得

第三十三條 警事官ハ長官ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ具
ヘ及審議立案ヲ掌ル

第三十四條 警事官ハ長官ノ命ヲ承ケ官房ノ事務
ヲ掌理シ又ハ各部課ノ事務ヲ助クルコトアルヘ
シ

第三十五條 二 視學官ハ上官ノ命ヲ承ケ學事ノ
視察其ノ他學事ニ關スル事務ヲ掌ル

第三十六條 警視ハ警察部ニ屬シ又ハ警察署長ト
爲リ上官ノ命ヲ承ケ其ノ事務ヲ掌理ス

第三十七條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事
ス

第三十八條 典獄ハ監獄署長ト爲リ長官ノ命ヲ承
ケ其ノ主務ヲ掌理シ及署中各課ノ事務ヲ指揮監
督ス

第三十九條 長官官房及各部署中便宜課ヲ設クル
トキハ各課ニ課長一人ヲ置キ部署長ノ指揮ヲ承

課務ヲ掌理セシム

課長ハ屬警部監獄書記又ハ看守長ヲ以テ之ニ充
ツ但シ警事官視學官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツル
コトアルヘシ

第三十八條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十九條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ノ
視察其ノ他學事ニ關スル庶務ニ從事ス

第四十條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事
ス

第四十一條 警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警務事務ヲ分
掌シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第四十二條 翻譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ翻譯通譯
ニ從事ス

第四十三條 監獄書記ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ
從事ス

第四十四條 看守長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒
護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス

第四十五條 監獄醫ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ監獄ニ係
ル醫務ニ從事ス

第四十六條 管内須要ノ地ニ道廳支廳ヲ置ク

第四十七條 支廳ノ位置名稱及管轄區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定
ム

第四十八條 每郡區若ハ數郡區ニ警察署ヲ置キ各
警察署部内ニ警察分署ヲ配置ス但シ郡區ノ區域
ニ依ラズシテ警察署ヲ置クコトヲ得

第四十九條 警察署及警察分署ノ位置名稱及管轄區域ハ長官
之ヲ定ム

第五十條 警察署長ハ警視又ハ警部ヲ以テ之ニ
充ツ分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

第五十一條 警察署長及警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ

署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第四十八條 監獄支署若キテ置キ監獄書記ヲ以テ
其ノ長ニ充ツ

監獄支署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ支署主管ノ
事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第四十九條 巡查看守及森林監守ニ係ル規程ハ別
ニ定ムル所ニ依ル

附則

第五十條 本令ハ明治三十年十一月五日ヨリ施行
ス

第五十一條 從前ノ法律命令ニ於テ北海道郡區長
ノ管掌ニ屬シタル事項ハ北海道廳支廳長ニ於テ
處理スヘキモノトス

從前郡區長ノ兼掌シタル局長ノ事務ハ支廳長ニ
於テ之ヲ其ノ職在勸勵ニ委任スルコトヲ得

北海道廳支廳長ノ發スル支廳令ニハ明治二十六
年勅令第九十九號中郡令ニ關スル規程ヲ適用
ス

第五十二條 臨時北海道鐵道敷設部官制及北海道
廳臨時築港ニ要スル職員ハ本令施行ノ日ヨリ廢
止ス

●北海道廳支廳ノ名稱位置及
管轄區域 (明治三十年十月
勅令第三百九十五號)

朕北海道廳支廳ノ名稱位置及管轄區域ニ關スル件
ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道廳支廳ノ名稱位置及管轄區域別表ノ通定ム

附則

本令ハ明治三十年勅令第三百九十二號北海道廳官
制施行ノ日ヨリ施行ス

(別表) (三十二年勅令第九十一號第三百八
十五號三十四年同第十三號ヲ以テ表中改正)

Table with 4 columns: 名稱 (Name), 位置 (Location), 管轄區域 (Jurisdiction Area), and 管轄支廳 (Subprefecture). Lists various subprefectures like 札幌支廳, 釧路支廳, etc., and their respective locations and jurisdictions.

Table with 4 columns: 支廳名稱 (Subprefecture Name), 支廳位置 (Subprefecture Location), 支廳管轄區域 (Subprefecture Jurisdiction Area), and 支廳管轄支廳 (Subprefecture Subprefecture). Lists subprefectures like 釧路支廳, 十勝支廳, etc., and their subprefectures.

北海道廳長官ノ命ヲ承ケ一切ノ部務ヲ掌理ス
第三條 部長ハ北海道廳高等官ヲシテ之ヲ兼テシム
部長ハ北海道廳長官ノ命ヲ承ケ一切ノ部務ヲ掌理ス
第四條 鐵道事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務運輸ヲ掌ル
第五條 鐵道技師ハ上官ノ命ヲ承ケ工務ヲ掌ル
第六條 鐵道書記ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務運輸ニ從事ス
第七條 鐵道技師ハ上官ノ命ヲ承ケ工務ニ從事ス
第八條 北海道廳長官ハ内務大臣ノ許可ヲ經テ必要ノ地ニ鐵道業務ヲ取扱フ爲メ支所ヲ置キ鐵道部ノ業務ヲ分掌セシムルコトヲ得(三十三年勅令第三十三號ヲ以テ改正)

北海道衛生會規則 (明治二十九年九月)

第一條 北海道衛生會ハ北海道廳長官ノ監督ニ屬シ其ノ諮詢ニ應ジテ管内公衆衛生改善衛生ニ關スル事項ヲ審議ス
第二條 北海道衛生會ハ前條ノ事項ニ就テハ北海道廳長官ニ建議スルコトヲ得
第三條 北海道衛生會ハ諸事整理ノ爲メ規則ヲ制定シ北海道廳長官ノ認可ヲ受ケヘシ
第四條 北海道衛生會ハ會長一人委員十二人ヲ以テ之ヲ組織ス
會長ハ北海道廳長官ヲ以テ之ニ充ツ
委員ハ事務官一人、警部長、參事官一人、支廳長四人、醫師三人、獸醫一人、藥學家一人ヲ以テ之ニ充ツ(三十一年勅令第三百四十二號ヲ以テ修正)

北海道鐵道部官制 (明治三十年六月)

第一條 北海道鐵道部ハ北海道廳長官ノ監督ニ屬シ其ノ業務ヲ掌理ス
第二條 北海道鐵道部ハ左ノ職員ヲ置ク(三十三年勅令第三百二十三號三十五年同第七十號ヲ以テ修正)
部長 一人
鐵道事務官 一人
鐵道技師 專任十四人 內一人ハ勅任ト爲スコトヲ得
鐵道書記 專任百四十人 內任專任九十八人

北海道廳府縣恩給顧問醫ノ醫術上事項審査ニ關スル件 (明治三十三年六月)

第一條 北海道廳府縣恩給顧問醫ノ醫術上事項審査ニ關スル件ハ北海道廳長官ノ命ヲ承ケ一切ノ部務ヲ掌理ス
第二條 鐵道事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務運輸ヲ掌ル
第三條 鐵道技師ハ上官ノ命ヲ承ケ工務ヲ掌ル
第四條 鐵道書記ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務運輸ニ從事ス
第五條 鐵道技師ハ上官ノ命ヲ承ケ工務ニ從事ス
第六條 北海道廳長官ハ内務大臣ノ許可ヲ經テ必要ノ地ニ鐵道業務ヲ取扱フ爲メ支所ヲ置キ鐵道部ノ業務ヲ分掌セシムルコトヲ得(三十三年勅令第三十三號ヲ以テ改正)

Table with columns: 名稱, 位置, 管轄區域. Lists administrative divisions of Hokkaido including 札幌支廳, 釧路支廳, 網走支廳, etc.

Table with columns: 名稱, 位置, 管轄區域. Lists administrative divisions of Hokkaido including 釧路支廳, 十勝支廳, 根室支廳, etc.

北海道廳長官ノ命ヲ承ケ一切ノ部務ヲ掌理ス... 第三條 部長ハ北海道廳高等官ニシテ之ヲ兼テシム...

●北海道衛生會規則 (明治二十九年九月)

第一條 北海道衛生會ハ北海道廳長官ノ監督ニ屬シ其ノ諮詢ニ應ジテ管内公衆衛生ニ關スル事項ヲ審議ス...

●北海道鐵道部官制 (明治三十年六月)

第一條 北海道鐵道部ハ北海道鐵道部ヲ置キ北海道ニ於ケル官有鐵道ノ建設保存及運輸ノ業務ヲ掌理セシム...

●北海道廳府縣恩給顧問醫ノ醫術上事項審査ニ關スル件 (明治三十三年六月)

第一條 北海道廳府縣ニ地方視學ヲ置クノ件ヲ裁可シ其ニ之ヲ公布セシム...

二 地理ニ關スル事項
 三 土地收用ニ關スル事項
 第三課 教育學藝ニ關スル事項
 第四課 農工商ニ關スル事項
 一 農工商ニ關スル事項
 二 森林及水産ニ關スル事項
 三 度量衡ニ關スル事項
 第五課 一 府縣ニ屬スル國庫費ノ會計ニ關スル事項
 二 府縣經濟ニ關スル收支出納ニ關スル事項
 第十八條 警察部ニ於テハ高等警察、行政警察及衛生ノ事務ヲ掌ル
 第十九條 (二十九年勅令第三百三十七號ニ依リ消滅)
 第二十條 監獄署ニ於テハ監獄ニ關スル事務ヲ掌ル
 第二十一條 書記官ハ内務部長、警部長ハ警察部長、收税長ハ收税部長、典獄ハ監獄署長トナリ知事ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス
 第二十二條 内務部長事故アルトキハ知事ニ於テ府縣高等官ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシメ警察部長、收税部長又ハ監獄署長事故アルトキハ知事ニ於テ府縣高等官ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム
 第二十三條 參事官ハ知事ノ命ヲ承ケ審査立案ヲ掌ル
 參事官ハ知事ノ命ヲ承ケ内務部ノ課長トナリ又ハ臨時部課ノ事務ヲ助ケルコトアルヘシ
 第二十三條ノ二 視學官ハ上官ノ命ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他學事ニ關スル事務ヲ掌ル(三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ修正)
 勅令第二百五十三號ヲ以テ全條追加)
 視學官ハ知事ノ命ヲ承ケ内務部第三課ノ課長トナル
 第二十四條 警察部、收税部及監獄署ニ分課ヲ設ケルコトヲ要スルトキハ知事之ヲ定メ主務大臣ニ報告スヘシ
 第二十五條 内務部各課長ハ參事官又ハ視學官ヲ以テ課長ト爲ス場合ヲ除ク外屬ヲ以テ之ニ充ツ但シ技師又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得(同上勅令ヲ以テ本項改正)
 課長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課務ヲ處理ス
 第二十六條 屬ハ内務部各課及知事官房ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
 第二十七條 警部ハ警察部又ハ警察署若クハ警察分署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分掌シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス
 第二十八條 通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ翻譯通譯ニ従事ス(三十二年勅令第九十五號ヲ以テ改正)
 第二十九條 監獄書記ハ監獄署又ハ監獄支署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
 第三十條 看守長ハ監獄署又ハ監獄支署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス
 第三十條ノ二 視學ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他學事ニ關スル庶務ニ従事ス(三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ追加)
 第三十一條 各都市ニ警察署ヲ置ク但シ地方ノ必要ニ應ジ都市ノ區域ニ依ラスシテ警察署ヲ置クコトヲ得此場合ニ於テハ内務大臣其ノ管轄區域ヲ定ム(二十九年勅令第二百四十九號ヲ以テ本項改正)(二十九號勅令第二百四十九號ヲ以テ本項改正)(二十九號勅令第二百四十九號ヲ以テ本項改正)
 知事ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ警察署ノ下ニ警察分署ヲ置クコトヲ得
 第三十二條 警察署長及警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ
 警察署長及警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
 第三十三條 巡查及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル
 第三十四條 (二十九年勅令第三百三十七號ニ依リ消滅)
 第三十五條 (同上)
 第三十六條 知事ハ司法大臣ノ認可ヲ經テ重要ノ地ニ監獄支署ヲ置クコトヲ得(三十三年勅令第七十號ヲ以テ本項改正)
 監獄支署長ハ監獄書記ヲ以テ之ニ充ツ
 監獄支署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ支署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
 第三十七條 府縣職員ノ外監獄置ケ置ケ列任官ノ待遇トス特ニ警察署置ケ置ケ同シ(二十九號勅令第二百四十九號ヲ以テ改正)
 第三十八條 東京府ノ警察及監獄ニ關スル事項ハ警察廳官制ニ依ル
 第三十九條 郡職員ヲ置クコト左ノ如シ
 郡長
 郡書記
 郡視學(三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ追加)
 第四十條 明治十一年第十七號布告郡區町村編制法第五條ニ依リ數郡ニ郡長一人ヲ置キタル地方ニ於テ之ヲ廢止スルコトヲ要スルトキ及同條ニ依リ新ニ數郡ニ郡長一人ヲ置クコトヲ要スルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 郡制ヲ施行シタル地方ニ於テハ每郡ニ郡長一人

ヲ置ク
 第四十一條 郡長ハ委任トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
 第四十二條 郡長ハ行政事務ニ就テ其ノ部内ノ町村長ヲ指揮監督ス
 第四十三條 郡長ハ部下ノ列任官ノ任免ヲ知事ニ具申スルコトヲ得(三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ修正)
 第四十四條 郡長ハ法律命令ニ依リ若クハ知事ヨリ委任セララルル事件ニ付郡令ヲ發スルコトヲ得
 第四十五條 郡長事故アルトキハ上席郡書記其ノ職務ヲ代理ス
 第四十六條 郡長ハ郡ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得
 第四十七條 郡書記ハ列任トス其ノ定員ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ知事之ヲ定ム
 郡書記ハ郡長ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス(三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ本項追加)
 第四十八條 郡視學ハ一人列任トス郡長ノ命ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他學事ニ關スル庶務ニ従事ス(同上勅令ヲ以テ改正)
 第四十八條ノ二 知事ハ重要ニ依リ郡ニ技手ヲ置クコトヲ得(同上勅令ヲ以テ追加)
 第四十九條 勅令ヲ以テ指定スル所ノ島地ニ特ニ島地ヲ置ク
 第五十條 各島地ニ左ノ職員ヲ置ク
 島地書記
 島地視學(三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ追加)
 第八類 官制 第二十一章 府縣道廳 第二款 府縣
 勅令第二百五十三號ヲ以テ全條追加)
 第五十一條 島地ハ一人委任トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
 第五十二條 島地ハ法律命令ニ依リ若クハ知事ヨリ委任セララルル事件ニ付島地令ヲ發スルコトヲ得
 第五十三條 島地ハ部下ノ列任官ノ任免ヲ知事ニ具申スルコトヲ得(三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ修正)
 第五十四條 島地ハ行政事務ニ就テ其ノ部内町村ノ吏員ヲ指揮監督ス
 第五十五條 島地事故アルトキハ上席島地書記其ノ職務ヲ代理ス
 第五十六條 島地ハ島地ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得
 第五十七條 島地書記ハ列任トス其ノ定員ハ其ノ府縣列任官ノ定員内ニ於テ知事之ヲ定ム
 島地書記ハ島地ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス(同上勅令ヲ以テ本項追加)
 第五十八條 島地視學ハ一人列任トシ當分ノ内島地視學記ヲシテ之ヲ兼テシム島地ノ命ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他學事ニ關スル庶務ニ従事ス(同上勅令ヲ以テ改正)
 第五十八條ノ二 知事ハ重要ニ依リ島地ニ技手ヲ置クコトヲ得(同上勅令ヲ以テ追加)
 第五十九條 本令ハ明治二十六年十二月一日ヨリ施行ス(郡視學ニ關スル規定ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス)
 ● 地方官官制第四十九條島地指定ニ關スル件 (明治三十三年三月勅令第九十四號)
 二 警察分署ヲ置クコトヲ得
 第三十二條 警察署長及警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ
 警察署長及警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
 第三十三條 巡查及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル
 第三十四條 (二十九年勅令第三百三十七號ニ依リ消滅)
 第三十五條 (同上)
 第三十六條 知事ハ司法大臣ノ認可ヲ經テ重要ノ地ニ監獄支署ヲ置クコトヲ得(三十三年勅令第七十號ヲ以テ本項改正)
 監獄支署長ハ監獄書記ヲ以テ之ニ充ツ
 監獄支署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ支署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
 第三十七條 府縣職員ノ外監獄置ケ置ケ列任官ノ待遇トス特ニ警察署置ケ置ケ同シ(二十九號勅令第二百四十九號ヲ以テ改正)
 第三十八條 東京府ノ警察及監獄ニ關スル事項ハ警察廳官制ニ依ル
 第三十九條 郡職員ヲ置クコト左ノ如シ
 郡長
 郡書記
 郡視學(三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ追加)
 第四十條 明治十一年第十七號布告郡區町村編制法第五條ニ依リ數郡ニ郡長一人ヲ置キタル地方ニ於テ之ヲ廢止スルコトヲ要スルトキ及同條ニ依リ新ニ數郡ニ郡長一人ヲ置クコトヲ要スルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 郡制ヲ施行シタル地方ニ於テハ每郡ニ郡長一人
 島地指定ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 地方官官制第四十九條ニ依リ左ノ島地ヲ指定ス
 一 東京府大島 小島 青ヶ島 島島
 二 東京府八丈島 小島 青ヶ島 島島
 三 大島ニ置ク島地ヲ大島島地ト稱シ八丈島 小島 青ヶ島 島島ニ置ク島地ヲ八丈島島地ト稱ス
 附則
 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 ● 地方官官制ニ依リ參事官二人ヲ置ク縣指定 (明治三十三年五月勅令第二百四十三號)
 內務省告示(第七十號)
 地方官官制第三條但書ニ依リ參事官二人ヲ置ク縣ヲ指定スル左ノ如シ
 神奈川縣 兵庫縣 長崎縣
 ● 府縣ノ警視ニ關スル件
 (明治三十三年五月勅令第二百四十三號)
 朕府縣ノ警視ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 俸給豫算定額内ニ於テ府縣ニ警視ヲ置クコトヲ得
 第二條 警視ハ警察部ニ屬シ又ハ警察署長ト爲リ上官ノ命ヲ承ケ其ノ部署ノ事務ヲ掌理ス
 第三條 警察部ニ屬スル警視ハ大阪府ハ二人、其ノ他ノ府縣ハ一人ヲ置クコトヲ得又
 警察署長ニ補スル警視ハ各府縣ヲ通シテ八十人以内トス

警視ヲ置クヘキ警察署ハ内務大臣之ヲ指定ス
第四條 警視ノ俸給左ノ如シ

一級	二級	三級	四級	五級	六級
千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓

●警視ヲ置クヘキ府縣警察署
指定 (明治三十三年五月)
(内務省告示第四十八號)

明治三十三年勅令第二百四十三號第三條第三項ノ
警察署左ノ通之ヲ指定ス(三十三年内務省告示第
六十號及第七十三號ヲ以テ本告示中追加)

府縣名	警察署名
京都府	上長者町警察署 五條警察署 松原警察署 中立賣警察署 舞鶴警察署
大阪府	東警察署 西警察署 南警察署 難波警察署 北警察署 曾根崎警察署 安治川水上警察署
神奈川縣	伊勢崎町警察署 加賀町警察署 壽町警察署 横濱水上警察署 横須賀警察署
兵庫縣	神戸警察署 兵庫警察署 相生橋警察署 神戸水上警察署 姫路警察署
長崎縣	長崎警察署 梅崎警察署 長崎水上警察署 佐世保警察署
新潟縣	新潟警察署

埼玉縣	浦和警察署	石川縣	金澤警察署
千葉縣	千葉警察署	富山縣	富山警察署
茨城縣	水戸警察署	島根縣	島取警察署
群馬縣	前橋警察署 高崎警察署	岡山縣	松江警察署
栃木縣	宇都宮警察署	岡山縣	岡山警察署
奈良縣	奈良警察署	廣島縣	廣島警察署 吳警察署
三重縣	津警察署 宇治山田警察署	山口縣	山口警察署 赤間關警察署
愛知縣	名古屋警察署	和歌山縣	和歌山警察署
靜岡縣	靜岡警察署	德島縣	德島警察署
山梨縣	甲府警察署	香川縣	高松警察署 丸龜警察署
滋賀縣	大津警察署	愛媛縣	松山警察署
岐阜縣	岐阜警察署	高知縣	高知警察署
長野縣	長野警察署	福岡縣	福岡警察署 門司警察署 小倉警察署 久留米警察署
宮城縣	仙台警察署	大分縣	大分警察署
福島縣	信夫警察署	佐賀縣	佐賀警察署
盛岡縣	盛岡警察署	熊本縣	熊本市警察署
青森縣	青森警察署 弘前警察署	宮崎縣	宮崎警察署
山形縣	山形市警察署	鹿兒島縣	鹿兒島警察署
秋田縣	秋田警察署	那霸縣	那霸警察署
福井縣	福井警察署 敦賀警察署		

●應府縣巡查定員ノ件 (明治二十
九年四月
四十八號)

朕應府縣巡查定員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ
ム
第一條 應府縣巡查ノ定員ハ左ノ定限内ニ於テ土
地ノ狀況ヲ斟酌シ内務大臣之ヲ定ム
一 市ニ於テハ人口三百乃至八百ニ付 一人
二 郡ニ於テハ人口千乃至二千ニ付 一人
第三條 本令ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス
第四條 第一條ニ依リ巡查ノ増員ヲ要スル應府縣
ニ於テ一時ニ増加シ難キ事情アルトキハ内務大
臣ハ本令施行ノ日ヨリ五箇年内ニ漸次増加シテ
定員ヲ充タスコトヲ得
第五條 本令ハ北海道廳及沖繩縣ニ適用セス

●港務部設置ノ件 (明治三十
三年三月
十三號)

朕港務部設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 神奈川縣、兵庫縣、長崎縣及福岡縣ニハ地
方官制第十六條ニ掲ケル部署ノ外港務部ヲ置
キ海峽檢疫所ヲ附屬セシム
長崎縣港務部ニハ海峽檢疫所ノ外海峽檢疫支所
ヲ附屬セシム
第二條 港務部ヲ置キタル縣ニハ左ノ職員ヲ置ク
港務長
港務官
港務醫官
港吏

港務醫官補
港務調劑手

第三條 港務長ハ一人、港務官ハ二人及港務醫官
ハ一人委任トス
第四條 港務醫官補及港務調劑手ハ列任トシ通
シテ七十四人ヲ以テ定員トシ其ノ各縣ノ定員ハ
内務大臣之ヲ定メ其ノ各官ノ定員ハ内務大臣ノ
認可ヲ經テ知事之ヲ定ム
第五條 港務部ニ三課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムル
コト左ノ如シ
一 開港港則ニ關スル事項
二 開港港則施行區域内ニ於ケル行政警察及衛
生ニ關スル事項
三 海峽檢疫ニ關スル事項
四 庶務ニ關スル事項
各課ニ課長ヲ置ク課長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ
課務ヲ處理ス
第五條 港務長ハ港務部長ト爲リ知事ノ命ヲ承ケ
部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス
港務長ハ港長ノ事務ヲ行ヒ所部ノ事務ニ關シテ
ハ水上警察署長ヲ指揮監督ス
第六條 港務部長事務アルトキハ知事ニ於テ縣官
吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム
第七條 港務官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ事務ヲ分
掌ス
港務官ハ知事ノ命ヲ承ケ海務課長又ハ檢疫課長
ト爲ル
第八條 港務醫官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫務ニ從事
ス

●地方衛生會規則 (明治二十
九年七月
百七十號)

第九條 府ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
府ハ知事ノ命ヲ承ケ庶務課長ト爲ル
第十條 港吏ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス
第十一條 港務醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫務ニ
從事ス
第十二條 港務調劑手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ
從事ス
第十三條 港務部ヲ置キタル縣ニ於テハ知事ハ隨
時必要アリト認ムルトキハ檢疫又ハ醫務ニ從事
セシムル爲メ海峽檢疫費豫算定額内ニ於テ港務部
ニ檢疫員又ハ檢疫醫員ヲ置クコトヲ得
檢疫員及檢疫醫員ハ列任官ノ待遇トス
附則
本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
海峽檢疫所官制ハ之ヲ廢止ス
●地方衛生會規則 (明治二十
九年七月
百七十號)
朕地方衛生會規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ
シム
第一條 地方衛生會ハ府縣知事ノ監督ニ屬シ其ノ
府縣内公衆衛生歐濟衛生ニ關スル事項ニ就キ警
視總監府縣知事ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ開申ス
第二條 地方衛生會ハ前條ノ事項ニ就テハ警視總監
府縣知事ニ建議スルコトヲ得
第三條 地方衛生會ハ議事整理ノ爲メ規則ヲ議定
シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ
第四條 地方衛生會ハ會長一人委員十五人以内ヲ
以テ之ヲ組織ス
會長ハ府縣知事ヲ以テ之ニ充ツ
委員ハ府縣書記官、警部長(東京府ハ警視廳第三

第十三條 府縣制ヲ施行セサル府縣ニ於テハ常置委員ヲ以テ名譽職參事會員ニ代フ此ノ場合ニ於テハ常置委員互選シ府縣知事之ヲ命ス但シ市部會本部會ヲ開設シタル府縣ニ於テハ市部議員ヨリ出ツル者及郡部議員ヨリ出ツル者各二名ヲ互選スヘシ

第十四條 沖繩縣ニ於テハ其ノ地方ニ於テ學識名望アル者若干人ヲ以テ第四條第三項ノ名譽職府縣參事會ニ代フルモノトス

第十五條 前項委員ノ任命ハ第六條第二項ノ例ニ依リ其ノ任期ハ同條第三項ノ例ニ依ル

第十六條 此ノ規則ハ明治二十九年八月一日ヨリ施行ス

第十七條 從前ノ委員ハ別ニ辭令ヲ用井本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモノトス

●横濱港灣維持ニ關スル職員ノ件 (明治三十年二月六日勅令第十三號)

横濱港灣維持ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

技師 一人
技師 一人
列任 五人
技師 六人
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●地方森林會規則 (明治三十一年十二月百四十號)

地方森林會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方森林會規則

第十三條 府縣制ヲ施行セサル府縣ニ於テハ常置委員ヲ以テ名譽職參事會員ニ代フ此ノ場合ニ於テハ常置委員互選シ府縣知事之ヲ命ス但シ市部會本部會ヲ開設シタル府縣ニ於テハ市部議員ヨリ出ツル者及郡部議員ヨリ出ツル者各二名ヲ互選スヘシ

第十四條 沖繩縣ニ於テハ其ノ地方ニ於テ學識名望アル者若干人ヲ以テ第四條第三項ノ名譽職府縣參事會ニ代フルモノトス

第十五條 前項委員ノ任命ハ第六條第二項ノ例ニ依リ其ノ任期ハ同條第三項ノ例ニ依ル

第十六條 此ノ規則ハ明治二十九年八月一日ヨリ施行ス

第十七條 從前ノ委員ハ別ニ辭令ヲ用井本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモノトス

●横濱港灣維持ニ關スル職員ノ件 (明治三十年二月六日勅令第十三號)

横濱港灣維持ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

技師 一人
技師 一人
列任 五人
技師 六人
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●地方森林會規則 (明治三十一年十二月百四十號)

地方森林會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方森林會規則

第一條 地方森林會ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ左ノ事項ヲ審議ス

一 保安林ノ編入又ハ解除

二 保安林買上價格ノ評決

三 保安林補償金額ノ評決

第二條 地方森林會ハ會務整理ノ爲必要ナル規則ヲ制定シ農商務大臣ニ提出スヘシ(三十一年勅令第三百二十九號ヲ以テ全條改正)

前項ノ規則ニ對シ農商務大臣ハ訂正ヲ命スルコトヲ得

第三條 地方森林會ハ議事上實地ノ調査ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ議員ヲ派遣スルコトヲ得

第四條 地方森林會ノ開會及閉會ノ期日ハ府縣知事之ヲ定メ農商務大臣ニ提出スヘシ(同上)

地方森林會ノ審議事項ニシテ其ノ利害ノ關係ニ府縣以上ニ涉ルトキハ聯合地方森林會ヲ設クヘシ其ノ開會地及閉會期日ハ關係地方府縣知事之ヲ協定シ農商務大臣ニ提出スヘシ

第五條 農商務大臣ハ左ノ場合ニ於テ地方森林會又ハ聯合地方森林會ノ解散ヲ命シ又ハ其ノ議事ヲ停止スルコトヲ得

一 第一條ニ掲グルル事項ヲ審議セサルトキ

二 議事其ノ權限ヲ越ヘ若ハ法律命令ニ背クト認ムルトキ

聯合地方森林會解散ノ場合ニ於テハ之ニ關聯スル地方森林會ハ同時ニ解散セラレタルモノトス

解散ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ解散ヲ命シタル日ヨリ三十日以内ニ更ニ地方森林會ノ職員ヲ命スヘシ(三十三年勅令第四百一號ヲ以テ條中改正)

第六條 地方森林會ハ議長一名議員十四名以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第七條 議長ハ議事ヲ整理シ會務ヲ指揮ス

第八條 議長ハ府縣知事ヲ以テ之ニ充ツ議長事故アルトキハ府縣知事ノ指名シタル府縣高等官之ヲ代理ス(三十三年勅令第四百一號ヲ以テ全條改正)

議員ハ左ニ掲グルル者ニ就キ農商務大臣之ヲ命ス

一 府縣高等官 一人
二 土木監督高等官 一人
三 鐵道監督高等官 一人
四 大林区署高等官 一人
五 御料地所在ノ府縣ニ在リテハ御料局高等官 一人
六 府縣名譽職參事會員中ヨリ互選シタル者 二人
七 森林事業ニ經驗アル者
八 治水、土木又ハ鐵道事業ニ經驗アル者

前項ニ掲ケタル者ノ外地方ノ狀況ニ依リ農務又ハ水産事業ニ經驗アル者ヲ議員ニ命スルコトヲ得

第九條 官吏ニシテ議員タル者ノ外議員ノ任期ハ二年トス但シ府縣名譽職參事會員ノ互選ニ係ル者ノ任期ハ府縣名譽職參事會員ノ任期ニ依ル(同上)

補選議員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十條 地方森林會ニ幹事一名書記若干名ヲ置ク幹事ハ府縣高等官ノ中ヨリ書記ハ府縣列任官ノ中ヨリ府縣知事之ヲ命ス(三十一年勅令第三百二十九號ヲ以テ本項改正)

幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ク庶務ヲ整理シ書記ハ幹事ノ指揮ヲ承ク庶務ニ從事ス(同上)

第十一條 聯合地方森林會ハ關係地方森林會議員ノ總數ヲ以テ組織シ其ノ議長幹事書記及會務規則ハ開會地ノ地方森林會議長幹事書記及規則ヲ以テ之ニ充ツ(同上)

第十二條 官吏ニシテ議長議員タル者及幹事書記ノ旅費ハ所屬官廳ノ經費ヲ以テ之ニ充ツ(同上)

前項ノ外議員ノ手當及旅費其ノ他地方森林會ノ費用ハ府縣ノ負擔トス

第十三條 聯合地方森林會ノ費用ハ職員ノ手當及旅費ヲ除ク外總テ開會地府縣ノ負擔トス

第九類 官規

第一章 官等俸給

高等官官等俸給令……………一
 奏任下爲スコトヲ得ル諸官ニ關スル件……………三
 祕書官官等ノ初級及階級ニ關スル件……………三
 祕書官ノ他官ニ轉任又ハ再任スル場合ノ官等ニ關スル件……………三
 列任官俸給令……………三
 文武列任官等級表……………四
 技術官俸給令……………四
 定時間外ニ服業シタル技手ニ日額給與ノ件……………四
 外國政府ノ招聘ニ應スル官吏ニ關スル件……………四
 官制及俸給令改正ノ際俸給支給方ノ件……………四
 文官俸給支給細則……………四
 備員俸給及備員其ノ他ニ給スル諸手當支給方ノ件……………五
 樞密院議長副議長顧問官並書記官長書記官年俸……………五
 内大臣及同祕書官宮中顧問官俸給……………五
 侍從職幹事俸給……………五
 皇族職員官等俸給……………六
 侍醫俸給……………六
 帝國博物館帝國京都及奈良博物館書記官等俸給……………六
 帝國各博物館長手官等俸給……………六

警察監獄學校通譯官官等俸給ノ件……………七
 警察監獄職員官等俸給……………七
 神宮司廳職員俸給ノ件……………七
 神部署職員俸給支給規則……………七
 神部署職員及少宮司ノ初級及階級並他官ニ轉任又ハ再任スル場合ノ官等ニ關スル件……………七
 官警社神職俸給規則……………八
 傳染病研究所職員官等俸給……………八
 稅關監吏俸給ノ件……………八
 稅務局票賣局及票賣局監視俸給ノ件……………九
 陸軍武官官等表……………九
 陸軍給與令……………九
 屯田兵給與令……………一〇
 外國駐在陸軍武官給與令……………一〇
 清國駐劄陸軍部隊給與令……………一一
 陸軍所屬特別文官俸給令……………一一
 在外國公使館附陸軍武官俸給令……………一二
 陸軍軍人軍艦若クハ水雷艇ニ乘組ムトキ航海加俸給與ノ件……………一二
 豫備後備ノ軍籍ニアル文官召集中俸給支給方……………一三
 陸軍備休兵ニシテ文官タル者召集中俸給支給ノ件……………一三
 陸軍ニ於テ通譯ニ從事スル者ノ待遇ニ關スル件……………一三
 陸軍各兵曹長ニシテ監視區長在職中ノ者ノ身分ニ關スル件……………一四

海軍武官官階……………二四
 海軍軍人俸給令……………二四
 海軍特設船船定員ノ航海加俸ニ關スル件……………二四
 海軍武官官階……………二四
 海軍軍人俸給令……………二五
 海軍特設船船定員ノ航海加俸ニ關スル件……………二五
 主理課事俸給……………三一
 海軍軍法會議構成員タル主理課補年俸……………三一
 海軍編修年俸……………三一
 海軍教授年俸……………三一
 海軍通譯官年俸……………三一
 海軍文官航海加俸ヲ給スル件……………三一
 望樓長望樓手俸給……………三一
 海軍豫備後備ノ軍籍ニ在ル文官召集中俸給支給方ノ件……………三一
 海軍監獄官俸給ノ件……………三三
 列事檢事官等俸給令……………三三
 裁判所書記長官等ノ件……………三五
 裁判所書記長書記定員及俸給令……………三五
 集治監高等官俸給ノ件……………三五
 集治監留監看守俸給……………三五
 帝國大學高等官官等俸給令……………三五
 文部省直轄諸學校高等官官等俸給令……………三五
 臨時教員養成所教授ノ官等俸給……………三六